

HP OMi Management Pack for SAP

ソフトウェアバージョン: 1.00

HP Operations Manager i (Linux および Windows® オペレーティング システム)

オンライン ヘルプの PDF 版

ドキュメントリリース日: 2015 年 1 月

ソフトウェアリリース日: 2014 年 5 月



ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピュータソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2014 - 2015 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe® は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Microsoft® および Windows® は、Microsoft グループの米国における登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。<https://softwaresupport.hp.com/group/softwaresupport/search-result?keyword=>

このサイトを利用するには、HP Passport のアカウントが必要です。アカウントをお持ちでない場合は、HP Passport のサインイン ページで **[アカウントを作成してください]** ボタンをクリックしてください。

サポート

次の HP ソフトウェアサポートの Web サイトを参照してください。<https://softwaresupport.hp.com>

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HP ソフトウェア サポート オンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HP ソフトウェア サポートの Web サイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passport ユーザとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport ID を登録するには、<https://softwaresupport.hp.com> にアクセスして **[Register]** をクリックしてください。

アクセスレベルの詳細については、次の Web サイトをご覧ください。<https://softwaresupport.hp.com/web/softwaresupport/access-levels>

HP Software Solutions & Integrations and Best Practices

HP Software Solutions Now (<https://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp>) を参照してください。このサイトでは、HP ソフトウェアのカタログに記載された製品の説明を確認したり、情報を交換したり、ビジネス ニーズを解決することができます。

Cross Portfolio Best Practices Library (<https://hpln.hp.com/group/best-practices-hpsw>) からは、さまざまな ベスト プラクティス文書や資料にアクセスすることができます。

目次

第1章: OMi Management Pack for SAP	9
第2章: 作業の開始	10
OMi コンソールでの作業の開始	10
タスク 1: OMi コンソールへのノードの追加	10
タスク 2: SAP 検出アスペクトのデプロイ	11
タスク 3: ABAP アプリケーション サーバの監視用の SAP ノードの設定	15
タスク 4: SAP ABAP 構成アスペクトのデプロイ	15
タスク 5: SAP 管理テンプレートの特定とデプロイ	17
タスク 6: SAP アスペクトのデプロイ	19
タスク 7: SAP ABAP 監視テンプレートの構成	23
SAP 環境の監視	24
BSM コンソールでの作業の開始	26
タスク 1: BSM コンソールへのノードの追加	26
タスク 2: SAP 検出アスペクトのデプロイ	26
タスク 3: ABAP アプリケーション サーバの監視用の SAP ノードの設定	31
タスク 4: SAP ABAP 構成アスペクトのデプロイ	31
タスク 5: SAP 管理テンプレートの特定とデプロイ	32
タスク 6: SAP アスペクトのデプロイ	35
タスク 7: SAP ABAP 監視テンプレートの構成	38
SAP 環境の監視	39
第3章: コンポーネント	43
SAP 管理テンプレート	43
SAP 管理テンプレートの概要	43
タスク	44
タスク	46
基本 SAP ABAP 管理テンプレート	48
詳細 SAP ABAP 管理テンプレート	60
基本 SAP J2EE 管理テンプレート	74
ユーザインターフェイスの参照情報	75
詳細 SAP J2EE 管理テンプレート	92
ユーザインターフェイスの参照情報	93
SAP アスペクト	152
SAP アスペクトのタイプ	152
タスク	153
タスク	154

SAP ABAP アスペクト	156
ユーザインターフェイスの参照情報	156
SAP J2EE アスペクト	165
ユーザインターフェイスの参照情報	165
SAP ABAP 監視テンプレート	219
SAP ABAP 監視テンプレートによるリモート監視	220
監視する個々のリモート サーバの指定	221
SAPABAP_BatJobMon	221
アラート タイプ	222
ジョブレポート モニタのアラート タイプの設定	223
SAPABAP_CCMSIntegrationMon	230
SAPABAP_CTSMon	237
モニタタイプ	237
アラート タイプ	237
ファイルの場所	238
環境変数	238
コマンドライン パラメータ	238
リモート監視	238
SAPABAP_CTSMon 監視テンプレートのアラート タイプの設定	238
REQUEST_CREATED	239
REQUEST_RELEASED	240
TASK_CREATED	242
TASK_RELEASED	243
OBJECT_USED	244
OBJECT_RELEASED	245
SAPABAP_DispMon	246
前提条件	247
スナップショット オプションの確認	247
ファイルの場所	248
SAPABAP_DispMon 監視テンプレートとOMi MP for SAP モニタの統合	248
SAPABAP_DispMon 監視テンプレートの設定	249
SAPABAP_DmpMon	251
モニタタイプ	252
アラート タイプ	252
ファイルの場所	252
環境変数	252
コマンドライン パラメータ	252
リモート監視	252
ABAP4_ERROR_EXIST	253
SAPABAP_IdocStatusMon	253

モニタタイプ	253
アラートタイプ	254
ファイルの場所	254
環境変数	254
コマンドラインパラメータ	254
リモート監視	254
SAPABAP_IdocStatusMon 監視テンプレートのアラートタイプの設定	254
IDOC_CURRENT_STATUS	255
IDoc ステータスのチェック	257
SAPABAP_LckChkMon	261
OLD_LOCKS	262
SAPABAP_PerfMon	263
概要	263
SAPABAP_PerfMon 監視テンプレートの設定	264
OMi MP for SAP R/3 パフォーマンスエージェントの管理	268
OMi MP for SAP パフォーマンス モニタ	270
DBINFO_PERF	271
DOCSTAT_PERF	272
EP_PERF	273
ICMSTAT_PERF	275
JOBREP_PERF	276
SAPBUFFER_PERF	277
SPOOL_PERF	279
SYSUP_PERF	280
UPDATE_PERF	281
STATRECS_PERF	282
USER_PERF	282
WLSUM_PERF	282
WP_PERF	284
OMi MP for SAP R/3 パフォーマンスエージェントの削除	286
SAPABAP_ProcMon	288
ファイルの場所	288
環境変数	288
監視条件	289
設定例	289
SAPABAP_RFCDestMon	291
CHECK	292
環境変数	292
コマンドラインパラメータ	292
リモート監視	292

RFC 宛先のアラート タイプの設定	292
CHECK	293
SAPABAP_SecMon	294
ファイルの場所	294
アラート タイプ	294
SAP_PARAMETERS	295
DEFAULT_USERS	297
PRIVILEGED_USERS	297
SAPABAP_SecMon 監視テンプレートを使用したりリモート監視	298
SAPABAP_SplMon	300
アラート タイプの設定	301
SPOOL_ENTRIES_RANGE	301
SPOOL_ERROR_RANGE	302
PRINT_ERROR_EXISTS	302
SAPABAP_StatRecMon	303
SAPABAP_StatusMon	304
環境変数	305
履歴ファイル	305
SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートの設定	306
SAP ステータスの確定	307
SAP のリモート監視	307
SAPABAP_SysChgOptMon	309
SAPABAP_SysChgOptMon 監視テンプレートのアラート タイプの設定	310
CHANGE_OPT	310
SAPABAP_TraceMon	313
SAPABAP_TransMon	316
移送モニタのアラート タイプの設定	318
TRANS	318
REPAIR	320
RFCCONNECT	322
TPTEST	323
SAPABAP_UpdProcMon	324
更新モニタのアラート タイプの設定	325
SAPABAP_UsrMon	325
USER_LOGGEDIN_MAX	326
SAPABAP_WPMon	327
ワークプロセスモニタのアラート タイプの設定	329
WP_AVAILABLE	330
WP_IDLE	332
WP_CHECK_CONFIGURED	335

WP_STATUS	336
TempSeqFileMon	337
TemSe ファイルの監視	337
SAP ABAP 監視テンプレートのカスタマイズ	338
SAP ABAP 監視テンプレート、監視テンプレートの設定ファイル、履歴ファイル	338
キーワードとパラメータ	342
監視テンプレートのクエリ条件	346
ABAP 監視テンプレートの設定フィールド	348
環境変数	348
コマンドラインパラメータ	349
SAP パラメータ	349
パラメータのタイプ	349
ABAP 監視テンプレート パラメータの設定	352
ランタイム サービス モデル (RTSM) のビュー	355
イベント タイプ インジケータ (ETI)	358
状況 インジケータ (HI)	360
構成アイテム (CI) と構成アイテムタイプ (CIT)	363
トポロジ ベースのイベント相関処理 (TBEC) ルール	364
ツール	368
第4章: SAP 管理テンプレートの作成	374
SAP 管理テンプレートの編集	375
パラメータの編集	376
アスペクトの編集	377
第5章: デプロイメント シナリオ	378
第6章: トラブルシューティング	392
付録: メトリックとデータソース	406
SAP ABAP アプリケーション サーバ	406
SAP J2EE アプリケーション サーバ	415
ドキュメントのフィードバックを送信	416

第1章: OMi Management Pack for SAP

HP OMi Management Pack for SAP (OMi MP for SAP) では、HP Operations Manager i (OMi) と連携し、SAP 環境内の主要および詳細コンポーネントと基盤インフラストラクチャを監視できます。

本製品は、SAP 構成アイテム (CI) で発生するイベントを分析し、SAP 環境の状況ステータスをレポートする状況インジケータ (HI) およびイベントタイプインジケータ (ETI) を備えています。また、SAP ランドスケープ内の ABAP および Java アプリケーション サーバの可用性、状況、およびパフォーマンスを監視するための2セットの標準設定の管理テンプレートもあります。これらの管理テンプレートは異なる2つのアスペクトのセットから構成され、SAP ランドスケープ内の ABAP と Java の両方のアプリケーション サーバを容易に監視できます。管理テンプレートは、管理者が SAP ランドスケープを監視するためにデプロイできます。また管理テンプレートは簡単にカスタマイズできるので、領域専門家 (SME) と開発者はニーズに合った監視を実行できます。

SAP ABAP 監視テンプレートには、リモート監視機能があります。これは、Operations Agent がインストールされていないノード上の SAP ABAP アプリケーション サーバの監視を可能にすることで、ABAP アプリケーション サーバの監視の範囲を拡大するものです。ABAP アプリケーション サーバのリモート監視のセットアップと実行は、Operations Agent がインストールされ、OMi MP for SAP 管理テンプレートがデプロイされている SAP CI から行います。

OMi MP for SAP には、SAP 環境の監視のための次のアーティファクトが備わっています。

- ABAP および Java アプリケーション サーバ用の管理テンプレートの2つの異なるセット
- ABAP および Java アプリケーション サーバ用の別々のアスペクト
- ABAP 監視テンプレート
- J2EE ポリシーテンプレート
- インストルメンテーション

OMi MP for SAP は OMi と連携し、主に次のような特徴を備えています。

- さまざまな監視要件に合わせてすぐにデプロイできる管理ソリューション
- カスタマイズしたソリューションの作成のための、ABAP および Java アプリケーション サーバを対象とする管理テンプレートとアスペクトの別々のセット
- ABAP アプリケーション サーバ用のリモート監視ソリューション

第2章: 作業の開始

ABAPとJavaアプリケーション サーバインスタンスで構成されるビジネスクリティカルな SAP 環境を監視したいと考えています。

SAP 環境には、ABAP または Java、あるいはその両方のアプリケーション サーバインスタンスを持つことができます。ABAP または Java、あるいはその両方のアプリケーション サーバの可用性とパフォーマンスをチェックし、さらに、SAP 環境の基本的な機能も監視したいと考えています。

詳細については、「[BSM コンソールでの作業の開始](#)」を参照してください。

詳細については、「[OMi コンソールでの作業の開始](#)」を参照してください。

OMi コンソールでの作業の開始

ABAP および Java アプリケーション サーバインスタンスで構成されるビジネスクリティカルな SAP 環境を監視したいと考えています。



SAP 環境には、ABAP または Java、あるいはその両方のアプリケーション サーバインスタンスを持つことができます。ABAP または Java、あるいはその両方のアプリケーション サーバの可用性とパフォーマンスをチェックし、さらに、SAP 環境の基本的な機能も監視したいと考えています。

タスク1: OMi コンソールへのノードの追加

監視を始める前に、OMi コンソールに SAP ノードを追加する必要があります。

1. [管理] から [モニタ対象ノード] マネージャを開きます。

[管理] > [セットアップと保守] > [モニタ対象ノード]

2. [ノード ビュー] ペインで [事前定義済みのノード フィルタ] > [モニタ対象ノード] をクリックし、 をクリックしてから、[Computer] > [Windows] または [UNIX] を選択します。[モニタ対象ノードの新規作成] ダイアログボックスが表示されます。
3. ノードの [プライマリDNS 名]、[IP アドレス]、[オペレーティングシステム]、[プロセッサアーキテクチャ]、およびノードの説明を指定します。リストにない IP アドレスを含めたい場合は、新しい IP アドレスを追加できます。
 - a. [IP アドレス] ツールバーで  をクリックします。[新規 IP アドレスの作成] ダイアログボックスが開きます。
 - b. IP アドレスとルーティングドメインを入力します。


- c. IP アドレスがDHCP サーバによって割り当てられている場合は、**[DHCP]** チェックボックスをクリックします。
 - d. **[OK]** をクリックします。
4. [モニタ対象ノード] ダイアログ ボックスで **[OK]** をクリックします。

タスク 2: SAP 検出アスペクトのデプロイ

追加した SAP 管理対象ノード上の SAP CI を検出するには、SAP 検出アスペクトをデプロイする必要があります。OMi MP for SAP には ABAP と J2EE アプリケーション サーバ用の 2 つの検出アスペクト セットがあります。検出する CI のタイプに対応する検出アスペクトをデプロイできます。

SAP J2EE 検出アスペクトのデプロイ

SAP ランドスケープ内の J2EE アプリケーション サーバを検出するには、以下の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。
[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト]
2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。
[構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [JAVA アスペクト]
3. [Java アスペクト] フォルダで **SAP J2EE 検出アスペクト** を選択し、 をクリックして [割り当てとデプロイ] ウィザードを開きます。
4. **[構成アイテム]** タブで、SAP J2EE 検出アスペクトをデプロイする SAP 管理対象ノードを選択します。
5. **[次へ]** をクリックして **[必要なパラメータ]** タブに進みます。

注:この割り当ての編集にパラメータの指定は不要です。

6. **[次へ]** をクリックして **[パラメータ サマリ]** タブに進みます。

注:この割り当てに使用できるパラメータはありません。

7. **[次へ]** をクリックします。
8. オプション:割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当ての有効化]** チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
9. **[完了]** をクリックします。

SAP ABAP 検出アスペクトのデプロイ


SAP ランドスケープ内の SAP ABAP アプリケーション サーバを検出するには、以下の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアспект] ペインを開きます。

[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアспект]

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [ABAP アспект]

3. [ABAP アспект] フォルダで **SAP ABAP 検出アспект** を選択し、 をクリックして [割り当てとデプロイ] ウィザードを開きます。

4. **[構成アイテム]** タブで、SAP ABAP 検出アспектをデプロイする SAP 管理対象ノードをクリックします。

5. **[次へ]** をクリックして **[必要なパラメータ]** タブに進みます。

注:この割り当ての編集にパラメータの指定は不要です。

6. **[次へ]** をクリックして **[パラメータ サマリ]** に進みます。

注:この割り当てに使用できるパラメータはありません。

7. **[次へ]** をクリックします。

8. オプション:割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当ての有効化]** チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。

9. **[完了]** をクリックします。

SAP ABAP リモート構成アспектのデプロイ

Operations Agent (OA) をインストールしていないノード上で SAP ABAP アプリケーション サーバを監視する場合は、SAP ABAP リモート構成アспектをデプロイできます。


SAP ABAP リモート構成アспектをデプロイするには、以下の手順を実行します。


1. [管理テンプレートおよびアспект] ペインを開きます。

[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアспект]

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [ABAP アспект]



3. [ABAP アスペクト] フォルダで **SAP ABAP リモート構成** アスペクトを選択し、 をクリックして [割り当てとデプロイ] ウィザードを開きます。
4. **[構成アイテム]** タブで監視ホスト (エージェントをインストールしているホスト) として使用する SAP 管理対象ノードをクリックして **[次へ]** をクリックします。 **[必要なパラメータ]** タブが開きます。
5. **[必要なパラメータ]** タブで、OMi MP for SAP を使用して監視するリモート SAP セントラルインスタンスノードの詳細を指定する必要があります。

- a. リストの **[ホスト名と SID 付きの SAP ABAP アプリケーション サーバインスタンス]** パラメータを選択して、 をクリックします。 [パラメータの編集: ホスト名と SID 付きの SAP ABAP アプリケーション サーバのインスタンス番号] ダイアログボックスが開きます。
- b. 次の例で示すように、リモート SAP ABAP アプリケーション サーバのホスト名と SID 付きで **[SAP ABAP アプリケーション サーバのセントラル インスタンス]** を指定します。


例:

testnode.hp.com_T01_00

ここで、testnode.hp.com は完全修飾された SAP リモート ホスト名で、T01 は SAP リモート ホストの SID、00 は SAP インスタンス番号です。

- c. **[OK]** をクリックします。
 - d. リストの **[SAP ABAP アプリケーション サーバクライアント]** パラメータを選択して、 をクリックします。 [パラメータの編集: SAP ABAP アプリケーション サーバクライアント] が開きます。
 - e. **[値]** をクリックし、リモート SAP ABAP アプリケーション サーバのクライアント番号を指定して、**[OK]** をクリックします。
6. **[次へ]** をクリックして **[パラメータ サマリ]** に進みます。パラメータのデフォルト値を変更するには、パラメータを選択して  をクリックします。 [パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。 **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。たとえば、[インスタンス パラメータの編集] ペインから、リモート SAP ABAP アプリケーション サーバのデフォルトのユーザ名とパスワードを変更できます。 [インスタンス パラメータの編集] ペインから、監視するリモート ホストを複数追加することもできます。

[インスタンス パラメータの編集] ペインから SAP リモート ノードを追加するには、以下の手順を実行します。

- a. [インスタンス値] ペインで、 をクリックします。 [パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。
- b. 次の例で示すように、リモート SAP ABAP アプリケーション サーバのホスト名と SID を付けて SAP ABAP アプリケーション サーバインスタンスを指定します。

例:

testnode.hp.com_T01_00

ここで、testnode.hp.com は完全修飾された SAP リモート ホスト名で、T01 は SAP リモート ホストの SID、00 は SAP インスタンス番号です。

OMi MP for SAP では、リモート SAP ABAP アプリケーション サーバの資格情報を以下の組み合わせで提供します。

- i. リモート ホスト名 (完全修飾ホスト名)、単一の SAP SID、および複数の ABAP アプリケーション サーバインスタンス。

例:

testnode.hp.com_T01_00

testnode.hp.com_T01_01

testnode.hp.com_T01_03

- ii. リモート ホスト名 (完全修飾ホスト名)、複数の SAP SID および ABAP アプリケーション サーバインスタンス。

例:

testnode.hp.com_T01_00

testnode.hp.com_T02_00

testnode.hp.com_T03_00


- iii. 複数のリモート ホスト名 (完全修飾ホスト名)、SAP SID および ABAP アプリケーション サーバインスタンス。

例:

testnode.hp.com_T01_00

testnode01.hp.com_T01_00

testnode02.hp.com_T01.3_00

注:[パラメータ サマリ] タブでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、管理テンプレートレベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパート パラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパート パラメータを表示するには、 [エキスパート パラメータの表示] をクリックします。

7. [次へ] をクリックします。

8. オプション:割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当ての有効化]** チェック ボックスを外します。**[割り当ておよび調整]** ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
9. **[完了]** をクリックします。

注:SAP 検出アスペクトをデプロイした後、OMi コンソールに SAP CI が表示されていることを確認する必要があります。検出された CI を表示するには、**[ワークスペース]** > **[ダッシュボード]** > **[360° View]** に移動します。**SAP_Deployment** ビューを選択します。トップビューに SAP CI が表示されています。**SAP_ABAP_Deployment** と **SAP_J2EE_Deployment** ビューを選択し、それぞれの SAP アプリケーション サーバ CI を表示します。

タスク3: ABAP アプリケーション サーバの監視用の SAP ノードの設定

SAP ABAP アプリケーション サーバを監視するために OMi MP for SAP を有効にするには、次のタスクを実行する必要があります。

1. OMi MP for SAP 移送を適用する

OMi MP for SAP 移送ファイルをインストールメンテーション フォルダから、各 SAP NetWeaver セントラルインスタンスの SAP 移送ディレクトリにコピーし、これらのファイルを適用する必要があります。

2. OMi 用の SAP ユーザを設定する

OMi MP for SAP アプリケーション、モニタ、アクションが SAP にアクセスする必要がある場合に OMi MP for SAP が SAP にログオンできるように、OMi 用の SAP ユーザを設定する必要があります。

3. lib ファイルをインストールメンテーション フォルダにコピーする

SAP RFC ライブラリファイルを SAP 管理対象ノード上のインストールメンテーション フォルダにコピーする必要があります。

4. Solaris 管理対象ノードの場合、LD_LIBRARY_PATH を 32 ビットの libgcc_s.so パスに設定する

Solaris 管理対象ノードを監視する場合、LD_LIBRARY_PATH を 32 ビットの libgcc_s.so パスに設定する必要があります。

ABAP アプリケーション サーバの監視用の SAP ノードの設定の詳細については、『OMi MP for SAP インストールガイド』を参照してください。

タスク4: SAP ABAP 構成アスペクトのデプロイ

注:SAP ABAP 管理テンプレートをデプロイする前に、**SAP ABAP 構成アスペクト**をデプロイする必要があります。


SAP ABAP アプリケーション サーバに SAP ABAP 構成アスペクトをデプロイするには、以下の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。


[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト]


2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [SAP ABAP アスペクト]

3. [ABAP アスペクト] フォルダで **SAP ABAP 構成アスペクト** を選択し、 をクリックして [割り当てとデプロイ] ウィザードを開きます。
4. **[構成アイテム]** タブで、SAP アスペクトをデプロイする SAP ABAP アプリケーション サーバセントラル インスタンスをクリックします。SAP セントラル インスタンスとアプリケーション サーバをサポートする SAP ABAP アスペクトの詳細については、「デプロイメント シナリオ」の「OMi MP for SAP ABAP 監視テンプレート設定ファイル」の表を参照してください。

注:SAP ABAP リモート構成アスペクトの一部として設定される SAP ABAP アプリケーション サーバを選択しないでください。詳細については、[「SAP ABAP リモート構成アスペクトのデプロイ」](#)を参照してください。

5. **[次へ]** をクリックします。**[必要なパラメータ]** タブが開きます。
6. **[SAP ABAP アプリケーション サーバクライアント]** パラメータを選択し、 をクリックします。**[パラメータの編集: SAP ABAP アプリケーション サーバクライアント]** が開きます。
7. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。
8. **[次へ]** をクリックして **[パラメータ サマリ]** タブに進みます。**[パラメータ サマリ]** タブでパラメータのデフォルト値を編集できます。

注:SAP ABAP アプリケーション サーバの必須パラメータのデフォルト値を変更するには、パラメータを選択して  をクリックします。**[パラメータの編集]** ダイアログボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

9. **[次へ]** をクリックします。
10. オプション:割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当ての有効化]** チェックボックスを外します。**[割り当ておよび調整]** ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
11. **[完了]** をクリックします。

タスク 5: SAP 管理テンプレートの特定とデプロイ

Monitoring Automation for Composite Applications ライセンスを使用している場合、OMi MP for SAP 管理テンプレートを SAP CI にデプロイできます。**Monitoring Automation for Servers** ライセンスを使用している場合、スキップして「[タスク 6: SAP アスペクトのデプロイ](#)」に進みます。

注:CI が SiteScope や DDM などの他のソースによって既に設定されていても、SAP 検出アスペクトのデプロイは必要です。詳細については、「[タスク 2: SAP 検出アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

OMi MP for SAP には、お使いの SAP ランドスケープ内で ABAP と J2EE アプリケーション サーバを監視するための 2 つの管理テンプレートとアスペクト セットがあります。OMi MP for SAP には SAP ABAP 監視テンプレート セットも含まれています。これらのテンプレートを設定して、お使いの SAP 環境内の ABAP アプリケーション サーバのさまざまな機能に関する情報を収集するために定期的に行います。ABAP 監視テンプレートについての詳細は、オンライン ヘルプを参照してください。OMi MP for SAP

SAP 管理テンプレートのデプロイ

SAP 管理テンプレートをデプロイする前に、以下の推奨事項に従って、SAP 環境に適したテンプレートを特定する必要があります。

- 状況、ダンプステータス、バッチ ジョブ状況、移送、ユーザ状況、プロセスとディスパッチャ、ワークプロセス、セキュリティ、RFC 宛先といったコンポーネントで構成される SAP ABAP アプリケーション サーバの基本的な機能を監視する場合、**基本 SAP ABAP 管理テンプレート**をデプロイできます。
- SAP ABAP アプリケーション サーバ環境の詳細な監視を行う場合は、**詳細 SAP ABAP 管理テンプレート**をデプロイできます。
- SAP J2EE 要求、システムとアプリケーション スレッド プール、メモリとトランザクション ステータスといったコンポーネントで構成される SAP J2EE アプリケーション サーバの基本的な機能を監視する場合、**基本 SAP J2EE 管理テンプレート**をデプロイできます。
- SAP J2EE アプリケーション サーバ環境の詳細な監視を行う場合は、**詳細 SAP J2EE 管理テンプレート**をデプロイできます。

OMi MP for SAP 管理テンプレートをデプロイするには、以下の手順に従います。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト]


2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

ABAP アプリケーション サーバの場合:




[構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [ABAP 管理テンプレート]

J2EE アプリケーション サーバの場合:

[構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [JAVA 管理テンプレート]


3. [SAP 管理テンプレート] フォルダでデプロイする管理テンプレートをクリックし、 をクリックします。[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。
4. **[構成アイテム]** タブで管理テンプレートを割り当てる SAP システムまたは SID をクリックし、**[次へ]** をクリックします。アイテムを複数選択するには、**[CTRL]** キーや **[SHIFT]** キーを押しながらアイテムを選択してください。**[次へ]** をクリックして CI を確認し、**[必要なパラメータ]** に進みます。
5. **[必要なパラメータ]** タブで、必須パラメータを指定する必要があります。

J2EE の場合:


- a. リストの **[Java インストール ディレクトリ]** パラメータを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集: Java インストール ディレクトリ] ダイアログボックスが開きます。
- b. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。
- c. リストの **[SAP J2EE アプリケーション サーバ インスタンス ユーザ名]** パラメータを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集: SAP J2EE アプリケーション サーバ インスタンス ユーザ名] ダイアログボックスが開きます。
- d. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。
- e. リストの **[SAP J2EE アプリケーション サーバのインスタンス パスワード]** パラメータを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集: SAP J2EE アプリケーション サーバのインスタンス パスワード] ダイアログボックスが開きます。
- f. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

ABAP の場合:

注:この割り当ての編集にパラメータの指定は不要です。

6. **[次へ]** をクリックして **[パラメータ サマリ]** タブに進みます。パラメータのデフォルト値を変更するには、パラメータを選択して  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

注:[パラメータ サマリ] タブでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、管理テンプレートレベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパートパラメータとして定義

されているパラメータは表示されません。エキスパート パラメータを表示するには、 **[エキスパート パラメータの表示]** をクリックします。

7. **[次へ]** をクリックします。
8. オプション:**[構成オプション]** タブで、割り当てを直ちに有効化しない場合は **[割り当ての有効化]** チェックボックスを外します。**[割り当ておよび調整]** ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
9. **[完了]** をクリックします。

注:管理テンプレートのデプロイ時に指定するユーザ名には、OMi MP for SAP のデータ収集権限が必要です。ABAP および J2EE アプリケーション サーバ用に別々のユーザを作成できます。ABAP と J2EE アプリケーション サーバのデータ収集権限を持つ SAP ユーザを 1 つ作成することもできます。

注:SAP ABAP アプリケーション サーバに対するデータロギングは、デフォルトで無効になっています。SAP ABAP データロギングを有効にするには、SAP ABAP アプリケーション サーバ - パフォーマンス エージェントの開始ツールを実行する必要があります。

タスク 6: SAP アスペクトのデプロイ

注: **Monitoring Automation for Composite Application** ライセンスを使用し、既に SAP 管理テンプレートをデプロイしている場合は、このタスクをスキップしてください。

Monitoring Automation for Servers ライセンスを使用している場合、OMi MP for SAP アスペクトを SAP CI にデプロイする必要があります。

注:CI が SiteScope や DDM などの他のソースによって既に設定されていても、SAP 検出アスペクトのデプロイは**必要**です。詳細については、「[タスク 2: SAP 検出アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

注:他の SAP ABAP アスペクトをデプロイする前に、**SAP ABAP 構成アスペクト**をデプロイする必要があります。

SAP 管理対象ノードへの SAP ABAP 構成アスペクトのデプロイ


SAP 管理対象ノードに SAP ABAP 構成アスペクトをデプロイするには、以下の手順を実行します。


1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト]

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [ABAP アスペクト]

3. [SAP ABAP アスペクト] フォルダで **SAP ABAP 構成** アスペクトを選択し、 **[項目の割り当てとデプロイ]** をクリックして [割り当てとデプロイ] ウィザードを開きます。
4. **[構成アイテム]** タブで、SAP ABAP 構成アスペクトをデプロイする SAP 管理対象ノードをクリックします。**[次へ]** をクリックして CI を確認し、**[必要なパラメータ]** に進みます。
5. **[必要なパラメータ]** タブで、必須パラメータを指定する必要があります。

- a. **[SAP ABAP アプリケーション サーバ インスタンス名]** パラメータを選択し、 をクリックします。
[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。

- b. [インスタンスパラメータの編集] ペインで、**[SAP ABAP アプリケーション サーバ インスタンス名]** パラメータを選択し、 をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。


- c. **[値]** をクリックして、以下の形式で値を指定します。

ShortHostName_SAPSID_SAPInstNum_ABAP

例:

TestNode_W09_00_ABAP


- d. **[OK]** をクリックします。

- e. リストの **[SAP ABAP アプリケーション サーバ クライアント]** パラメータを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集: SAP ABAP アプリケーション サーバ クライアント] ダイアログボックスが開きます。

- f. **[値]** をクリックし、SAP ABAP サーバのクライアント番号を指定して、**[OK]** をクリックします。

例:

001

- g. **[SAP ABAP アプリケーション サーバのインスタンス番号]** パラメータを選択し、 をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。

- h. **[値]** をクリックし、SAP ABAP サーバのインスタンス番号を指定して、**[OK]** をクリックします。

例:

00


i. **[SAP ABAP ホスト名]** パラメータを選択し、 をクリックします。**[パラメータの編集]** ダイアログボックスが開きます。


j. **[値]** をクリックし、SAP 管理対象ノード名 (完全修飾名) をかっこで囲んで指定します。

例:

(TestNode.hp.com)

k. **[OK]** をクリックします。

6. **[次へ]** をクリックして **[パラメータ サマリ]** に進みます。パラメータのデフォルト値を変更するには、パラメータを選択して  をクリックします。**[パラメータの編集]** ダイアログボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

注:SAP ABAP アプリケーション サーバの必須パラメータのデフォルト値を変更するには、パラメータを選択して  をクリックします。**[パラメータの編集]** ダイアログボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

7. **[完了]** をクリックします。

OMi MP for SAP アスペクトのデプロイ

SAP 管理対象ノードに OMi MP for SAP アスペクトをデプロイするには、以下の手順を実行します。

1. **[管理テンプレートおよびアスペクト]** ペインを開きます。

[管理] > **[監視]** > **[管理テンプレートおよびアスペクト]**


2. **[構成フォルダ]** ペインで、次を選択します。

ABAP アプリケーション サーバの場合:




[構成フォルダ] > **[ERP 管理]** > **[SAP NetWeaver アプリケーション サーバ]** > **[ABAP アスペクト]**

J2EE アプリケーション サーバの場合:

[構成フォルダ] > **[ERP 管理]** > **[SAP NetWeaver アプリケーション サーバ]** > **[JAVA アスペクト]**


3. 特定の SAP アスペクト フォルダでデプロイする SAP アスペクトを選択し、 **[項目の割り当てとデプロイ]** をクリックして **[割り当てとデプロイ]** ウィザードを開きます。
4. **[構成アイテム]** ページで、SAP アスペクトをデプロイする SAP 管理対象ノードをクリックします。**[Ctrl]** キーまたは **[Shift]** キーを押しながら選択すると、複数のアイテムを選択できます。**[次へ]** をクリックして CI を確認し、**[必要なパラメータ]** に進みます。
5. **[必要なパラメータ]** タブで、必須パラメータを指定する必要があります。

J2EE の場合:


- a. リストの **[Java インストール ディレクトリ]** パラメータを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集: Java インストール ディレクトリ] ダイアログ ボックスが開きます。
- b. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。
- c. リストの **[SAP J2EE アプリケーション サーバ インスタンス ユーザ名]** パラメータを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集: SAP J2EE アプリケーション サーバ インスタンス ユーザ名] ダイアログ ボックスが開きます。
- d. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。
- e. リストの **[SAP J2EE アプリケーション サーバのインスタンス パスワード]** パラメータを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集: SAP J2EE アプリケーション サーバのインスタンス パスワード] ダイアログ ボックスが開きます。
- f. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

ABAP の場合:


注:この割り当ての編集にパラメータの指定は不要です。

6. **[次へ]** をクリックして **[パラメータ サマリ]** に進みます。パラメータのデフォルト値を変更するには、パラメータを選択して  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログ ボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

J2EE の場合:

[SAP J2EE アプリケーション サーバのインスタンス名] パラメータのデフォルト値を変更するには、パラメータを選択して  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログ ボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

ABAP の場合:

[SAP ABAP アプリケーション サーバの必須パラメータ] のデフォルト値を変更するには、パラメータを選択して  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログ ボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

7. **[次へ]** をクリックします。
8. オプション:割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当ての有効化]** チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
9. **[完了]** をクリックします。

タスク7: SAP ABAP 監視テンプレートの構成

OMi MP for SAP には、SAP ABAP アプリケーション サーバの特定の機能を監視できる SAP ABAP 監視テンプレートが含まれています。OMi MP for SAP に備えられている SAP ABAP 監視テンプレート セットには、手動で設定せずにそのままデプロイできる、標準設定の構成が含まれています。OMi MP for SAP を使用すると、SAP 環境固有の機能を監視するための SAP ABAP 監視テンプレートを設定できます。

以下の表は、標準設定の構成を持つ SAP ABAP 監視テンプレートの一覧です。

SAP ABAP 監視テンプレート	説明
SAPABAP_CCMSIntegrationMon	SAP CCMS 監視 インフラストラクチャの出力を監視する SAP ABAP 監視テンプレート。
SAPABAP_DispatchMon	さまざまな種類の SAP ワークプロセスに対する各種のキューのサイズ、内容、ステータスを監視する SAP ABAP 監視テンプレート。
SAPABAP_DumpMon	SAP ABAP システムで発生するランタイム エラーを監視する SAP ABAP 監視テンプレート。
SAPABAP_LckChkMon	各種の SAP トランザクションと SAP レポートの SAP ABAP 論理ロックを管理する Enqueue プロセスを監視する SAP ABAP 監視テンプレート。
SAPABAP_Perfmon	各種の OMi MP for SAP パフォーマンス モニタから SAP パフォーマンス メトリックを収集する SAP ABAP 監視テンプレート。
SAPABAP_SpoolMon	SAP ABAP スプーラ エントリの数、エラー生成スプール要求、印刷要求の誤ったスプーラ エントリ の数を監視する SAP ABAP 監視テンプレート。
SAPABAP_StatusMon	SAP ABAP アプリケーション サーバの可用性ステータスを監視する SAP ABAP 監視テンプレート。
SAPABAP_TraceMon	すべての SAP トレースとログ ファイルにおいて "ERROR" を監視する SAP ABAP 監視テンプレート。
SAPABAP_TransMon	正常にインポート/エクスポートされた SAP ABAP の移送、失敗したインポート/エクスポート、確認済み/未確認の修復の可用性、設定システムとの接続/TP テストを監視する SAP ABAP 監視テンプレート。
SAPABAP_UpdProcMon	非アクティブのステータスとエラーなどの SAP ABAP 更新プロセスのさまざまな状態を監視する SAP ABAP 監視テンプレート。
SAPABAP_WPMon	作業プロセスの実行、作業プロセスの待機、Debug/Private/No Restart などのワークプロセスの各種のステータスの確認を監視する SAP ABAP 監視テンプレート。

SAP ABAP 監視テンプレートの設定の詳細については、「[SAP ABAP 監視テンプレート](#)」を参照してください。

SAP 環境の監視

管理テンプレートとアスペクトをデプロイした後、次のパースペクティブからイベントのステータスを解析できません。

- [イベント パースペクティブ](#)
- [状況 パースペクティブ](#)
- [パフォーマンス パースペクティブ](#)

イベント パースペクティブ

イベント パースペクティブには、イベント パースペクティブからの完全なイベント情報が表示されます。イベント パースペクティブでは、OMi MP for SAP で監視している SAP アプリケーション サーバCI のイベント情報を表示できます。

SAP アプリケーション サーバCI のイベント パースペクティブを表示するには、次の手順を実行します。

1. [操作コンソール] ウィンドウを開きます。

[ワークスペース] > [操作コンソール] > [Event Perspective] をクリックします。

[View Explorer] ペインが表示されます。

2. [ビューの参照] タブで、イベントを表示する、それぞれの SAP アプリケーション サーバCI を含む **SAP_Deployment**、**SAP_ABAP_Deployment**、**SAP_J2EE_Deployment** のいずれかのビューを選択します。または、[検索] タブでアプリケーション サーバCI を見つけます。
3. イベント パースペクティブを表示する SAP アプリケーション サーバCI をクリックします。選択した SAP アプリケーション サーバCI のイベントのリストが [Event Browser] ペインに表示されます。

[Event Browser] でイベントをクリックすると、[イベント詳細] ペインが開き、次の内容が表示されます。

- **一般** - 重要度、ライフサイクル状態、優先度、関連 CI など、選択したイベントに関する詳細情報が表示されます。
- **追加情報**: 選択したイベントの属性に関する詳細情報が表示されます。
- **ソース情報**: 選択したイベントのソースに関する情報の概要が表示されます。
- **アクション**: 選択したイベントで使用できるアクションのリストが表示されます。使用できるアクションには、ユーザアクションと自動アクションの2タイプがあります。
- **注釈**: 選択したイベントにアタッチされている注釈が表示されます。

- **カスタム属性**: 管理者または担当ユーザが手動で設定し、選択したイベントに追加した属性のリストが表示されます。
- **関連イベント**: イベント ブラウザで選択したイベントに関連するすべてのイベントが表示されます。
- **履歴**: 選択したイベントの履歴が表示されます。
- **解決ヒント**: イベントに関連付けられているノードとCIを特定する情報が表示されます。
- **説明**: 関連イベントの処理に役立つ情報が表示されます。
- **転送**: イベントの所有者に関する転送の詳細情報が表示されます。

状況 パースペクティブ

状況 パースペクティブには、イベントのコンテキストの関連 CI 全体の状況の概要情報が表示されます。状況 パースペクティブでは、OMi MP for SAP で監視している SAP アプリケーション サーバCI の状況情報を表示できます。

SAP アプリケーション サーバCI の状況 パースペクティブを表示するには、次の手順を実行します。

1. [操作コンソール] ウィンドウを開きます。

[ワークスペース] > [操作コンソール] > [Health Perspective] をクリックします。

[View Explorer] ペインが表示されます。

2. [ビューの参照] タブで、状況関連イベントを表示する、それぞれの SAP アプリケーション サーバCI を含む **SAP_Deployment**、**SAP_ABAP_Deployment**、**SAP_J2EE_Deployment** のいずれかのビューを選択します。または、[検索] タブで SAP アプリケーション サーバCI を見つけます。
3. 状況 パースペクティブを表示する SAP アプリケーション サーバCI をクリックします。選択した SAP アプリケーション サーバCI の状況関連イベントのリストが [Event Browser] ペインに表示されます。

[Event Browser] ペインからイベントをクリックすると、次のペインが表示されます。

- **Health Top View**: 選択したイベントのヘルストップビューが表示されます。
- **Health Indicators**: [Health Top View] ペインで選択した CI に関連する主要業績評価指標 (KPI) および HI が表示されます。
- **Actions**: 選択したイベントで使用できるアクションのリストが表示されます。

パフォーマンス パースペクティブ

パフォーマンス パースペクティブでは、既存のグラフテンプレートからグラフを作成できます。また、選択した CI に必要なメトリックを選択して、カスタマイズされたグラフを作成することもできます。

グラフを使用して SAP アプリケーション サーバCI のパフォーマンス パースペクティブを表示するには、次の手順を実行します。

1. [操作コンソール] ウィンドウを開きます。

[ワークスペース] > [操作コンソール] > [Performance Perspective] をクリックします。

[View Explorer] ペインが表示されます。

2. [ビューの参照] タブで、**SAP_Deployment**、**SAP_ABAP_Deployment**、**SAP_J2EE_Deployment** のいずれかのビューを選択します。パフォーマンス ペインに、それぞれのビューで使用できるデフォルトのグラフが表示されます。

注: イベントの管理の詳細は、『Operations Manager i コンセプト・ガイド』を参照してください。

BSM コンソールでの作業の開始

ABAP と Java アプリケーション サーバインスタンスで構成されるビジネスクリティカルな SAP 環境を監視したいと考えています。


SAP 環境には、ABAP または Java、あるいはその両方のアプリケーション サーバインスタンスを持つことができます。ABAP または Java、あるいはその両方のアプリケーション サーバの可用性とパフォーマンスをチェックし、さらに、SAP 環境の基本的な機能も監視したいと考えています。

タスク 1: BSM コンソールへのノードの追加

監視を始める前に、BSM コンソールに SAP ノードを追加する必要があります。

1. [オペレーション管理の管理] から [モニタ対象ノード] マネージャを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [セットアップ] > [モニタ対象ノード]

2. [ノード ビュー] ペインで [事前定義済みのノード フィルタ] > [モニタ対象ノード] をクリックし、 をクリックしてから、[Computer] > [Windows] または [UNIX] を選択します。[モニタ対象ノードの新規作成] ダイアログボックスが表示されます。
3. ノードの [プライマリ DNS 名]、[IP アドレス]、[オペレーティングシステム]、[プロセッサアーキテクチャ] を指定し、[OK] をクリックします。

タスク 2: SAP 検出アスペクトのデプロイ

追加した SAP 管理対象ノード上の SAP CI を検出するには、SAP 検出アスペクトをデプロイする必要があります。OMi MP for SAP には ABAP と J2EE アプリケーション サーバ用の 2 つの検出アスペクト セットがあります。検出する CI のタイプに対応する検出アスペクトをデプロイできます。

SAP J2EE 検出アスペクトのデプロイ


SAP ランドスケープ内の J2EE アプリケーション サーバを検出するには、以下の手順を実行します。

1. [管理 テンプレート および アスペクト] ペインを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理 テンプレート および アスペクト]

2. [構成 フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成 フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [JAVA アスペクト]

3. [Java アスペクト] フォルダで **SAP J2EE 検出** アスペクトを選択し、 をクリックして [割り当てとデプロイ] ウィザードを開きます。
4. **[構成 アイテム]** タブで、SAP J2EE 検出 アスペクトをデプロイする SAP 管理対象ノードを選択します。
5. **[次へ]** をクリックして **[必要なパラメータ]** タブに進みます。

注:この割り当ての編集にパラメータの指定は不要です。

6. **[次へ]** をクリックして **[すべてのパラメータ]** に進みます。

注:この割り当てに使用できるパラメータはありません。

7. **[次へ]** をクリックします。
8. オプション:割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当てオブジェクトの有効化]** チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
9. **[完了]** をクリックします。

SAP ABAP 検出アスペクトのデプロイ


SAP ランドスケープ内の SAP ABAP アプリケーション サーバを検出するには、以下の手順を実行します。

1. [管理 テンプレート および アスペクト] ペインを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理 テンプレート および アスペクト]

2. [構成 フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成 フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [ABAP アスペクト]

3. [ABAP アスペクト] フォルダで **SAP ABAP 検出** アスペクトを選択し、 をクリックして [割り当てとデプロイ] ウィザードを開きます。
4. **[構成 アイテム]** タブで、SAP ABAP 検出アスペクトをデプロイする SAP 管理対象ノードをクリックします。

5. **[次へ]** をクリックして **[必要なパラメータ]** タブに進みます。

注:この割り当ての編集にパラメータの指定は不要です。

6. **[次へ]** をクリックして **[すべてのパラメータ]** に進みます。

注:この割り当てに使用できるパラメータはありません。

7. **[次へ]** をクリックします。
8. オプション:割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当てオブジェクトの有効化]** チェックボックスを外します。**[割り当ておよび調整]** ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
9. **[完了]** をクリックします。

SAP ABAP リモート構成アスペクトのデプロイ

Operations Agent (OA) をインストールしていないノード上で SAP ABAP アプリケーション サーバを監視する場合は、SAP ABAP リモート構成アスペクトをデプロイできます。


SAP ABAP リモート構成アスペクトをデプロイするには、以下の手順を実行します。


1. **[管理テンプレートおよびアスペクト]** ペインを開きます。

[管理] > **[オペレーション管理]** > **[モニタリング]** > **[管理テンプレートおよびアスペクト]**

2. **[構成フォルダ]** ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > **[ERP 管理]** > **[SAP NetWeaver アプリケーション サーバ]** > **[ABAP アスペクト]**



3. **[ABAP アスペクト]** フォルダで **SAP ABAP リモート構成アスペクト** を選択し、 をクリックして **[割り当てとデプロイ]** ウィザードを開きます。
4. **[構成アイテム]** タブで監視ホスト (エージェントをインストールしているホスト) として使用する SAP 管理対象ノードをクリックして **[次へ]** をクリックします。**[必要なパラメータ]** タブが開きます。
5. **[必要なパラメータ]** タブで、OMi MP for SAP を使用して監視するリモート SAP セントラルインスタンスノードの詳細を指定する必要があります。

- a. リストの **[ホスト名と SID 付きの SAP ABAP アプリケーション サーバ インスタンス]** パラメータを選択して、 をクリックします。**[パラメータの編集: ホスト名と SID 付きの SAP ABAP アプリケーション サーバのインスタンス番号]** ダイアログボックスが開きます。
- b. 次の例で示すように、リモート SAP ABAP アプリケーション サーバのホスト名と SID 付きで **[SAP ABAP アプリケーション サーバのセントラル インスタンス]** を指定します。


例:

testnode.hp.com_T01_00

ここで、testnode.hp.com は完全修飾された SAP リモート ホスト名で、T01 は SAP リモート ホストの SID、00 は SAP インスタンス番号です。

- c. **[OK]** をクリックします。
 - d. リストの **[SAP ABAP アプリケーション サーバクライアント]** パラメータを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集: SAP ABAP アプリケーション サーバクライアント] が開きます。
 - e. **[値]** をクリックし、リモート SAP ABAP アプリケーション サーバのクライアント番号を指定して、**[OK]** をクリックします。
6. **[次へ]** をクリックして **[すべてのパラメータ]** に進みます。パラメータのデフォルト値を変更するには、パラメータを選択して  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。たとえば、[インスタンスパラメータの編集] ペインから、リモート SAP ABAP アプリケーション サーバのデフォルトのユーザ名とパスワードを変更できます。[インスタンスパラメータの編集] ペインから、監視するリモート ホストを複数追加することもできます。

[インスタンスパラメータの編集] ペインから SAP リモート ノードを追加するには、以下の手順を実行します。

- a. [インスタンス値] ペインで、 をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。
- b. 次の例で示すように、リモート SAP ABAP アプリケーション サーバのホスト名とSID を付けて SAP ABAP アプリケーション サーバインスタンスを指定します。

例:

testnode.hp.com_T01_00

ここで、testnode.hp.com は完全修飾された SAP リモート ホスト名で、T01 は SAP リモート ホストの SID、00 は SAP インスタンス番号です。

OMi MP for SAP では、リモート SAP ABAP アプリケーション サーバの資格情報を以下の組み合わせで提供します。

- i. リモート ホスト名 (完全修飾ホスト名)、単一の SAP SID、および複数の ABAP アプリケーション サーバインスタンス。

例:

testnode.hp.com_T01_00

testnode.hp.com_T01_01

testnode.hp.com_T01_03

- ii. リモート ホスト名 (完全修飾ホスト名)、複数の SAP SID および ABAP アプリケーション サーバインスタンス。

例:

testnode.hp.com_T01_00

testnode.hp.com_T02_00

testnode.hp.com_T03_00


- iii. 複数のリモート ホスト名 (完全修飾ホスト名)、SAP SID および ABAP アプリケーション サーバインスタンス。

例:

testnode.hp.com_T01_00

testnode01.hp.com_T01_00

testnode02.hp.com_T01.3_00

注:[すべてのパラメータ] ペインでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、管理テンプレートレベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパートパラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパートパラメータを表示するには、 **[エキスパートパラメータの表示]** をクリックします。

7. **[次へ]** をクリックします。
8. オプション:割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当てオブジェクトの有効化]** チェックボックスを外します。**[割り当ておよび調整]** ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
9. **[完了]** をクリックします。

注:SAP 検出アスペクトをデプロイした後、BSM コンソールに SAP CI が表示されていることを確認する必要があります。検出された CI を表示するには、**[BSM コンソール] > [MyBSM] > [トップビュー]** (メニューバーのドロップダウンリストから) に移動します。**SAP_Deployment** ビューを選択します。トップビューに SAP CI が表示されています。**SAP_ABAP_Deployment** と **SAP_J2EE_Deployment** ビューを選択し、それぞれの SAP アプリケーション サーバ CI を表示します。

タスク3: ABAP アプリケーション サーバの監視用のSAP ノードの設定

SAP ABAP アプリケーション サーバを監視するために OMi MP for SAP を有効にするには、次のタスクを実行する必要があります。

1. OMi MP for SAP 移送を適用する

OMi MP for SAP 移送ファイルをインストールメンテーション フォルダから、各 SAP NetWeaver セントラルインスタンスの SAP 移送ディレクトリにコピーし、これらのファイルを適用する必要があります。

2. OMi 用の SAP ユーザを設定する

OMi MP for SAP アプリケーション、モニタ、アクションが SAP にアクセスする必要がある場合に OMi MP for SAP が SAP にログオンできるように、OMi 用の SAP ユーザを設定する必要があります。

3. lib ファイルをインストールメンテーション フォルダにコピーする

SAP RFC ライブラリファイルを SAP 管理対象ノード上のインストールメンテーション フォルダにコピーする必要があります。

4. Solaris 管理対象ノードの場合、LD_LIBRARY_PATH を 32 ビットの libgcc_s.so パスに設定する

Solaris 管理対象ノードを監視する場合、LD_LIBRARY_PATH を 32 ビットの libgcc_s.so パスに設定する必要があります。

ABAP アプリケーション サーバの監視用の SAP ノードの設定の詳細については、『OMi MP for SAP インストールガイド』を参照してください。

タスク4: SAP ABAP 構成アスペクトのデプロイ

注: SAP ABAP 管理テンプレートをデプロイする前に、SAP ABAP 構成アスペクトをデプロイする必要があります。


SAP ABAP アプリケーション サーバに SAP ABAP 構成アスペクトをデプロイするには、以下の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。


[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]


2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [SAP ABAP アスペクト]

3. [ABAP アスペクト] フォルダで **SAP ABAP 構成** アスペクトを選択し、 をクリックして [割り当てとデプロイ] ウィザードを開きます。
4. **[構成アイテム]** タブで、SAP アスペクトをデプロイする SAP ABAP アプリケーション サーバセントラル インスタンスをクリックします。SAP セントラル インスタンスとアプリケーション サーバをサポートする SAP ABAP アスペクトの詳細については、「デプロイメント シナリオ」の「OMi MP for SAP ABAP 監視テンプレート設定ファイル」の表を参照してください。

注:SAP ABAP リモート構成アスペクトの一部として設定される SAP ABAP アプリケーションサーバを選択しないでください。詳細については、「[SAP ABAP リモート構成アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

5. **[次へ]** をクリックします。**[必要なパラメータ]** タブが開きます。
6. **[SAP ABAP アプリケーション サーバクライアント]** パラメータを選択し、 をクリックします。[パラメータの編集: SAP ABAP アプリケーション サーバクライアント] が開きます。
7. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。
8. **[次へ]** をクリックして [すべてのパラメータ] に進みます。**[すべてのパラメータ]** タブでパラメータのデフォルト値を編集できます。

注:SAP ABAP アプリケーション サーバの必須パラメータのデフォルト値を変更するには、パラメータを選択して  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

9. **[次へ]** をクリックします。
10. オプション:割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当てオブジェクトの有効化]** チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
11. **[完了]** をクリックします。

タスク5: SAP 管理テンプレートの特定とデプロイ

Monitoring Automation for Composite Applications ライセンスを使用している場合、OMi MP for SAP 管理テンプレートを SAP CI にデプロイできます。**Monitoring Automation for Servers** ライセンスを使用している場合、スキップして「[タスク6: SAP アスペクトのデプロイ](#)」に進みます。

注:CI が SiteScope や DDM などの他のソースによって既に設定されていても、SAP 検出アスペクトのデプロイは**必要**です。詳細については、「[タスク2: SAP 検出アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

OMi MP for SAP には、お使いの SAP ランドスケープ内で ABAP と J2EE アプリケーション サーバを監視するための2つの管理テンプレートとアスペクト セットがあります。OMi MP for SAP には SAP ABAP 監視

テンプレート セットも含まれています。これらのテンプレートを設定して、お使いの SAP 環境内の ABAP アプリケーション サーバのさまざまな機能に関する情報を収集するために定期的に行います。ABAP 監視テンプレートについての詳細は、オンライン ヘルプを参照してください。OMi MP for SAP

SAP 管理テンプレートのデプロイ

SAP 管理テンプレートをデプロイする前に、以下の推奨事項に従って、SAP 環境に適したテンプレートを特定する必要があります。

- 状況、ダンプステータス、バッチジョブ状況、移送、ユーザ状況、プロセスとディスパッチャ、ワークプロセス、セキュリティ、RFC 宛先といったコンポーネントで構成される SAP ABAP アプリケーション サーバの基本的な機能を監視する場合、**基本 SAP ABAP 管理テンプレート**をデプロイできます。
- SAP ABAP アプリケーション サーバ環境の詳細な監視を行う場合は、**詳細 SAP ABAP 管理テンプレート**をデプロイできます。
- SAP J2EE 要求、システムとアプリケーション スレッド プール、メモリとトランザクション ステータスといったコンポーネントで構成される SAP J2EE アプリケーション サーバの基本的な機能を監視する場合、**基本 SAP J2EE 管理テンプレート**をデプロイできます。
- SAP J2EE アプリケーション サーバ環境の詳細な監視を行う場合は、**詳細 SAP J2EE 管理テンプレート**をデプロイできます。

OMi MP for SAP 管理テンプレートをデプロイするには、以下の手順に従います。

1. [管理テンプレートおよびアспект] ペインを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアспект]


2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

ABAP アプリケーション サーバの場合:




[構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [ABAP 管理テンプレート]

J2EE アプリケーション サーバの場合:

[構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [JAVA 管理テンプレート]


3. **[SAP 管理テンプレート]** フォルダでデプロイする管理テンプレートをクリックし、 をクリックします。[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。
4. **[構成アイテム]** タブで管理テンプレートを割り当てる SAP システムまたは SID をクリックし、**[次へ]** をクリックします。**[Ctrl]** キーまたは **[Shift]** キーを押しながら選択すると、複数のアイテムを選択できます。**[次へ]** をクリックして CI を確認し、**[必要なパラメータ]** に進みます。
5. **[必要なパラメータ]** タブで、必須パラメータを指定する必要があります。


J2EE の場合:

- a. リストの **[Java インストール ディレクトリ]** パラメータを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集: Java インストール ディレクトリ] ダイアログ ボックスが開きます。
- b. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。
- c. リストの **[SAP J2EE アプリケーション サーバ インスタンス ユーザ名]** パラメータを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集: SAP J2EE アプリケーション サーバ インスタンス ユーザ名] ダイアログ ボックスが開きます。
- d. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。
- e. リストの **[SAP J2EE アプリケーション サーバのインスタンス パスワード]** パラメータを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集: SAP J2EE アプリケーション サーバのインスタンス パスワード] ダイアログ ボックスが開きます。
- f. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

ABAP の場合:

注:この割り当ての編集にパラメータの指定は不要です。

6. **[次へ]** をクリックして **[すべてのパラメータ]** に進みます。パラメータのデフォルト値を変更するには、パラメータを選択して  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログ ボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

注:[すべてのパラメータ] ペインでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、管理テンプレートレベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパート パラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパート パラメータを表示するには、 **[エキスパート パラメータの表示]** をクリックします。

7. **[次へ]** をクリックします。
8. オプション:**[構成オプション]** タブで、割り当てを直ちに有効化しない場合は **[割り当てオブジェクトの有効化]** チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
9. **[完了]** をクリックします。

注:管理テンプレートのデプロイ時に与えられるユーザ名には、OMi MP for SAP のデータ収集権限が必要です。ABAPとJ2EEアプリケーションサーバ用に別々のユーザを作成できます。ABAPとJ2EEアプリケーションサーバのデータ収集権限を持つSAPユーザを1つ作成することもできます。

注:SAP ABAP アプリケーション サーバに対するデータ ロギングは、デフォルトで無効になっています。SAP ABAP データ ロギングを有効にするには、SAP ABAP アプリケーション サーバ - パフォーマンス エージェントの開始 ツールを実行する必要があります。

タスク 6: SAP アスペクト のデプロイ

注: **Monitoring Automation for Composite Applications** ライセンスを使用し、既に SAP 管理 テンプレートをデプロイしている場合は、このタスクをスキップしてください。

Monitoring Automation for Servers ライセンスを使用している場合、OMi MP for SAP アスペクトを SAP CI にデプロイする必要があります。

注:CI が SiteScope や DDM などの他のソースによって既に設定されていても、SAP 検出アスペクトのデプロイは必要です。詳細については、「[タスク 2: SAP 検出アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

注:他の SAP ABAP アスペクトをデプロイする前に、**SAP ABAP 構成**アスペクトをデプロイする必要があります。

SAP 管理対象ノードへの SAP ABAP 構成アスペクトのデプロイ


SAP 管理対象ノードに SAP ABAP 構成アスペクトをデプロイするには、以下の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]


2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [ABAP アスペクト]

3. [SAP ABAP アスペクト] フォルダで **SAP ABAP 構成**アスペクトを選択し、 [項目の割り当てとデプロイ] をクリックして [割り当てとデプロイ] ウィザードを開きます。

4. [構成アイテム] タブで、SAP ABAP 構成アスペクトをデプロイする SAP 管理対象ノードをクリックします。[次へ] をクリックして CI を確認し、[必要なパラメータ] に進みます。

5. [必要なパラメータ] タブで、必須パラメータを指定する必要があります。

- a. [SAP ABAP アプリケーション サーバ インスタンス名] パラメータを選択し、 をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログ ボックスが開きます。

- b. [インスタンスパラメータの編集] ペインで、[SAP ABAP アプリケーション サーバ インスタンス名] パラメータを選択し、 をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログ ボックスが開きます。


- c. [値] をクリックして、以下の形式で値を指定します。

ShortHostName_SAPSID_SAPInstNum_ABAP

例:

TestNode_W09_00_ABAP


- d. [OK] をクリックします。

- e. リストの [SAP ABAP アプリケーション サーバクライアント] パラメータを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集: SAP ABAP アプリケーション サーバクライアント] ダイアログ ボックスが開きます。

- f. [値] をクリックし、SAP ABAP サーバのクライアント番号を指定して、[OK] をクリックします。

例:


001

- g. [SAP ABAP アプリケーション サーバのインスタンス番号] パラメータを選択し、 をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログ ボックスが開きます。

- h. [値] をクリックし、SAP ABAP サーバのインスタンス番号を指定して、[OK] をクリックします。

例:

00


- i. [SAP ABAP ホスト名] パラメータを選択し、 をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログ ボックスが開きます。


- j. [値] をクリックし、SAP 管理対象ノード名 (完全修飾名) をかっこで囲んで指定します。

例:

(TestNode.hp.com)

- k. [OK] をクリックします。

6. [次へ] をクリックして [すべてのパラメータ] に進みます。パラメータのデフォルト値を変更するには、パラメータを選択して  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログ ボックスが開きます。[値] をクリックして値を指定し、[OK] をクリックします。

注:SAP ABAP アプリケーション サーバの必須パラメータのデフォルト値を変更するには、パラメータを選択して  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログ ボックスが開きます。[値] をクリックして値を指定し、[OK] をクリックします。

7. **[完了]** をクリックします。

OMi MP for SAP アスペクトのデプロイ

SAP 管理対象ノードに OMi MP for SAP アスペクトをデプロイするには、以下の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]


2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

ABAP アプリケーション サーバの場合:



[構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [ABAP アスペクト]


J2EE アプリケーション サーバの場合:

[構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [JAVA アスペクト]

3. 特定の SAP アスペクト フォルダでデプロイする SAP アスペクトを選択し、 **[項目の割り当てとデプロイ]** をクリックして [割り当てとデプロイ] ウィザードを開きます。
4. **[構成アイテム]** タブで、SAP アスペクトをデプロイする SAP 管理対象ノードをクリックします。**[Ctrl]** キーまたは **[Shift]** キーを押しながら選択すると、複数のアイテムを選択できます。**[次へ]** をクリックして CI を確認し、**[必要なパラメータ]** に進みます。
5. **[必要なパラメータ]** タブで、必須パラメータを指定する必要があります。


J2EE の場合:

- a. リストの **[Java インストール ディレクトリ]** パラメータを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集: Java インストール ディレクトリ] ダイアログ ボックスが開きます。
- b. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。
- c. リストの **[SAP J2EE アプリケーション サーバ インスタンス ユーザ名]** パラメータを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集: SAP J2EE アプリケーション サーバ インスタンス ユーザ名] ダイアログ ボックスが開きます。
- d. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。


- e. リストの **[SAP J2EE アプリケーション サーバのインスタンス パスワード]** パラメータを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集: SAP J2EE アプリケーション サーバのインスタンス パスワード] ダイアログ ボックスが開きます。
- f. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

ABAP の場合:


注:この割り当ての編集にパラメータの指定は不要です。

- 6. **[次へ]** をクリックして **[すべてのパラメータ]** に進みます。パラメータのデフォルト 値を変更するには、パラメータを選択して  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログ ボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

J2EE の場合:

[SAP J2EE アプリケーション サーバのインスタンス名] パラメータのデフォルト 値を変更するには、パラメータを選択して  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログ ボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

ABAP の場合:

[SAP ABAP アプリケーション サーバの必須 パラメータ] のデフォルト 値を変更するには、パラメータを選択して  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログ ボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

- 7. **[次へ]** をクリックします。
- 8. オプション:割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当てオブジェクトの有効化]** チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
- 9. **[完了]** をクリックします。

タスク7: SAP ABAP 監視テンプレートの構成

OMi MP for SAP には、SAP ABAP アプリケーション サーバの特定の機能を監視できる SAP ABAP 監視テンプレートが含まれています。OMi MP for SAP に備えられている SAP ABAP 監視テンプレート セットには、手動で設定せずにそのままデプロイできる、標準設定の構成が含まれています。OMi MP for SAP を使用すると、SAP 環境固有の機能を監視するための SAP ABAP 監視テンプレートを設定できます。

以下の表は、標準設定の構成を持つ SAP ABAP 監視テンプレートの一覧です。

SAP ABAP 監視テンプレート	説明
-------------------	----

SAPABAP_CCMSIntegrationMon	SAP CCMS 監視 インフラストラクチャの出力を監視する SAP ABAP 監視テンプレート。
SAPABAP_DispMon	さまざまな種類の SAP ワークプロセスに対する各種のキューのサイズ、内容、ステータスを監視する SAP ABAP 監視テンプレート。
SAPABAP_DumpMon	SAP ABAP システムで発生するランタイムエラーを監視する SAP ABAP 監視テンプレート。
SAPABAP_LckChkMon	各種の SAP トランザクションと SAP レポートの SAP ABAP 論理ロックを管理する Enqueue プロセスを監視する SAP ABAP 監視テンプレート。
SAPABAP_Perfmon	各種の OMi MP for SAP パフォーマンス モニタから SAP パフォーマンス メトリックを収集する SAP ABAP 監視テンプレート。
SAPABAP_SplMon	SAP ABAP スプーラ エントリの数、エラー生成スプール要求、印刷要求の誤ったスプーラ エントリを監視する SAP ABAP 監視テンプレート。
SAPABAP_StatusMon	SAP ABAP アプリケーション サーバの可用性ステータスを監視する SAP ABAP 監視テンプレート。
SAPABAP_TraceMon	すべての SAP トレースとログファイルにおいて "ERROR" を監視する SAP ABAP 監視テンプレート。
SAPABAP_TransMon	正常にインポート/エクスポートされた SAP ABAP の移送、失敗したインポート/エクスポート、確認済み/未確認の修復の可用性、設定システムとの接続/TP テストを監視する SAP ABAP 監視テンプレート。
SAPABAP_UpdProcMon	非アクティブのステータスとエラーなどの SAP ABAP 更新プロセスのさまざまな状態を監視する SAP ABAP 監視テンプレート。
SAPABAP_WPMon	作業プロセスの実行、作業プロセスの待機、Debug/Private/No Restart などのワークプロセスの各種のステータスの確認を監視する SAP ABAP 監視テンプレート。

SAP ABAP 監視テンプレートの設定の詳細については、「[SAP ABAP 監視テンプレート](#)」を参照してください。

SAP 環境の監視

管理テンプレートとアスペクトをデプロイした後、次のパースペクティブからイベントのステータスを解析できません。

- [イベント パースペクティブ](#)
- [状況 パースペクティブ](#)

- パフォーマンス パースペクティブ

イベント パースペクティブ

イベント パースペクティブには、イベント パースペクティブからの完全なイベント情報が表示されます。イベント パースペクティブでは、OMi MP for SAP で監視している SAP アプリケーション サーバCI のイベント情報を表示できます。

SAP アプリケーション サーバCI のイベント パースペクティブを表示するには、次の手順を実行します。

1. [オペレーション管理] ウィンドウを開きます。

[アプリケーション] > [オペレーション管理]

2. [オペレーション管理] ウィンドウで **[Event Perspective]** タブをクリックします。[View Explorer] ペインが表示されます。
3. **[ビューの参照]** タブで、イベントを表示する、それぞれの SAP アプリケーション サーバCI を含む **SAP_Deployment**、**SAP_ABAP_Deployment**、**SAP_J2EE_Deployment** のいずれかのビューを選択します。または、**[検索]** タブでアプリケーション サーバCI を見つけます。
4. イベント パースペクティブを表示する SAP アプリケーション サーバCI をクリックします。選択した SAP アプリケーション サーバCI のイベントのリストが [Event Browser] ペインに表示されます。

[Event Browser] でイベントをクリックすると、[イベント詳細] ペインが開き、次の内容が表示されます。

- **一般** - 重要度、ライフサイクル状態、優先度、関連 CI など、選択したイベントに関する詳細情報が表示されます。
- **追加情報**: 選択したイベントの属性に関する詳細情報が表示されます。
- **ソース情報**: 選択したイベントのソースに関する情報の概要が表示されます。
- **アクション**: 選択したイベントで使用できるアクションのリストが表示されます。使用できるアクションには、ユーザアクションと自動アクションの2タイプがあります。
- **注釈**: 選択したイベントにアタッチされている注釈が表示されます。
- **カスタム属性**: 管理者または担当ユーザが手動で設定し、選択したイベントに追加した属性のリストが表示されます。
- **関連イベント**: イベント ブラウザで選択したイベントに関連するすべてのイベントが表示されます。
- **履歴**: 選択したイベントの履歴が表示されます。
- **解決ヒント**: イベントに関連付けられているノードとCIを特定する情報が表示されます。
- **説明**: 関連イベントの処理に役立つ情報が表示されます。
- **転送**: イベントの所有者に関する転送の詳細情報が表示されます。

注: イベントの管理の詳細は、『Operations Manager i コンセプト・ガイド』を参照してください。

状況 パースペクティブ

状況 パースペクティブには、イベントのコンテキストの関連 CI 全体の状況の概要情報が表示されます。状況 パースペクティブでは、OMi MP for SAP で監視している SAP アプリケーション サーバCI の状況情報を表示できます。

SAP アプリケーション サーバCI の状況 パースペクティブを表示するには、次の手順を実行します。

1. [オペレーション管理] ウィンドウを開きます。

[アプリケーション] > [オペレーション管理]

2. [オペレーション管理] ウィンドウで [Health Perspective] タブをクリックします。[View Explorer] ペインが表示されます。
3. [ビューの参照] タブで、状況関連イベントを表示する、それぞれの SAP アプリケーション サーバCI を含む **SAP_Deployment**、**SAP_ABAP_Deployment**、**SAP_J2EE_Deployment** のいずれかのビューを選択します。または、[検索] タブで SAP アプリケーション サーバCI を見つけます。
4. 状況 パースペクティブを表示する SAP アプリケーション サーバCI をクリックします。選択した SAP アプリケーション サーバCI の状況関連イベントのリストが [Event Browser] ペインに表示されます。

[Event Browser] ペインからイベントをクリックすると、次のペインが表示されます。

- **Health Top View:** 選択したイベントのヘルストップビューが表示されます。
- **Health Indicators:** [Health Top View] ペインで選択した CI に関連する主要業績評価指標 (KPI) および HI が表示されます。
- **Actions:** 選択したイベントで使用できるアクションのリストが表示されます。

注: イベントの管理の詳細は、『Operations Manager i コンセプト・ガイド』を参照してください。

パフォーマンス パースペクティブ

パフォーマンス パースペクティブでは、既存のグラフテンプレートからグラフを作成できます。また、選択した CI に必要なメトリックを選択して、カスタマイズされたグラフを作成することもできます。

グラフを使用して SAP アプリケーション サーバCI のパフォーマンス パースペクティブを表示するには、次の手順を実行します。

1. [オペレーション管理] ウィンドウを開きます。

[アプリケーション] > [オペレーション管理]

2. [オペレーション管理] ウィンドウで、[Performance Perspective] タブをクリックします。[View Explorer] ペインが表示されます。

3. **[ビューの参照]** タブで、**SAP_Deployment**、**SAP_ABAP_Deployment**、**SAP_J2EE_Deployment** のいずれかのビューを選択します。パフォーマンス ペインに、それぞれのビューで使用できるデフォルトのグラフが表示されます。

第3章: コンポーネント

OMi MP for SAP には、SAP 環境の監視のための次のコンポーネントが備わっています。

- SAP 管理テンプレート
- SAP アスペクト
- 「SAP ABAP 監視テンプレート」
- 「SAP パラメータ」
- 「ランタイム サービス モデル (RTSM) のビュー」
- 「イベント タイプ インジケータ (ETI)」
- 「状況 インジケータ (HI)」
- 「構成アイテム (CI) と構成アイテムタイプ (CIT)」
- 「トポロジ ベースのイベント 相関処理 (TBEC) ルール」
- 「ツール」

SAP 管理テンプレート

SAP 管理テンプレートは、SAP ランドスケープ内にある各種のシステムとアプリケーションの状況およびパフォーマンスを監視する完全な管理ソリューションです。

OMi MP for SAP には、デフォルトで2つのSAP管理テンプレートセットが付属しており、テンプレートでは環境内のABAPとJavaアプリケーションサーバを監視するための設定が事前に定義されています。SAP管理テンプレートをデフォルトパラメータを設定した状態でデプロイすると、環境内のシステムをシームレスに監視できます。これらのSAP管理テンプレートには、ABAPとJavaアプリケーションサーバを監視可能なアスペクトが複数含まれています。

監視の要件に基づいてSAP管理テンプレートをカスタマイズするか、またはSAP管理テンプレートを新規に作成して、環境内のシステムを監視できます。

SAP 管理テンプレートの概要

OMi MP for SAP は、SAP 環境内の ABAP と Java スタックを監視するために次の2つの管理テンプレートセットで構成されています。

SAP ABAP 監視

OMi MP for SAP には、ABAP アプリケーション サーバを監視するために次の管理テンプレートがあります。

- [「基本 SAP ABAP 管理テンプレート」](#)
- [「詳細 SAP ABAP 管理テンプレート」](#)

SAP J2EE 監視

OMi MP for SAP では、Java アプリケーション サーバを監視するために次の管理テンプレートを使用できません。

- [「基本 SAP J2EE 管理テンプレート」](#)
- [「詳細 SAP J2EE 管理テンプレート」](#)

管理テンプレートにアクセスする方法

1. ABAP アプリケーション サーバの場合：
BSM では、**[管理]** > **[オペレーション管理]** > **[モニタリング]** > **[管理テンプレートおよびアスペクト]** をクリックします。

OMi では、**[管理]** > **[監視]** > **[管理テンプレートおよびアスペクト]** をクリックします。

2. **[構成フォルダ]** > **[ERP 管理]** > **[SAP NetWeaver アプリケーション サーバ]** > **[ABAP 管理テンプレート]**

3. J2EE アプリケーション サーバの場合：
BSM では、**[管理]** > **[オペレーション管理]** > **[モニタリング]** > **[管理テンプレートおよびアスペクト]** をクリックします。

OMi では、**[管理]** > **[監視]** > **[管理テンプレートおよびアスペクト]** をクリックします。

4. **[構成フォルダ]** > **[ERP 管理]** > **[SAP NetWeaver アプリケーション サーバ]** > **[JAVA 管理テンプレート]**

タスク

OMi MP for SAP 管理テンプレートをデプロイする方法

詳細については、「[タスク 5: SAP 管理テンプレートの特定とデプロイ](#)」(BSM) および「[タスク 5: SAP 管理テンプレートの特定とデプロイ](#)」(OMi) を参照してください。

OMi MP for SAP 管理テンプレートと OMi MP for SAP アスペクトを自動的に割り当てる方法


OMi MP for SAP 管理テンプレートまたはアスペクトを自動的に割り当てるには、以下の手順を実行します。

1. **[自動割り当てルール]** を開くには、次を選択します。

BSM では、**[管理]** > **[オペレーション管理]** > **[モニタリング]** > **[自動割り当てルール]** をクリックします。

OMi では、**[管理]** > **[監視]** > **[自動割り当てルール]** をクリックします。


[自動割り当てルール] ウィンドウは、[自動割り当てルール] ペイン (上部) と [パラメータ] ペイン (下部) で構成されます。

2. [自動割り当てルール] ペインで  **[新規割り当て]** をクリックし、オプションを選択します。[自動割り当てルールの作成] ウィザードが開きます。
3. **[ターゲット ビューの選択]** タブで、自動割り当てルールを作成するビューを選択し、**[次へ]** をクリックします。
4. **[割り当てる項目の選択]** タブで、すべての CI に自動的に割り当てる管理テンプレートまたはアスペクトをクリックして **[次へ]** をクリックします。

デフォルトでは、管理テンプレートまたはアスペクトの最新バージョンが選択されます。**[次へ]** をクリックします。

5. **[必要なパラメータ]** タブで、**[次へ]** をクリックします。

注: この割り当ての編集にパラメータの指定は不要です。

6. オプション:**[すべてのパラメータ]** および**[パラメータ サマリ]** タブでは、次の手順でパラメータのデフォルト値を変更できます。
 - a. パラメータを編集するには、ダブルクリックするか、リストで選択してから  **[編集]** をクリックします。**[パラメータの編集]** ダイアログボックスが開きます。
 - b. デフォルト値を変更して **[OK]** をクリックします。
7. **[次へ]** をクリックします。
8. オプション:**[構成オプション]** タブでは、割り当てルールをすぐにアクティブにしない場合は **[自動割り当てルールのアクティブ化]** チェックボックスを外します。後になって自動割り当てルールを有効にする場合は、**[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [自動割り当てルール]** (BSM) および**[管理] > [監視] > [自動割り当てルール]** (OMi) を選択し、[自動割り当てルール] ウィンドウを開いてください。
9. **[完了]** をクリックして変更を保存します。割り当てルールが、自動割り当てルールのリストに追加されます。

次のいずれかの条件を満たすと、BSM または OMi に送信するイベントがトリガされます。

- デプロイメント ジョブが失敗する。
- 自動割り当てが失敗する。
- 自動割り当てが成功する。

自動割り当てルールによって割り当てが問題なく作成されたかどうかを確認するには、次の手順を実行します。

1. 次の手順で [割り当ておよび調整] ペインを開きます。

BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [割り当ておよび調整] をクリックします。

OMi では、[管理] > [監視] > [割り当ておよび調整] をクリックします。


2. [ビューの参照] タブで、自動割り当てルールを作成に使用したビューを選択します。
3. ビューを展開し、割り当て項目のルート CI タイプを示すノードを選択します。右のペインの上に割り当てが一覧表示されます。自動割り当てルールによって作成された割り当てには、[割り当て実行者] 列に「自動割り当て」と表示されます。

割り当てでは、次のオプションで調整できます。

- [自動割り当てルール] ペインでは、自動割り当てルールがトリガするすべての割り当てのパラメータ値を調整できます。
- [割り当て] ペインでは、各割り当ての再デプロイ、削除、有効化または無効化を実行できます。

OMi MP for SAP 管理テンプレートのインベントリレポートを表示する方法

インベントリレポートには、サーバ上で利用可能な管理テンプレート、アスペクト、ポリシーテンプレートが表示されます。OMi MP for SAP 管理テンプレートのインベントリレポートを表示するには、次の手順を実行します。

1. レポートを作成する管理テンプレートを選択します。
2. [構成フォルダ] ペインで  [インベントリレポートの生成] をクリックします。

インベントリレポートには、サーバ上で利用可能な管理テンプレート、アスペクト、ポリシーテンプレートが表示されます。

[割り当ておよび調整] ペインでは、他のタイプのレポートも表示できます。

タスク

OMi MP for SAP 管理テンプレートに対して次のタスクを実行できます。

OMi MP for SAP 管理テンプレートをデプロイする方法

詳細については、「[SAP 管理テンプレートの特定とデプロイ](#)」(BSM) または「[SAP 管理テンプレートの特定とデプロイ](#)」(OMi) を参照してください。

OMi MP for SAP 管理テンプレートと OMi MP for SAP アスペクトを自動的に割り当てる方法


OMi MP for SAP 管理テンプレートまたはアスペクトを自動的に割り当てるには、以下の手順を実行します。

1. [自動割り当てルール] を開くには、次を選択します。

BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [自動割り当てルール] をクリックします。

OMi では、**[管理] > [監視] > [自動割り当てルール]** をクリックします。


自動割り当てルールには、上部に**[自動割り当てルール]** ペイン、下部に**[パラメータ]** ペインがあります。

2. **[自動割り当てルール]** ペインで、 **[新規割り当て]** をクリックし、オプションを選択します。**[自動割り当てルール]** の作成 ウィザードが開きます。
3. **[ターゲット ビューの選択]** タブで、自動割り当てルールを作成するビューを選択し、**[次へ]** をクリックします。
4. **[割り当てる項目の選択]** タブで、すべての CI に自動的に割り当てる管理テンプレートまたはアスペクトをクリックして **[次へ]** をクリックします。

デフォルトでは、管理テンプレートまたはアスペクトの最新バージョンが選択されます。**[次へ]** をクリックします。

5. **[必要なパラメータ]** タブで、**[次へ]** をクリックします。

注: この割り当ての編集にパラメータの指定は不要です。

6. オプション:**[すべてのパラメータ]** タブ (BSM) または **[パラメータ サマリ]** タブ (OMi) では、次の手順でパラメータのデフォルト値を変更できます。
 - a. パラメータを編集するには、ダブルクリックするか、リストで選択してから  **[編集]** をクリックします。**[パラメータの編集]** ダイアログボックスが開きます。
 - b. デフォルト値を変更して **[OK]** をクリックします。
7. **[次へ]** をクリックします。
8. オプション:**[構成オプション]** タブでは、割り当てルールをすぐにアクティブにしない場合は **[自動割り当てルールのアクティブ化]** チェックボックスをオフにします。後になって自動割り当てルールを有効にする場合は、**[管理] > [監視] > [自動割り当てルール]** を選択し、**[自動割り当てルール]** ペインを開いてください。
9. **[完了]** をクリックして変更を保存します。割り当てルールが、自動割り当てルールのリストに追加されます。

次のいずれかの条件を満たすと、OMi に送信するイベントがトリガされます。

- デプロイメント ジョブが失敗する。
- 自動割り当てが失敗する。
- 自動割り当てが成功する。

自動割り当てルールによって割り当てが問題なく作成されたかどうかを確認するには、次の手順を実行します。

1. 次の手順で [割り当ておよび調整] ペインを開きます。

BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [割り当ておよび調整] をクリックします。

OMi では、[管理] > [監視] > [割り当ておよび調整] をクリックします。


2. [ビューの参照] タブで、自動割り当てルールを作成に使用したビューを選択します。
3. ビューを展開し、割り当て項目のルート CI タイプを示すノードを選択します。右のペインの上に割り当てが一覧表示されます。自動割り当てルールによって作成された割り当てには、[割り当て実行者] 列に「自動割り当て」と表示されます。

割り当てでは、次のオプションで調整できます。

- [自動割り当てルール] ペインでは、自動割り当てルールがトリガするすべての割り当てのパラメータ値を調整できます。
- [割り当て] ペインでは、各割り当ての再デプロイ、削除、有効化または無効化を実行できます。

OMi MP for SAP 管理テンプレートのインベントリレポートを表示する方法

インベントリレポートには、サーバ上で利用可能な管理テンプレート、アスペクト、ポリシーテンプレートが表示されます。OMi MP for SAP 管理テンプレートのインベントリレポートを表示するには、次の手順を実行します。

1. レポートを作成する管理テンプレートを選択します。
2. [構成フォルダ] ペインで  [インベントリレポートの生成] をクリックします。

インベントリレポートには、サーバ上で利用可能な管理テンプレート、アスペクト、ポリシーテンプレートが表示されます。

[割り当ておよび調整] ペインでは、他のタイプのレポートも表示できます。

基本 SAP ABAP 管理テンプレート

基本 SAP ABAP 管理テンプレートは、SAP ランドスケープ内の SAP ABAP システムを監視します。次のシステムの状況と可用性を監視できます。

SAP ABAP アプリケーション サーバ

基本 SAP ABAP 管理テンプレートにアクセスする方法

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。
BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト] をクリックします。
OMi では、[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト] をクリックします。

2. [構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [ABAP 管理テンプレート] > [基本 SAP ABAP 管理テンプレート] をクリックします。

ユーザインターフェイスの参照情報

管理テンプレート - 一般

管理テンプレートの属性の概要。

UI 要素	説明
名前	ABAP 管理テンプレートの名前。
説明	管理テンプレートの説明。
ID	GUI バージョンを一意に特定する ID。
バージョン ID	このバージョンの管理テンプレートの一意の ID。
バージョン	管理テンプレートの現在のバージョン。このインスタンスでは、管理テンプレートのバージョンは 1.0。
変更ログ	このバージョンの管理テンプレートで行われた新規追加または変更の内容を示すテキスト。

管理テンプレート - トポロジビュー

管理テンプレートに割り当てる CI タイプの概要です。

UI 要素	説明
トポロジビュー	基本 SAP ABAP 管理テンプレートは、トポロジビューに SAP_ABAP_Deployment を使用します。このビューには、管理テンプレートを使用して管理する CI タイプが含まれます。
CI タイプ	基本 SAP ABAP 管理テンプレートで管理する CI のタイプ。これは、管理テンプレートの割り当てが可能な CI のタイプです。基本 SAP ABAP 管理テンプレートには、SAP System CI タイプが含まれます。

管理テンプレート - アスペクト

基本 SAP ABAP 管理テンプレートには、次のアスペクトが含まれます。

SAP ABAP ベース

SAP ABAP ランドスケープを監視するためのベースアスペクトで、構成、スケジューラ、ロガーを含みます。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_High	なし	選択したメトリックで SAP ABAP コレクタ/アナライザを 15 分ごとに実行します。	スケジュールされたタスク
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_Messages	なし	SAP MP メッセージ テンプレート (メッセージ インターセプタ用)。	オープン メッセージ インターフェイス
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_Low	なし	SAP ABAP コレクタ/アナライザを Low スケジュールで実行します。	スケジュールされたタスク
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_Medium	なし	SAP ABAP コレクタ/アナライザを Medium スケジュールで実行します。	スケジュールされたタスク
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_VeryHigh	なし	SAP ABAP コレクタ/アナライザを VeryHigh スケジュールで実行します。	スケジュールされたタスク

SAP ABAP ダンプ ステータス

SAP ABAP 環境で実行時エラーを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_DmpMon	なし	SAP ABAP システム上で発生する実行時エラーを監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視 テンプレート

SAP ABAP 設定

SAP ABAP アプリケーション サーバ CI に対する設定情報を収集します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_Configuration	なし	SAP ABAP 構成の詳細。	ConfigFile

SAP ABAP バッチ ジョブ状況

SAP システムで実行中のバッチ ジョブのステータスを監視してパフォーマンスを収集します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_BatJobMon	なし	定義された時間間隔を超過する SAP ABAP バッチ ジョブ、定義された時間間隔よりも前に終了する SAP ABAP バッチ ジョブ、およびスケジュールされた時刻に開始されない SAP ABAP バッチ ジョブを監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視 テンプレート

SAP ABAP 移送ステータス

SAP システムで移送のインポート/エクスポートのステータスを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_TransMon	なし	正常にインポート/エクスポートされた SAP ABAP 移送、失敗したインポート/エクスポート、確認済み/未確認の修復の可用性、設定システムとの接続/TP テストを監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視 テンプレート

SAP ABAP ユーザ状況

ログインしているユーザのステータスを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_UsrMon	なし	SAP ABAP のログインしているユーザを監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視 テンプレート

SAP システム状況

SAP システムの可用性ステータスとトレースファイル/ログファイルのステータスを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_TraceMon	なし	すべての SAP トレースファイルとログファイルで "ERROR" を監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視 テンプレート

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_StatusMon	なし	SAP ABAP アプリケーション サーバの可用性ステータスを監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視 テンプレート

SAP CCMS 統合

SAP CCMS モニタセットの出力を監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_CCMSIntegrationMon	なし	SAP CCMS 監視 インフラストラクチャの出力を監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視 テンプレート

SAP ABAP プロセスおよびディスパッチャステータス

各種 SAP ワークプロセスおよび ABAP ディスパッチャのステータスを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_ProcMon	なし	SAP ABAP プロセスの数を監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視 テンプレート
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_DispatchMon	なし	さまざまなタイプの SAP ワークプロセスに対する各種キューのサイズ、内容、ステータスを監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視 テンプレート

基本 SAP ABAP 管理テンプレートは、インフラストラクチャ要素を監視するために次の OMi MP for Infrastructure アスペクトを使用します。

リソース ボトルネック診断

リソース ボトルネック診断アスペクトは、CPU、メモリ、ネットワークおよびディスクなどのシステムリソースの混雑やボトルネックとなっている状態を特定します。CPU のボトルネック監視は、グローバル CPU 使用率

と負荷平均 (実行キューの長さ)に基づいて行われます。メモリボトルネックの監視は、メモリ使用率、使用可能な空き容量、メモリスワップアウト率に基づいて行われます。ファイルシステムの監視は、ノード上の最もビジーなファイルシステムの領域使用率に基づいて行われます。ネットワークの監視は、パケット衝突率、パケット エラー率、送信キューの長さに基づいて行われます。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
Computer	Sys_CPUBottleneckDiagnosis	CPU 使用率のしきい値超過、プロセッサのキューの長さ、オペレーティングシステムで稼働する CPU の合計数などの CPU ボトルネックを検出します。たとえば、キューで CPU 時間を待っているプロセス数がしきい値を超え、CPU 使用率もしきい値を超えた場合、ポリシーはアラートを送信します。メッセージには、CPU 使用率が高い上位 10 位までのプロセスの一覧も表示されます。	測定値しきい値テンプレート
Computer	Sys_DiskPeakUtilMonitor	このポリシー テンプレートは、システムのディスク使用率レベルを監視します。使用率レベルが最大かどうかをチェックします。	測定値しきい値テンプレート
Computer	Sys_MemoryBottleneckDiagnosis	このポリシー テンプレートは、物理メモリの使用率とボトルネックを監視します。メモリ使用率が高く、使用可能なメモリ容量が非常に少なくなると、メモリボトルネックの状態になります。メモリボトルネックが発生すると、システムの処理速度が低下し、全体的なパフォーマンスに影響を与えます。メモリ消費量が高いとページアウトが過剰に発生し、ページ走査率やスワップアウト バイト率、ページの要求率が高くなります。最終的に	測定値しきい値テンプレート

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
		は、システムの処理速度が低下します。メッセージには、メモリ使用率が高い上位 10 位までのプロセスの一覧も表示されます。	
Computer	Sys_NetworkInterfaceErrorDiagnosis	システムのネットワーク使用率を監視し、潜在的なネットワークのボトルネックまたはエラーをチェックします。	測定値しきい値テンプレート

システムフォールト分析

システムフォールト分析アスペクトは、クリティカルなエラー条件とその説明が記録されたカーネルログファイル、ブート ログファイル、イベント ログファイルを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
Computer	Sys_LinuxKernelLog	カーネル ログファイル /var/log/ を監視し、カーネル サービスに障害が発生した場合に警告を送信します。カーネル ログファイルで、<*> kernel:<@.service>:<*.msg> failed のパターンと一致するエラー条件をチェックします。一致するものが見つかった場合、この条件から重大度が警戒域の警告が送信されます。	ログファイルエントリテンプレート
Computer	Sys_LinuxBootLog	ブート ログファイル /var/log/boot.log を監視し、システムブート エラーが発生した場合に警告を送信します。以下の条件をチェックします。 <ul style="list-style-type: none"> • サービスの開始失敗 - ブート ログファイルで、<*> <@.service>:<@.daemon> startup failed のパターンと一致するエラー条件をチェックします。一致するものが見つかった場合、この条件から重大度が警戒域の警告が送信されます。 • サービスの失敗 - ログファイルで、<*> <@.service>:<*.msg> 	ログファイルエントリテンプレート

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
		failed のパターンと一致するエラー条件をチェックします。一致するものが見つかった場合、この条件から重大度が危険域の警告が送信されます。	
Computer	Sys_LinuxSecureLog	セキュリティで保護されたログインが失敗した場合、ユーザーにアラートを送信します。<*> sshd :Failed password for <@.user> from <*.host> port <#> ssh2 と一致するエラー状態がないかチェックします。一致するものが見つかった場合、この条件から重大度が注意域の警告が送信されます。	ログファイル エントリテンプレート
Computer	Sys_AIXErrptLog	errpt ログファイル /var/opt/OV/tmp/sispi/errpt.log を監視し、エラー ログのエントリからエラーレポートを作成します。errpt ログファイルの列ごとに、<@.errcode> <2#.mo><2#.dd><2#.hh><2#.mm><2#.yy> <@> <@> <@.object> <*.msgtext> と一致するエラー状態がないかチェックします。一致するものが見つかった場合、この条件から重大度が注意域の警告が送信されます。	ログファイル エントリテンプレート
Computer	Sys_MSWindowsServer_DNSWarnError	Microsoft DNS サーバサービスと関連プロセスのログファイルを監視し、重大度が注意域またはエラーのログ エントリを転送します。このポリシーは、DNS ログファイルに記録された以下のエラーを検索します。 <ul style="list-style-type: none"> DNS サーバは、リソースレコード用にメモリを割り当てるできませんでした。 DNS サーバは、利用可能なメモリが不足していたためクライアント要求を処理できませんでした。 DNS サーバは、ゾーン転送スレッドを作成できませんでした。 DNS サーバにファイル書き込みエ 	Windows イベント ログテンプレート

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
		<p>ラーが発生しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DNS サーバは、リモート プロシージャコール (RPC) サービスを初期化できませんでした。 	
Computer	Sys_ MSWindowsServer_ DHCPWarnError	<p>DHCP イベント ログを監視し、重大度が注意域またはエラーのイベント ログ エントリを転送します。このポリシーは、次のエラーを検索します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • lashlpr が NPS サービスと通信できません。 • スコープまたはスーパースコープの BOOTP クライアントに使用できる IP アドレスはありません。 • DHCP サーバが、クライアントの NAP アクセス状態を判定するために NPS サーバにアクセスできません。 • スコープまたはスーパースコープのリースに使用できる IP アドレスはありません。 • DHCP サービスは監査ログの初期化に失敗しました。 • ローカルコンピュータの DHCP/BINL サービスは、開始権限がないと判断しました。 • このワークグループ サーバの DHCP/BINL サービスは、IP アドレスを持つ別のサーバを検出しました。 • DHCP サービスは DHCP のレジストリ構成の復元に失敗しました。 • DHCP サービスはレジストリからグローバル BOOTP ファイル名を読み取ることができませんでした。 • アクティブなインターフェイスがない 	Windows イベント ログテンプレート

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
		<p>め、DHCP サービスはクライアントにサービスを提供していません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DHCP サーバにバインドされた静的 IP アドレスがありません。 • DHCP サーバサービスはサービスコントローラへの登録に失敗しました。 • DHCP サーバサービスはレジストリパラメータの初期化に失敗しました。 	
Computer	Sys_ MSWindowsServer_ NFSWarnError	<p>NFS イベント ログを監視し、重大度が注意域またはエラーのイベント ログ エントリを転送します。このポリシーは、次のエラーを検索します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ディスクの空き領域が少ないことを検出し、NFS サーバは監査の記録を停止しました。 • 監査ログが最大ファイルサイズに達しました。 • NFS 用サーバを RPC ポート マップに登録できませんでした。 • NFS 用サーバはフェーズ 2 の初期化中に NFS ドライバからエラーを受信しました。 	Windows イベント ログテンプレート
Computer	Sys_ MSWindowsServer_ TerminalServiceWarnError	<p>ターミナル サービスのイベント ログで、重大度が注意域またはエラーのエントリを転送します。このポリシーは、次のエラーを検索します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ターミナルサーバは現在接続を受け入れないように構成されているため、接続要求が拒否されました。 • 認証が失敗したので自動接続は失敗し、ユーザはセッションに再接続できませんでした。 	Windows イベント ログテンプレート

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
		<ul style="list-style-type: none"> • ターミナル サービスの開始に失敗しました。 • ターミナル サーバは多数の不完全な接続を受信しました。 	
Computer	Sys_ MSWindowsServer_ WindowsLogonWarnError	<p>Windows ログオンと初期化のイベントログを監視し、重大度が注意域またはエラーのエラー ログ エントリを転送します。このポリシーは、Windows ログ ファイルに記録された以下のエラーを検索します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Windows のライセンスが無効です。 • Windows のライセンス認証の手続きが失敗しました。 • Windows のログオン プロセスによって、デスクトップを切り替えることができませんでした。 • Windows のログオン プロセスは予期せぬ原因により終了しました。 • Windows のログオン プロセスによって、ユーザ アプリケーションを起動できませんでした。 • Windows のログオン プロセスによって、現在ログオンしているユーザのプロセスを終了できませんでした。 • Windows のログオン プロセスによって、ユーザ セッションを切断できませんでした。 	Windows イベント ログテンプレート

システム インフラストラクチャ検出

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
Computer	OPC_PERL_INCLUDE_INSTR_DIR	Operations Agent の xpl config ネームスペースでの OPC_PERL_INCLUDE_INSTR_DIR の設定に使用されます。インフラストラクチャ SPI ポリシーでは値を TRUE に設定してください。	ノード情報テンプレート
Computer	SISystemDiscovery	ポリシー テンプレートは、ハードウェアリソース、オペレーティングシステムの属性、アプリケーションなどのサービス情報を管理対象ノードから収集します。	サービス自動検出テンプレート

詳細 SAP ABAP 管理テンプレート

詳細 SAP ABAP 管理テンプレートは、SAP 環境内の SAP ABAP システムを監視します。次のシステムの状況と可用性を監視できます。

SAP ABAP アプリケーション サーバ

詳細 SAP ABAP 管理テンプレートにアクセスする方法

- [管理テンプレートおよびアспект] ペインを開きます。
BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアспект] をクリックします。

OMi では、[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアспект] をクリックします。
- [構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [ABAP 管理テンプレート] > [詳細 SAP ABAP 管理テンプレート] をクリックします。

ユーザインターフェイスの参照情報

管理テンプレート - 一般

管理テンプレートの属性の概要。

UI 要素	説明
名前	ABAP 管理テンプレートの名前。
説明	管理テンプレートの説明。
ID	GUI バージョンを一意に特定する ID。
バージョン ID	このバージョンの管理テンプレートの一意の ID。

UI 要素	説明
バージョン	管理テンプレートの現在のバージョン。このインスタンスでは、管理テンプレートのバージョンは 1.0。
変更ログ	このバージョンの管理テンプレートで行われた新規追加または変更の内容を示すテキスト。

管理テンプレート - トポロジビュー

管理テンプレートに割り当てる CI タイプの概要です。

UI 要素	説明
トポロジビュー	基本 SAP ABAP 管理テンプレートは、トポロジビューに SAP_ABAP_Deployment を使用します。このビューには、管理テンプレートを使用して管理する CI タイプが含まれます。
CI タイプ	基本 SAP ABAP 管理テンプレートで管理する CI のタイプ。これは、管理テンプレートの割り当てが可能な CI のタイプです。基本 SAP ABAP 管理テンプレートには、SAP System CI タイプが含まれます。

管理テンプレート - アスペクト

詳細 SAP ABAP 管理テンプレートには、次のアスペクトが含まれます。

SAP ABAP ベース

SAP ABAP ランドスケープを監視するためのベースアスペクトで、構成、スケジューラ、ロガーを含みます。

CI タイプ	ポリシーテンプレート	インジケータ	説明	ポリシータイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_High	なし	選択したメトリックで SAP ABAP コレクタ/アナライザを 15 分ごとに実行します。	スケジュールされたタスク
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_Messages	なし	SAP MP メッセージテンプレート (メッセージインターセプタ用)。	オープンメッセージインターフェイス
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_Low	なし	SAP ABAP コレクタ/アナライザを Low スケジュールで実行します。	スケジュールされたタスク

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_Medium	なし	SAP ABAP コレクタ/アナライザを Medium スケジュールで実行します。	スケジュールされたタスク
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_VeryHigh	なし	SAP ABAP コレクタ/アナライザを VeryHigh スケジュールで実行します。	スケジュールされたタスク

SAP ABAP バッチ ジョブ状況

SAP システムで実行中のバッチ ジョブのステータスを監視してパフォーマンスを収集します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_BatJobMon	なし	定義された時間間隔を超過する SAP ABAP バッチ ジョブ、定義された時間間隔よりも前に終了する SAP ABAP バッチ ジョブ、およびスケジュールされた時刻に開始されない SAP ABAP バッチ ジョブを監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視テンプレート

SAP ABAP 移送/修正システムステータス

SAP 移送/修正システムの各種パラメータを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_CTSMon	なし	SAP 移送/修正システムで各種移送要求、タスク、オブジェクトを監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視テンプレート

SAP ABAP ダンプ ステータス

SAP ABAP 環境で実行時エラーを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_DmpMon	なし	SAP ABAP システム上で発生する実行時エラーを監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視テンプレート

SAP ABAP Idoc ステータス

受信および送信 Idoc のステータスを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_IdocStatusMon	なし	SAP ABAP システム上の各種 Idoc の現在のステータスを監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視テンプレート

SAP ABAP ロック ステータス

SAP システムでデータベースロックを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_LckChkMon	なし	各種 SAP トランザクションおよび SAP レポート用の SAP ABAP 論理ロックを管理するエンキュープロセスを監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視 テンプレート

SAP ABAP パフォーマンス モニタ

Oracle データベース、ドキュメント統計、エンタープライズ ポータル、ICM 統計、バッチ ジョブ、バッファ、メモリ、スプール、更新ジョブ、ユーザ、統計レコード、ワークロード統計、およびワークプロセスに関する SAP パフォーマンス メトリックを収集します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_StatRecMon	なし	SAP ABAP 統計レコード パフォーマンス モニタに対する SAP トランザクションを指定するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視 テンプレート
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_PerfMon	なし	各種 SAP MP パフォーマンス モニタから SAP パフォーマンス メトリックを収集するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視 テンプレート

SAP ABAP プロセスおよびディスパッチャ ステータス

各種 SAP ワークプロセスおよび ABAP ディスパッチャのステータスを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_ProcMon	なし	SAP ABAP プロセスの数を監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視 テンプレート
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_DispatchMon	なし	さまざまなタイプの SAP ワークプロセスに対する各種キューのサイズ、内容、ステータスを監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視 テンプレート

SAP ABAP RFC 宛先 ステータス
失敗した SAP RFC 宛先を監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_RFCDestMon	なし	SAP RFC 宛先の接続タイプや名前に基づいて失敗した SAP RFC 宛先を監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視 テンプレート

SAP ABAP セキュリティ ステータス
重要な SAP ユーザ、SAP システム パラメータ、セキュリティ イベントのセキュリティ ステータスを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_SecMon	なし	SAP 全体に影響を及ぼす、主要な SAP ユーザの権限や認可などの SAP ABAP セキュリティ パラメータを監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視 テンプレート

SAP ABAP スプール状況

SAP システム内の各種スプール要求のステータスを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_SplMon	なし	SAP ABAP スプーラエントリ、エラーになったスプール要求、印刷要求の誤ったスプーラエントリの数を監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視テンプレート

SAP ABAP システム変更オプションステータス

SAP システム変更オプションを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_SysChgOptMon	なし	グローバル編集ステータスフラグ、名前空間、およびソフトウェアコンポーネントに基づいて SAP ABAP システム変更オプションを監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視テンプレート

SAP ABAP 移送ステータス

SAP システムで移送のインポート/エクスポートのステータスを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_TransMon	なし	正常にインポート/エクスポートされた SAP ABAP 移送、失敗したインポート/エクスポート、確認済み/未確認の修復の可用性、設定システムとの接続/TP テストを監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視 テンプレート

SAP ABAP 更新タスク状況

SAP システム上で実行されている更新タスクのステータスを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_UpdProcMon	なし	非アクティブ状態やエラーなどの SAP ABAP 更新プロセスの状態を監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視 テンプレート

SAP ABAP ユーザ状況

ログインしているユーザのステータスを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_UsrMon	なし	SAP ABAP のログインしているユーザを監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視 テンプレート

SAP ABAP ワークプロセス状況

SAP ワークプロセスのステータスを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_WPMon	なし	実行中のワークプロセスや待機中のワークプロセスを監視し、Debug/Private/No Restart などのワークプロセスの各種ステータスを確認するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視 テンプレート

SAP CCMS 統合

SAP CCMS モニタ セットの出力を監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_CCMSIntegrationMon	なし	SAP CCMS 監視 インフラストラクチャの出力を監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視 テンプレート

SAP 一時シーケンシャルファイル監視

一時シーケンシャルオブジェクトの不整合を監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_TempSeqFileMon	なし	SAP ABAP の一時順次オブジェクトで見つかった不整合を監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視 テンプレート

SAP システム状況

SAP システムの可用性ステータスとトレースファイル/ログファイルのステータスを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_TraceMon	なし	すべての SAP トレース ファイルと ログ ファイルで "ERROR" を監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視 テンプレート
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_StatusMon	なし	SAP ABAP アプリケーション サーバの可用性 ステータスを監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視 テンプレート

インフラストラクチャのアスペクト

詳細 SAP ABAP 管理 テンプレートは、インフラストラクチャ要素を監視するために次の OMi MP for Infrastructure アスペクトを使用します。

帯域幅使用量とネットワーク IOPS

帯域幅使用量とネットワーク IOPS アスペクトは、ネットワーク内のシステムの I/O 操作とパフォーマンスを監視します。使用中の帯域幅、送信キューの長さ、平均転送バイト数/秒に基づいて、ネットワークの I/O オペレーションおよびパフォーマンスを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
Computer	Sys_NetworkUsageAndPerformance	システムのネットワーク使用率を監視し、エラーレートと競合を表示します。これにより、ネットワークに潜在的なボトルネックがあるかどうかを判断できます。このポリシー テンプレートは、vMA マシンだけの物理 NIC を監視しません。Windows オペレーティングシステムでは、BYNETIF_COLLISION メトリックを使用できないので、パケット競合に関するパフォーマンス データは監視しません。	測定値しきい値 テンプレート
Computer	Sys_PerNetifOutbyteBaseline-AT	このポリシーは、所定の間隔でのネットワークインター	測定値しきい値 テンプレート

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
		フェイスの送信バイト率を監視します。管理対象ノード上の各ネットワークインターフェイスで発信バイト数を個別に監視します。すべての間隔でネットワークインターフェイスの各インスタンスを個別に処理します。	
Computer	Sys_PerNetifInbyteBaseline-AT	所定の間隔における個別のネットワークインターフェイスの着信バイトレートを監視します。管理対象ノード上の各ネットワークインターフェイスで着信バイト数を個別に監視します。すべての間隔でネットワークインターフェイスの各インスタンスを個別に処理します。	測定値しきい値テンプレート

CPU パフォーマンス

CPU パフォーマンス アスペクトは、CPU 使用率や CPU 使用率のスパイクなど、全体的な CPU パフォーマンスを監視します。CPU パフォーマンスの監視には、合計 CPU 使用率、ユーザモードでの CPU 使用率、システムモードでの CPU 使用率、割り込み率が使用されます。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
Computer	Sys_CPUSpikeCheck	プロセッサパフォーマンスのばらつきを監視します。CPU スパイクとは、CPU 使用率が急増した直後に低減する現象です。このポリシーテンプレートは、ユーザモードとシステムモードで消費した CPU 時間を監視します。また、CPU がビジー状態の CPU 時間の合計も監視します。	測定値しきい値テンプレート

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
Computer	Sys_GlobalCPUUtilization-AT	管理対象ノード上の CPU のパフォーマンスを監視し、すべての CPU の使用率がしきい値に違反している場合、アラートを送信します。	測定値しきい値テンプレート
Computer	Sys_PerCPUUtilization-AT	管理対象ノード上の各 CPU の使用率を監視します。すべての間隔で各 CPU インスタンスを個別に処理します。	測定値しきい値テンプレート
Computer	Sys_RunQueueLengthMonitor-AT	CPU の実行キューで待機中のプロセス数を監視し、実行キュー内のプロセス数がしきい値レベルに違反している場合にアラートを送信します。	測定値しきい値テンプレート

メモリとスワップの使用量

メモリとスワップの使用量 アスペクトは、システムのメモリパフォーマンスを監視します。メモリパフォーマンスの監視は、メモリ使用率 (割合)、スワップ領域使用率 (割合)、使用可能な空きメモリ (MB)、使用可能な空きスワップ領域 (MB) に基づき行われます。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
Computer	Sys_ MSWindowsNonPagedPoolUtilization-AT	非ページプールのメモリを監視します。非ページプールは、ディスクが使用中ではない場合でも書き込むことができないオブジェクトのための物理システムメモリの領域です。	測定値しきい値 テンプレート
Computer	Sys_ MSWindowsPagedPoolUtilization-AT	ページプールのメモリを監視します。ページプールは、ディスクが使用中ではない場合に書き込むことができるオブジェクトのための物理システムメモリの領域です。	測定値しきい値 テンプレート
Computer	Sys_MemoryUsageAndPerformance	このポリシーテンプレートはシステムのメモリ使用率を監視し、メモリにボトルネックがあるかどうかを判断するためのエラーレートと競合を表示します。	測定値しきい値 テンプレート
Computer	Sys_MemoryUtilization-AT	グローバルメモリ使用率を監視します。メモリ使用率は、当該間隔における使用中の物理メモリの割合です。これには、カーネルによって占有されるシステムメモリ、バッファキャッシュ、ユーザメモリが含まれます。	測定値しきい値 テンプレート

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
Computer	Sys_SwapCapacityMonitor	このポリシーテンプレートは、システムのスワップ領域使用率を監視します。	測定値しきい値テンプレート
Computer	Sys_SwapUtilization-AT	管理対象ノードでシステムによって使用されるグローバルスワップ領域を監視します。	測定値しきい値テンプレート

リモート ディスク領域使用量

リモート ディスク領域使用量アスペクトは、リモート ディスク領域の使用率を監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
Computer、FileSystem	Sys_LinuxCifsUtilizationMonitor	このポリシーテンプレートは、Linux プラットフォーム上の CIFS リモート ファイルシステムの領域使用率レベルを監視します。	測定値しきい値テンプレート
Computer、FileSystem	Sys_LinuxNfsUtilizationMonitor	このポリシーテンプレートは、Linux プラットフォーム上の NFS リモート ファイルシステムの領域使用率レベルを監視します。	測定値しきい値テンプレート

空き領域とディスク IOPS

空き領域とディスク IOPS アスペクトは、システムのディスク I/O 操作と領域使用率を監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
Computer	Sys_FileSystemUtilizationMonitor	ノード上のファイルシステムの使用率を監視します。	測定値しきい値テンプレート
Computer	Sys_PerDiskAvgServiceTime-AT	ディスク I/O サービス時間を監視します。ディスク平均サービス時間は、所定の時間内に各ディスク要求の処理にディスクが費やした時間です。このポリシーでは、ノードの HP Performance Agent が必要	測定値しきい値テンプレート

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
		です。	
Computer	Sys_PerDiskUtilization-AT	ディスクのマルチインスタンスベースラインを決定します。ディスク使用率は、システムでディスクが要求処理中状態だった時間の割合です。	測定値しきい値テンプレート

システム インフラストラクチャ検出

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
Computer	OPC_PERL_INCLUDE_INSTR_DIR	Operations Agent の xpl config ネームスペースでの OPC_PERL_INCLUDE_INSTR_DIR の設定に使用されます。インフラストラクチャ SPI ポリシーでは値を TRUE に設定してください。	ノード情報テンプレート
Computer	SISystemDiscovery	ポリシー テンプレートは、ハードウェアリソース、オペレーティングシステムの属性、アプリケーションなどのサービス情報を管理対象ノードから収集します。	サービス自動検出テンプレート

OMi MP for Infrastructure アスペクトについての詳細は、OMi MP for Infrastructure Aspects Online Help を参照してください。

基本 SAP J2EE 管理テンプレート

基本 SAP J2EE 管理テンプレートは、SAP J2EE 要求、システムとアプリケーション スレッド プール、メモリ、トランザクションステータスを監視します。SAP J2EE アプリケーション サーバの状況と可用性を監視できます。

基本 SAP J2EE 管理テンプレートにアクセスする方法

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。
BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト] をクリックします。

OMi では、[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト] をクリックします。

2. [構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [JAVA 管理テンプレート] > [基本 SAP J2EE 管理テンプレート]

ユーザ インターフェイスの参照情報

管理テンプレート - 一般

管理テンプレートの属性の概要。

UI 要素	説明
トポロジ ビュー	基本 SAP ABAP 管理テンプレートは、トポロジ ビューに SAP_ABAP_Deployment を使用します。このビューには、管理テンプレートを使用して管理する CI タイプが含まれます。
CI タイプ	基本 SAP ABAP 管理テンプレートで管理する CI のタイプ。これは、管理テンプレートの割り当てが可能な CI のタイプです。基本 SAP ABAP 管理テンプレートには、SAP System CI タイプが含まれます。

管理テンプレート - トポロジ ビュー

管理テンプレートに割り当てる CI タイプの概要です。

UI 要素	説明
トポロジ ビュー	SAP_Deployment は、基本 SAP J2EE 管理テンプレートのトポロジ ビューです。このビューには、管理テンプレートを使用して管理する CI タイプが含まれます。
CI タイプ	基本 SAP J2EE 管理テンプレートで管理する CI のタイプ。これは、管理テンプレートの割り当てが可能な CI のタイプです。基本 SAP J2EE 管理テンプレートには、SAP System CI タイプが含まれます。

管理テンプレート - アスペクト

基本 SAP J2EE 管理テンプレートには、次のアスペクトが含まれます。

SAP J2EE アプリケーション スレッド プール パフォーマンス

SAP J2EE システムのアプリケーション スレッド プールのパフォーマンスを監視します。このアスペクトは SAP のバージョンによって異なるメトリックをサポートします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0226	なし	スレッド プールの最小サイズ。	ConfigFile

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0219	ApplicationThreadPoolUtilization: 高 / ApplicationThreadPoolUtilization: 正常域	アプリケーションスレッドプール-スレッドプールの使用率	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0229	なし	待機中のタスクキューオーバーフロー。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0031	なし	アプリケーションスレッドプールの最大サイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0227	ApplicationThreadPoolUtilization: 高 / ApplicationThreadPoolUtilization: 正常域	アプリケーションスレッドプール-スレッドプールの収容率	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0221	なし	アクティブなスレッド数。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0034	なし	アクティブなアプリケーションスレッドプールサイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0033	なし	現在のアプリケーションスレッドプールサイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0036	なし	アプリケーションスレッドプールの待機中のタスクキューサイズ。	ConfigFile

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0032	なし	初期のアプリケーション スレッド プール サイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0223	なし	初期のスレッド プール サイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0225	なし	待機中のタスクキューの最大サイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0220	ApplicationThreadPoolUtilization: 高 / ApplicationThreadPoolUtilization: 正常域	アプリケーションスレッド プール- 待機中のタスクの使用率	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0228	なし	待機中のタスク数。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0222	なし	現在のスレッド プール サイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0224	なし	スレッド プールの最大サイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0218	ApplicationThreadPoolUtilization: 高 / ApplicationThreadPoolUtilization: 正常域	アプリケーションスレッド プール- 使用率	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0030	なし	アプリケーションスレッド プールの最小サイズ。	ConfigFile

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0035	なし	アプリケーション スレッド プールの待機中のタスク数。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0037	なし	アプリケーション スレッド プールの待機中のタスク キュー オーバーフロー。	ConfigFile

SAP J2EE ベース

SAP ランドスケープを監視するためのベース アスペクトで、設定、スケジューラ、ロガーを含みます。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_VeryHigh	なし	SAP J2EE コレクタ/アナライザを VeryHigh スケジュールごとに行います。	スケジュールされたタスク
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_Low	なし	SAP J2EE コレクタ/アナライザを Low スケジュールごとに行います。	スケジュールされたタスク
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_Medium	なし	SAP J2EE コレクタ/アナライザを Medium スケジュールごとに行います。	スケジュールされたタスク
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_High	なし	選択したメトリックで SAP J2EE コレクタ/アナライザを 15 分ごとに実行します。	スケジュールされたタスク

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_Messages	なし	SAP MP メッセージ テンプレート (メッセージ インターセプタ用)。	オープン メッセージ インターフェイス
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_NWStatus	なし	SAP J2EE アプリケーション サーバのステータスと可用性。	スケジュールされたタスク

SAP J2EE 構成

J2EE アプリケーション サーバ CI に対する設定を収集します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_Configuration	なし	SAP J2EE 構成の詳細。	ConfigFile

SAP J2EE Http プロバイダ パフォーマンス

HTTP プロバイダでの要求のパフォーマンスを監視します。このアスペクトは SAP のバージョンによって異なるメトリックをサポートします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2014	なし	HTTP プロバイダでのオープン接続の要求スキップ数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2215	なし	すべての要求数	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2216	なし	HTTP プロバイダ - アクティブなスレッド数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2018	なし	HTTP プロバイダの要求応答時間の平均	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2186	なし	HTTP プロバイダのすべての要求数の合計	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2017	なし	HTTP プロバイダの要求数の合計	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2217	なし	HTTP プロバイダ - スレッド インプロセス率	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2012	なし	HTTP プロバイダでのオープン接続の要求読み取り数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2011	なし	HTTP プロバイダのオープン接続数の合計	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2013	なし	HTTP プロバイダでのオープン接続の応答読み取り数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2016	なし	HTTP プロバイダの接続あたりの要求数の平均	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2015	なし	HTTP プロバイダのキープアライブ待機接続数	測定値しきい値

SAP J2EE メモリ ステータス

J2EE メモリのステータスとSAP システムのタイムアウト パラメータを監視します。このアスペクトは SAP のバージョンによって異なるメトリックをサポートします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2010	なし	使用済みメモリ。	ConfigFile

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2201	なし	割り当て済みメモリ。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2203	なし	使用済みメモリ。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2202	なし	空きメモリ。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2008	なし	割り当て済みメモリ。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2204	なし	タイムアウト - 1分あたりの推定頻度	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2009	なし	空きメモリ。	ConfigFile

SAP J2EE システム スレッド プール パフォーマンス

Java アプリケーション応答時間測定要求のパフォーマンスを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0215	SystemThreadPoolUtilization: 高 / SystemThreadPoolUtilization: 正常域	システム スレッド プール - スレッド プールの収容率。	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0024	なし	初期のシステム スレッド プール サイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0027	なし	システム スレッド プールの待機中のタスク数。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0028	なし	システム スレッド プールの待機中のタスク キュー サイズ。	ConfigFile

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0025	なし	現在のシステムスレッドプールサイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0214	なし	スレッドプールの最小サイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0022	なし	システムスレッドプールの最小サイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0208	なし	システムスレッドプール-待機中のタスクの使用率。	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0206	SystemThreadPoolUtilization: 高 / SystemThreadPoolUtilization: 正常域	システムスレッドプール-使用率。	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0207	なし	システムスレッドプール-スレッドプールの使用率。	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0211	なし	初期のスレッドプールサイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0023	なし	システムスレッドプールの最大サイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0029	なし	システムスレッドプールの待機中のタスクキューオーバーフロー。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0209	なし	アクティブなスレッド数。	ConfigFile

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0026	なし	システム スレッド プールのアクティブ スレッド 数。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0212	なし	スレッド プールの最大 サイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0213	なし	待機中のタスクキューの最大 サイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0217	なし	待機中のタスクキュー オーバーフロー。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0210	なし	現在のスレッド プール サイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0216	なし	待機中のタスク数。	ConfigFile

SAP J2EE トランザクション ステータス

各種トランザクションのステータスを監視します。このアスペクトは SAP 7.1 以降のバージョンをサポートします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2221	なし	CommittedTransactionsCount。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2223	なし	RolledBackTransactionsCount。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2224	なし	SuspendedTransactionsCount。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2222	なし	OpenTransactionsCount。	ConfigFile

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2226	J2EETransactionSuccessRate: 低 / J2EETransactionSuccessRate: 正常域	トランザクション - 成功率	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2225	なし	TimedOutTransactions Count。	ConfigFile

SAP J2EE Web コンテナ パフォーマンス

Web コンテナのパフォーマンスを監視します。このアスペクトは SAP のバージョンによって異なるメトリックをサポートします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2188	なし	Web コンテナ内の現在のセキュリティセッション数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2190	なし	Web コンテナ内のタイムアウトしたセキュリティセッション数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2189	なし	Web コンテナ内のタイムアウトした HTTP セッション数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2187	なし	Web コンテナ内の現在の HTTP セッション数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2206	なし	AllRequestsCount	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2191	なし	Web コンテナ内のすべての要求数の合計	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2205	なし	Web コンテナ - 処理時間の平均	測定値しきい値

SAP JARM 要求パフォーマンス

Java アプリケーション応答時間測定要求のパフォーマンスを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_4001	なし	JARM 要求数	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_4005	JARMRequestsAverageCPUtime: 高 / JARMRequestsAverageCPUtime: 正常域	JARM 要求に対する CPU 時間の平均	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_4206	なし	要求数	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_4002	なし	1 秒あたりの JARM 要求数	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_4003	なし	すべての JARM 要求によるコンポーネント呼び出し数	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_4004	JARMRequestsAverageResponseTime: 高 / JARMRequestsAverageResponseTime: 正常域	JARM 要求の応答時間の平均	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_4205	なし	コンポーネント呼び出し数	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_4201	JARMRequestsAverageResponseTime: 高 / JARMRequestsAverageResponseTime: 正常域	J2EE エンジンの応答時間の平均	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_4204	なし	送信データの平均	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_4202	なし	1 秒あたりの要求数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_4006	なし	JARM 要求に対する送信データの平均	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_4203	JARMRequestsAverageCPUtime: 高 / JARMRequestsAverageCPUtime: 正常域	CPU 時間の平均	測定値しきい値

基本 SAP J2EE 管理テンプレートは、インフラストラクチャ要素を監視するために次の OMi MP for Infrastructure アスペクトを使用します。

リソース ボトルネック診断

リソース ボトルネック診断アスペクトは、CPU、メモリ、ネットワークおよびディスクなどのシステムリソースの混雑やボトルネックとなっている状態を特定します。CPU のボトルネック監視は、グローバル CPU 使用率と負荷平均 (実行キューの長さ) に基づいて行われます。メモリボトルネックの監視は、メモリ使用率、使用可能な空き容量、メモリスワップアウト率に基づいて行われます。ファイルシステムの監視は、ノード上の最もビジーなファイルシステムの領域使用率に基づいて行われます。ネットワークの監視は、パケット衝突率、パケット エラー率、送信キューの長さに基づいて行われます。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
Computer	Sys_CPUBottleneckDiagnosis	CPU 使用率のしきい値超過、プロセッサのキューの長さ、オペレーティングシステムで稼働する CPU の合計数などの CPU ボトルネックを検出します。たとえば、キューで CPU 時間を待っているプロセス数がしきい値を超え、CPU 使用率もしきい値を超えた場合、ポリシーはアラートを送信します。メッセージには、CPU 使用率が高い上位 10 位までのプロセスの一覧も表示されます。	測定値しきい値テンプレート
Computer	Sys_DiskPeakUtilMonitor	このポリシーテンプレートは、システムのディスク使用率レベルを監視します。使用率レベルが最大かどうかをチェックします。	測定値しきい値テンプレート

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
Computer	Sys_ MemoryBottleneckDiagnosis	このポリシー テンプレートは、物理メモリの使用率とボトルネックを監視します。メモリ使用率が高く、使用可能なメモリ容量が非常に少なくなると、メモリボトルネックの状態になります。メモリボトルネックが発生すると、システムの処理速度が低下し、全体的なパフォーマンスに影響を与えます。メモリ消費量が高いとページアウトが過剰に発生し、ページ走査率やスワップアウト バイト率、ページの要求率が高くなります。最終的には、システムの処理速度が低下します。メッセージには、メモリ使用率が高い上位 10 位までのプロセスの一覧も表示されます。	測定値しきい値 テンプレート
Computer	Sys_ NetworkInterfaceErrorDiagnosis	システムのネットワーク使用率を監視し、潜在的なネットワークのボトルネックまたはエラーをチェックします。	測定値しきい値 テンプレート

システム フォールト 分析

システム フォールト 分析 アスペクトは、クリティカルなエラー条件とその説明が記録されたカーネル ログ ファイル、ブート ログ ファイル、イベント ログ ファイルを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
Computer	Sys_LinuxKernelLog	カーネル ログ ファイル /var/log/ を監視し、カーネル サービスに障害が発生した場合に警告を送信します。カーネル ログ ファイルで、<*> kernel:<@.service>:<*.msg> failed のパターンと一致するエラー条件をチェックします。一致するものが見つかった場合、この条件から重大度が警戒域の警告が送信されます。	ログ ファイル エントリーテンプレート

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
Computer	Sys_LinuxBootLog	<p>ブート ログ ファイル /var/log/boot.log を監視し、システムブート エラーが発生した場合に警告を送信します。以下の条件をチェックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> サービスの開始失敗 - ブート ログ ファイルで、<*> <@.service>:<@.daemon> startup failed のパターンと一致するエラー条件をチェックします。一致するものが見つかった場合、この条件から重大度が警戒域の警告が送信されます。 サービスの失敗 - ログ ファイルで、<*> <@.service>:<*.msg> failed のパターンと一致するエラー条件をチェックします。一致するものが見つかった場合、この条件から重大度が危険域の警告が送信されます。 	ログ ファイル エントリ テンプレート
Computer	Sys_LinuxSecureLog	<p>セキュリティで保護されたログインが失敗した場合、ユーザにアラートを送信します。<*> sshd :Failed password for <@.user> from <*.host> port <#> ssh2 と一致するエラー状態がないかチェックします。一致するものが見つかった場合、この条件から重大度が注意域の警告が送信されます。</p>	ログ ファイル エントリ テンプレート
Computer	Sys_AIXErrptLog	<p>errpt ログ ファイル /var/opt/OV/tmp/sispi/errpt.log を監視し、エラー ログのエントリからエラー レポートを作成します。errpt ログ ファイルの列ごとに、<@.errcode> <2#.mo><2#.dd><2#.hh><2#.mm><2#.yy> <@> <@> <@.object> <*.msgtext> と一致するエラー状態がないかチェックします。一致するものが見つかった場合、この条件から重大度が注意域の警告が送信されます。</p>	ログ ファイル エントリ テンプレート
Computer	Sys_MSWindowsServer_	Microsoft DNS サーバ サービスと関連	Windows イベント ログ テンプレート

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
	DNSWarnError	<p>プロセスのログ ファイルを監視し、重大度が注意域またはエラーのログ エントリを転送します。このポリシーは、DNS ログ ファイルに記録された以下のエラーを検索します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DNS サーバは、リソースレコード用にメモリを割り当てるできませんでした。 • DNS サーバは、利用可能なメモリが不足していたためクライアント要求を処理できませんでした。 • DNS サーバは、ゾーン転送スレッドを作成できませんでした。 • DNS サーバにファイル書き込みエラーが発生しました。 • DNS サーバは、リモート プロシージャコール (RPC) サービスを初期化できませんでした。 	レポート
Computer	Sys_ MSWindowsServer_ DHCPWarnError	<p>DHCP イベント ログを監視し、重大度が注意域またはエラーのイベント ログ エントリを転送します。このポリシーは、次のエラーを検索します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • lashlpr が NPS サービスと通信できません。 • スコープまたはスーパースコープの BOOTP クライアントに使用できる IP アドレスはありません。 • DHCP サーバが、クライアントの NAP アクセス状態を判定するために NPS サーバにアクセスできません。 • スコープまたはスーパースコープのリースに使用できる IP アドレスはありません。 • DHCP サービスは監査ログの初期化に失敗しました。 	Windows イベント ログテンプレート

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
		<ul style="list-style-type: none"> • ローカルコンピュータの DHCP/BINL サービスは、開始権限がないと判断しました。 • このワークグループ サーバの DHCP/BINL サービスは、IP アドレスを持つ別のサーバを検出しました。 • DHCP サービスは DHCP のレジストリ構成の復元に失敗しました。 • DHCP サービスはレジストリからグローバル BOOTP ファイル名を読み取ることができませんでした。 • アクティブなインターフェイスがないため、DHCP サービスはクライアントにサービスを提供していません。 • DHCP サーバにバインドされた静的 IP アドレスがありません。 • DHCP サーバサービスはサービスコントローラへの登録に失敗しました。 • DHCP サーバサービスはレジストリパラメータの初期化に失敗しました。 	
Computer	Sys_ MSWindowsServer_ NFSWarnError	<p>NFS イベント ログを監視し、重大度が注意域またはエラーのイベント ログエントリを転送します。このポリシーは、次のエラーを検索します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ディスクの空き領域が少ないことを検出し、NFS サーバは監査の記録を停止しました。 • 監査ログが最大ファイルサイズに達しました。 • NFS 用サーバを RPC ポート マップに登録できませんでした。 • NFS 用サーバはフェーズ 2 の初期 	Windows イベント ログテンプレート

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
		化中にNFSドライバからエラーを受信しました。	
Computer	Sys_ MSWindowsServer_ TerminalServiceWarnError	<p>ターミナル サービスのイベント ログで、重大度が注意域またはエラーのエントリを転送します。このポリシーは、次のエラーを検索します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ターミナル サーバは現在接続を受け入れないように構成されているため、接続要求が拒否されました。 認証が失敗したので自動接続は失敗し、ユーザはセッションに再接続できませんでした。 ターミナル サービスの開始に失敗しました。 ターミナル サーバは多数の不完全な接続を受信しました。 	Windows イベント ログテンプレート
Computer	Sys_ MSWindowsServer_ WindowsLogonWarnError	<p>Windows ログオンと初期化のイベント ログを監視し、重大度が注意域またはエラーのエラー ログ エントリを転送します。このポリシーは、Windows ログ ファイルに記録された以下のエラーを検索します。</p> <ul style="list-style-type: none"> Windows のライセンスが無効です。 Windows のライセンス認証の手続きが失敗しました。 Windows のログオン プロセスによって、デスクトップを切り替えることができませんでした。 Windows のログオン プロセスは予期せぬ原因により終了しました。 Windows のログオン プロセスによって、ユーザ アプリケーションを起動できませんでした。 	Windows イベント ログテンプレート

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
		<ul style="list-style-type: none"> Windows のログオンプロセスによって、現在ログオンしているユーザのプロセスを終了できませんでした。 Windows のログオンプロセスによって、ユーザセッションを切断できませんでした。 	

システム インフラストラクチャ検出

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
Computer	OPC_PERL_INCLUDE_INSTR_DIR	Operations Agent の xpl config ネームスペースでの OPC_PERL_INCLUDE_INSTR_DIR の設定に使用されます。インフラストラクチャ SPI ポリシーでは値を TRUE に設定してください。	ノード情報テンプレート
Computer	SISystemDiscovery	ポリシー テンプレートは、ハードウェアリソース、オペレーティングシステムの属性、アプリケーションなどのサービス情報を管理対象ノードから収集します。	サービス自動検出テンプレート

OMi MP for Infrastructure アスペクトについての詳細は、OMi MP for Infrastructure Aspects Online Help を参照してください。

詳細 SAP J2EE 管理テンプレート

詳細 SAP J2EE 管理テンプレートは、SAP J2EE アプリケーション サーバの可用性、SAP J2EE 要求、システムとアプリケーション スレッド プール、メモリ、トランザクション、ポート、JMX、EJB、セッション、コネクタ サービスを監視します。

SAP J2EE アプリケーション サーバの状況と可用性を監視できます。

詳細 SAP J2EE 管理テンプレートにアクセスする方法

- [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。
BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト] をクリックします。

OMi では、[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト] をクリックします。

- [構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [JAVA 管理テンプレート] > [詳細 SAP J2EE 管理テンプレート] をクリックします。

ユーザ インターフェイスの参照情報

管理テンプレート - 一般

管理テンプレートの属性の概要。

UI 要素	説明
トポロジ ビュー	基本 SAP ABAP 管理テンプレートは、トポロジ ビューに SAP_ABAP_Deployment を使用します。このビューには、管理テンプレートを使用して管理する CI タイプが含まれます。
CI タイプ	基本 SAP ABAP 管理テンプレートで管理する CI のタイプ。これは、管理テンプレートの割り当てが可能な CI のタイプです。基本 SAP ABAP 管理テンプレートには、SAP System CI タイプが含まれます。

管理テンプレート - トポロジ ビュー

管理テンプレートに割り当てる CI タイプの概要です。

UI 要素	説明
トポロジ ビュー	SAP_Deployment は、基本 SAP J2EE 管理テンプレートのトポロジ ビューです。このビューには、管理テンプレートを使用して管理する CI タイプが含まれます。
CI タイプ	基本 SAP J2EE 管理テンプレートで管理する CI のタイプ。これは、管理テンプレートの割り当てが可能な CI のタイプです。基本 SAP J2EE 管理テンプレートには、 SAP System CI タイプが含まれます。

管理テンプレート - アスペクト

詳細 SAP J2EE 管理テンプレートには、次のアスペクトが含まれます。

SAP J2EE アプリケーション スレッド プール パフォーマンス

SAP J2EE システムのアプリケーション スレッド プールのパフォーマンスを監視します。このアスペクトは SAP のバージョンによって異なるメトリックをサポートします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0226	なし	スレッド プールの最小サイズ。	ConfigFile

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0219	ApplicationThreadPoolUtilization: 高 / ApplicationThreadPoolUtilization: 正常域	アプリケーションスレッドプール-スレッドプールの使用率	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0229	なし	待機中のタスクキューオーバーフロー。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0031	なし	アプリケーションスレッドプールの最大サイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0227	ApplicationThreadPoolUtilization: 高 / ApplicationThreadPoolUtilization: 正常域	アプリケーションスレッドプール-スレッドプールの収容率	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0221	なし	アクティブなスレッド数。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0034	なし	アクティブなアプリケーションスレッドプールサイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0033	なし	現在のアプリケーションスレッドプールサイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0036	なし	アプリケーションスレッドプールの待機中のタスクキューサイズ。	ConfigFile

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0032	なし	初期のアプリケーション スレッド プール サイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0223	なし	初期のスレッド プール サイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0225	なし	待機中のタスクキューの最大サイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0220	ApplicationThreadPoolUtilization: 高 / ApplicationThreadPoolUtilization: 正常域	アプリケーションスレッド プール- 待機中のタスクの使用率	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0228	なし	待機中のタスク数。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0222	なし	現在のスレッド プール サイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0224	なし	スレッド プールの最大サイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0218	ApplicationThreadPoolUtilization: 高 / ApplicationThreadPoolUtilization: 正常域	アプリケーションスレッド プール- 使用率	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0030	なし	アプリケーションスレッド プールの最小サイズ。	ConfigFile

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0035	なし	アプリケーション スレッド プールの待機中のタスク数。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0037	なし	アプリケーション スレッド プールの待機中のタスク キュー オーバーフロー。	ConfigFile

SAP J2EE ベース

SAP ランドスケープを監視するためのベース アスペクトで、設定、スケジューラ、ロガーを含みます。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_VeryHigh	なし	SAP J2EE コレクタ/アナライザを VeryHigh スケジュールごとに行います。	スケジュールされたタスク
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_Low	なし	SAP J2EE コレクタ/アナライザを Low スケジュールごとに行います。	スケジュールされたタスク
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_Medium	なし	SAP J2EE コレクタ/アナライザを Medium スケジュールごとに行います。	スケジュールされたタスク
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_High	なし	選択したメトリックで SAP J2EE コレクタ/アナライザを 15 分ごとに実行します。	スケジュールされたタスク

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_Messages	なし	SAP MP メッセージ テンプレート (メッセージ インターセプタ用)。	オープン メッセージ インターフェイス
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_NWStatus	なし	SAP J2EE アプリケーション サーバのステータスと可用性。	スケジュールされたタスク

SAP J2EE クラスタ マネージャ - メッセージ サーバ通信 レイヤ パフォーマンス

クラスタ マネージャでメッセージ サーバの通信レイヤを監視します。このアスペクトは SAP のバージョンによって異なるメトリックをサポートします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0066	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて設定 マネージャから受信した合計 バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0230	なし	メッセージ処理時間の平均	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0081	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じてデプロイメント サービスから受信した合計 バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0041	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じてキャッシュ マネージャから送信された合計 バイト数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0062	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて Servlet JSP サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0038	なし	J2EE クラスタの現在のメッセージ コンテキストのプール サイズ	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0051	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて Telnet サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0071	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて IIOP ポートから受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0053	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて JMS プロバイダから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0069	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じてサービス マネージャの内部接続から受信した合計バイト数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプ レート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServ er	SAPJ2EE_0045	なし	メッセージ サーバ の通信レイヤを 通じて IIOP ポートから送信 された合計バイ ト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServ er	SAPJ2EE_0087	なし	メッセージ サーバ の通信レイヤを 通じて Web Dynpro サービス から受信した合 計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServ er	SAPJ2EE_0057	なし	メッセージ サーバ の通信レイヤを 通じてコネクタ サービスから送 信された合計バ イト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServ er	SAPJ2EE_0074	なし	メッセージ サーバ の通信レイヤを 通じて Web サービスから受 信した合計バイ ト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServ er	SAPJ2EE_0070	なし	メッセージ サーバ の通信レイヤを 通じて P4 ポー トから受信した 合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServ er	SAPJ2EE_0084	なし	メッセージ サーバ の通信レイヤを 通じて指定され たサービスから 受信した合計バ イト数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0043	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じてサービス マネージャの内部 接続から送信された合計 バイト数	測定 値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0078	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて JMX サービスから受信した合計 バイト数	測定 値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0047	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じてシェル サービスから送信された合計 バイト数	測定 値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0076	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて JMX 通知 サービスから受信した合計 バイト数	測定 値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0086	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じてセキュリティ サービスから受信した合計 バイト数	測定 値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0083	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じてコネクタ サービスから受信した合計 バイト数	測定 値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0050	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて JMX 通知 サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0079	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて JMS プロバイダから受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0056	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じてネーミング サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0085	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて SAP セキュリティコア ユーザ管理エンジン サービスから受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0068	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じてサービス マネージャのデプロイメント ディストリビュータから受信した合計バイト数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0088	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて Servlet JSP サービスから受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0080	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて HTTP ポートから受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0072	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて SLD サービスから受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0042	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じてサービス マネージャのデプロイメント ディストリビュータから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0054	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて HTTP ポートから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0075	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて Log Configurator から受信した合計バイト数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0089	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて RFC エンジン サービスから受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0049	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて Log Configurator から送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0044	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて P4 ポートから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0040	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて設定マネージャから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0090	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じてアプリケーションントレース サービスから受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0060	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じてセキュリティ サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0055	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じてデプロイメント サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0048	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて Web サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0061	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて Web Dynpro サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0059	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて SAP セキュリティコア ユーザ管理エンジン サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0067	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じてキャッシュ マネージャから受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0052	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて JMX サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0058	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて指定されたサービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0046	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて SLD サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0091	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて PRTBridge サービスから受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0082	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じてネーミング サービスから受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0073	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じてシェル サービスから受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0077	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて Telnet サービスから受信した合計バイト数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0065	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて PRTBridge サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0064	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じてアプリケーショントレース サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0039	なし	J2EE クラスタのメッセージ コンテキストの処理時間の平均	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0063	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて RFC エンジン サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値

SAP J2EE クラスタ マネージャ - セッション通信レイヤ パフォーマンス

クラスタ マネージャでセッション通信レイヤを監視します。このアスペクトは SAP のバージョンによって異なるメトリックをサポートします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0106	なし	セッション通信レイヤを通じて IIOP サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0096	なし	セッション通信レイヤ内の HTTP メッセージ キューの現在のサイズ	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0104	なし	セッション通信レイヤを通じて JMS プロバイダ サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0103	なし	セッション通信レイヤを通じて HTTP サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0111	なし	セッション通信レイヤを通じて JMS プロバイダ サービスから受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0097	なし	セッション通信レイヤ内の JMS プロバイダ メッセージ キューの現在のサイズ	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0109	なし	セッション通信レイヤを通じて Telnet サービスから受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0110	なし	セッション通信レイヤを通じて HTTP サービスから受信した合計バイト数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0231	なし	セッション処理時間の平均	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0095	なし	セッション通信レイヤ内の Telnet メッセージ キューの現在のサイズ	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0102	なし	セッション通信レイヤを通じて Telnet サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0105	なし	セッション通信レイヤを通じて Web サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0094	なし	セッション通信レイヤ内の内部メッセージ キューの現在のサイズ	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0092	なし	セッション キューの最大サイズ	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0100	なし	セッション通信レイヤを通じて P4 ポート サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0093	なし	セッション通信レイヤ内の P4 メッセージ キューの現在のサイズ	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0098	なし	セッション通信レイヤ内のWebサービスメッセージキューの現在のサイズ	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0108	なし	セッション通信レイヤを通じて内部サービスから受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0101	なし	セッション通信レイヤを通じて内部サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0099	なし	セッション通信レイヤ内のIIOPメッセージキューの現在のサイズ	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0113	なし	セッション通信レイヤを通じてIIOPサービスから受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0107	なし	セッション通信レイヤを通じてP4ポートサービスから受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0112	なし	セッション通信レイヤを通じてWebサービスから受信した合計バイト数	測定値しきい値

SAP J2EE 構成

J2EE アプリケーション サーバCI に対する設定を収集します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_Configuration	なし	SAP J2EE 構成の詳細。	ConfigFile

SAP J2EE 設定 マネージャおよびクラス ローダ パフォーマンス

設定 マネージャのキャッシュヒット率とコミット期間のパラメータおよびクラス ローダ数を監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0002	なし	コミット期間	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0233	CacheHitRate: 高 / CacheHitRate: 正常域	設定 マネージャ - キャッシュヒット率	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0234	なし	設定 マネージャ - コミット期間	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0232	なし	クラス ローダ数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0001	CacheHitRate: 高 / CacheHitRate: 正常域、CacheHitRate: 高 / CacheHitRate: 正常域	キャッシュヒット率	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0012	なし	クラス ローダ数	測定値しきい値

SAP J2EE 接続 マニピュレータ パフォーマンス

接続 マニピュレータの各種ポートでの接続数を監視します。このアスペクトは SAP バージョン 7.0 および SAP 7.0x のみをサポートします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0021	なし	接続 マニピュレータの可能な最大接続数 (ディスパッチャ)。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0015	なし	接続 マニピュレータの P4 接続数 (ディスパッチャ)。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0016	なし	接続 マニピュレータの IIOP 接続数 (ディスパッチャ)。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0020	なし	接続 マニピュレータのプール内の空き接続数 (ディスパッチャ)。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0013	なし	接続 マニピュレータの接続数の合計 (ディスパッチャ)。	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0018	なし	接続 マニピュレータの Telnet 接続数 (ディスパッチャ)。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0014	なし	接続 マニピュレータの HTTP 接続数 (ディスパッチャ)。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0017	なし	接続 マニピュレータの JMS 接続数 (ディスパッチャ)。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0019	なし	接続 マニピュレータのその他の接続数 (ディスパッチャ)。	ConfigFile

SAP J2EE コネクタ サービス パフォーマンス

各種リソースアダプタの管理対象接続を監視します。このアスペクトは SAP バージョン 7.0 および SAP 7.0x のみをサポートします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2116	なし	ADS リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2063	なし	SAP/BC_FO リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2077	なし	SAP/CAF_EUP_ER リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2093	なし	SAP/BC_SLM リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2127	なし	SDK_SAPQ リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2075	なし	SAP/CAF_EUP_ER リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2021	なし	SAPSR3DB リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2131	なし	SDK_XMLA リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2040	なし	SAP/CAF_RT リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2128	なし	SDK_SAPQ リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2092	なし	SAP/BC_SLM リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2130	なし	SDK_SAPQ リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2028	なし	SAP/BC_MIGSERVICE リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2024	なし	SAP/EP_PRT リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2129	なし	SDK_SAPQ リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2094	なし	SAP/BC_SLM リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2096	なし	SAP/LOCAL_MAINFRAME_POOL リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2115	なし	ADS リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2103	なし	SAP/BC_JDO リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2039	なし	SAP/CAF_RT リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2110	なし	SAP/BC_UDDI リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2109	なし	SAP/BC_UDDI リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2126	なし	SDK_CAF リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2053	なし	SAP/CAF/EU P_GP/MAIL_CF リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2056	なし	SAP/BC_UME リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2105	なし	SAP/BC_JDO リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2023	なし	SAP/EP_PRT リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2135	なし	SDK_ODBO リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2133	なし	SDK_XMLA リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2068	なし	SAP/BC_XMLA リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2120	なし	SDK_JDBC リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2019	なし	SAPSR3DB リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2027	なし	SAP/BC_MIGSERVICE リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2091	なし	SAP/BC_SLM リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2104	なし	SAP/BC_JDO リソース アダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2035	なし	SAP/BC_WDRR リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2038	なし	SAP/BC_WDRR リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2044	なし	SAP/BW_MMR リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2042	なし	SAP/CAF_RT リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2034	なし	SAP/CAF_EUP_GP リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2138	なし	SDK_ODBO リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2049	なし	SAP/EP_DQE リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2051	なし	SAP/CAF/EU P_GP/MAIL_CF リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2057	なし	SAP/BC_UME リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2052	なし	SAP/CAF/EU P_GP/MAIL_CF リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2085	なし	SAP/BC_ADM リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2025	なし	SAP/EP_PRT リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2061	なし	SAP/BC_JMS リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2098	なし	SAP/LOCAL_MAINFRAME_POOL リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2108	なし	SAP/BC_UDDI リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2066	なし	SAP/BC_FO リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2058	なし	SAP/BC_UME リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2050	なし	SAP/EP_DQE リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2113	なし	UTDB リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2031	なし	SAP/CAF_EUP_GP リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2132	なし	SDK_XMLA リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2036	なし	SAP/BC_WDRR リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2082	なし	SAP/EP_PCD リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2100	なし	SAP/BC_SLD リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2074	なし	SAP/BC_MON リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2073	なし	SAP/BC_MON リソースアダプタ での管理対象 接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2043	なし	SAP/BW_MMR リソースアダプタ での同時に開か れている管理対 象接続の最大 数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2055	なし	SAP/BC_UME リソースアダプタ での同時に開か れている管理対 象接続の最大 数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2102	なし	SAP/BC_SLD リソースアダプタ でのプールされた 管理対象接続 を待機中のクラ イアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2097	なし	SAP/LOCAL_ MAINFRAME_ POOL リソース アダプタでの管 理対象接続の 使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2095	なし	SAP/LOCAL_ MAINFRAME_ POOL リソース アダプタでの同 時に開かれてい る管理対象接 続の最大数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2121	なし	SDK_JDBC リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2125	なし	SDK_CAF リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2048	なし	SAP/EP_DQE リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2122	なし	SDK_JDBC リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2020	なし	SAPSR3DB リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2029	なし	SAP/BC_MIGSERVICE リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2076	なし	SAP/CAF_EUP_ER リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2047	なし	SAP/EP_DQE リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2037	なし	SAP/BC_WDRR リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2032	なし	SAP/CAF_EUP_GP リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2078	なし	SAP/CAF_EUP_ER リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2088	なし	SAP/CAF_BW_RT リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2041	なし	SAP/CAF_RT リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2124	なし	SDK_CAF リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2080	なし	SAP/EP_PCD リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2112	なし	UTDB リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2062	なし	SAP/BC_JMS リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2123	なし	SDK_CAF リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2099	なし	SAP/BC_SLD リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2059	なし	SAP/BC_JMS リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2054	なし	SAP/CAF/EU P_GP/MAIL_CF リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2106	なし	SAP/BC_JDO リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2046	なし	SAP/BW_MMR リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2111	なし	UTDB リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2136	なし	SDK_ODBO リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2134	なし	SDK_XMLA リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2119	なし	SDK_JDBC リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2030	なし	SAP/BC_MIGSERVICE リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2071	なし	SAP/BC_MON リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2060	なし	SAP/BC_JMS リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2064	なし	SAP/BC_FO リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2026	なし	SAP/EP_PRT リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2084	なし	SAP/BC_ADM リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2118	なし	ADS リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2069	なし	SAP/BC_XMLA リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2065	なし	SAP/BC_FO リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2067	なし	SAP/BC_XMLA リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2045	なし	SAP/BW_MMR リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2033	なし	SAP/CAF_EUP_GP リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2101	なし	SAP/BC_SLD リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2070	なし	SAP/BC_XMLA リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2022	なし	SAPSR3DB リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2079	なし	SAP/EP_PCD リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2081	なし	SAP/EP_PCD リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2137	なし	SDK_ODBO リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2090	なし	SAP/CAF_BW_RT リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2086	なし	SAP/BC_ADM リソース アダプタ でのプールされた 管理対象接続 を待機中のクラ イアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2114	なし	UTDB リソース アダプタでのプー ルされた管理対 象接続を待機 中のクライアント 数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2089	なし	SAP/CAF_BW_ RT リソース アダ プタでの管理対 象接続の使用 数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2072	なし	SAP/BC_MON リソース アダプタ での管理対象 接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2107	なし	SAP/BC_UDDI リソース アダプタ での同時に開か れている管理対 象接続の最大 数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2117	なし	ADS リソース ア ダプタでの管理 対象接続の使用 数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2087	なし	SAP/CAF_BW_ RT リソース アダ プタでの同時に 開かれている管 理対象接続の 最大数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2083	なし	SAP/BC_ADM リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値

SAP J2EE EJB パフォーマンス

セッションステートフル Bean、ステートレス Bean、メッセージ駆動型 Bean、エンティティ Bean のパフォーマンスを監視します。このアスペクトは SAP バージョン 7.0 および SAP 7.0x のみをサポートします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2159	なし	プール内に作成される初期の Bean インスタンスの数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2151	なし	このプールで保持できる Bean インスタンスの数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2164	なし	アプリケーションで現在使用されているかプール内に格納されている、このプールによって提供される Bean インスタンスの数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2147	なし	Bean インスタンスがアクティベートされた回数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2146	なし	Bean インスタンスがリパッジメントされた回数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2169	なし	Bean インスタンスがリパッジメントされた回数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2148	なし	Bean が作成された回数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2167	なし	新しいインスタンスが要求され、プール内にアイドル状態のインスタンスが存在しないときに、プール内のインスタンスの合計数が増加する数。この要素の値は正の数である必要があります。	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2157	なし	アプリケーションで現在使用されているかプール内に格納されている、このプールによって提供される Bean インスタンスの数。	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2161	なし	このアプリケーションで現在使用されている、このプールによって提供される Bean インスタンスの数。	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2142	なし	現在 パッシブされている Bean セッションの数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2154	なし	このアプリケーションで現在使用されている、このプールによって提供される Bean インスタンスの数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2170	なし	Bean インスタンスがアクティベートされた回数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2139	なし	アイドル状態のアクティブ セッションがリパッシベートされるまでの時間 (秒)	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2166	なし	プール内に作成される初期の Bean インスタンスの数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2155	なし	Bean が作成された回数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2163	なし	Bean および Bean セッションが削除された回数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2149	なし	Bean および Bean セッションが削除された回数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2165	なし	このプールで保持できる Bean インスタンスの数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2145	なし	Bean および Bean セッションが削除された回数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2140	なし	Bean がパジャベートされてから、EJB コンテナによりセッション Bean のインスタンスがスワップから消去され、セッションが破棄されるまでの時間 (秒)。	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2158	なし	このプールで保持できる Bean インスタンスの数。	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2168	なし	このアプリケーションで現在使用されている、このプールによって提供される Bean インスタンスの数。	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2150	なし	アプリケーションで現在使用されているかプール内に格納されている、このプールによって提供される Bean インスタンスの数。	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2152	なし	プール内に作成される初期の Bean インスタンスの数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2143	なし	完了したセッション数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2141	なし	アクティブな Bean セッションの数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2156	なし	Bean および Bean セッションが削除された回数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2153	なし	新しいインスタンスが要求され、プール内にアイドル状態のインスタンスが存在しないときに、プール内のインスタンスの合計数が増加する数。この要素の値は正の数である必要があります。	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2162	なし	Bean が作成された回数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2160	なし	新しいインスタンスが要求され、プール内にアイドル状態のインスタンスが存在しないときに、プール内のインスタンスの合計数が増加する数。この要素の値は正の数である必要があります。	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2144	なし	Bean が作成された回数。	測定値しきい値

SAP J2EE Http プロバイダ パフォーマンス

HTTP プロバイダでの要求のパフォーマンスを監視します。このアスペクトは SAP のバージョンによって異なるメトリックをサポートします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2014	なし	HTTP プロバイダでのオープン接続の要求スキップ数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2215	なし	すべての要求数	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2216	なし	HTTP プロバイダ - アクティブなスレッド数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2018	なし	HTTP プロバイダの要求応答時間の平均	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2186	なし	HTTP プロバイダのすべての要求数の合計	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2017	なし	HTTP プロバイダの要求数の合計	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2217	なし	HTTP プロバイダ - スレッド インプロセス率	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2012	なし	HTTP プロバイダでのオープン接続の要求読み取り数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2011	なし	HTTP プロバイダのオープン接続数の合計	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2013	なし	HTTP プロバイダでのオープン接続の応答読み取り数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2016	なし	HTTP プロバイダの接続あたりの要求数の平均	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2015	なし	HTTP プロバイダのキープアライブ待機接続数	測定値しきい値

SAP J2EE JMS パフォーマンス

JMS セッション コンテナを監視します。このアスペクトは SAP 7.1 以降のバージョンをサポートします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2207	なし	JMS セッション コンテナ - 接続数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2208	なし	JMS セッション コンテナ - コンシューマの数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2209	なし	JMS セッション コンテナ - プロデューサの数	測定値しきい値

SAP J2EE JMX アダプタ パフォーマンス

JMX アダプタ プロトコルを監視します。このアスペクトは SAP のバージョンによって異なるメトリックをサポートします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2229	なし	JMX アダプタ - JMX アダプタのローカル MBean リポジトリのサイズ	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2001	なし	JMX アダプタ キャッシュ内の最大エンタリ数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2228	なし	JMX アダプタ-クラスタ ワイド 通知リスナ	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2006	なし	JMX アダプタの通知キュー内のアクティブなスレッド数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2002	なし	JMX アダプタ キャッシュ内の現在のエンタリ数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2003	なし	JMX アダプタ キャッシュ内の置換済みエンタリ数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2004	なし	JMX アダプタのキャッシュヒット率	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2005	なし	JMX アダプタの通知キュー サイズ	測定値しきい値

SAP J2EE JNDI レジストリステータス

JNDI レジストリを監視します。このアスペクトは SAP 7.1 以降のバージョンをサポートします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2231	なし	JNDI レジストリ-バイト アレイのキャッシュ サイズ	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2230	なし	JNDI レジストリ-バインドされたオブジェクトの数	測定値しきい値

SAP J2EE Log Configurator パフォーマンス

Log Configurator のログファイル サイズとメッセージのステータスを監視します。このアスペクトは SAP のバージョンによって異なるメトリックをサポートします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2213	なし	Log Configurator のエラー メッセージの数。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2211	なし	Log Configurator のログ記録されたすべてのメッセージの数。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2007	なし	Log Configurator のログファイル サイズの合計。	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2210	なし	Log Configurator - ログファイル サイズの合計。	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2214	なし	Log Configurator の致命的メッセージの数。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2212	なし	Log Configurator の警告メッセージの数。	ConfigFile

SAP J2EE メモリステータス

J2EE メモリのステータスと SAP システムのタイムアウト パラメータを監視します。このアスペクトは SAP のバージョンによって異なるメトリックをサポートします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2010	なし	使用済みメモリ。	ConfigFile

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2201	なし	割り当て済みメモリ。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2203	なし	使用済みメモリ。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2202	なし	空きメモリ。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2008	なし	割り当て済みメモリ。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2204	なし	タイムアウト - 1 分あたりの推定頻度	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2009	なし	空きメモリ。	ConfigFile

SAP J2EE P4 および IIOP プロバイダ パフォーマンス

P4 および IIOP サービスプロバイダのパフォーマンスを監視します。このアスペクトは SAP のバージョンによって異なるメトリックをサポートします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2227	なし	IIOP プロバイダ - スレッド使用率	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2218	なし	P4 プロバイダ - 要求失敗数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2219	なし	P4 プロバイダ - スレッド使用率	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2220	なし	RequestsCount。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2185	なし	P4 プロバイダの要求数。	ConfigFile

SAP J2EE ポート マネージャ パフォーマンス

各種ポートの許容スレッド使用率を監視します。このアスペクトは SAP バージョン 7.0 および SAP 7.0x のみをサポートします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0007	なし	P4 ポートの許容スレッド使用率。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0006	なし	IIOP (SSL) ポートの許容スレッド使用率。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0011	なし	JMS プロバイダの許容スレッド使用率。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0009	なし	P4 (SSL) ポートの許容スレッド使用率。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0005	なし	IIOP ポートの許容スレッド使用率。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0003	なし	HTTP ポートの許容スレッド使用率。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0010	なし	Telnet の許容スレッド使用率。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0004	なし	HTTP (SSL) ポートの許容スレッド使用率。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0008	なし	P4 (HTTP トンネリング) ポートの許容スレッド使用率。	ConfigFile

SAP J2EE セッション マネージャ パフォーマンス

セッションおよびセッション集計データのステータスとパフォーマンスを監視します。このアスペクトは SAP のバージョンによって異なるメトリックをサポートします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_2232	UnsuccessfulLogonAttemptsRate: 高 / UnsuccessfulLogonAttemptsRate: 正常域	セキュリティ-失敗したログオン試行回数。	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_2182	なし	セキュリティサーバのタイムアウトしたセッション数。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0204	なし	セッションマネージャ-アクティブな Web セッション数。	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_2184	なし	セキュリティサーバのログオフ済みセッション数。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0202	なし	開いている Web セッション数。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_2180	なし	セキュリティサーバのアクティブなセッション数。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_2183	なし	セキュリティサーバの無効なセッション数。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_2181	なし	セキュリティサーバのセッション数の合計。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0205	なし	セッションマネージャ-ログインしているユーザ数。	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0201	なし	開いているセキュリティセッション数。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0203	なし	開いている EJB セッション数。	ConfigFile

SAP J2EE システム スレッド プール パフォーマンス

Java アプリケーション 応答時間 測定 要求 のパフォーマンスを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0215	SystemThreadPoolUtilization: 高 / SystemThreadPoolUtilization: 正常域	システム スレッド プール-スレッド プールの収容率。	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0024	なし	初期のシステム スレッド プール サイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0027	なし	システム スレッド プールの待機中のタスク数。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0028	なし	システム スレッド プールの待機中のタスクキュー サイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0025	なし	現在のシステム スレッド プール サイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0214	なし	スレッド プールの最小サイズ。	ConfigFile

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0022	なし	システム スレッド プールの最小サイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0208	なし	システム スレッド プール- 待機中のタスクの使用率。	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0206	SystemThreadPoolUtilization: 高 / SystemThreadPoolUtilization: 正常域	システム スレッド プール- 使用率。	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0207	なし	システム スレッド プール- スレッド プールの使用率。	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0211	なし	初期のスレッド プールサイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0023	なし	システム スレッド プールの最大サイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0029	なし	システム スレッド プールの待機中のタスク キュー オーバーフロー。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0209	なし	アクティブなスレッド数。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0026	なし	システム スレッド プールのアクティブ スレッド数。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0212	なし	スレッド プールの最大サイズ。	ConfigFile

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0213	なし	待機中のタスクキューの最大サイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0217	なし	待機中のタスクキューオーバーフロー。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0210	なし	現在のスレッドプールサイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0216	なし	待機中のタスク数。	ConfigFile

SAP J2EE トランザクション ステータス

各種トランザクションのステータスを監視します。このアスペクトは SAP 7.1 以降のバージョンをサポートしません。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2221	なし	CommittedTransactionsCount。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2223	なし	RolledBackTransactionsCount。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2224	なし	SuspendedTransactionsCount。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2222	なし	OpenTransactionsCount。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2226	J2EETransactionSuccessRate: 低 / J2EETransactionSuccessRate: 正常域	トランザクション - 成功率	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2225	なし	TimedOutTransactionsCount。	ConfigFile

SAP J2EE Web コンテナ パフォーマンス

Web コンテナのパフォーマンスを監視します。このアスペクトは SAP のバージョンによって異なるメトリックをサポートします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2188	なし	Web コンテナ内の現在のセキュリティセッション数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2190	なし	Web コンテナ内のタイムアウトしたセキュリティセッション数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2189	なし	Web コンテナ内のタイムアウトした HTTP セッション数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2187	なし	Web コンテナ内の現在の HTTP セッション数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2206	なし	AllRequestsCount	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2191	なし	Web コンテナ内のすべての要求数の合計	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2205	なし	Web コンテナ - 処理時間の平均	測定値しきい値

SAP J2EE Web サービス パフォーマンス

各種 サービスに対する要求のパフォーマンスを監視します。このアスペクトは SAP バージョン 7.0 および SAP 7.0x のみをサポートします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2172	なし	何らかの理由で失敗した要求数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2175	なし	サービスの実装時間	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2178	なし	サービスの実装時間	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2174	なし	サービスの前 処理時間	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2179	なし	サービスの後 処理時間	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2177	なし	サービスの前 処理時間	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2171	なし	要求成功数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2176	なし	サービスの後 処理時間	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2173	なし	現在処理済み の要求数	測定値しきい値

SAP JARM 要求 パフォーマンス

Java アプリケーション応答時間測定要求のパフォーマンスを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_4001	なし	JARM 要求数	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_4005	JARMRequestsAverageCPUtime: 高 / JARMRequestsAverageCPUtime: 正常域	JARM 要求に対する CPU 時間の平均	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_4206	なし	要求数	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_4002	なし	1 秒あたりの JARM 要求数	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_4003	なし	すべての JARM 要求によるコンポーネント呼び出し数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_4004	JARMRequestsAverageResponseTime: 高 / JARMRequestsAverageResponseTime: 正常域	JARM 要求の応答時間の平均	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_4205	なし	コンポーネント呼び出し数	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_4201	JARMRequestsAverageResponseTime: 高 / JARMRequestsAverageResponseTime: 正常域	J2EE エンジンの応答時間の平均	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_4204	なし	送信データの平均	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_4202	なし	1 秒あたりの要求数	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_4006	なし	JARM 要求に対する送信データの平均	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_4203	JARMRequestsAverageCPUTime: 高 / JARMRequestsAverageCPUTime: 正常域	CPU 時間の平均	測定値しきい値

詳細 SAP J2EE 管理テンプレートは、インフラストラクチャ要素を監視するために次の OMi MP for Infrastructure アスペクトを使用します。

帯域幅使用量とネットワーク IOPS

帯域幅使用量とネットワーク IOPS アスペクトは、ネットワーク内のシステムの I/O 操作とパフォーマンスを監視します。使用中の帯域幅、送信キューの長さ、平均転送バイト数/秒に基づいて、ネットワークの I/O オペレーションおよびパフォーマンスを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
Computer	Sys_NetworkUsageAndPerformance	システムのネットワーク使用率を監視し、エラーレートと競合を表示します。これにより、ネットワー	測定値しきい値テンプレート

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
		クに潜在的なボトルネックがあるかどうかを判断できます。このポリシーテンプレートは、vMA マシンだけの物理 NIC を監視します。Windows オペレーティングシステムでは、BYNETIF_COLLISION メトリックを使用できないので、パッケージ競合に関するパフォーマンスデータは監視しません。	
Computer	Sys_PerNetifOutbyteBaseline-AT	このポリシーは、所定の間隔でのネットワークインターフェイスの送信バイト率を監視します。管理対象ノード上の各ネットワークインターフェイスで発信バイト数を個別に監視します。すべての間隔でネットワークインターフェイスの各インスタンスを個別に処理します。	測定値しきい値テンプレート
Computer	Sys_PerNetifInbyteBaseline-AT	所定の間隔における個別のネットワークインターフェイスの着信バイトレートを監視します。管理対象ノード上の各ネットワークインターフェイスで着信バイト数を個別に監視します。すべての間隔でネットワークインターフェイスの各インスタンスを個別に処理します。	測定値しきい値テンプレート

CPU パフォーマンス

CPU パフォーマンスアスペクトは、CPU 使用率やCPU 使用率のスパイクなど、全体的な CPU パフォーマンスを監視します。CPU パフォーマンスの監視には、合計 CPU 使用率、ユーザモードでの CPU 使用率、システムモードでの CPU 使用率、割り込み率が使用されます。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
Computer	Sys_CPUSpikeCheck	プロセッサパ	測定値しきい値テンプレート

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
		パフォーマンスのばらつきを監視します。CPU スパイクとは、CPU 使用率が急増した直後に低減する現象です。このポリシー テンプレートは、ユーザモードとシステムモードで消費した CPU 時間を監視します。また、CPU がビジー状態の CPU 時間の合計も監視します。	
Computer	Sys_GlobalCPUUtilization-AT	管理対象ノード上の CPU のパフォーマンスを監視し、すべての CPU の使用率がしきい値に違反している場合、アラートを送信します。	測定値しきい値テンプレート
Computer	Sys_PerCPUUtilization-AT	管理対象ノード上の各 CPU の使用率を監視します。すべての間隔で各 CPU インスタンスを個別に処理します。	測定値しきい値テンプレート
Computer	Sys_RunQueueLengthMonitor-AT	CPU の実行キューで待機中のプロセス数を監視し、実行キュー内のプロセス数がしきい値レベルに違反している場合にアラートを送信します。	測定値しきい値テンプレート

メモリとスワップの使用量

メモリとスワップの使用量 アスペクトは、システムのメモリパフォーマンスを監視します。メモリパフォーマンスの監視は、メモリ使用率 (割合)、スワップ領域使用率 (割合)、使用可能な空きメモリ (MB)、使用可能な空きスワップ領域 (MB) に基づき行われます。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
Computer	Sys_ MSWindowsNonPagedPoolUtilization-AT	非ページプールのメモリを監視します。非ページプールは、ディスクが使用中ではない場合でも書き込むことができないオブジェクトのための物理システムメモリの領域です。	測定値しきい値 テンプレート
Computer	Sys_ MSWindowsPagedPoolUtilization-AT	ページプールのメモリを監視します。ページプールは、ディスクが使用中ではない場合に書き込むことができるオブジェクトのための物理システムメモリの領域です。	測定値しきい値 テンプレート
Computer	Sys_MemoryUsageAndPerformance	このポリシーテンプレートはシステムのメモリ使用率を監視し、メモリにボトルネックがあるかどうかを判断するためのエラーレートと競合を表示します。	測定値しきい値 テンプレート
Computer	Sys_MemoryUtilization-AT	グローバルメモリ使用率を監視します。メモリ使用率は、当該間隔における使用中の物理メモリの割合です。これには、カーネルによって占有されるシステムメモリ、バッファキャッシュ、ユーザメモリが含まれます。	測定値しきい値 テンプレート

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
		す。	
Computer	Sys_SwapCapacityMonitor	このポリシーテンプレートは、システムのスワップ領域使用率を監視します。	測定値しきい値テンプレート
Computer	Sys_SwapUtilization-AT	管理対象ノードでシステムによって使用されるグローバルスワップ領域を監視します。	測定値しきい値テンプレート

リモート ディスク領域 使用量

リモート ディスク領域 使用量アスペクトは、リモート ディスク領域 の使用率を監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
Computer、 FileSystem	Sys_LinuxCifsUtilizationMonitor	このポリシーテンプレートは、Linux プラットフォーム上の CIFS リモート ファイルシステムの領域使用率レベルを監視します。	測定値しきい値テンプレート
Computer、 FileSystem	Sys_LinuxNfsUtilizationMonitor	このポリシーテンプレートは、Linux プラットフォーム上の NFS リモート ファイルシステムの領域使用率レベルを監視します。	測定値しきい値テンプレート

空き領域とディスク IOPS

空き領域とディスク IOPS アスペクトは、システムのディスク I/O 操作と領域使用率を監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
Computer	Sys_FileSystemUtilizationMonitor	ノード上のファイルシステムの使用率を監視します。	測定値しきい値テンプレート
Computer	Sys_PerDiskAvgServiceTime-AT	ディスク I/O サービス時間を監視します。ディスク平均サービス時間は、所定の時間内に各ディスク要求の処理にディスクが費やした時間です。このポリシーでは、ノードの HP	測定値しきい値テンプレート

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
		Performance Agent が必要です。	
Computer	Sys_PerDiskUtilization-AT	ディスクのマルチインスタンスベースラインを決定します。ディスク使用率は、システムでディスクが要求処理中状態だった時間の割合です。	測定値しきい値テンプレート

システム インフラストラクチャ検出

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
Computer	OPC_PERL_INCLUDE_INSTR_DIR	Operations Agent の xpl config ネームスペースでの OPC_PERL_INCLUDE_INSTR_DIR の設定に使用されます。インフラストラクチャ SPI ポリシーでは値を TRUE に設定してください。	ノード情報テンプレート
Computer	SISystemDiscovery	ポリシー テンプレートは、ハードウェアリソース、オペレーティングシステムの属性、アプリケーションなどのサービス情報を管理対象ノードから収集します。	サービス自動検出テンプレート

OMi MP for Infrastructure アスペクトについての詳細は、OMi MP for Infrastructure Aspects Online Help を参照してください。

SAP アスペクト

SAP アスペクトは、SAP ランドスケープ内のアプリケーションおよびシステム操作の特定の機能を監視するために使用します。監視対象のシステムには、個別のシステムやクラスタ化されたシステムがあります。各 SAP アスペクトは、SAP システムの状況とパフォーマンスの監視に使用するポリシーテンプレート、インストールメンテーション、パラメータで構成されます。各アスペクトには、構成済みのアプリケーション サーバ CI を監視するための機能が備えられています。

SAP アスペクトのタイプ

OMi MP for SAP は、SAP 環境内の ABAP および Java スタックを監視するために次の 2 つのアスペクトセットで構成されています。

- SAP ABAP 監視: [「SAP ABAP アスペクト」\(156ページ\)](#)
- SAP J2EE 監視: [SAP J2EE アスペクト](#)

SAP アスペクトにアクセスする方法

1. [管理 テンプレート およびアスペクト] ペインを開きます。
BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理 テンプレート およびアスペクト] をクリックします。

OMi では、[管理] > [監視] > [管理 テンプレート およびアスペクト] をクリックします。
2. [構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] をクリックします。

タスク




OMi MP for SAP アスペクトをデプロイする方法

詳細については、「[タスク 6: SAP アスペクトのデプロイ](#)」(BSM) および「[タスク 6: SAP アスペクトのデプロイ](#)」(OMi) を参照してください。


OMi MP for SAP アスペクトを作成する方法

1. [管理 テンプレート およびアスペクト] ペインを開きます。


BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理 テンプレート およびアスペクト] をクリックします。

OMi では、[管理] > [監視] > [管理 テンプレート およびアスペクト] をクリックします。
2. [構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [ABAP アスペクト] をクリックします。
3. [管理 テンプレート およびアスペクト] ペインで、 をクリックしてから、 [アスペクトの作成] をクリックします。[新規アスペクトの追加] ダイアログ ボックスが開きます。
4. [一般] タブで、新しいアスペクトの名前を指定して [次へ] をクリックします。
5. [CI タイプ] タブで、[利用可能な CI タイプ] ペインからアスペクトに関連付ける CIT を 1 つ以上選択し、 をクリックして [割り当て対象の CI タイプ] ペインに追加し、[次へ] をクリックします。




注: 複数の CIT を選択する場合は、CTRL キーまたは SHIFT キーを使用してください。

6. [インストルメンテーション] タブで  [インストルメンテーションの追加] をクリックして、インストルメンテーション カテゴリをアスペクトに追加します。[インストルメンテーションの追加] ダイアログ ボックスが開き、追加するインストルメンテーションが一覧されます。インストルメンテーションを選択して [OK] をクリックします。[次へ] をクリックします。


注: 要件に基づいてインストルメンテーションを追加できます。インストルメンテーションをアスペクトに追加しない場合は、このステップをスキップできます。

7. **[アスペクト]** タブで、 **[既存アスペクトの追加]** をクリックします。[既存アスペクトの追加] ダイアログボックスが開き、アスペクト内に追加する既存アスペクトを選択できます。アスペクトをクリックし、**[OK]** をクリックします。複数のアスペクトを選択するには、**[Ctrl]** キーまたは **[Shift]** キーを使用します。**[次へ]** をクリックします。

注: アスペクト内に既存のアスペクトを追加する場合は、追加するアスペクトの CIT の少なくとも 1 つが CIT または既存のアスペクトの親 CIT である必要があります。

8. オプション: **[ポリシー テンプレート]** タブで、 **[ポリシー テンプレートの追加]** (BSM) または **[ポリシー テンプレートをリストから追加]** (OMi) をクリックします。**[ポリシー テンプレートをリストから追加]** ダイアログボックスが開きます。追加するポリシー テンプレートを選択し、**[OK]** をクリックします。
9. 適切なポリシー テンプレートがない場合は、次の手順を実行して新規のポリシー テンプレートを追加します。
 - a.  をクリックします。続いて、 **[新規ポリシー テンプレートの追加]** をクリックしてポリシー テンプレートを作成します。**[新規ポリシー テンプレートのタイプを選択]** ダイアログボックスが開きます。
 - b. **[タイプ]** ドロップダウン リストからタイプを選択して **[OK]** をクリックします。**[ポリシー 関連情報]** ダイアログボックスが開きます。
 - c. **[ポリシー 関連情報]** ダイアログボックスが開いたら、ポリシーに一意の名前を指定し、**[OK]** をクリックします。新規のポリシー テンプレートが追加されます。
10. **[次へ]** をクリックします。
11. **[パラメータ]** タブで、このアスペクトに追加したポリシー テンプレートにあるすべてのパラメータの一覧を参照できます。

パラメータを編集するには、次の手順を実行します。

- a. パラメータをダブルクリックするか、リストからパラメータを選択して、 **[編集]** をクリックします。**[パラメータの編集]** ダイアログボックスが開きます。
 - b. デフォルトのパラメータ値を変更して **[OK]** をクリックします。
12. **[新規アスペクトの追加]** ダイアログボックスで、**[完了]** をクリックしてアスペクトを保存します。新しいアスペクトが、**[管理テンプレートおよびアスペクト]** ペインに表示されます。

タスク

この項では以下のタスクについて説明します。

OMi MP for SAP アスペクトをデプロイする方法




OMi MP for SAP のデプロイの詳細は、「[タスク 6: SAP アスペクトのデプロイ](#)」(BSM) または「[タスク 6: SAP アスペクトのデプロイ](#)」(OMi) を参照してください。

OMi MP for SAP アスペクトを作成する方法


1. [管理 テンプレート およびアスペクト] ペインを開きます。

BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理 テンプレート およびアスペクト] をクリックします。

OMi では、[管理] > [監視] > [管理 テンプレート およびアスペクト] をクリックします。

2. [構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [ABAP アスペクト] をクリックします。
3. [管理 テンプレート およびアスペクト] ペインで、 をクリックしてから、 [アスペクトの作成] をクリックします。[新規アスペクトの追加] ダイアログ ボックスが開きます。
4. [一般] タブで、新しいアスペクトの名前を指定して [次へ] をクリックします。
5. [CI タイプ] タブで、[利用可能な CI タイプ] ペインからアスペクトに関連付ける CIT を 1 つ以上選択し、 をクリックして [割り当て対象の CI タイプ] ペインに追加し、[次へ] をクリックします。


注: 複数の CIT を選択する場合は、CTRL キーまたは SHIFT キーを使用してください。

6. [インストルメンテーション] タブで  [インストルメンテーションの追加] をクリックして、インストルメンテーション カテゴリをアスペクトに追加します。[インストルメンテーションの追加] ウィンドウが開き、追加するインストルメンテーションが一覧されます。インストルメンテーションを選択して [OK] をクリックします。[次へ] をクリックします。



注: 要件に基づいてインストルメンテーションを追加できます。インストルメンテーションをアスペクトに追加しない場合は、このステップをスキップできます。

7. オプション: [アスペクト] タブで、[既存アスペクトの追加] をクリックします。[既存アスペクトの追加] ダイアログ ボックスが開き、アスペクト内に追加する既存アスペクトを選択できます。アスペクトをクリックし、[OK] をクリックします。複数のアスペクトを選択するには、[Ctrl] キーまたは [Shift] キーを使用します。[次へ] をクリックします。

注: アスペクト内に既存のアスペクトを追加する場合は、追加するアスペクトの CIT の少なくとも 1 つが CIT または既存のアスペクトの親 CIT である必要があります。

8. オプション: [ポリシー テンプレート] タブで、 [ポリシー テンプレートの追加] (BSM) または [ポリシー テンプレートをリストから追加] (OMi) をクリックします。[新規ポリシー テンプレートをリストからアスペクトに追加] ダイアログ ボックスが開きます。追加するポリシー テンプレートを選択し、[OK] をクリックします。
9. 適切なポリシー テンプレートがない場合は、次の手順を実行して新規のポリシー テンプレートを追


加します。

- a.  をクリックします。続いて、 **[新規ポリシー テンプレートの追加]** をクリックしてポリシー テンプレートを作成します。[新規ポリシー テンプレートのタイプを選択] ダイアログ ボックスが開きます。
- b. **[タイプ]** ドロップダウン リストからタイプを選択して **[OK]** をクリックします。[ポリシー関連情報] ダイアログ ボックスが開きます。
- c. [ポリシー関連情報] ウィンドウが開いたら、ポリシーに一意の**[名前]**を指定し、**[OK]** をクリックします。新規のポリシー テンプレートが追加されます。

10. **[次へ]** をクリックします。

11. **[パラメータ]** タブで、このアスペクトに追加したポリシー テンプレートにあるすべてのパラメータの一覧を参照できます。

パラメータを編集するには、次の手順を実行します。

- a. パラメータをダブルクリックするか、リストからパラメータを選択して、 **[編集]** をクリックします。[パラメータの編集] ウィンドウが開きます。
- b. デフォルトのパラメータ値を変更して **[OK]** をクリックします。

12. [新規アスペクトの追加] ウィンドウで、**[完了]** をクリックしてアスペクトを保存します。新しいアスペクトが、[管理テンプレートおよびアスペクト] ペインに表示されます。

OMi MP for SAP アスペクトをデプロイする方法

詳細については、「[タスク 6: SAP アスペクトのデプロイ](#)」(BSM) または「[タスク 6: SAP アスペクトのデプロイ](#)」(OMi) を参照してください。

SAP ABAP アスペクト

SAP ABAP アスペクトは、SAP 環境内の ABAP アプリケーションおよびシステム処理を監視するのに使用します。これらのシステムには、個別のシステムやクラスタ化されたシステムがあります。各 SAP ABAP アスペクトは、SAP システムの状況とパフォーマンスの監視に使用するポリシー テンプレート、インストルメンテーション、パラメータで構成されます。各アスペクトには、Computer CI を監視するための機能が備えられています。

ユーザ インターフェイスの参照情報

一般	SAP アスペクトの一般的な属性情報の概要。
CI タイプ	アスペクトの割り当てが可能な構成アイテムのタイプ。これは、管理テンプレートの割り当てが可能な CI のタイプです。SAP アスペクトには、Computer および SAP ABAP Application Server の CI タイプが含まれます。

インストルメンテーション	検出、収集、データログのバイナリを含むシングルパッケージを提供します。
アスペクト	SAP のアスペクトに含まれるすべてのアスペクトの概要。リストの各項目を展開すると、ネストされたアスペクトの詳細を参照できます。SAP ベース アスペクトは、他のすべてのアスペクトの一部となっています。
ポリシー テンプレート	SAP アスペクトに含まれるポリシー テンプレートの概要。リストの各項目を展開して、ポリシー テンプレートの詳細を参照できます。

OMi MP for SAP には、ABAP アプリケーション サーバを監視するために次のアスペクトが含まれます。

SAP ABAP バッチ ジョブ状況

SAP システムで実行中のバッチ ジョブのステータスを監視してパフォーマンスを収集します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_BatJobMon	なし	定義された時間間隔を超過する SAP ABAP バッチ ジョブ、定義された時間間隔よりも前に終了する SAP ABAP バッチ ジョブ、およびスケジュールされた時刻に開始されない SAP ABAP バッチ ジョブを監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視 テンプレート

SAP ABAP ベース

SAP ABAP ランドスケープを監視するためのベース アスペクトで、構成、スケジューラ、ロガーを含みます。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_High	なし	選択したメトリックで SAP ABAP コレクタ/アナライザを 15 分ごとに実行します。	スケジュールされたタスク

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_Messages	なし	SAP MP メッセージ テンプレート (メッセージ インターセプタ用)。	オープン メッセージ インターフェイス
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_Low	なし	SAP ABAP コレクタ/アナライザを Low スケジュールで実行します。	スケジュールされたタスク
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_Medium	なし	SAP ABAP コレクタ/アナライザを Medium スケジュールで実行します。	スケジュールされたタスク
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_VeryHigh	なし	SAP ABAP コレクタ/アナライザを VeryHigh スケジュールで実行します。	スケジュールされたタスク

SAP ABAP 設定

SAP ABAP アプリケーション サーバ CI に対する設定情報を収集します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_Configuration	なし	SAP ABAP 構成の詳細。	ConfigFile

SAP ABAP 移送/修正システム ステータス

SAP 移送/修正システムの各種パラメータを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_CTSMon	なし	SAP 移送/修正システムで各種移送要求、タスク、オブジェクトを監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視テンプレート

SAP ABAP 検出

SAP ランドスケープ内の各種 ABAP インスタンスを検出します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
Computer	SAPABAP_Discovery	なし	SAP ABAP 検出ポリシー。	サービス自動検出

SAP ABAP ダンプ ステータス

SAP ABAP 環境で実行時エラーを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_DmpMon	なし	SAP ABAP システム上で発生する実行時エラーを監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視テンプレート

SAP ABAP Idoc ステータス

受信および送信 Idoc のステータスを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_IdocStatusMon	なし	SAP ABAP システム上の各種 Idoc の現在のステータスを監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視テンプレート

SAP ABAP ロック ステータス

SAP システムでデータベースロックを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_LckChkMon	なし	各種 SAP トランザクションおよび SAP レポート用の SAP ABAP 論理ロックを管理するエンキュープロセスを監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視 テンプレート

SAP ABAP パフォーマンス モニタ

Oracle データベース、ドキュメント統計、エンタープライズ ポータル、ICM 統計、バッチ ジョブ、バッファ、メモリ、スプール、更新ジョブ、ユーザ、統計レコード、ワークロード統計、およびワークプロセスに関する SAP パフォーマンス メトリックを収集します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_StatRecMon	なし	SAP ABAP 統計レコード パフォーマンス モニタに対する SAP トランザクションを指定するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視 テンプレート
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_PerfMon	なし	各種 SAP MP パフォーマンス モニタから SAP パフォーマンス メトリックを収集するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視 テンプレート

SAP ABAP プロセスおよびディスパッチャ ステータス

各種 SAP ワークプロセスおよび ABAP ディスパッチャのステータスを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_ProcMon	なし	SAP ABAP プロセスの数を監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視 テンプレート
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_DispatchMon	なし	さまざまなタイプの SAP ワークプロセスに対する各種キューのサイズ、内容、ステータスを監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視 テンプレート

SAP ABAP RFC 宛先ステータス

失敗した SAP RFC 宛先を監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_RFCDestMon	なし	SAP RFC 宛先の接続タイプや名前に基づいて失敗した SAP RFC 宛先を監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視 テンプレート

SAP ABAP リモート設定

SAP ABAP のリモート監視対象ノードの設定入力です。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
Computer	SAPABAP_RemoteDiscovery	なし	SAP システムおよびインスタンス番号とともに SAP ABAP リモートノードを検出します。	サービス自動検出
Computer	SAPABAP_RemoteConfiguration	なし	SAP ABAP リモート構成の詳細。	ConfigFile

SAP ABAP セキュリティ ステータス

重要な SAP ユーザ、SAP システム パラメータ、セキュリティ イベントのセキュリティ ステータスを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_SecMon	なし	SAP 全体に影響を及ぼす、主要な SAP ユーザの権限や認可などの SAP ABAP セキュリティ パラメータを監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視 テンプレート

SAP ABAP スプール 状況

SAP システム内の各種 スプール要求のステータスを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_SplMon	なし	SAP ABAP スプーラ エントリ、エラーになった スプール要求、印刷要求の誤った スプーラ エントリの数を監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視 テンプレート

SAP ABAP システム変更オプション ステータス

SAP システム変更オプションを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_SysChgOptMon	なし	グローバル編集ステータスフラグ、名前空間、およびソフトウェアコンポーネントに基づいて SAP ABAP システム変更オプションを監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視テンプレート

SAP ABAP 移送ステータス

SAP システムで移送のインポート/エクスポートのステータスを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_TransMon	なし	正常にインポート/エクスポートされた SAP ABAP 移送、失敗したインポート/エクスポート、確認済み/未確認の修復の可用性、設定システムとの接続/TP テストを監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視テンプレート

SAP ABAP 更新タスク状況

SAP システム上で実行されている更新タスクのステータスを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_UpdProcMon	なし	非アクティブ状態やエラーなどの SAP ABAP 更新プロセスの状態を監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視テンプレート

SAP ABAP ユーザ状況

ログインしているユーザのステータスを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_UsrMon	なし	SAP ABAP のログインしているユーザを監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視 テンプレート

SAP ABAP ワークプロセス状況

SAP ワークプロセスのステータスを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_WPMon	なし	実行中のワークプロセスや待機中のワークプロセスを監視し、Debug/Private/No Restart などのワークプロセスの各種ステータスを確認するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視 テンプレート

SAP CCMS 統合

SAP CCMS モニタセットの出力を監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_CCMSIntegrationMon	なし	SAP CCMS 監視 インフラストラクチャの出力を監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視 テンプレート

SAP システム状況

SAP システムの可用性ステータスとトレースファイル/ログファイルのステータスを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_TraceMon	なし	すべての SAP トレース ファイルと ログ ファイルで "ERROR" を監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視 テンプレート
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_StatusMon	なし	SAP ABAP アプリケーション サーバの可用性 ステータスを監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視 テンプレート

SAP 一時シーケンシャル ファイル監視

一時シーケンシャルオブジェクトの不整合を監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapAbapApplicationServer	SAPABAP_TempSeqFileMon	なし	SAP ABAP の一時順次オブジェクトで見つかった不整合を監視するための設定ファイル。	SAP ABAP 監視 テンプレート

SAP J2EE アスペクト

SAP J2EE アスペクトは、SAP ランドスケープ内の Java アプリケーションおよびシステム処理を監視するのに使用します。監視対象のシステムには、個別のシステムやクラスタ化されたシステムがあります。各 SAP J2EE アスペクトは、SAP システムの状況とパフォーマンスの監視に使用するポリシー テンプレート、インストルメンテーション、パラメータで構成されます。各アスペクトを使用すると、Computer CI を監視できます。

ユーザ インターフェイスの参照情報

一般	SAP アスペクトの一般的な属性情報の概要。
CI タイプ	アスペクトの割り当てが可能な構成アイテムのタイプ。これは、管理テンプレートの割り当てが可能な CI のタイプです。SAP アスペクトには、Computer および SAP J2EE Application Server の CI タイプが含まれます。

インストルメンテーション	検出、収集、データログのバイナリを含むパッケージを提供します。
アスペクト	SAP アスペクトの概要です。リストの各項目を展開すると、アスペクトの詳細を参照できます。SAP ベースアスペクトは、他のすべてのアスペクトの一部となっています。
ポリシー テンプレート	SAP アスペクトに含まれるポリシーテンプレートの概要。リストの各項目を展開して、ポリシーテンプレートの詳細を参照できます。

OMi MP for SAP には、J2EE アプリケーション サーバを監視するために次のアスペクトが含まれます。

SAP J2EE ベース

SAP ランドスケープを監視するためのベースアスペクトで、設定、スケジューラ、ロガーを含みます。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_VeryHigh	なし	SAP J2EE コレクタ/アナライザを VeryHigh スケジュールごとに行います。	スケジュールされたタスク
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_Low	なし	SAP J2EE コレクタ/アナライザを Low スケジュールごとに行います。	スケジュールされたタスク
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_Medium	なし	SAP J2EE コレクタ/アナライザを Medium スケジュールごとに行います。	スケジュールされたタスク
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_High	なし	選択したメトリックで SAP J2EE コレクタ/アナライザを 15 分ごとに実行します。	スケジュールされたタスク
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_Messages	なし	SAP MP メッセージ テンプレート (メッセージ インターセプタ用)。	オープン メッセージ インターフェイス

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_NWStatus	なし	SAP J2EE アプリケーション サーバのステータスと可用性。	スケジュールされたタスク

SAP J2EE アプリケーション スレッド プール パフォーマンス

SAP J2EE システムのアプリケーション スレッド プールのパフォーマンスを監視します。このアスペクトは SAP のバージョンによって異なるメトリックをサポートします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0226	なし	スレッド プールの最小サイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0219	ApplicationThreadPoolUtilization: 高 / ApplicationThreadPoolUtilization: 正常域	アプリケーション スレッド プール - スレッド プールの使用率	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0229	なし	待機中のタスクキュー オーバーフロー。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0031	なし	アプリケーション スレッド プールの最大サイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0227	ApplicationThreadPoolUtilization: 高 / ApplicationThreadPoolUtilization: 正常域	アプリケーション スレッド プール - スレッド プールの収容率	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0221	なし	アクティブなスレッド数。	ConfigFile

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0034	なし	アクティブなアプリケーションスレッド プールサイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0033	なし	現在のアプリケーションスレッド プールサイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0036	なし	アプリケーションスレッドプールの待機中のタスクキュー サイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0032	なし	初期のアプリケーションスレッド プールサイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0223	なし	初期のスレッド プールサイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0225	なし	待機中のタスクキューの最大サイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0220	ApplicationThreadPoolUtilization: 高 / ApplicationThreadPoolUtilization: 正常域	アプリケーションスレッド プール-待機中のタスクの使用率	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0228	なし	待機中のタスク数。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0222	なし	現在のスレッド プールサイズ。	ConfigFile

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0224	なし	スレッド プールの最大サイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0218	ApplicationThreadPoolUtilization: 高 / ApplicationThreadPoolUtilization: 正常域	アプリケーションスレッドプール-使用率	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0030	なし	アプリケーションスレッドプールの最小サイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0035	なし	アプリケーションスレッドプールの待機中のタスク数。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0037	なし	アプリケーションスレッドプールの待機中のタスクキューオーバーフロー。	ConfigFile

SAP J2EE クラスタ マネージャ - メッセージ サーバ通信レイヤ パフォーマンス

クラスタ マネージャでメッセージ サーバの通信レイヤを監視します。このアスペクトは SAP のバージョンによって異なるメトリックをサポートします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0066	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて設定マネージャから受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0230	なし	メッセージ処理時間の平均	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0081	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じてデプロイメント サービスから受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0041	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じてキャッシュマネージャから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0062	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて Servlet JSP サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0038	なし	J2EE クラスタの現在のメッセージ コンテキストのプール サイズ	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0051	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて Telnet サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0071	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて IIOP ポートから受信した合計バイト数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0053	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて JMS プロバイダから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0069	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じてサービスマネージャの内部接続から受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0045	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて IIOP ポートから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0087	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて Web Dynpro サービスから受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0057	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じてコネクタ サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0074	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて Web サービスから受信した合計バイト数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0070	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて P4 ポートから受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0084	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて指定されたサービスから受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0043	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じてサービスマネージャの内部接続から送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0078	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて JMX サービスから受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0047	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じてシェル サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0076	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて JMX 通知 サービスから受信した合計バイト数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0086	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じてセキュリティ サービスから受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0083	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じてコネクタ サービスから受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0050	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて JMX 通知 サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0079	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて JMS プロバイダから受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0056	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じてネーミング サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0085	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて SAP セキュリティコア ユーザ管理エンジン サービスから受信した合計バイト数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0068	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じてサービス マネージャのデプロイメント ディストリビュータから受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0088	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて Servlet JSP サービスから受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0080	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて HTTP ポートから受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0072	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて SLD サービスから受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0042	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じてサービス マネージャのデプロイメント ディストリビュータから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0054	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて HTTP ポートから送信された合計バイト数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0075	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて Log Configurator から受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0089	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて RFC エンジン サービスから受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0049	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて Log Configurator から送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0044	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて P4 ポートから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0040	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて設定マネージャから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0090	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じてアプリケーショントレース サービスから受信した合計バイト数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0060	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じてセキュリティ サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0055	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じてデプロイメント サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0048	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて Web サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0061	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて Web Dynpro サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0059	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて SAP セキュリティコア ユーザ管理エンジン サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0067	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じてキャッシュマネージャから受信した合計バイト数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0052	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて JMX サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0058	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて指定されたサービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0046	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて SLD サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0091	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて PRTBridge サービスから受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0082	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じてネーミング サービスから受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0073	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じてシェル サービスから受信した合計バイト数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0077	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて Telnet サービスから受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0065	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて PRTBridge サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0064	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じてアプリケーションコントロールサービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0039	なし	J2EE クラスタのメッセージ コンテキストの処理時間の平均	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0063	なし	メッセージ サーバの通信レイヤを通じて RFC エンジン サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値

SAP J2EE クラスタ マネージャ - セッション通信レイヤ パフォーマンス

クラスタ マネージャでセッション通信レイヤを監視します。このアスペクトは SAP のバージョンによって異なるメトリックをサポートします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0106	なし	セッション通信レイヤを通じて IIOP サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0096	なし	セッション通信レイヤ内の HTTP メッセージ キューの現在のサイズ	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0104	なし	セッション通信レイヤを通じて JMS プロバイダ サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0103	なし	セッション通信レイヤを通じて HTTP サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0111	なし	セッション通信レイヤを通じて JMS プロバイダ サービスから受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0097	なし	セッション通信レイヤ内の JMS プロバイダ メッセージ キューの現在のサイズ	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0109	なし	セッション通信レイヤを通じて Telnet サービスから受信した合計バイト数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0110	なし	セッション通信レイヤを通じて HTTP サービスから受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0231	なし	セッション処理時間の平均	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0095	なし	セッション通信レイヤ内の Telnet メッセージキューの現在のサイズ	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0102	なし	セッション通信レイヤを通じて Telnet サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0105	なし	セッション通信レイヤを通じて Web サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0094	なし	セッション通信レイヤ内の内部メッセージキューの現在のサイズ	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0092	なし	セッションキューの最大サイズ	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0100	なし	セッション通信レイヤを通じて P4 ポート サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0093	なし	セッション通信レイヤ内の P4 メッセージキューの現在のサイズ	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0098	なし	セッション通信レイヤ内の Web サービスメッセージ キューの現在のサイズ	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0108	なし	セッション通信レイヤを通じて内部 サービスから受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0101	なし	セッション通信レイヤを通じて内部 サービスから送信された合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0099	なし	セッション通信レイヤ内の IIOP メッセージ キューの現在のサイズ	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0113	なし	セッション通信レイヤを通じて IIOP サービスから受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0107	なし	セッション通信レイヤを通じて P4 ポート サービスから受信した合計バイト数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0112	なし	セッション通信レイヤを通じて Web サービスから受信した合計バイト数	測定値しきい値

SAP J2EE 構成

J2EE アプリケーション サーバ CI に対する設定を収集します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_Configuration	なし	SAP J2EE 構成の詳細。	ConfigFile

SAP J2EE 設定 マネージャおよびクラス ローダ パフォーマンス

設定 マネージャのキャッシュヒット率とコミット期間のパラメータおよびクラス ローダ数を監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0002	なし	コミット期間	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0233	CacheHitRate: 高 / CacheHitRate: 正常域	設定 マネージャ - キャッシュヒット率	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0234	なし	設定 マネージャ - コミット期間	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0232	なし	クラス ローダ数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0001	CacheHitRate: 高 / CacheHitRate: 正常域、CacheHitRate: 高 / CacheHitRate: 正常域	キャッシュヒット率	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0012	なし	クラス ローダ数	測定値しきい値

SAP J2EE 接続 マニピュレータ パフォーマンス

接続 マニピュレータの各種ポートでの接続数を監視します。このアスペクトは SAP バージョン 7.0 および SAP 7.0x のみをサポートします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0021	なし	接続 マニピュレータの可能な最大接続数 (ディスパッチャ)。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0015	なし	接続 マニピュレータの P4 接続数 (ディスパッチャ)。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0016	なし	接続 マニピュレータの IIOP 接続数 (ディスパッチャ)。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0020	なし	接続 マニピュレータのプール内の空き接続数 (ディスパッチャ)。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0013	なし	接続 マニピュレータの接続数の合計 (ディスパッチャ)。	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0018	なし	接続 マニピュレータの Telnet 接続数 (ディスパッチャ)。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0014	なし	接続 マニピュレータの HTTP 接続数 (ディスパッチャ)。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0017	なし	接続 マニピュレータの JMS 接続数 (ディスパッチャ)。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0019	なし	接続 マニピュレータのその他の接続数 (ディスパッチャ)。	ConfigFile

SAP J2EE コネクタ サービス パフォーマンス

各種リソースアダプタの管理対象接続を監視します。このアスペクトは SAP バージョン 7.0 および SAP 7.0x のみをサポートします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2116	なし	ADS リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2063	なし	SAP/BC_FO リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2077	なし	SAP/CAF_EUP_ER リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2093	なし	SAP/BC_SLM リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2127	なし	SDK_SAPQ リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2075	なし	SAP/CAF_EUP_ER リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2021	なし	SAPSR3DB リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2131	なし	SDK_XMLA リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2040	なし	SAP/CAF_RT リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2128	なし	SDK_SAPQ リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2092	なし	SAP/BC_SLM リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2130	なし	SDK_SAPQ リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2028	なし	SAP/BC_MIGSERVICE リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2024	なし	SAP/EP_PRT リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2129	なし	SDK_SAPQ リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2094	なし	SAP/BC_SLM リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2096	なし	SAP/LOCAL_MAINFRAME_POOL リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2115	なし	ADS リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2103	なし	SAP/BC_JDO リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2039	なし	SAP/CAF_RT リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2110	なし	SAP/BC_UDDI リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2109	なし	SAP/BC_UDDI リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2126	なし	SDK_CAF リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2053	なし	SAP/CAF/EU P_GP/MAIL_CF リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2056	なし	SAP/BC_UME リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2105	なし	SAP/BC_JDO リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2023	なし	SAP/EP_PRT リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2135	なし	SDK_ODBO リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2133	なし	SDK_XMLA リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2068	なし	SAP/BC_XMLA リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2120	なし	SDK_JDBC リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2019	なし	SAPSR3DB リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2027	なし	SAP/BC_MIGSERVICE リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2091	なし	SAP/BC_SLM リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2104	なし	SAP/BC_JDO リソース アダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2035	なし	SAP/BC_WDRR リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2038	なし	SAP/BC_WDRR リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2044	なし	SAP/BW_MMR リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2042	なし	SAP/CAF_RT リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2034	なし	SAP/CAF_EUP_GP リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2138	なし	SDK_ODBO リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2049	なし	SAP/EP_DQE リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2051	なし	SAP/CAF/EU P_GP/MAIL_CF リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2057	なし	SAP/BC_UME リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2052	なし	SAP/CAF/EU P_GP/MAIL_CF リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2085	なし	SAP/BC_ADM リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2025	なし	SAP/EP_PRT リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2061	なし	SAP/BC_JMS リソース アダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2098	なし	SAP/LOCAL_MAINFRAME_POOL リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2108	なし	SAP/BC_UDDI リソース アダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2066	なし	SAP/BC_FO リソース アダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2058	なし	SAP/BC_UME リソース アダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2050	なし	SAP/EP_DQE リソース アダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2113	なし	UTDB リソース アダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2031	なし	SAP/CAF_EUP_GP リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2132	なし	SDK_XMLA リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2036	なし	SAP/BC_WDRR リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2082	なし	SAP/EP_PCD リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2100	なし	SAP/BC_SLD リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2074	なし	SAP/BC_MON リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2073	なし	SAP/BC_MON リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2043	なし	SAP/BW_MMR リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2055	なし	SAP/BC_UME リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2102	なし	SAP/BC_SLD リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2097	なし	SAP/LOCAL_MAINFRAME_POOL リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2095	なし	SAP/LOCAL_MAINFRAME_POOL リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2121	なし	SDK_JDBC リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2125	なし	SDK_CAF リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2048	なし	SAP/EP_DQE リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2122	なし	SDK_JDBC リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2020	なし	SAPSR3DB リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2029	なし	SAP/BC_MIGSERVICE リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2076	なし	SAP/CAF_EUP_ER リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2047	なし	SAP/EP_DQE リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2037	なし	SAP/BC_WDRR リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2032	なし	SAP/CAF_EUP_GP リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2078	なし	SAP/CAF_EUP_ER リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2088	なし	SAP/CAF_BW_RT リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2041	なし	SAP/CAF_RT リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2124	なし	SDK_CAF リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2080	なし	SAP/EP_PCD リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2112	なし	UTDB リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2062	なし	SAP/BC_JMS リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2123	なし	SDK_CAF リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2099	なし	SAP/BC_SLD リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2059	なし	SAP/BC_JMS リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2054	なし	SAP/CAF/EUP_GP/MAIL_CF リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2106	なし	SAP/BC_JDO リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2046	なし	SAP/BW_MMR リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2111	なし	UTDB リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2136	なし	SDK_ODBO リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2134	なし	SDK_XMLA リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2119	なし	SDK_JDBC リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2030	なし	SAP/BC_MIGSERVICE リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2071	なし	SAP/BC_MON リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2060	なし	SAP/BC_JMS リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2064	なし	SAP/BC_FO リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2026	なし	SAP/EP_PRT リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2084	なし	SAP/BC_ADM リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2118	なし	ADS リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2069	なし	SAP/BC_XMLA リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2065	なし	SAP/BC_FO リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2067	なし	SAP/BC_XMLA リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2045	なし	SAP/BW_MMR リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2033	なし	SAP/CAF_EUP_GP リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2101	なし	SAP/BC_SLD リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2070	なし	SAP/BC_XMLA リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2022	なし	SAPSR3DB リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2079	なし	SAP/EP_PCD リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2081	なし	SAP/EP_PCD リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2137	なし	SDK_ODBO リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2090	なし	SAP/CAF_BW_RT リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2086	なし	SAP/BC_ADM リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2114	なし	UTDB リソースアダプタでのプールされた管理対象接続を待機中のクライアント数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2089	なし	SAP/CAF_BW_RT リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2072	なし	SAP/BC_MON リソースアダプタでの管理対象接続の空き数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2107	なし	SAP/BC_UDDI リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2117	なし	ADS リソースアダプタでの管理対象接続の使用数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2087	なし	SAP/CAF_BW_RT リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2083	なし	SAP/BC_ADM リソースアダプタでの同時に開かれている管理対象接続の最大数	測定値しきい値

SAP J2EE 検出

SAP ランドスケープ内の各種 Java インスタンスを検出します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
Computer	SAPJ2EE_Discovery	なし	SAPMP J2EE 検出ポリシー。	サービス自動検出

SAP J2EE EJB パフォーマンス

セッションステートフル Bean、ステートレス Bean、メッセージ駆動型 Bean、エンティティ Bean のパフォーマンスを監視します。このアスペクトは SAP バージョン 7.0 および SAP 7.0x のみをサポートします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2159	なし	プール内に作成される初期の Bean インスタンスの数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2151	なし	このプールで保持できる Bean インスタンスの数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2164	なし	アプリケーションで現在使用されているかプール内に格納されている、このプールによって提供される Bean インスタンスの数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2147	なし	Bean インスタンスがアクティベートされた回数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2146	なし	Bean インスタンスがリパッシブートされた回数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2169	なし	Bean インスタンスがリパッシブートされた回数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2148	なし	Bean が作成された回数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2167	なし	新しいインスタンスが要求され、プール内にアイドル状態のインスタンスが存在しないときに、プール内のインスタンスの合計数が増加する数。この要素の値は正の数である必要があります。	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2157	なし	アプリケーションで現在使用されているかプール内に格納されている、このプールによって提供される Bean インスタンスの数。	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2161	なし	このアプリケーションで現在使用されている、このプールによって提供される Bean インスタンスの数。	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2142	なし	現在 パッシブ化されている Bean セッションの数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2154	なし	このアプリケーションで現在使用されている、このプールによって提供される Bean インスタンスの数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2170	なし	Bean インスタンスがアクティベートされた回数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2139	なし	アイドル状態のアクティブ セッションがリパッシブされるまでの時間 (秒)	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2166	なし	プール内に作成される初期の Bean インスタンスの数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2155	なし	Bean が作成された回数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2163	なし	Bean および Bean セッションが削除された回数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2149	なし	Bean および Bean セッションが削除された回数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2165	なし	このプールで保持できる Bean インスタンスの数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2145	なし	Bean および Bean セッションが削除された回数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2140	なし	Bean がパッシブにされてから、EJB コンテナによりセッション Bean のインスタンスがスワップから消去され、セッションが破棄されるまでの時間 (秒)。	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2158	なし	このプールで保持できる Bean インスタンスの数。	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2168	なし	このアプリケーションで現在使用されている、このプールによって提供される Bean インスタンスの数。	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2150	なし	アプリケーションで現在使用されているかプール内に格納されている、このプールによって提供される Bean インスタンスの数。	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2152	なし	プール内に作成される初期の Bean インスタンスの数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2143	なし	完了したセッション数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2141	なし	アクティブな Bean セッションの数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2156	なし	Bean および Bean セッションが削除された回数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2153	なし	新しいインスタンスが要求され、プール内にアイドル状態のインスタンスが存在しないときに、プール内のインスタンスの合計数が増加する数。この要素の値は正の数である必要があります。	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2162	なし	Bean が作成された回数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2160	なし	新しいインスタンスが要求され、プール内にアイドル状態のインスタンスが存在しないときに、プール内のインスタンスの合計数が増加する数。この要素の値は正の数である必要があります。	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2144	なし	Bean が作成された回数。	測定値しきい値

SAP J2EE Http プロバイダ パフォーマンス

HTTP プロバイダでの要求のパフォーマンスを監視します。このアスペクトは SAP のバージョンによって異なるメトリックをサポートします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2014	なし	HTTP プロバイダでのオープン接続の要求スキップ数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2215	なし	すべての要求数	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2216	なし	HTTP プロバイダ - アクティブなスレッド数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2018	なし	HTTP プロバイダの要求応答時間の平均	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2186	なし	HTTP プロバイダのすべての要求数の合計	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2017	なし	HTTP プロバイダの要求数の合計	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2217	なし	HTTP プロバイダ - スレッド インプロセス率	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2012	なし	HTTP プロバイダでのオープン接続の要求読み取り数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2011	なし	HTTP プロバイダのオープン接続数の合計	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2013	なし	HTTP プロバイダでのオープン接続の応答読み取り数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2016	なし	HTTP プロバイダの接続あたりの要求数の平均	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2015	なし	HTTP プロバイダのキープアライブ待機接続数	測定値しきい値

SAP J2EE JMS パフォーマンス

JMS セッション コンテナを監視します。このアスペクトは SAP 7.1 以降のバージョンをサポートします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2207	なし	JMS セッション コンテナ - 接続数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2208	なし	JMS セッション コンテナ - コンシューマの数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2209	なし	JMS セッション コンテナ - プロデューサの数	測定値しきい値

SAP J2EE JMX アダプタ パフォーマンス

JMX アダプタ プロトコルを監視します。このアスペクトは SAP のバージョンによって異なるメトリックをサポートします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2229	なし	JMX アダプタ - JMX アダプタのローカル MBean リポジトリのサイズ	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2001	なし	JMX アダプタ キャッシュ内の最大エントリ数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2228	なし	JMX アダプタ-クラスタワイド通知リスナ	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2006	なし	JMX アダプタの通知キュー内のアクティブなスレッド数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2002	なし	JMX アダプタキャッシュ内の現在のエンタリ数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2003	なし	JMX アダプタキャッシュ内の置換済みエンタリ数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2004	なし	JMX アダプタのキャッシュヒット率	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2005	なし	JMX アダプタの通知キューサイズ	測定値しきい値

SAP J2EE JNDI レジストリ ステータス

JNDI レジストリを監視します。このアスペクトは SAP 7.1 以降のバージョンをサポートします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2231	なし	JNDI レジストリ-バイト アレイのキャッシュ サイズ	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2230	なし	JNDI レジストリ-バインドされたオブジェクトの数	測定値しきい値

SAP J2EE Log Configurator パフォーマンス

Log Configurator のログ ファイル サイズとメッセージのステータスを監視します。このアスペクトは SAP のバージョンによって異なるメトリックをサポートします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2213	なし	Log Configurator のエラーメッセージの数。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2211	なし	Log Configurator のログ記録されたすべてのメッセージの数。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2007	なし	Log Configurator のログファイルサイズの合計。	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2210	なし	Log Configurator - ログファイルサイズの合計。	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2214	なし	Log Configurator の致命的メッセージの数。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2212	なし	Log Configurator の警告メッセージの数。	ConfigFile

SAP J2EE メモリ ステータス

J2EE メモリのステータスとSAP システムのタイムアウト パラメータを監視します。このアスペクトは SAP のバージョンによって異なるメトリックをサポートします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2010	なし	使用済みメモリ。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2201	なし	割り当て済みメモリ。	ConfigFile

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2203	なし	使用済みメモリ。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2202	なし	空きメモリ。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2008	なし	割り当て済みメモリ。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2204	なし	タイムアウト - 1 分あたりの推定頻度	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2009	なし	空きメモリ。	ConfigFile

SAP J2EE P4 および IIOP プロバイダ パフォーマンス

P4 および IIOP サービス プロバイダのパフォーマンスを監視します。このアスペクトは SAP のバージョンによって異なるメトリックをサポートします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2227	なし	IIOP プロバイダ - スレッド使用率	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2218	なし	P4 プロバイダ - 要求失敗数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2219	なし	P4 プロバイダ - スレッド使用率	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2220	なし	RequestsCounter。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2185	なし	P4 プロバイダの要求数。	ConfigFile

SAP J2EE ポート マネージャ パフォーマンス

各種ポートの許容スレッド使用率を監視します。このアスペクトは SAP バージョン 7.0 および SAP 7.0x のみをサポートします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0007	なし	P4 ポートの許容スレッド使用率。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0006	なし	IIOP (SSL) ポートの許容スレッド使用率。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0011	なし	JMS プロバイダの許容スレッド使用率。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0009	なし	P4 (SSL) ポートの許容スレッド使用率。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0005	なし	IIOP ポートの許容スレッド使用率。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0003	なし	HTTP ポートの許容スレッド使用率。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0010	なし	Telnet の許容スレッド使用率。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0004	なし	HTTP (SSL) ポートの許容スレッド使用率。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0008	なし	P4 (HTTP トンネリング) ポートの許容スレッド使用率。	ConfigFile

SAP J2EE セッション マネージャ パフォーマンス

セッションおよびセッション集計データのステータスとパフォーマンスを監視します。このアスペクトは SAP のバージョンによって異なるメトリックをサポートします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_2232	UnsuccessfulLogonAttemptsRate: 高 / UnsuccessfulLogonAttemptsRate: 正常域	セキュリティ-失敗したログオン試行回数。	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_2182	なし	セキュリティサーバのタイムアウトしたセッション数。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0204	なし	セッションマネージャ-アクティブな Web セッション数。	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_2184	なし	セキュリティサーバのログオフ済みセッション数。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0202	なし	開いている Web セッション数。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_2180	なし	セキュリティサーバのアクティブなセッション数。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_2183	なし	セキュリティサーバの無効なセッション数。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_2181	なし	セキュリティサーバのセッション数の合計。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0205	なし	セッションマネージャ-ログインしているユーザ数。	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0201	なし	開いているセキュリティセッション数。	ConfigFile
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_0203	なし	開いている EJB セッション数。	ConfigFile

SAP J2EE システム スレッド プール パフォーマンス

Java アプリケーション応答時間測定要求のパフォーマンスを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0215	SystemThreadPoolUtilization: 高 / SystemThreadPoolUtilization: 正常域	システム スレッド プール-スレッド プールの収容率。	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0024	なし	初期のシステムスレッド プールサイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0027	なし	システム スレッド プールの待機中のタスク数。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0028	なし	システム スレッド プールの待機中のタスクキュー サイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0025	なし	現在のシステムスレッド プールサイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0214	なし	スレッド プールの最小サイズ。	ConfigFile

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0022	なし	システム スレッド プールの最小サイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0208	なし	システム スレッド プール- 待機中のタスクの使用率。	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0206	SystemThreadPoolUtilization: 高 / SystemThreadPoolUtilization: 正常域	システム スレッド プール- 使用率。	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0207	なし	システム スレッド プール- スレッド プールの使用率。	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0211	なし	初期のスレッド プールサイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0023	なし	システム スレッド プールの最大サイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0029	なし	システム スレッド プールの待機中のタスク キュー オーバーフロー。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0209	なし	アクティブなスレッド数。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0026	なし	システム スレッド プールのアクティブ スレッド数。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0212	なし	スレッド プールの最大サイズ。	ConfigFile

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0213	なし	待機中のタスクキューの最大サイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0217	なし	待機中のタスクキューオーバーフロー。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0210	なし	現在のスレッドプールサイズ。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_0216	なし	待機中のタスク数。	ConfigFile

SAP J2EE トランザクション ステータス

各種トランザクションのステータスを監視します。このアスペクトは SAP 7.1 以降のバージョンをサポートしません。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2221	なし	CommittedTransactionsCount。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2223	なし	RolledBackTransactionsCount。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2224	なし	SuspendedTransactionsCount。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2222	なし	OpenTransactionsCount。	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2226	J2EETransactionSuccessRate: 低 / J2EETransactionSuccessRate: 正常域	トランザクション - 成功率	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2225	なし	TimedOutTransactionsCount。	ConfigFile

SAP J2EE Web コンテナ パフォーマンス

Web コンテナのパフォーマンスを監視します。このアスペクトは SAP のバージョンによって異なるメトリックをサポートします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2188	なし	Web コンテナ内の現在のセキュリティセッション数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2190	なし	Web コンテナ内のタイムアウトしたセキュリティセッション数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2189	なし	Web コンテナ内のタイムアウトした HTTP セッション数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2187	なし	Web コンテナ内の現在の HTTP セッション数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2206	なし	AllRequestsCount	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2191	なし	Web コンテナ内のすべての要求数の合計	ConfigFile
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2205	なし	Web コンテナ - 処理時間の平均	測定値しきい値

SAP J2EE Web サービス パフォーマンス

各種 サービスに対する要求のパフォーマンスを監視します。このアスペクトは SAP バージョン 7.0 および SAP 7.0x のみをサポートします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2172	なし	何らかの理由で失敗した要求数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2175	なし	サービスの実装時間	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2178	なし	サービスの実装時間	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2174	なし	サービスの前 処理時間	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2179	なし	サービスの後 処理時間	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2177	なし	サービスの前 処理時間	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2171	なし	要求成功数	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2176	なし	サービスの後 処理時間	測定値しきい値
SapJ2eeApplicationServer	SAPJ2EE_2173	なし	現在処理済み の要求数	測定値しきい値

SAP JARM 要求 パフォーマンス

Java アプリケーション応答時間測定要求のパフォーマンスを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_4001	なし	JARM 要求数	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_4005	JARMRequestsAverageCPUtime: 高 / JARMRequestsAverageCPUtime: 正常域	JARM 要求に対する CPU 時間の平均	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_4206	なし	要求数	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_4002	なし	1 秒あたりの JARM 要求数	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_4003	なし	すべての JARM 要求によるコンポーネント呼び出し数	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_4004	JARMRequestsAverageResponseTime: 高 / JARMRequestsAverageResponseTime: 正常域	JARM 要求の応答時間の平均	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_4205	なし	コンポーネント呼び出し数	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_4201	JARMRequestsAverageResponseTime: 高 / JARMRequestsAverageResponseTime: 正常域	J2EE エンジンの応答時間の平均	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_4204	なし	送信データの平均	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_4202	なし	1 秒あたりの要求数	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_4006	なし	JARM 要求に対する送信データの平均	測定値しきい値
SapJ2eeApplication Server	SAPJ2EE_4203	JARMRequestsAverageCPUTime: 高 / JARMRequestsAverageCPUTime: 正常域	CPU 時間の平均	測定値しきい値

SAP ABAP 監視テンプレート

OMi MP for SAP では、一連の SAP ABAP 監視テンプレートが SAP 環境内の ABAP アプリケーションサーバのさまざまなアспектに関する情報を定期的に収集する間隔を設定できます。

OMi MP for SAP では、監視要件に合わせて SAP ABAP 監視テンプレートを大きくカスタマイズできます。SAP ABAP 監視テンプレートを使用して、ABAP アプリケーションサーバの一連の機能を監視できます。キーワードを設定すれば、特定の機能を監視することもできます。

OMi MP for SAP に付属している各監視テンプレートには、キーワードを使用したデフォルト設定があります。一部のキーワードは、特定の SAP ABAP 監視テンプレートでのみ使用できます。

SAP ABAP 監視テンプレートにアクセスする方法

1. SAP ABAP 監視テンプレートを開きます。

BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [ポリシー テンプレート] をクリックします。

OMi では、[管理] > [監視] > [ポリシー テンプレート] をクリックします。

2. [ポリシー テンプレート グループ] ペインで、以下のとおり選択します。

BSM では、[グループ別 ポリシー テンプレート] > [SAP ABAP 監視テンプレート] をクリックします。

OMi では、[ポリシー管理] > [タイプ別にグループ化されたテンプレート] > [SAP ABAP 監視テンプレート] をクリックします。

SAP ABAP 監視テンプレートによるリモート監視

SAP ABAP 監視テンプレートは、Operations Agent がインストールされていないノードで SAP ABAP アプリケーション サーバを監視できるようにすることで、ABAP アプリケーション サーバの監視範囲を拡張します。ABAP アプリケーション サーバのリモート監視は、Operations Agent がインストールされ、OMi MP for SAP 管理テンプレートがデプロイされているノードから設定し、実行する必要があります。

OMi MP for SAP のリモート監視機能を使用して、たとえば OMi MP for SAP でサポートされていない環境で実行されている SAP システムを監視するには、次の手順を実行する必要があります。「監視する個々のリモート サーバの指定」で示すように、リモート監視の対象とする追加の SAP サーバを 1 行ずつ指定する必要があります。

- 各モニタの設定ファイルの先頭のハッシュ記号「#」を削除することで、**RemoteMonitoring** キーワードを有効にします。
- 監視を実行するローカルホストの名前を定義します。リモート ホストと関連付けるローカルホストを 1 行ずつ指定する必要があります。
- 監視するリモート SAP サーバ (RemoteHost) の名前を定義します。
- リモート ホストに SAP ABAP 設定アスペクトが設定されていることを確認します。

RemoteMonitoring キーワードでは、次のパラメータを使用できます。

- **LocalHost**

Agent がインストールされ、パラメータ「RemoteHost」で定義されている SAP サーバをリモート監視するために使用する、ローカルの OMi MP for SAP 管理対象ノードの名前。

- **RemoteHost**

パラメータ「LocalHost」に定義されているホストから監視するリモート SAP サーバの名前。

- **SAP システムおよび SAP 番号 (SAPABAP_CCMSIntegrationMon のみ)**

SAPABAP_CCMSIntegrationMon 監視テンプレートでは、パラメータ「RemoteHost」で定義されている SAP サーバで実行される SAP システムの ID と番号の両方を認識する必要があります。

監視する個々のリモート サーバの指定

```
#-----
# Remote LocalHost RemoteHost
# Monitoring
RemoteMonitoring =sap1 =sdsap1
RemoteMonitoring =sap1 =sdsap2
RemoteMonitoring =sap2 =sdsap3
#-----
```

SAPABAP_CCMSIntegrationMon のリモート監視の設定の詳細は、「[SAPABAP_CCMSIntegrationMon](#)」を参照してください。

SAPABAP_BatJobMon

SAPABAP_BatJobMon では、定義された時間間隔を超過する SAP ABAP バッチ ジョブ、定義された時間間隔よりも前に終了する SAP ABAP バッチ ジョブ、およびスケジュールされた時刻に開始されない SAP ABAP バッチ ジョブを監視できます。

ジョブレポート アラート モニタ SAPABAP_BatJobMon は、次の条件のバッチ ジョブを識別し、レポートします。

- バッチ ジョブの実行時間が指定されている制限より短い、または長い。
- バッチ ジョブのスケジュールされている開始日時と実際の開始日時の間で、指定されている時間が過ぎた。
- バッチ ジョブが中止された。

注: SAPABAP_BatJobMon が複数のメッセージを送信するように設定することはできません。たとえば、まずバッチ ジョブの実行時間が5分を超えた場合に注意域メッセージを送信し、同じバッチ ジョブの実行時間が10分を超えた場合に危険域メッセージを送信することはできません。

SAP ABAP 監視テンプレート SAPABAP_BatJobMon は次を参照します。

- SAP NetWeaver トランザクション SM36 または SM38 を使用して作成されたレポート
- SAP NetWeaver トランザクション SM37 を使用したジョブの詳細 (ID 番号を含む)

モニタ タイプ

SAPABAP_BatJobMon 監視テンプレートは期間タイプです。1 回の実行で収集されるのは 1 つの値セットのみです。

アラート タイプ

SAPABAP_BatJobMon 監視テンプレートには次のアラート タイプがあります。SAPABAP_BatJobMon 監視テンプレートを使用する場合、次に示すアラート タイプを設定する必要があります。

- JOB_MAX_RUN_TIME

ジョブに対して許容する最大実行時間を定義します。SAPABAP_BatJobMon 監視テンプレートは、定義済みジョブの実行時間が定義されている最大時間 (分単位) より長い場合にアラートを送信します。

- JOB_MIN_RUN_TIME

ジョブに対して許容する最小実行時間を定義します。SAPABAP_BatJobMon 監視テンプレートは、定義済みジョブの実行時間が定義されている時間 (分単位) より短い場合にアラートを送信します。

- START_PASSED

定義済みジョブのスケジュールされている開始時刻と実際の開始時刻の間で許容する最大遅延です。SAPABAP_BatJobMon 監視テンプレートは、ジョブが定義されている時間内 (分単位) に開始されない場合にアラートをトリガします。

- JOB_ABORTED

SAPABAP_BatJobMon 監視テンプレートは、設定で指定されているジョブが正常に完了しない場合にアラートを送信します。

初めて監視する場合

特定のアラート タイプのバッチ ジョブ アラートを初めて監視するとき、ジョブ レポート モニタ SAPABAP_BatJobMon 監視テンプレートは SAP で次の条件をチェックします。

- まだ実行がスケジュールされていないジョブ
- 過去 2 日以内に終了したジョブ
- まだ実行中のジョブ

パフォーマンス アспект

実稼働システムでは通常、SAP 標準テーブル tbtco は非常に大容量です。データベース選択を迅速化するには、ジョブ名をできるだけ詳細に指定します。SAP ABAP 監視テンプレートのクエリ条件の意味の詳細は、「[監視テンプレートのクエリ条件](#)」を参照してください。

ジョブ選択の実行時のコストは、次の表に示す順序で大きくなります。

指定されたジョブ名	サイン	オプション	選択
JOBNAME	I	EQ	Z5_CRITICAL_JOB_1> インデックスを介して選択

JOBNAME	I	CP	Z5_CRITICAL_JOB*> インデックスを介して選択
JOBNAME	E	CP	Z5_CRITICAL_JOB*> 順次スキャン

注：除外オプションは含めるオプションよりもパフォーマンス面でのコストが高い傾向があります。一般的なデータベースクエリでの「*」などのワイルドカードの使用は、明示的なクエリでの使用よりも高コストです。

ファイルの場所

次の表に、SAPABAP_BatJobMon 監視テンプレートが使用するファイルを示します。

ファイル	説明
r3moncol(.exe)	バッチ ジョブ モニタのコレクタ実行可能ファイル。
r3monjob.cfg	監視対象ジョブおよびジョブ条件の設定ファイル。
r3monjob.log	トレース データ格納のためのトレースファイル。

SAPABAP_BatJobMon 監視テンプレートは、特定の履歴ファイルに履歴情報を書き込みません。詳細については、「[SAP ABAP 監視テンプレート、監視テンプレートの設定ファイル、履歴ファイル](#)」を参照してください。

環境変数

SAPABAP_BatJobMon 監視テンプレートが使用する環境変数については、「[環境変数](#)」を参照してください。

コマンドライン パラメータ

SAPABAP_BatJobMon 監視テンプレートが使用するコマンドライン パラメータについては、「[コマンドライン パラメータ](#)」を参照してください。

リモート監視

別の SAP システムをリモートで監視するための SAPABAP_BatJobMon 監視テンプレートの設定の詳細は、「[SAP ABAP 監視テンプレートによるリモート監視](#)」を参照してください。

ジョブレポート モニタのアラート タイプの設定

ジョブレポート モニタである SAPABAP_BatJobMon 監視テンプレートを、特定のジョブ、ジョブの組み合わせ、またはすべてのジョブのアラート タイプに対して設定できます。また、異なる監視条件を必要とするジョブについて例外を定義することもできます。[除外] および [含める] パラメータの値を使用する場合の一般ルールは、これらのアラート タイプでは特に重要です。

CP は選択プロセスの速度を低下させるため、JOBNAME パラメータでは選択オプション CP を使用しないようにしてください。CP を使用する場合、範囲を制限します。たとえば、「CP *」と指定する代わりに、「CP SAP*」と指定します。

パラメータの値

この項では、OMi MP for SAP がアラート タイプ エントリに対して [含める] および [除外] パラメータをどのように解釈するかを説明します。異なるパラメータでは「and」を使用して、同じパラメータでは次の方法で値が比較されます。

- **含める:** 「or」を使用してパラメータを比較します。
- **除外:** 「and」を使用してパラメータを比較します。

OMi MP for SAP では、次の表に示すように、[除外] の値より前に[含める] の値が評価されます。

選択オプション	アラート タイプ:JOB_MAX_RUN_TIME 選択オプションの設定例	比較
1	=JOBNAME =I =CP =ZREP* = =MAX_RUNTIME =I =GT =10 =	OR
2	=JOBNAME =I =CP =SAP* = =MAX_RUNTIME =I =GT =20 =	OR
3	=JOBNAME =E =CP =SAP_ZREP* =	AND

JOB_MAX_RUN_TIME

JOB_MAX_RUN_TIME アラート タイプは、ジョブに対して許容する最大実行時間を定義します。JOB_MAX_RUN_TIME アラート タイプを使用して、ジョブの実行時間がパラメータ MAX_RUNTIME で設定されている値を超えた場合にアラートを生成するようにジョブレポート監視テンプレート SAPABAP_BatJobMon を設定します。

次の表に、JOB_MAX_RUN_TIME アラート タイプの設定に使用できるパラメータと、各パラメータにデフォルトで割り当てられる値を示します。この表に示されているパラメータの設定はオプションです。両方のパラメータを省略すると、指定した時刻に実行中のすべてのジョブがレポートされます。

パラメータ名	説明	クエリ条件	デフォルト値
JOBNAME	監視するジョブの名前	= Sign:I, E	I
		= Opt:EQ, CP, BT	CP
		= Low <ジョブ名 >	*
		= High (範囲とともにのみ使用)	

パラメータ名	説明	クエリ条件	デフォルト値
MAX_RUNTIME	ジョブの実行時間。これを超えるとアラートを生成します。	= Sign I, E	I
		= Opt:EQ, GE, GT, BT	GT
		= Low (このパラメータは数値として指定します。数値以外で指定した場合、モニタはダンプして終了します)	5
		= High (範囲とともにのみ使用)	

次の例は、JOB_MAX_RUN_TIME アラート タイプのデフォルト設定とカスタマイズ設定を示します。

● **JOB_MAX_RUN_TIME のデフォルト設定**

「JOB_MAX_RUN_TIME のデフォルト設定」では、<ジョブ名>* レポートの実行時間が5分を超えた場合にアラートを生成するイベントが発生します。

```
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =JOBREPORT =1 \
=WARNING =MaxRunTime =R3_Jobs\
=JOB_MAX_RUN_TIME =JOBNAME =I =CP =<ジョブ名>* =\
=MAX_RUNTIME =I =GT =5 =
```

● **JOB_MAX_RUN_TIME のカスタマイズ設定**

「JOB_MAX_RUN_TIME のカスタマイズ設定」では、すべての SAP* レポート (ただし SAPZ* レポートを除く) の実行時間が10分を超えた場合にアラートを生成するイベントが発生します。

```
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =JOBREPORT =1\
=WARNING =MaxRunTime =R3_Jobs \
=JOB_MAX_RUN_TIME =JOBNAME =I =CP =SAP* = \
=MAX_RUNTIME =I =GT =10 =

AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =JOBREPORT =1\
=WARNING =MaxRunTime =R3_Jobs \
=JOB_MAX_RUN_TIME =JOBNAME =E =CP =SAPZ* = \
=MAX_RUNTIME =I =GT =10 =
```

OMi MP for SAP のオプションのテスト移送に含まれるプログラムで、実行時間の長いジョブを開始できま

す。このジョブを使用して、ジョブの実行時間が定義されている時間より長い場合に SAPABAP_BatJobMon 監視テンプレートがメッセージを OMi に送信するよう正しく設定されているかどうかを検証できます。テストが正常に完了した場合、テスト ジョブに関するメッセージが OMi メッセージブラウザに表示されます。移送の詳細は、OMi 管理対象ノードで移送に関する readme ファイルを参照してください。OMi MP for SAP 移送のインポートおよび適用の詳細は、『OMi MP for SAP インストールガイド』を参照してください。

移送をインポートした後、SAP ABAP Object Navigator トランザクション SE80 を使用してインストール済みのテスト プログラム /HPOV/YSPI0002 を表示できます。

JOB_MIN_RUN_TIME

JOB_MIN_RUN_TIME アラート タイプは、ジョブに対して許容する最小実行時間を定義します。JOB_MIN_RUN_TIME アラート タイプを使用して、ジョブの実行時間がパラメータ MIN_RUNTIME で指定されている時間より短い場合にアラートを生成するようにジョブレポート監視テンプレート SAPABAP_BatJobMon を設定します。

次の表に、JOB_MAX_RUN_TIME アラート タイプの設定に使用できるパラメータと、各パラメータにデフォルトで割り当てられる値を示します。

次のパラメータの設定はオプションです。両方のパラメータを省略すると、指定した期間に実行中のすべてのジョブがレポートされます。

パラメータ名	説明	クエリ条件	デフォルト値
JOBNAME	監視するジョブの名前	= Sign:I, E	I
		= Opt:EQ, CP, BT	CP
		= Low <ジョブ名 >	*
		= High: ^a	
MIN_RUNTIME	許容する最小実行時間を定義します。実行時間が指定されている時間 (分単位) より短いと、アラートがトリガされます。	= Sign I, E	I
		= Opt:EQ,LE, LT, BT	LT
		=Low <最小値 (分単位)> ^b	1
		= High	

a 範囲とともにのみ使用します。

b このパラメータは数値として指定します。数値以外で指定した場合、モニタはダンプして終了します。

次の例は、JOB_MIN_RUN_TIME アラート タイプのデフォルト設定とカスタマイズ設定を示します。

• JOB_MIN_RUN_TIME のデフォルト設定

「JOB_MIN_RUN_TIME のデフォルト設定」では、<ジョブ名 >*というレポートの実行時間が1分に満たない場合にアラートを生成するイベントが発生します。

```
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =JOBREPORT =1 \
=WARNING =MinRunTime =R3_Jobs\
=JOB_MIN_RUN_TIME =JOBNAME =I =CP =<ジョブ名>* = \
=MIN_RUNTIME =I =LT =1 =
```

● JOB_MIN_RUN_TIME のカスタマイズ設定

「JOB_MIN_RUN_TIME のカスタマイズ設定」では、すべての SAP* レポート (ただし SAPZ* レポートを除く) の実行時間が2分に満たない場合にアラートを生成するイベントが発生します。

```
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =JOBREPORT =1 \
=WARNING =MinRunTime =R3_Jobs \
=JOB_MIN_RUN_TIME =JOBNAME =I =CP =SAP* = \
=MIN_RUNTIME =I =LT =2 =
```

```
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =JOBREPORT =1 \
=WARNING =MinRunTime =R3_Jobs \
=JOB_MIN_RUN_TIME =JOBNAME =E =CP =SAPZ* = \
=MIN_RUNTIME =I =LT =2 =
```

OMi MP for SAP のオプションのテスト移送に含まれるプログラムで、実行時間の短いジョブを開始できます。このジョブを使用して、ジョブの実行時間が定義されている時間より短い場合に SAPABAP_BatJobMon 監視テンプレートがメッセージを OMi に送信するよう正しく設定されているかどうかを検証できます。テストが正常に完了した場合、テスト ジョブに関するメッセージが OMi メッセージ ブラウザに表示されます。移送の詳細は、OMi 管理対象ノードで移送に関する readme ファイルを参照してください。OMi MP for SAP 移送のインポートおよび適用の詳細は、『OMi MP for SAP インストールガイド』を参照してください。

移送をインポートした後、SAP ABAP Object Navigator トランザクション SE80 を使用してインストール済みのテスト プログラム /HPOV/YSPI0005 を表示できます。

START_PASSED

START_PASSED アラート タイプは、ジョブのスケジュールされている開始時刻と実際の開始時刻の間で許容する最大遅延を定義します。START_PASSED アラート タイプを使用して、指定したジョブがスケジュールされている開始時刻の後、TIME_SPAN に設定されている時間内に開始しない場合にアラートを生成するように SAPABAP_BatJobMon 監視テンプレートを設定できます。次の表に、START_PASSED アラート タイプの設定に使用できるパラメータと、各パラメータにデフォルトで割り当てられる値を示します。

ジョブがスケジュールされていても開始時刻がない場合、SAP データベースで割り当てられた開始時刻が認識されるまで、SAPABAP_BatJobMon は監視を行うことができません。開始時刻がジョブと関連付けられるのは、ジョブが特定のステータスを持つ場合のみです。SAP ジョブ ステータス [リリース済み]、[準

備完了]、[アクティブ]、[完了]、[キャンセル済み]には開始時刻があり、SAPABAP_BatJobMon 監視テンプレートで監視できます。

次のパラメータの設定はオプションです。両方のパラメータを省略すると、指定した期間に実行中のすべてのジョブがレポートされます。

パラメータ名	説明	クエリ条件	デフォルト値
JOBNAME	監視するジョブの名前	= Sign:I, E	I
		= Opt:EQ, CP, BT	CP
		= Low <ジョブ名 >	*
		= High ¹	
TIME_SPAN	アラートを生成するときを指定する、ジョブの実行時間(分単位)。時間範囲を使用する必要はありません。特定の時刻を指定できます。	= Sign I, E	I
		= Opt:EQ, GT, GE, BT	GT
		=Low ² <過去にスケジュールされた開始時刻の範囲の下限值(分単位)>	1
		=High <過去にスケジュールされた開始時刻の範囲の上限値(分単位)>	

1. 範囲とともにのみ使用します。
2. このパラメータは数値として指定します。数値以外で指定した場合、モニタはダンプして終了します。

START_PASSED のデフォルト設定

「START_PASSED のデフォルト設定」では、スケジュールされている開始時刻から1分以上経っても<ジョブ名>* レポートが開始されない場合にアラートを生成するイベントが発生します。

```
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =JOBREPORT =1\
=WARNING =StartPassed =R3_Jobs \
=START_PASSED =JOBNAME =I =CP =<jobname>* =\
=TIME_SPAN =I =GT =1 =
```

JOB_ABORTED

JOB_ABORTED アラート タイプは、正常に完了していないジョブ名を定義します。JOB_ABORTED アラート タイプを使用して、設定で指定されているジョブが失敗した場合にアラートを生成するように SAPABAP_BatJobMon 監視テンプレートを設定します。次の表に、JOB_ABORTED アラート タイプの

設定に使用できるパラメータと、各パラメータにデフォルトで割り当てられる値を示します。

注: 次のパラメータの設定はオプションです。

パラメータ名	説明	クエリ条件	デフォルト値
JOBNAME	監視するジョブの名前	= Sign:l, E	l
		= Opt:EQ, CP, BT	CP
		= Low <ジョブ名 >	*
		= High ¹	

1. 範囲を使用する場合のみ使用します。

● **JOB_ABORTED のデフォルト設定**

「JOB_ABORTED のデフォルト設定」では、<ジョブ名>* レポートが中止された場合にイベントによってアラートが生成されます。

```
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =JOBREPORT =1\
=WARNING =Aborted =R3_Jobs \
=JOB_ABORTED =JOBNAME =I =CP = <ジョブ名>*
```

● **JOB_ABORTED のカスタマイズ設定**

「JOB_ABORTED のカスタマイズ設定」では、SAP_REORG_ABAPDUMPS または ITOTEST レポートが中止された場合にイベントによってアラートが生成されます。

```
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =JOBREPORT =1\
=WARNING =Aborted =R3_Jobs \
=JOB_ABORTED =JOBNAME =I =EQ =SAP_REORG_ABAPDUMPS =
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =JOBREPORT =1 \
=WARNING =Aborted =R3_Jobs\
=JOB_ABORTED =JOBNAME =I =EQ =ITOTEST =
```

OMi MP for SAP のオプションのテスト移送に含まれるプログラムで、ABAP ダンプを生成できます。生成されたダンプを使用して、ジョブが中止された場合に SAPABAP_BatJobMon 監視テンプレートがメッセージを OMi に送信するよう正しく設定されているかどうかを検証できます。OMi MP for SAP 移送の詳細は、OMi 管理対象ノードの移送に関する readme ファイルを参照してください。OMi MP for SAP 移送のインポートおよび適用の詳細は、『OMi MP for SAP インストールガイド』を参照してください。

移送をインポートした後、SAP ABAP Object Navigator トランザクション SE80 を使用してインストール済みのテスト プログラム /HPOV/YSPI0004 を表示 できます。

SAPABAP_CCMSIntegrationMon

SAPABAP_CCMSIntegrationMon 監視テンプレートでは、SAP CCMS 監視 インフラストラクチャの出力を監視 できます。

この項では、SAPABAP_CCMSIntegrationMon 監視テンプレートの内容について詳しく説明 します。

監視条件

Severity<レベル>、RFCTimeOut、CCMSMonitorSet、CCMSAcknowledgeMessage といったキ ーワードを定義し、有効化する必要があります。SAPABAP_CCMSIntegrationMon 監視テンプレートでは、他のす べてのキーワードはオプションです。

CCMS モニタ セット

OMi MP for SAP は XAL インターフェイスを使用して、CCMS アラートの読み取り、書き込み、リセットを CCMS アラート モニタ ツリーで直接行うことができます。この機能の最も明らかな利点は、既存の CCMS モニタ セットをテンプレートとして使用して、OMi MP for SAP で監視する CCMS アラートのみを含む 独自のモニタ セットを定義できることです。

SAPABAP_CCMSIntegrationMon 監視テンプレートの設定を開始する前に、SAP にログオンして、OMi MP for SAP がメッセージを生成するのに使用する新しい CCMS モニタ セットを定義してください。

注: CCMS モニタ ツリーで項目を作成または変更するには、CCMS モニタ セットの [Maintenance Function] がオンになっていることを確認する必要があります。[Maintenance function] オプション は [Extras] メニューにあります (例: [Extras] > [Activate Maintenance Function])。

デフォルトのモニタ セット (OperatingSystem、DatabaseClient など) に存在するすべてのアラートに関 するメッセージを受信するには、個々のアプリケーション サーバ項目を展開し、OMi に送信するメッセージの 生成に使用するアラートのみを選択します。

OMi MP for SAP に対して定義する新しいモニタ セットを、OMi ユーザが認識でき、使用できることを確 認します。定義済みの OMi ユーザとして SAP にログインしている場合、「公開」のマークが付いた CCMS モニタ セットのみが表示されます。管理者として SAP にログインしている場合、使用可能なすべてのモニ タ セットが表示されます。[公開] オプションを使用することで、OMi MP for SAP に対して定義した新しい モニタ セットが定義済みの OMi ユーザまたはすべてのユーザに認識されることを確認する必要がありま す。

注: 現時点では、OMi MP for SAP はモニタ セット名で非 ASCII 文字を解釈できないため、CCMS モニタ セットの名前を定義するときには ASCII 文字のみ使用します。

1 つの SAP システム/SID は複数のモニタ セットを持つことができます。SAP システム/SID に対して複数の モニタ セットを定義する必要がある場合、SAPABAP_CCMSIntegrationMon 監視テンプレートの設定のモ ニタ セットのセクションに新規モニタ セットを 1 行ずつ指定します。モニタ パラメータで定義する名前は、 CCMS アラート モニタ ツリーに表示されるモニタ セットの名前と一致する必要があります。「複数のモニタ セットの設定」で示すように、設定のモニタ名は、スラッシュ (/) なども含めて、SAP で表示されている名前 と正確に一致する必要があります。

「複数のモニタセットの設定」の設定例では、従来の長いSAP名と改行を使用してモニタ名を表しています。最後のモニタの完全な名前は =System / All Monitoring Segments / All Monitoring Contexts です。使用する名前は、このように長い名前である必要はありません。また、複数のモニタを1つのモニタセットと関連付けるには、「複数のモニタセットの設定」の最初の2つのエントリのように、モニタを1行ずつ指定する必要があります。ここでは、OMi MP for SAP モニタセットには2つのモニタ (System とDB_ALERT) があります。

複数のモニタセットの設定

```
#-----
--
# Monitor Set SAP SAP Monitor Set Monitor
# System Number
CCMSMonitorSet =WA1 =33 =MPSAP =System
CCMSMonitorSet =WA1 =33 =MPSAP =DB_ALE
RT
CCMSMonitorSet =SP6 =00 =SAP CCMS Technical Expert Monitors =System
/\
All Monitoring Segments / All Monitoring
Contexts
#-----
--
```

個々のCCMSアラートモニタのデフォルト設定で環境のニーズを常に満たせるとは限りません。場合によっては、設定を変更する必要があります。**[Monitor: Properties and Methods]** ウィンドウの**[Performance Attribute]** タブで、モニタのプロパティを確認し、必要に応じて変更します。モニタのプロパティを変更する場合、次の点を考慮する必要があります。

- CCMS アラートの重大度レベルと、CCMS アラートによって生成される OMi メッセージの重大度レベルが一致するようにします。
- 特定の CCMS アラートに設定されている重大度レベルのしきい値がニーズに適合するようにします。

特定の CCMS モニタの**[モニタ: プロパティとメソッド]** ウィンドウを開くには、モニタセット ツリーで目的のモニタを参照し、**[プロパティ]** ボタンをクリックするか、表示するモニタをダブルクリックします。

CCMS アラート モニタ

アラートは、SAP が SAP ランドスケープの状況を監視するために使用する方法の最も基本的な要素です。アラートはディスクやCPUなどのオブジェクトと関連付けられており、オブジェクトには応答時間や使用統計などの属性があります。オブジェクトの経過時間ごとのステータス、パフォーマンス、可用性は、SAP システム管理者にとって重要な意味を持っています。SAP NetWeaver CCMS アラート モニタは、設定済みのアラート (および関連付けられているオブジェクト、属性) を参照可能なモニタ ツリーに CCMS モニタとして表示します。

注: 公開モニタセットは、すべての SAP ユーザが表示 (および使用) できます。

CCMS モニタは操作しやすいようにあらかじめ定義されたモニタセットグループ (SAP CCMS Technical Expert Monitors、SAP CCMS Admin Workplace など) に分けられます。定義済みモニタセットには多数のサブセットおよびモニタが含まれます。生成可能なアラートは数千ありますが、中には必要のないものも含まれています。

CCMS モニタセットの保守機能をオンにすると、定期的に把握するアラートのモニタのみを含む独自の CCMS モニタセットを作成できます。独自のモニタセットを作成した後、モニタセット ツリーに追加して、OMi MP for SAP で監視するように設定できます。このように受け取るアラートや情報を減らすことで、管理が容易になります。SAP NetWeaver CCMS モニタで条件がレポートされると、監視オブジェクトとその属性を含めてアラートが生成されます。

CCMS 確認メッセージ

CCMSAcknowledgeMessage 機能は、SAP が定義済みの条件に一致する CCMS アラートを自動的に確認 (完了) するかどうかを決定します。SAPABAP_CCMSIntegrationMon 監視テンプレートの CCMSAutoAcknowledge 機能を有効化することは、SAP CCMS でアラートを選択し、[完了警告] ボタンをクリックすることと同じです。

CCMS アラートの自動確認

```
# Triggers auto-acknowledge of CCMS alerts
#-----
# CCMSAcknowledgeMessage SAP Ack. filtered Enable=1
# System Messages Disable=0
CCMSAcknowledgeMessage =ALL =0 =0
CCMSAcknowledgeMessage =SP6 =0 =0
#-----
```

SAPABAP_CCMSIntegrationMon 監視テンプレートの設定で、各行に定義されている特定の SAP システムの自動確認機能を有効化または無効化できます。ただし、特定の SAP システムに対して自動確認機能を無効化 (=0) すると、同じ行に定義されている **Ack. Filtered Messages** の設定は無視されます。

Ack. Filtered Messages キーワードを有効化すると、**AlerMonSyslog** の指定 (該当する行での Disabled=0 の設定) によって除外された (Operations Agent に送信されない) メッセージが CCMS で確認されます。そのため、これらのアラートは OMi メッセージ ブラウザや SAP CCMS では表示されなくなります。

注: **CCMSAcknowledgeMessage** キーワードを有効化する場合、Severity<レベル> キーワードも有効化する必要があります。Severity<レベル> キーワードでは、重大度に基づいて CCMS アラートをフィルタリングできます。

環境変数

次の表に、SAPABAP_CCMSIntegrationMon 監視テンプレートの設定に使用できる環境変数を示します。

環境変数	説明
SAPOPC_DRIVE	HP Operations Agent が動作する Windows ドライブ (例: E:\usr\...)
SAPOPC_HISTORYPATH	r3monal 履歴ファイルのパス
SAPOPC_R3MONAL_CONFIGFILE	r3monal 設定ファイルの名前
SAPOPC_SAPDIR	SAP NetWeaver が動作する Windows ドライブ (例: E:\usr\sap)
SAPOPC_TRACEPATH	r3monal トレースファイルのパス

ファイルの場所

次の表に、SAPABAP_CCMSIntegrationMon 監視テンプレートが使用するデフォルトのファイルを示します。

ファイル名	説明
r3monal(.exe)	SAP NetWeaver CCMS アラート モニタの実行可能ファイル。
r3monal.cfg	CCMS アラート モニタの設定ファイル。
r3monal.his	モニタ実行後にデータを格納するための履歴ファイル。

リモート監視

RemoteMonitoring キーワードでは、ローカルホスト上の OMi MP for SAP がリモートホスト上の SAP インスタンスを監視するように設定できます。SAP システムと SAP 番号は、SAPABAP_CCMSIntegrationMon 監視テンプレートでのみ必要です。

リモート監視の有効化

```
#-----
# Remote Host Localhost Remotehost SAP System SAP Number
RemoteMonitoring =hpspi003 =ovsdsap6 =SP6 =00
#-----
```

RFC タイムアウト

RFCTimeOut キーワードでは、RFC XAL 関数呼び出しがキャンセルされるまでの最大時間を秒単位で定義します (例: =120)。SAP が実行されている環境を考慮に入れてタイムアウトを設定する必要があります。たとえば、RFC 呼び出しの完了に (つまり、初期要求への応答を受け取るまでに) 予想以上の時間がかかる場合、SAP システムが停止し、重大なパフォーマンスの問題が発生している可能性があります。RFC 呼び出しが完了し、SAP が空きダイアログプロセスを割り当てた後、時間制限が解除されません。

XAL 関数呼び出しのタイムアウト時間の設定

```
#-----
# Max. time in sec. before a RFC XAL function call is
# canceled.If the RFC call takes longer than expected, the
# system is probably down or has a major performance problem.
RFCTimeOut = 120
#-----
```

重大度レベル

SAPABAP_CCMSIntegrationMon 監視テンプレートの重大度のセクションでは、SAPABAP_CCMSIntegrationMon 監視テンプレートで管理している CCMS モニタツリーの CCMS アラートをどのようにフィルタリングし、フィルタリングされた CCMS アラートの重大度レベルを対応する OMi メッセージの目的の重大度レベルにどのようにマッピングするかを定義します。SeverityWarning および SeverityCritical キーワードは、CCMSAcknowledgeMessage キーワード ([「CCMS 確認メッセージ」](#)を参照)と組み合わせて使用できます。

SAP システム ID と SAP 番号の組み合わせを 1 行ずつ追加することで、CCMS アラートと OMi メッセージの重大度のマッピングを特定の SAP システム ID および SAP 番号に制限できます。

次に、SAPABAP_CCMSIntegrationMon の重大度レベルのデフォルト設定を示します。

```
#-----
#Severity SAP SAP Enabled=1 OpCSeverity
#Values System Number Disabled=0
SeverityWarning =ALL =ALL =0 =WARNING
SeverityCritical =ALL =ALL =1 =CRITICAL
#-----
```

SAPABAP_CCMSIntegrationMon 監視テンプレートの重大度レベルを編集するには、次のいずれかの方法を使用します。

- **重大度レベルの有効化または無効化**

重大度が**注意域**の CCMS アラートのメッセージ生成を無効化 (=0) する場合、次のように SeverityWarning の行を新しく追加 (または既存の SeverityWarning の行を変更) します。

```
SeverityWarning =ALL =ALL =0 =WARNING
```

- **OMi MP for SAP での CCMS の重大度レベルと OMi のメッセージの重大度レベルのマッピングの変更**

OMi MP for SAP ですべての SeverityWarning イベントを危険域としてレポートするには、次のように SeverityWarning の定義を新しく追加 (または既存の SeverityWarning 行を変更) します。

```
SeverityWarning =ALL =ALL =1 =CRITICAL
```

• **SID 固有の例外の定義**

OMi MP for SAP で SAP システム LP2 で発生するすべての SeverityWarning イベントを危険域としてレポートするには、すべてのシステムのデフォルト設定をそのまま使用し、次の行を追加します。

```
SeverityWarning =LP2 =ALL =1 =CRITICAL
```

SAPABAP_CCMSIntegrationMon 監視テンプレートでの重大度レベルの設定例を示します。

```
# A Monitor Set defines the messages you want to forward to OMi.
#-----
# Monitor Set SAP SAP Monitor Set Monitor
# System Number
#CCMSMonitorSet =WA1 =33 =MPSAP =System
#CCMSMonitorSet =WA1 =33 =MPSAP=DB_ALERT
#CCMSMonitorSet =SP6 =00 =SAP CCMS Technical Expert Monitors
=System / All Monitoring Segments / All Monitoring Contexts
#-----
# Remote Host Localhost Remotehost SAP SAP
# System Number
#RemoteMonitoring =hpspi003 =ovsdsap6 =SP6 =00
#-----
# CCMSAcknowledgeMessage SAP Ack. filtered Enable=1
# System Messages Disable=0
CCMSAcknowledgeMessage =ALL =0 =0
CCMSAcknowledgeMessage =SP6 =0 =0
# XMI compatibility mode
# makes the r3monal send syslog messages r3monxmi style
#-----
# XmiSyslogMode Enabled =1
# Disabled =0
XmiSyslogMode =0
# Syslog filtering
#-----
# Alert Classes SAP SAP SyslogId Enabled=1
```

```
# System Number From To Disabled=0
AlerMonSyslog =ALL =ALL =A00 =MZZ =1
AlerMonSyslog =ALL =ALL =N00 =ZZZ =0
AlerMonSyslog =LPO =01 =A00 =ZZZ =1
```

トレースレベル

アラート モニタが使用するトレースレベル (特に SAPABAP_CCMSIntegrationMon 監視テンプレートで使用できるトレースレベル) の詳細は、「[TraceLevel](#)」を参照してください。

アラート クラス

SAPABAP_CCMSIntegrationMon 監視テンプレート設定のアラート クラスのセクションでは、OMi MP for SAP の CCMS アラート モニタで SAP システムの syslog イベントをどのようにフィルタリングするかを定義します。フィルタリングメカニズムにより、関心のある syslog イベントのみを抽出して表示できます。監視対象の syslog イベントをフィルタリングするには、メッセージ番号 (syslog ID) の範囲を指定します。SAPABAP_CCMSIntegrationMon 監視テンプレート設定のアラート クラスのセクションでは、特定の方法で各行を設定します。それぞれのエントリは syslog イベントの指定範囲の監視を定義します。監視対象の syslog イベントを指定するには、グローバルに、または指定した SAP システムおよびインスタンスに対して、syslog ID の範囲を有効化または無効化します。

「SAPABAP_CCMSIntegrationMon 監視テンプレート設定での syslog イベント」では、すべての SAP システムおよび SAP 番号の ID A00 から MZZ までの syslog イベントを監視対象としています。すべての SAP システムおよび SAP 番号の ID N00 から ZZZ までの syslog イベントは監視対象外です。SAP システム LPO の ID A00 から ZZZ に対して syslog イベント監視を有効化しています。

SAPABAP_CCMSIntegrationMon 監視テンプレート設定での syslog イベント

```
# Syslog filtering
#-----
# Alert Classes SAP SAP SyslogId Enabled=1
# System Number From To Disabled=0
AlerMonSyslog =ALL =ALL =A00 =MZZ =1
AlerMonSyslog =ALL =ALL =N00 =ZZZ =0
AlerMonSyslog =LPO =01 =A00 =ZZZ =1
#-----
```

CEN の監視

中央監視システム (CEN) は、監視対象の SAP ランドスケープ全体から生成される CCMS アラートの中央制御点として指定した単一の SAP システムです。問題を知らせる重要なアラート情報を 1 箇所にまとめる CEN の概念により、複数の SAP システムの監視および管理の負担を軽減できます。CEN で CCMS アラートを一元管理するように SAP を設定すると、SAPABAP_CCMSIntegrationMon 監視テンプレートを使用して CEN 宛の CCMS アラートを捕捉し、そのアラートを使用してメッセージを生成して OMi メッセージ ブラウザに転送できます。

設定のテスト

OMi MP for SAP のオプションのテスト移送に含まれるプログラムで、ABAP ダンプを生成できます。このダンプを使用して、SAP システムでダンプが発生した場合に、SAPABAP_CCMSIntegrationMon 監視テンプレートが syslog をチェックし、メッセージを OMi に送信するかどうかを検証できます。テストが正常に完了した場合、テスト ダンプについてのメッセージが OMi メッセージ ブラウザに表示されます。このテストを行えるのは、適切な SAP CCMS モニタセット (例: <SAPSID>/R3Abap/Shortdumps) を監視するように SAPABAP_CCMSIntegrationMon 監視テンプレートが設定されている場合のみです。

OMi MP for SAP 移送の詳細は、OMi 管理対象ノードで移送に関する readme ファイルを参照してください。OMi MP for SAP 移送のインポートおよび適用の詳細は、『OMi Management Pack for SAP インストールガイド』を参照してください。移送をインポートした後、SAP トランザクション SE80 を使用して ABAP Object Navigator を開き、レポート (またはプログラム) /HPOV/YSPI0004 を参照して、インストール済みのテスト プログラムを表示できます。

SAPABAP_CTSMon

SAPABAP_CTSMon 監視テンプレートでは、SAP 移送/修正システムでさまざまな移送要求、タスク、オブジェクトを監視できます。データ収集はアプリケーション サーバに依存しません。

SAPABAP_CTSMon 監視テンプレートは参照として次の SAP 要素を使用します。

- SAP NetWeaver トランザクション SE01 を使用して作成された移送要求およびオブジェクト リスト
- SAP NetWeaver トランザクション SE09 を使用して作成されたタスク

モニタ タイプ

SAPABAP_CTSMon 監視テンプレートは期間タイプです。1 回のモニタ実行で収集されるのは 1 つの値セットのみです。

アラート タイプ

CTS モニタには次のアラート タイプがあります。

- REQUEST_CREATED
 - 新規の要求についてどのようなときにアラートを生成するかを定義します。
- REQUEST_RELEASED
 - リリースされた要求についてアラートを生成するかどうかを定義します。
- TASK_CREATED
 - 新規のタスクについてアラートを生成するかどうかを定義します。
- TASK_RELEASED
 - リリースされたタスクについてアラートを生成するかどうかを定義します。

- OBJECT_USED

タスクまたは要求が使用するオブジェクトについてアラートを生成するかどうかを定義します。

- OBJECT_RELEASED

要求またはタスクがオブジェクトをリリースしたときにアラートを生成するかどうかを定義します。

ファイルの場所

次の表に、SAPABAP_CTSMon 監視テンプレートが使用するファイルを示します。

ファイル	説明
r3moncol(.exe)	CTS モニタのコレクタ実行可能ファイル。
r3moncts.cfg	CTS モニタの設定ファイル。
r3moncts.log	トレースデータ格納のためのトレースファイル。

SAPABAP_CTSMon 監視テンプレートは、特定の履歴ファイルに履歴情報を書き込みません。

環境変数

SAPABAP_CTSMon 監視テンプレートが使用する環境変数については、「[環境変数](#)」を参照してください。

コマンドラインパラメータ

SAPABAP_CTSMon 監視テンプレートが使用するコマンドラインパラメータについては、「[コマンドラインパラメータ](#)」を参照してください。

リモート監視

別の SAP システムをリモートで監視するための SAPABAP_CTSMon 監視テンプレートの設定の詳細は、「[SAP ABAP 監視テンプレートによるリモート監視](#)」を参照してください。

SAPABAP_CTSMon 監視テンプレートのアラートタイプの設定

SAPABAP_CTSMon 監視テンプレートのアラートタイプパラメータを設定するときには、次のルールに注意してください。

- デフォルトでは、各パラメータに対してすべてのデータが選択されます。
- データを制限するには、アラートタイプに対して一部またはすべてのパラメータを指定します。
- SAPABAP_CTSMon 監視テンプレートでは、デフォルト値を変更し、未指定のパラメータに対するデフォルト値 ALL を上書きした場合のみ、指定したパラメータが考慮されます。

REQUEST_CREATED、REQUEST_RELEASED、TASK_CREATED、TASK_RELEASED アラートタイプを設定するには、パラメータ TRFUNCTION を使用します。

次の表に示す文字コードを使用して、TRFUNCTION の要求機能を指定できます。

文字コード	機能の説明
A	要求: 未分類の要求を最初のオブジェクトとともに K、L、W にする
C	変更許可のある移送
D	パッチ
K	要求: 宛先の統合レイヤを指定した変更要求
L	要求: 移送を行わないローカル要求
R	タスク: 修復
S	タスク: 開発/修正
T	要求: オリジナルなしの移送
U	ダミー
W	要求: 宛先の統合レイヤを指定したカスタマイズ要求
X	タスク: 未分類のタスクを最初のオブジェクトとともに S または R にする
Z	(要求なしのタスク) SE09 メモリ使用率

注: 各 CTS アラートタイプでのこのパラメータの使用に関する説明では、文字コードのみ示していません。

REQUEST_CREATED

REQUEST_CREATED アラートタイプでは、最後に指定した期間内に作成された新規の要求についてメッセージを生成するように、移送/修正システム (CTS) アラート モニタである SAPABAP_CTSMon 監視テンプレートを設定します。たとえば、新規の機能モジュールの追加 (または既存の機能モジュールの

変更)には変更要求が必要です。次の表に、REQUEST_CREATED アラート タイプの設定に使用できるパラメータと、各パラメータにデフォルトで割り当てられる値を示します。

これらのパラメータの設定はオプションです。

パラメータ名	説明	クエリ条件	デフォルト値
TRFUNCTION	要求機能。	= Sign:I, E	I
		Opt:CP, EQ	CP
		= Low:A,K,L,W,C,T, U, D ^a	*
		= High:	
TARGET	作成した要求のターゲット システム。 注: これは SID である必要 があります。	= Sign I, E	
		= Opt:EQ, CP	
		= Low:<システム名 >	
		= High	
USERNAME	要求を作成した SAP NetWeaver ユーザのログイン 名。	= Sign I	
		= Opt:EQ, CP	
		= Low:<この要求を作成したユーザの名前 >	
		= High	

a リストされている機能のみ指定できます (* はすべてを意味します)。

「REQUEST_CREATED のデフォルト設定」では、最後の期間内に新規の要求が発生するとメッセージが生成されます。

REQUEST_CREATED のデフォルト設定

```
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =CTS =1\
=WARNING =Request =R3_CTS\
=REQUEST_CREATED =USERNAME =I =CP =* =
```

REQUEST_RELEASED

REQUEST_RELEASED アラート タイプでは、最後に指定した期間内にリリースされた新規の要求についてメッセージを生成するように、移送/修正システム (CTS) 監視テンプレートである SAPABAP_CTSMonを設定します。次の表に、REQUEST_RELEASED アラート タイプの設定に使用できるパラメータと、各パラメータにデフォルトで割り当てられる値を示します。

注: 次のパラメータの設定はオプションです。

パラメータ名	説明	クエリ条件	デフォルト値
TRKORR	要求 ID	= Sign:I, E	
		= Opt:EQ	
		= Low:<要求 ID>	
		= High:	
TRFUNCTION	要求機能。	= Sign:I, E	
		= Opt:EQ	
		= Low:K,L, W,C,T, U, D (リストされている機能のみ指定できます (* はすべてを意味します))。	
		= High:	
TARGET	作成した要求のターゲット システム。これは SID である必要があります。	= Sign I, E	I
		= Opt:EQ, CP	CP
		= Low:<システム名 >	*
		= High	
USERNAME	要求を作成した SAP NetWeaver ユーザのログイン名。	= Sign I	
		= Opt:EQ,CP	
		= Low:<この要求を作成したユーザの名前 >	
		= High	
CUSTOMIZING	カスタマイズ要求	= Sign I,E	
		= Opt:EQ	
		= Low (「X」以外のすべてのエントリはスペースとして扱われます)	
		= High	

パラメータ名	説明	クエリ条件	デフォルト値
WORKBENCH	ワークベンチ要求	= Sign I, E	
		= Opt:EQ	
		= Low (「X」以外のすべての エントリはスペースとして扱わ れます)	
		= High	

「REQUEST_RELEASED のデフォルト設定」では、最後に指定した期間にカスタマイズ要求がリリースされた場合にアラートを生成するイベントが発生します。

REQUEST_RELEASED のデフォルト設定

```
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =CTS =1\
=WARNING =Request =R3_CTS\
=REQUEST_RELEASED =CUSTOMIZING =I =EQ =X
```

TASK_CREATED

TASK_CREATED アラート タイプでは、最後に指定した期間内に作成された新規のタスクについてメッセージを生成するように、移送/修正システム (CTS) 監視テンプレートである SAPABAP_CTSMon を設定します。次の表に、TASK_CREATED アラート タイプの設定に使用できるパラメータと、各パラメータにデフォルトで割り当てられる値を示します。

これらのパラメータの設定はオプションです。

パラメータ名	説明	クエリ条件	デフォルト値
TRFUNCTION	要求機能。	= Sign:I, E	I
		= Opt:CP, EQ	CP
		= Low:X, S, R, Z ^a	*
		= High:	
USERNAME	要求を作成した SAP NetWeaver ユーザのログイン 名。	= Sign:I	
		= Opt:EQ, CP	
		= Low:<この要求を作 成したユーザの名前>	
		= High:	

「TASK_CREATED のデフォルト設定」では、最後に指定した期間内に新規のタスクが作成された場合にメッセージが生成されます。

TASK_CREATED のデフォルト設定

```
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =CTS =1\
=WARNING =Task =R3_CTS \
=TASK_CREATED =TRFUNCTION =I =CP =* =
```

TASK_RELEASED

TASK_RELEASED アラート タイプでは、最後の期間内にリリースされた新規のタスクについてメッセージを生成するように、移送/修正システム (CTS) 監視テンプレートである SAPABAP_CTSMon を設定します。次の表に、TASK_RELEASED アラート タイプの設定に使用できるパラメータと、各パラメータにデフォルトで割り当てられる値を示します。

次のパラメータの設定はオプションです。

パラメータ名	説明	クエリ条件	デフォルト値
TRKORR	要求 ID	= Sign:I, E	
		= Opt:EQ	
		= Low:<要求 ID>	
		= High:	
TRFUNCTION	要求機能。	= Sign:I, E	I
		= Opt:CP, EQ	CP
		= Low:R, S, Z ^a	*
		= High:	
USERNAME	要求を作成した SAP NetWeaver ユーザのロケイン名。	= Sign:I	
		= Opt:EQ, CP	
		= Low:<この要求を作成したユーザの名前>	
		= High	

「TASK_RELEASED のデフォルト設定」では、最後の期間に新規のタスクがリリースされた場合にメッセージが生成されます。

TASK_RELEASED のデフォルト設定

```
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =CTS =1\
=WARNING =Task =R3_CTS\
```

=TASK_RELEASED =TRFUNCTION =I =CP =* =

OBJECT_USED

OBJECT_USED アラート タイプでは、最後の期間内にタスクまたは要求が定義済みの設定と一致するオブジェクトを使用した場合にメッセージを生成するように、移送/修正システム (CTS) 監視テンプレートである SAPABAP_CTSMon を設定します。次の表に、OBJECT_USED アラート タイプの設定に使用できるパラメータと、各パラメータにデフォルトで割り当てられる値を示します。

次のパラメータの設定はオプションです。

パラメータ名	説明	クエリ条件	デフォルト値
PGMID	プログラム ID	= Sign:I, E	
		= Opt:EQ, CP	
		= Low:<プログラム ID>	
		= High:	
OBJECT	要素のオブジェクト タイプ	= Sign I, E	
		= Opt:EQ, CP	
		= Low:<オブジェクト タイプ>	
		= High	
OBJ_NAME	オブジェクト ディレクトリでのオブジェクト名	= Sign I, E	I
		= Opt:EQ, CP	CP
		= Low:<オブジェクト名>	*
		= High	
OBJ_FUNC	オブジェクト エントリに対する特別な機能: D = 削除、M = 削除して再作成	= Sign I, E	
		= Opt:EQ, CP	
		= Low	
		= High	
IN_REQUEST	オブジェクト コンテナが要求である場合にアラートを生成します。	= Sign I,E	
		= Opt:EQ	
		= Low	
		= High	

パラメータ名	説明	クエリ条件	デフォルト値
IN_TASK	オブジェクト コンテナがタスクである場合にアラートを生成します。	= Sign I, E	
		= Opt:EQ	
		= Low	
		= High	

「OBJECT_USED のデフォルト設定」では、オブジェクト タイプが **LIMU** であるオブジェクトをタスクまたは要求が使用した場合にアラートを生成するイベントが発生します。

OBJECT_USED のデフォルト設定

```
AlertMonFun =ALL =SD1 =ALL =ALL =CTS =1\
=WARNING =Object =R3_CTS\
=OBJECT_USED =PGMID =I =EQ =LIMU =
```

OBJECT_RELEASED

OBJECT_RELEASED アラート タイプでは、要求またはタスクが指定したオブジェクトをリリースした場合にメッセージを生成するように、移送/修正システム (CTS) 監視テンプレートである SAPABAP_CTSMon を設定します。次の表に、OBJECT_RELEASED アラート タイプの設定に使用できるパラメータと、各パラメータにデフォルトで割り当てられる値を示します。

次のパラメータの設定はオプションです。

パラメータ名	説明	クエリ条件	デフォルト値
TRKORR	要求 ID	= Sign:I, E	
		= Opt:EQ, CP	
		= Low:<要求 ID>	
		= High:	
PGMID	プログラム ID	= Sign:I, E	
		= Opt:EQ, CP	
		= Low:<プログラム ID>	
		= High:	

パラメータ名	説明	クエリ条件	デフォルト値
OBJECT	要素のオブジェクト タイプ	= Sign I, E	
		= Opt:EQ, CP	
		= Low:<オブジェクト タイプ>	
		= High	
OBJ_NAME	オブジェクト ディレクトリでのオブジェクト名	= Sign I	I
		= Opt:EQ, CP	CP
		= Low:<オブジェクト名>	*
		= High	
IN_REQUEST	オブジェクト コンテナが要求である場合にアラートを生成します。	= Sign I,E	
		= Opt:EQ	
		= Low (「X」以外のすべてのエントリはスペースとして扱われます)	
		= High	
IN_TASK	オブジェクト コンテナがタスクである場合にアラートを生成します。	= Sign I, E	
		= Opt:EQ	
		= Low (「X」以外のすべてのエントリはスペースとして扱われます)	
		= High	

「OBJECT_RELEASED のデフォルト設定」では、タスクがオブジェクトをリリースした場合にアラートを生成するイベントが発生します。

OBJECT_RELEASED のデフォルト設定

```
AlertMonFun =ALL =ALL =AL =ALL =CTS =1\  
=WARNING =Object =R3_CTS\  
=IN_TASK =I =EQ =X =
```

SAPABAP_DispMon

SAPABAP_DispMon 監視テンプレートでは、さまざまなタイプの SAP ワークプロセスに対する各種キューのサイズ、内容、ステータスを監視できます。SAPABAP_DispMon 監視テンプレートは OMi MP for SAP で定義されている SAP インスタンスのキューを監視し、ボトルネックを回避し、負荷が非常に高いときでも

ユーザが要求を満たせる十分なワークプロセスが監視対象の SAP システムにあることを確認することで、SAP のパフォーマンスの問題をより積極的に管理できるようにします。

この項では、次のトピックについて説明します。

- 前提条件
- ファイルの場所
- SAPABAP_DispMon 監視テンプレートとOMi MP for SAP モニタの統合
- SAPABAP_DispMon 監視テンプレートの設定

前提条件

適切なバージョンの SAP 実行可能ファイル dpmon または監視するキューを持つ SAP インスタンスのプロファイルが見つからない場合、SAPABAP_DispMon 監視テンプレートは実行を中止し、ログファイルにエントリを書き込み、メッセージブラウザにメッセージを送信します。SAPABAP_DispMon 監視テンプレートでは、`-s[snapshot]` オプションを認識するバージョンの dpmon 実行可能ファイルが必要です。

SAPABAP_DispMon 監視テンプレートで監視する SAP サーバに適切なバージョンの dpmon 実行可能ファイルがあるかどうかをチェックするには、ユーザ <SID>adm として SAP サーバにログオンし、dpmon コマンドに `-help` オプションを付けて実行します。「スナップショット オプションの確認」に示すように、コマンド出力で `-s[snapshot]` オプションがオンになっている場合、SAPABAP_DispMon 監視テンプレートを設定して使用できます。

スナップショット オプションの確認

```
$>dpmon -help
```

```
Usage:dpmon <オプション>
```

次のオプションを使用：

```
-p[ing] check dispatcher with NI ping
```

```
-i[nfo] retrieve dispatcher info
```

```
-s[snapshot] show info and terminate
```

```
-t <トレース レベル> tracelevel (デフォルト:1)
```

```
-f <トレース ファイル>] トレースファイルの名前 (デフォルト: dev_dpmon)
```

```
-T <タイムアウト> ネットワークのタイムアウト値 (ミリ秒単位) (デフォルト: 500)
```

UNIX オペレーティングシステムでも Windows オペレーティングシステムでも、SAPABAP_DispMon 監視テンプレートは環境変数 SAPOPC_DPMON_PATH_<SID> および SAPOPC_PROFILE_<SID>_<InstNr> を使用して、dpmon および SAP インスタンスプロファイルのそれぞれの場所を判断します。環境変数が設定されていない場合は、Windows オペレーティングシステムのレジストリを使用して dpmon および監視対象の SAP インスタンスのプロファイルファイルのパスを判断します。

UNIX オペレーティングシステムでは、特別なインターフェイスなしで dpmon および監視対象の SAP インスタンスのプロファイルファイルの場所を判断します (デフォルトの SAP の場所を想定します)。プロファイルファイルがデフォルトの場所がない、またはプロファイル名が SAP の標準の命名規則に従っていないことがわかっている場合、SAPABAP_DispMon 監視テンプレートの設定で適切に指定する必要があります。SAP プロファイルの標準の命名規則は次のとおりです。

<SID>_[D|DVEBMGS]<システム番号>_<ホスト名>

SAPABAP_DispMon 監視テンプレートの設定の詳細は、「[SAPABAP_DispMon 監視テンプレートの設定](#)」を参照してください。

ファイルの場所

次の表に、SAP システム セキュリティに関する SAPABAP_DispMon 監視テンプレートが使用するファイルを示します。

ファイル	説明
r3mondisp(.exe)	ABAP ディスパッチャ キュー モニタの実行可能ファイル
r3mondisp.cfg	ABAP ディスパッチャ キュー モニタの設定ファイル
r3mondisp.log	ABAP ディスパッチャ キュー モニタが収集したトレースデータの格納に使用するファイル

SAPABAP_DispMon 監視テンプレートと OMi MP for SAP モニタの統合

OMi MP for SAP が重要な時に SAP システムに過剰で無用な負荷をかけることのないよう、SAPABAP_DispMon 監視テンプレートが他の OMi MP for SAP モニタと連携するように設定できます。連携することで、モニタが ABAP ディスパッチャのステータスをチェックし、ワークプロセスを要求する前にディスパッチャ キューの状態を把握できるようになります。OMi MP for SAP モニタが SAP にログオンするためには、ダイアログワークプロセスが必要です。この統合機能を有効化するには、SAPABAP_DispMon 監視テンプレートの設定で EnableDPQueueCheck キーワードを使用し、開始前にディスパッチャのステータスをチェックします。

たとえば、SAPABAP_CCMSIntegrationMon がモニタ実行を開始する前に、SAPABAP_DispMon 監視テンプレートが ABAP ディスパッチャのステータスをチェックするには、「[開始前の ABAP ディスパッチャのチェック](#)」に示すように、SAPABAP_DispMon 監視テンプレートに EnableDPQueueCheck キーワードを設定します。SAPABAP_CCMSIntegrationMon のワークプロセス要求が監視テンプレートの設定に定義されているダイアログワークプロセスのしきい値に違反する場合、SAPABAP_DispMon 監視テンプレートはモニタ実行を開始せず、開始しない理由を示すメッセージをメッセージ ブラウザに送信します。OMi MP for SAP モニタによる追加のダイアログワークプロセスの要求の結果、SAP システムのパフォーマンスがさらに低下する可能性がある場合、この機能の使用を検討してください。

注: EnableDPQueueCheck キーワードに定義されているしきい値は、SAPABAP_DispMon 監視テンプレートに影響しません。使用可能なダイアログワークプロセスが不足した結果、他のモニタが開始されなくても、この監視テンプレートは通常どおり動作し続けます。

開始前の ABAP ディスパッチャのチェック

```
# EnableDPQueueCheck hostname SAP SAP Enable =1
```

```
# System Number Disable=0
```

```
#
```

```
EnableDPQueueCheck =ALL =ALL =ALL =1
```

EnableDPQueueCheck キーワードの詳細は、「[EnableDPQueueCheck](#)」を参照してください。

SAPABAP_Dispatcher 監視テンプレートの設定

SAPABAP_Dispatcher 監視テンプレートでは、特定の SAP 環境の要件に合わせて、この項に示すキーワードを使用して監視テンプレートを設定できます。「[SAPABAP_Dispatcher 監視テンプレートの設定からの抜粋](#)」に、この監視テンプレートのデフォルト設定の一部を示します。

注: モニタ実行の開始前に ABAP ディスパッチャのステータスをチェックするように OMi MP for SAP 監視テンプレートを設定する場合、監視テンプレートへのアクセスと読み取りに必要な権限を持っていることを確認してください。

SAPABAP_Dispatcher 監視テンプレートの設定では、次のキーワードを使用できます。詳細については、次のリストに示すパラメータの使用可能な値を参照してください。

- **TraceLevel**

指定した SAP サーバで実行する場合の SAPABAP_Dispatcher 監視テンプレートのトレースレベルを設定します。TraceLevel キーワードでは、次のパラメータを使用できます。

```
TraceLevel =<ホスト名> =<トレース レベル>
```

- **TraceFile**

SAPABAP_Dispatcher 監視テンプレートがエントリをログに記録するために使用するトレースファイルの名前を設定します。TraceFile キーワードでは、次のパラメータを使用できます。

```
TraceFile =<ホスト名> =<ファイル名> =<トレース モード> =<トレース期間>
```

- **DPQueueCheck**

ABAP ディスパッチャの積極的な監視を管理します。同じ管理対象ノードや同じワークプロセスで複数のしきい値が一致した場合、SAPABAP_Dispatcher 監視テンプレートは重大度が最も高いメッセージのみを送信します。DPQueueCheck キーワードでは、次のパラメータを使用できます。

```
DPQueueCheck =<ホスト名> =<SID> =<インスタンス番号> \ =<無効化/有効化> \ =<OVO メッセージ グループ> =<OVO メッセージ オブジェクト> =<OVO 重大度> \ =<ワーク プロセス タイプ> =<アイドル/キュー> =<アイドルの割合/フル>
```

一般的に、キューに配置されているワークプロセスのステータスは、同じワークプロセスタイプのアイドルワークプロセスのステータスより重要であるため、アイドルワークプロセスに関するメッセージの重大度レベルよりも、キューに配置されているワークプロセスに関するメッセージに割り当てる重大度レベルを高くすることをお勧めします。たとえば、アイドルワークプロセスに関するメッセージの重大度レベルを注意域に、キューに配置されているワークプロセスに関するメッセージの重大度レベルを危険域にします。

- **DisableMonitoringWithSeverity**

統合されている OMi MP for SAP モニタの無効化をトリガする、SAPABAP_DisMon 監視テンプレートのメッセージ重大度を指定します。これは、OMi MP for SAP で監視しているディスパッチャを持つ SAP システムからの追加のダイアログワークプロセスの要求により、モニタの負荷が無用に高くなるないようにするためです。DisableMonitoringWithSeverity キーワードでは、次のパラメータを使用できます。

```
DisableMonitoringWithSeverity =<ホスト名> =<SID> \ =<インスタンス番号> =<重大度>
```

DisableMonitoringWithSeverity キーワードは、DPQueueCheck キーワード (SAPABAP_DisMon 監視テンプレートで設定)、EnableDPQueueCheck キーワード (SAPABAP_DisMon 監視テンプレートと統合する監視テンプレートの設定で定義)と組み合わせて使用する必要があります。EnableDPQueueCheck キーワードの詳細は、「[EnableDPQueueCheck](#)」を参照してください。

- **InstanceProfilePath**

監視するディスパッチャを持つ SAP インスタンスのプロファイル設定ファイルのパス。InstanceProfilePath キーワードでは、次のパラメータを使用できます。

```
InstanceProfilePath =<ホスト名> =<SID> =<インスタンス番号> \ =<パス>
```

「SAPABAP_DisMon 監視テンプレートの設定からの抜粋」では、OMi MP for SAP で監視するすべての SAP インスタンスのすべての SAP クライアントに割り当てられているダイアログワークプロセス全体の 15% 未満がアイドルである場合、メッセージブラウザに注意域メッセージが送信されます。

SAPABAP_DisMon 監視テンプレートの設定からの抜粋

```
#-----
# TraceLevel hostname only error messages=1 info messages=2 debug
messages=3
# Disable=0
TraceLevel =ALL =0
#-----
# TraceFile hostname filename TraceMode TracePeriod
# (a=append/w=create(default)) (in mins)
```

```
TraceFile =ALL =r3mondisp.log =w =60

#-----

#InstanceProfilePath =<ホスト名> =<SID> =<インスタンス番号> =<パス>

#

InstanceProfilePath =ALL =ALL =ALL =default

#-----

#DisableMonitoringWithSeverity=<ホスト>=<SID>=<インスタンス番号>=<重大度>

#

DisableMonitoringWithSeverity=ALL=ALL=ALL=WARNING

#-----
```

また、「SAPABAP_DispMon 監視テンプレートの設定からの抜粋」では、キーワード `DisableMonitoringWithSeverity` を使用して、開始にダイアログワークプロセスが必要で (SAP へのログオンなどのため)、そのワークプロセスの割り当てが設定ファイルに定義されているアイドルダイアログワークプロセスのしきい値に違反する場合に OMi MP for SAP モニタを開始せず、重大度が**注意域**以上のメッセージを生成するように SAPABAP_DispMon 監視テンプレートを設定しています。

`EnableDPQueueCheck` キーワードは、実行を開始する前にダイアログワークプロセスキューをチェックするために SAP にログオンする OMi MP for SAP モニタごとに使用する必要があります。
`EnableDPQueueCheck` キーワードの詳細は、「[EnableDPQueueCheck](#)」を参照してください。

SAPABAP_DmpMon

SAPABAP_DmpMon 監視テンプレートでは、SAP ABAP システム上で発生する実行時エラーを監視できます。すべてのアプリケーション サーバに対するモニタ実行ごとに 1 回のチェックが行われます。

通常、ダンプは実行時エラーであるため、静的な構文チェックで検知できるとは限りません。発生する理由はさまざま、重大な問題を示していることもあります。実稼働システムでダンプが発生することは好ましくありません。

ここで、ダンプを発生させるアクションの例を 2 つ挙げます。

- ゼロで除算
- 呼び出した関数モデルが有効化されていない

一般的に、システム管理者は ABAP ダンプに関連する問題の解決に取り組む必要があります。SAPABAP_DmpMon 監視テンプレートにより生成されるメッセージには、ダンプの詳細を表示するために ABAP プログラムを呼び出すオペレータ開始アクションが含まれています。

SAPABAP_DmpMon 監視テンプレートは、SAP NetWeaver トランザクション ST22 を参照します。

モニタタイプ

SAPABAP_DmpMon 監視テンプレートは期間タイプです。1 回のモニタ実行で収集されるのは 1 つの値セットのみです。

アラートタイプ

SAPABAP_DmpMon 監視テンプレートには次のアラートタイプがあります。

- ABAP4_ERROR_EXIST

ABAP ダンプごとに 1 件のアラートを生成します。

ファイルの場所

次の表に、SAPABAP_DmpMon 監視テンプレートが使用するファイルを示します。

ファイル	説明
r3moncol(.exe)	ABAP ダンプ モニタのコレクタ実行可能ファイル
r3mondmp.cfg	監視対象のアプリケーション サーバの設定ファイル。
r3mondmp.log	トレースデータ格納のためのトレースファイル。

アラート コレクタ モニタは、特定の履歴ファイルに履歴情報を書き込みません。

環境変数

SAPABAP_DmpMon 監視テンプレートが使用する環境変数については、[「環境変数」](#)を参照してください。

コマンドラインパラメータ

SAPABAP_DmpMon 監視テンプレートが使用するコマンドラインパラメータについては、[「コマンドラインパラメータ」](#)を参照してください。

リモート監視

別の SAP システムをリモートで監視するための SAPABAP_DmpMon 監視テンプレートの設定の詳細は、[「SAP ABAP 監視テンプレートによるリモート監視」](#)を参照してください。

ABAP4_ERROR_EXIST

ABAP4_ERROR_EXIST アラート タイプでは、最後の期間に発生したダンプごとにアラートを生成するように SAPABAP_DmpMon 監視テンプレートを設定します。「ABAP4_ERROR_EXIST のデフォルト設定」に示すように、=MAX_ENTRIES を使用して、OMi MP for SAP がメッセージを生成する前に発生する必要のあるダンプ回数をカウントできます。また、(=TIME_LIMIT) で、定義したダンプ回数が発生する必要がある時間を時間単位で指定できます。この例では、24 時間以内にダンプが 10 回発生した場合にメッセージが生成されます。

ABAP4_ERROR_EXIST のデフォルト設定

```
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =ABAP4 =1\
=WARNING =ABAP_Dump =R3_ABAP-4\
=ABAP4_ERROR_EXIST
#AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =ABAP4 =1 \
=WARNING =ABAP_Dump =R3_ABAP-4 =ABAP4_ERROR_EXIST\
=MAX_ENTRIES =I =GT =10 = \
=TIME_LIMIT =I =LT =24 =
```

OMi MP for SAP のオプションのテスト移送に含まれるプログラムで、ABAP ダンプを生成できます。このダンプを使用して、SAPABAP_DmpMon 監視テンプレートがメッセージ形式でダンプを適切に OMi にレポートするかどうかを検証できます。テストが正常に完了した場合、テスト ダンプについてのメッセージが OMi メッセージ ブラウザに表示されます。OMi MP for SAP 移送の詳細は、OMi 管理対象ノードの移送に関する readme ファイル (/usr/sap/trans/readme) を参照してください。OMi MP for SAP 移送のインポートと適用の詳細は、『OMi Management Pack for SAP インストールガイド』を参照してください。移送をインポートした後、SAP トランザクション SE80 を使用して ABAP Object Navigator を開き、レポート (またはプログラム) /HPOV/YSPI0004 を参照して、インストール済みのテスト プログラムを表示できます。

SAPABAP_IdocStatusMon

SAPABAP_IdocStatusMon 監視テンプレートでは、SAP ABAP システム上の各種 IDoc の現在のステータスを監視できます。SAPABAP_IdocStatusMon 監視テンプレートは期間ベースであり、トランザクション WE02 をデータソースとして使用して、既存の IDoc にエラーがないかどうかステータスをチェックします。この監視テンプレートはアプリケーション サーバに依存せず、グローバルに (SAP NetWeaver システム全体で) 使用できます。

モニタタイプ

SAPABAP_IdocStatusMon 監視テンプレートは期間タイプです。1 回のモニタ実行で収集されるのは 1 つの値セットのみです。

アラート タイプ

SAPABAP_IdocStatusMon 監視テンプレートには次のアラート タイプがあります。

「IDOC_CURRENT_STATUS」

IDoc の現在の状態に関するアラートをどのようなときに生成するかを定義します。

ファイルの場所

次の表に、SAPABAP_IdocStatusMon 監視テンプレートが使用するファイルを示します。

ファイル	説明
r3moncol(.exe)	IDoc ステータス モニタのコレクタ実行可能ファイル。
r3monale.cfg	IDoc ステータス モニタの設定ファイル。
r3monale.log	トレース データ格納のためのトレースファイル。

アラート コレクタ モニタは、特定の履歴ファイルに履歴情報を書き込みません。

環境変数

SAPABAP_IdocStatusMon 監視テンプレートが使用する環境変数については、「[環境変数](#)」を参照してください。環境変数の書式はすべてのアラート コレクタ モニタに共通です。「[環境変数](#)」に示すように、監視テンプレートの名前のみが個々のモニタごとに異なります。

コマンドラインパラメータ

SAPABAP_IdocStatusMon 監視テンプレートが使用するコマンドラインパラメータについては、「[コマンドラインパラメータ](#)」を参照してください。コマンドラインパラメータの書式はすべてのアラート コレクタ モニタに共通です。「[コマンドラインパラメータ](#)」に示すように、-cfgfile および -trace の監視テンプレートの名前のみが個々のモニタごとに異なります。

リモート監視

別の SAP システムをリモートで監視するための SAPABAP_IdocStatusMon 監視テンプレートの設定の詳細は、「[SAP ABAP 監視テンプレートによるリモート監視](#)」を参照してください。

SAPABAP_IdocStatusMon 監視テンプレートのアラート タイプの設定

SAPABAP_IdocStatusMon 監視テンプレートの IDOC_CURRENT_STATUS アラート タイプを設定する場合、「[IDOC_CURRENT_STATUS 設定パラメータ](#)」の表に示すパラメータを 1 つ以上定義する必要

があります。

IDOC_CURRENT_STATUS

IDOC_CURRENT_STATUS アラート タイプは、監視する IDoc の現在のステータスを定義します。IDOC_CURRENT_STATUS アラート タイプを使用して、IDoc のステータスが STATUS パラメータで定義されているステータスと一致する場合にアラートを生成するように IDoc ステータス アラート モニタである SAPABAP_IdocStatusMon 監視テンプレートを設定します。次の表に、IDOC_CURRENT_STATUS アラート タイプの設定に使用できるパラメータと、各パラメータにデフォルトで割り当てられる値を示します。デフォルト値の列の''は、空の文字列を意味します。

IDOC_CURRENT_STATUS 設定パラメータ

パラメータ名	説明	クエリ条件	デフォルト値
DOCNUM	IDoc 番号 (例:「05」(変換時エラー))	= Sign:l, E	''
		= Opt:GE, GT, LE, LT, BT	''
		= Low	''
		= High:	''
DOCTYP	基本 IDoc タイプ (例: DOCMAS01)	= Sign:l	''
		= Opt:CP, EQ	''
		= Low	''
		= High	''
MESCOD	論理メッセージコード	= Sign l	''
		= Opt:CP, EQ	''
		= Low	''
		= High	''
MESFCT	論理メッセージ関数	= Sign:l	''
		= Opt:CP, EQ ''	''
		= Low	''
		= High	''

パラメータ名	説明	クエリ条件	デフォルト値
MESTYP	論理メッセージタイプ	= Sign:l	“
		= Opt:CP, EQ	“
		= Low	“
		= High	“
RCVPFC	受信側のパートナー関数	= Sign:l	“
		= Opt:CP, EQ	“
		= Low	“
		= High	“
RCVPRN	受信側のパートナー番号	= Sign:l	“
		= Opt:CP, EQ	“
		= Low	“
		= High	“
RCVPRT	受信側のパートナータイプ	= Sign:l	“
		= Opt:CP, EQ	“
		= Low	“
		= High	“
SNDPFC	送信側のパートナー関数	= Sign:l	“
		= Opt:CP, EQ	“
		= Low	“
		= High	“
SNDPRN	送信側のパートナー番号	= Sign:l	“
		= Opt:CP, EQ	“
		= Low	“
		= High	“

パラメータ名	説明	クエリ条件	デフォルト値
SNDPRT	送信側のパートナタイプ	= Sign:l	“
		= Opt:CP, EQ	“
		= Low	“
		= High	“
STATUS *	IDoc のステータス	= Sign:l, E	“
		= Opt:GE, GT, LE, LT, BT	“
		= Low	“
		= High	“

*取り得る値: CHECK_INBOUND、CHECK_OUTBOUND、MAX_ENTRIES、TIME_LIMIT

リモート監視では、SAPABAP_IdocStatusMon 監視テンプレートは受信 IDoc のステータスをチェックします。IDOC_CURRENT_STATUS で指定されている受信 IDoc の数がMAX_ENTRIES で定義されている値 4 より大きい (GT) 場合、アラートを生成するイベントが発生します。

IDOC_CURRENT_STATUS の設定

```
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =ALL =1 \
=WARNING =ALE =R3_IDOC_STATUS \
=IDOC_CURRENT_STATUS =STATUS =I =EQ =CHECK_INBOUND \
=MAX_ENTRIES =I =GT =4
```

IDoc ステータスのチェック

IDOC_CURRENT_STATUS アラート タイプとSTATUS パラメータを組み合わせることで、SAP NetWeaver に登録されているさまざまな IDoc ステータスやグループに定義されている幅広いステータスをチェックできます。

また、OMi MP for SAP の2つの定義済みグループを使用して、受信または送信 IDoc に関するさまざまなエラーをチェックできます。たとえば、値 CHECK_INBOUND および CHECK_OUTBOUND を使用してさまざまな範囲の値を監視できます。

- CHECK_OUTBOUND
 - ステータス 02、04、05、25、26、29、30、32 のIDoc を監視します。02、04、05、25、26、29、30、32
- CHECK_INBOUND

ステータス 51、56、60、61、62、63、64、65、66、69 の IDoc を監視します。51, 56, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 69

SAPABAP_IdocStatusMon 監視テンプレートで特定の IDoc ステータスをチェックするには、「IDOC_CURRENT_STATUS の設定」の値 =CHECK_INBOUND を、監視する IDoc ステータスに対応する IDoc ステータス番号（「IDoc ステータスが取り得る値」の表を参照）に置き換えます。たとえば、既存の IDoc の数を監視するには、=01 を使用します。現時点では、あらかじめ定義されている範囲 CHECK_INBOUND および CHECK_OUTBOUND に類似する範囲を独自に定義することはできません。監視する追加の値ごとに AlertMonFun エントリを別に定義する必要があります。

次の表に、OMi MP for SAP で認識されるすべてのステータスを示します。

IDoc ステータスが取り得る値

IDoc ステータス	説明	受信チェック	送信チェック
00	未使用。R/2 のみ		
01	作成済みの iDoc		
02	データをポートに渡す処理中にエラー発生		✓
03	データをポートに渡す処理が正常に完了		
04	EDI サブシステムの制御情報内にエラー		✓
05	変換中にエラー		✓
06	変換が正常に完了		
07	構文チェック中にエラー		
08	構文チェックが正常に完了		
09	交換処理中にエラー		
10	交換処理が正常に完了		
11	ディスパッチ中にエラー		
12	ディスパッチが正常に完了		
13	再送が正常に完了		
14	肯定の交換確認		
15	否定の交換確認		

IDoc ステータス	説明	受信チェック	送信チェック
16	肯定の機能確認		
17	否定の機能確認		
18	EDI サブシステムのトリガが正常に完了		
19	テスト用データ転送が正常に完了		
20	EDI サブシステムのトリガ中にエラー		
21	テスト用データを渡す処理中にエラー		
22	ディスパッチが正常に完了、確認が必要		
23	再送中にエラー		
24	EDI サブシステムの制御情報が正常に完了		
25	構文エラーを無視して処理中 (送信)		✓
26	iDoc の構文チェック中にエラー (送信)		✓
27	ディスパッチ レベルでエラー (ALE サービス)		
28	未使用		
29	ALE サービスでエラー		✓
30	iDoc のディスパッチ準備完了 (ALE サービス)		✓
31	エラー - 処理中断		
32	iDoc の編集が完了		✓
33	編集済み iDoc のオリジナル		
34	iDoc の制御レコードにエラー		
35	アーカイブからの iDoc の再読み込みが完了		
36	電子署名が未実行 (タイムアウト)		
37	iDoc の追加が不適切		

IDoc ステータス	説明	受信チェック	送信チェック
38	iDoc のアーカイブが完了		
39	iDoc が受信システムに存在 (ALE サービス)		
40	受信側システムでアプリケーションドキュメントが未作成		
41	受信側システムでアプリケーションドキュメントの作成が完了		
42	テストトランザクションによる iDoc の作成が完了		
50	iDoc の追加が完了		
51	エラー: アプリケーションドキュメントが未投稿	✓	
52	アプリケーションドキュメントの投稿が不完全		
53	アプリケーションドキュメントの投稿が完了		
54	正式なアプリケーション チェック中にエラー		
55	正式なアプリケーション チェックが正常に完了		
56	エラーを含む iDoc を追加	✓	
57	iDoc テスト: アプリケーション チェック中にエラー		
58	R/2 接続からの iDoc のコピー		
59	未使用		
60	iDoc の構文チェック中にエラー (受信)	✓	
61	構文エラーを無視して処理中 (受信)	✓	
62	iDoc をアプリケーションに渡す処理が完了	✓	
63	iDoc をアプリケーションに渡す処理中にエラー発生	✓	

IDoc ステータス	説明	受信チェック	送信チェック
64	iDoc をアプリケーションに転送する準備完了	✓	
65	ALE サービスでエラー		
66	iDoc が先行する iDoc を待機中 (シリアライゼーション)		
67	未使用		
68	エラー - 処理中断		
69	iDoc の編集が完了	✓	
70	編集済み iDoc のオリジナル		
71	アーカイブからの iDoc の再読み込みが完了		
72	未使用。R/2 のみ		
73	iDoc のアーカイブが完了		
74	テストトランザクションによる iDoc の作成が完了		

SAPABAP_LckChkMon

SAPABAP_LckChkMon 監視テンプレートでは、各種 SAP トランザクションおよび SAP レポート用の SAP ABAP 論理ロックを管理するエンキュープロセスを監視できます。廃止されたロックは、指定した期間より古いロックとして定義されます。すべてのアプリケーション サーバに対するモニタ実行ごとに 1 回のチェックが行われます。

ロックされたオブジェクトは、そのオブジェクトに関連付けられているユーザ以外は変更できないため、深刻な問題を引き起こす可能性があります。オペレータは SM12 で特定のインスタンスに設定されているロックを確認できます。ここで、ロックを発生させるアクションの例を 2 つ挙げます。

- ユーザが最初に SAP NetWeaver システムをログオフしないままコンピュータの電源を切る (オブジェクトロックの最多原因)
- SAP インスタンス全体が失敗する

SAPABAP_LckChkMon 監視テンプレートは、SAP NetWeaver トランザクション SM12 を参照します。

このアラート モニタが生成するメッセージには、SM12 ロック概要モジュールを呼び出すオペレータ開始アクションが含まれています。オペレータは後で SM12 で特定のインスタンスに設定されているロックを確認できます。

モニタ タイプ

SAPABAP_LckChkMon 監視テンプレートはスナップショット タイプで、アラート タイプやパラメータを使用しません。1 回のモニタ実行で収集されるのは 1 つの値セットのみです。

アラート タイプ

SAPABAP_LckChkMon 監視テンプレートのアラート タイプは次の 1 つのみです。

「OLD_LOCKS」

パラメータ LOCK_TIME に指定した期間を使用して、どのようなときにロックを古いと定義するかを指定します。

ファイルの場所

次の表に、SAPABAP_LckChkMon 監視テンプレートが使用するファイルを示します。

ファイル	説明
r3moncol(.exe)	ロック チェック モニタのコレクタ実行可能ファイル。
r3monlck.cfg	ロック チェック モニタの設定ファイル。
r3monlck.log	トレース データ格納のためのトレースファイル。

環境変数

SAPABAP_LckChkMon 監視テンプレートが使用する環境変数については、「[環境変数](#)」を参照してください。

コマンドライン パラメータ

SAPABAP_LckChkMon 監視テンプレートが使用するコマンドライン パラメータについては、「[コマンドラインパラメータ](#)」を参照してください。

リモート監視

別の SAP システムをリモートで監視するためのアラート コレクタ モニタの設定の詳細は、「[SAP ABAP 監視テンプレートによるリモート監視](#)」を参照してください。

OLD_LOCKS

LOCK_TIME アラート タイプは、パラメータ LOCK_TIME に指定した期間を使用して、どのようなときにロックを「古い」と定義するかを指定します。LOCK_TIME アラート タイプを使用して、ジョブの実行時間がパラメータ LOCK_TIME で定義されている期間を超えた場合にアラートを生成するように SAPABAP_LckChkMon 監視テンプレートを設定します。

次の表に、LOCK_TIME アラート タイプの設定に使用できるパラメータと、各パラメータにデフォルトで割り当てられる値を示します。

注: 次のパラメータの設定は必須です。

パラメータ名	説明	クエリ条件	デフォルト値
--------	----	-------	--------

LOCK_TIME	ロックが古いと見なされるまでの期間 (時間単位)。これを超えると、ロックは古いと見なされます。	= Sign:I,E	I
		= Opt:EQ, GT, GE, LE, LT, BT	GT
		= Low:<時間 (時間単位)> ¹	
		= High: ²	

1. このパラメータは数値として指定します。数値以外で指定した場合、モニタはダンプして終了します。
2. 範囲を使用する場合のみ使用します。

「OLD_LOCKS のデフォルト設定」では、ロックの時間が24 時間を超えた場合にアラートを生成するイベントが発生します。

OLD_LOCKS のデフォルト設定

```
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =LOCK_CHECK =1\  
=WARNING =Enqueue =R3_Enqueue\  
=OLD_LOCKS =LOCK_TIME =I =GT =24 =
```

SAPABAP_PerfMon

SAPABAP_PerfMon 監視テンプレートでは、OMi MP for SAP のさまざまなパフォーマンス モニタから SAP パフォーマンス メトリックを収集できます。

概要

OMi MP for SAP R/3 パフォーマンス エージェントはさまざまなパフォーマンス モニタを使用して SAP パフォーマンス データを収集し、そのデータを HP Software Embedded Performance Component (CODA) またはパフォーマンス エージェント (Unix/Windows) に格納します。パフォーマンス エージェントでは、データのほか、他のアプリケーション、データベース、システム、ネットワークパフォーマンス エージェントで収集したデータの監視、管理、相関処理を行うことができます。このデータを使用して、SAP ビジネスストラテジと他のシステム メトリック間でトレンドも比較できます。この項では、次のトピックについて説明します。

- OMi MP for SAP を使用したパフォーマンス監視
- OMi を使用した OMi MP for SAP R/3 パフォーマンス エージェントのインストール
- パフォーマンス モニタの設定

SAP NetWeaver 内に実装されている ABAP 機能モジュールには、RFC 呼び出しを使用してアクセスします。パフォーマンス モニタは、SAP 実行時パフォーマンス データのスナップショットを収集します。

OMi MP for SAP R/3 パフォーマンス エージェントでは、SAP NetWeaver CCMS サブシステムの一部である SAP NetWeaver Performance アラート モニタ (ST03) に加え、130 以上のメトリックの収集が可能です。

OMi MP for SAP R/3 パフォーマンス エージェントの設定により、指定した SAP NetWeaver インスタンスで実行するモニタとその頻度を指定できます。

パフォーマンス エージェントは OMi エージェント プロセスとは別に、Windows オペレーティングシステムではサービスとして、UNIX オペレーティングシステムではデーモン (バックグラウンド) プロセスとして動作します。OMi MP for SAP R/3 パフォーマンス エージェント プロセスを開始または停止するには、OMi MP for SAP の [Tool Bank] ウィンドウで適切なツールを使用します。詳細については、「[OMi MP for SAP R/3 パフォーマンス エージェントの管理](#)」を参照してください。

SAPABAP_PerfMon 監視テンプレートの設定

SAPABAP_PerfMon 監視テンプレートにはデフォルト設定があります。デフォルト設定は変更を行うことなく、インストール後すぐに使用できます。ただし、特定の SAP 環境向けに SAPABAP_PerfMon 監視テンプレートを設定する場合は、次のリストのキーワードの有効化または無効化、適切なパラメータの設定や変更により、設定を変更する必要があります。

- **TraceLevel**

TraceLevel キーワードでは、次のパラメータを使用できます。

TraceLevel =<ホスト名> =<トレース レベル>

ホスト名:

=ALL	OMi MP for SAP を含むすべてのホストを監視します。これはデフォルト設定です。
=<SAP ホスト>	トレースレベルを指定する SAP サーバの名前。ホストを 1 行ずつ指定します。

トレースレベル:

=0	無効化。これはデフォルト設定です。
=1	エラーメッセージのみをログに記録します。
=2	すべてのメッセージをログに記録します。
=3	デバッグメッセージのみをログに記録します。このトレースレベルでは大量の情報がログに記録され、トレースファイルの容量が短期間で非常に大きくなる可能性があります。

- **TraceFile:**

TraceFile キーワードでは、次のパラメータを使用できます。

Tracefile =<ホスト名> =<ファイル名>

ホスト名:

=ALL	OMi MP for SAP を含むすべての SAP サーバを監視します。これはデフォルト設定です。
=<SAP ホスト>	トレースが有効化され、トレースレベルを指定する特定のホストの名前。

ファイル名:

=r3perfmon.log - これはデフォルト設定です。ログファイルをデフォルトのログファイルディレクトリに書き込みます。または、トレースログを書き込むファイルの名前と、必要に応じてパスを指定できます。このパスは作業ディレクトリの絶対パスまたは相対パスです。

- **AgentHostname**

AgentHostname キーワードは、ALL に設定します。

- **SyncBack**

SyncBack キーワードでは、次のパラメータを使用できます。

SyncBack =<有効化 | 無効化> =<SyncBack のしきい値>

有効化/無効化:

=0	スケジューラの同期を無効化します。
=1	スケジューラの同期を有効化します。これはデフォルト設定です。

SyncBack のしきい値:

=<n> 分	定義済みスケジュールと実際のスケジュールの差 (分単位)。SyncBack しきい値に達すると、たとえばスケジューラがスケジュールより n 分遅れている場合、スケジューラが再起動され、定義済みスケジュールに戻ります。SyncBack しきい値は、BehindSyncMessage キーワードに関連して設定されている Message Threshold の値より大きい必要があります。これは、スケジューラが再起動される前に、スケジュールの問題に関する警告メッセージを受け取るためです。
--------	--

- **BehindSyncMessage**

BehindSyncMessage キーワードでは、次のパラメータを使用できます。

BehindSyncMessage =<有効化 | 無効化> =<OpC 重大度> \

=<OpC オブジェクト> =<OpC メッセージ グループ> =<メッセージのしきい値>

有効化/無効化:

=0	スケジュール遅れメッセージの送信を無効化します。
=1	スケジュール遅れメッセージの送信を有効化します。これはデフォルト設定です。

OpC 重大度:

=WARNING	送信するスケジュール遅れメッセージの重大度。これはデフォルト値です。
----------	------------------------------------

OpC オブジェクト:

=r3perfagent	スケジュール遅れメッセージと関連付ける HPOM for Windows オブジェクト。これはデフォルト値です。
--------------	--

OpC メッセージ グループ:

=R3_General	スケジュール遅れメッセージが属する HPOM for Windows メッセージ グループ。これはデフォルト値です。
-------------	--

メッセージのしきい値:

=<n> 分	スケジュール遅れメッセージが HPOM 管理 サーバに送信されるまでの経過時間 (分単位)。メッセージのしきい値は、SyncBack キーワードに関連して設定されている SyncBack Threshold の値より小さい必要があります。これは、スケジューラが再起動される前に、スケジュールの問題に関する警告メッセージを受け取るためです。
--------	---

• **RemoteMonitoring**

RemoteMonitoring キーワードでは、次のパラメータを使用できます。

RemoteMonitoring =<ローカルホスト> =<リモートホスト>

ローカルホスト:

OMi MP for SAP ソフトウェアが実行され、パフォーマンス エージェントを使用してリモート ホストに定義されている SAP サーバをリモート監視するホストの名前。

リモートホスト:

ローカル ホストに定義されている SAP サーバで、OMi MP for SAP を使用して監視するリモート SAP サーバの名前。通常、リモート ホストは OMi 管理対象ノードではなく、エージェントはインストールされていません。

● **PerfMon**

Perfmon キーワードでは、次のパラメータ値が必要です。

PerfMon =<SAP ホスト名> =<SAP システム> =<SAP 番号> \

=<SAP クライアント> =<RFC 関数> =<有効化 | 無効化> \

=<ポーリング間隔> =<接続保持>

SAP ホスト名:

=ALL	OMi MP for SAP ですべての SAP ホストを監視します。これはデフォルト設定です。
=<SAP ホスト>	パフォーマンスを監視対象とする特定の SAP サーバの名前。ホストを 1 行ずつ指定します。

SAP システム:

=ALL	OMi MP for SAP ですべての SAP システムを監視します。これはデフォルト設定です。
=<SAP SID>	パフォーマンスを監視対象とする SAP システムの ID (例: DEV)。SID を 1 行ずつ指定します。

SAP 番号:

=ALL	OMi MP for SAP ですべての SAP 番号を監視します。これはデフォルト設定です。
=<インスタンス>	パフォーマンスを監視対象とする特定の SAP インスタンス番号 (例: 00、99)。新しい SAP 番号を 1 行ずつ指定します。

SAP クライアント:

=ALL	OMi MP for SAP ですべての SAP クライアントを監視します。これはデフォルト設定です。
=<クライアント ID>	パフォーマンスを監視対象とする特定の SAP クライアント番号 (例: 099)。SAP クライアントを 1 行ずつ指定します。

RFC 関数:

=<メトリック名>_PERF。ここで、メトリック名はパフォーマンス モニタが使用する特定のメトリックリストを指します (例: DBINFO_PERF、SAPMEMORY_PERF)。使用できる値の詳細は、「[OMi MP for SAP パフォーマンス モニタ](#)」を参照してください。

有効化/無効化:

=0	パフォーマンス モニタを無効化します。
=1	パフォーマンス モニタを有効化します。これはデフォルト設定です。

ポーリング間隔:

=nn	nn はパフォーマンス モニタの実行間隔 (分単位) です。
-----	--------------------------------

接続保持:

=0	無効化: 呼び出し完了後に RFC 接続を終了します。これはデフォルト設定です。
=1	有効化: 呼び出し完了後に RFC 接続を保持します。

OMi MP for SAP R/3 パフォーマンス エージェントの管理

OMi MP for SAP R/3 パフォーマンス エージェントを制御するには、コマンドライン オプションを使用します。コマンドライン オプションは、プラットフォームやオペレーティングシステムによって異なります。OMi MP for SAP R/3 パフォーマンス エージェントの管理には、コマンドライン オプションか、OMi MP for SAP によってインストールされているツールを使用します。

OMi MP for SAP R/3 パフォーマンス エージェントのコマンドライン構文

UNIX 管理対象ノードのインストールメンテーション ディレクトリから r3perfagent コマンドに次のオプションを付けて使用することで、OMi MP for SAP R/3 パフォーマンス エージェントをコマンドラインから制御できます。

- r3mon-per1 -S SAPMP_Tool.pl Start
- r3mon-per1 -S SAPMP_Tool.pl Stop
- r3mon-per1 -S SAPMP_Tool.pl Status

Status オプションを使用できるのは SAP UNIX ノードのみです。

Windows 管理対象ノードのインストールメンテーション ディレクトリから r3perfagent コマンドを次の構文で使用することで、OMi MP for SAP R/3 パフォーマンス エージェントをコマンドラインから制御できます。

- `r3mon-per1 -S SAPMP_Tool.pl Start`
- `r3mon-per1 -S SAPMP_Tool.pl Stop`

また、Windows コントロールパネルで サービス オプションを使用して Windows サービスを制御することもできます。

OMi MP for SAP R/3 パフォーマンス エージェント

OMi MP for SAP R/3 パフォーマンス エージェントは、SAP 関連メトリックを収集するために SAP にアクセスする必要があります。SAP 関連メトリックを使用して、レポートやグラフを生成します。SAPABAP_PerfMon 監視テンプレートでは、SAP ユーザ名とパスワードの組み合わせを入力する必要があります。OMi MP for SAP R/3 パフォーマンス エージェントは SAPABAP_PerfMon 監視テンプレートの設定から SAP ログイン情報を起動時に 1 回のみ読み取ります。SAP にログインできない場合は起動できないため、これは特に重要です。OMi MP for SAP R/3 パフォーマンス エージェントが SAP へのログインを試みて失敗した場合、認証の問題のため起動できなかったことを示すメッセージを OMi に送信します。

OMi MP for SAP が SAP へのログインに使用する SAP ユーザ名とパスワードの組み合わせを変更した場合、変更が SAPABAP_PerfMon 監視テンプレートのパラメータに反映されていること、SAPABAP_PerfMon 監視テンプレートの設定の情報を使用する OMi MP for SAP コンポーネントが再起動されて変更が認識されていることを確認する必要があります。

OMi MP for SAP が SAP にアクセスするために必要とする SAP ユーザ名およびパスワードを変更する前に、次のように SAP/パフォーマンス エージェントを停止します。

1. SAP/パフォーマンス エージェントの停止

SAP/パフォーマンス エージェントが動作しているすべての OMi MP for SAP 管理対象ノードで、SAP/パフォーマンス エージェントを停止します。各管理対象ノードで、次のとおり入力します。

```
r3mon-per1 -S SAPMP_Tool.pl Stop
```

2. SAP へのログイン

管理者として SAP にログインし、OMi MP for SAP が SAP にログインするために使うユーザパスワードの組み合わせを必要に応じて変更します。

注: ダイアログ ユーザのパスワードの変更は、他のタイプの SAP ユーザよりも頻繁に行う必要があります。

3. SAPABAP_PerfMon 監視テンプレート設定の更新

SAPABAP_PerfMon 監視テンプレートを使用して、SAP ABAP Application Server CI を設定します。ユーザ名、パスワード、クライアント番号の入力が必要です。

4. SAP/パフォーマンス エージェントの再起動

SAP/パフォーマンス エージェントが動作している各 OMi MP for SAP 管理対象ノードで、SAP/パフォーマンス エージェントを再起動します。各管理対象ノードで、次のとおり入力します。

```
r3mon-per1 -S SAPMP_Tool.pl Start
```

注: SAP/パフォーマンス エージェントの動作停止期間中、OMi MP for SAP はパフォーマンス メトリックを収集できません。

SAP/パフォーマンス エージェントの各種ツール

次の表に、OMi MP for SAP で使用できる SAP/パフォーマンス エージェントの各種ツール (SAP R/3 NT または SAP R/3 UNIX) を示します。

ツール名	SAP R/3 NT	SAP R/3 UN*X
開始	✓	✓
停止	✓	✓
ステータス		✓

OMi MP for SAP パフォーマンス モニタ

OMi MP for SAP パフォーマンス モニタには、スナップショット タイプと期間タイプの2種類があります。スナップショット モニタは1回のみ実行され、1セットの値のみを収集します。SAP NetWeaver 環境のパフォーマンスの全体像を把握するため、スナップショット モニタを定期的に行う必要があります。期間モニタはその名が示すとおり、一定期間にわたって実行されます。

次に、OMi MP for SAP で使用できるパフォーマンス モニタを示します。詳細については、この後の各項目で説明します。

- [「DBINFO_PERF」](#)

データベースパフォーマンス分析値を監視します。

- [「DOCSTAT_PERF」](#)

最後の1時間のドキュメント ボリューム統計を収集します。

- [「EP_PERF」](#)

SAP Enterprise Portal のステータスおよびパフォーマンスを監視します。

- [「ICMSTAT_PERF」](#)

SAP Internet Communication Manager のステータスおよびパフォーマンスを監視します。

- [「JOBREP_PERF」](#)

状態 (スケジュール済み、実行中) ごとのジョブ数をカウントします。

- 「SAPBUFFER_PERF」

SAP インスタンスの SAP バッファ使用値を返します。

- 「SAPABAP_PerfMon」

SAP インスタンスの SAP ユーザによる SAP メモリ使用率を監視します。

- 「SPOOL_PERF」

さまざまな状態のスプール要求数をカウントします。

- 「SYSUP_PERF」

SAP NetWeaver インスタンスのステータスを監視します。

- 「UPDATE_PERF」

更新プロセス数を監視します。

- 「STATRECS_PERF」

SAP トランザクションの統計レコードを監視します。

- 「USER_PERF」

SAP クライアントあたりのユーザおよびユーザセッション数を監視します。

- 「WLSUM_PERF」

パフォーマンス ワークロード統計を 1 時間ごとに収集します。

- 「WP_PERF」

SAP アプリケーション サーバの SAP クライアントあたりのユーザおよびセッション数を監視します。

DBINFO_PERF

DBINFO_PERF パフォーマンス モニタは、SAP データベース パフォーマンス分析 ページに表示されている値セットを返します。この情報を使用してデータベース パフォーマンスの問題を検知し、データベース チューニングによってデータベースのパフォーマンスを向上できるかどうかを評価します。

注: DBINFO_PERF パフォーマンス モニタは、Oracle データベースのデータ構造でのみ動作します。他のデータベース製品のデータ構造では動作しません。

タイプ

DBINFO_PERF パフォーマンス モニタはスナップショット タイプです。1 回のモニタ実行で収集されるのは 1 つの値セットのみです。

頻度

DBINFO_PERF パフォーマンス モニタの実行頻度は 15 分に 1 回とすることをお勧めします。

データソース

DBINFO_PERF パフォーマンス モニタは SAP トランザクション ST04 (DB パフォーマンス概要) をデータ ソースとして使用します。

メトリック

次の表に、DBINFO_PERF パフォーマンス モニタが返すパフォーマンス テーブルの値を示します。

順序	メトリック名	説明	% 値	累計
1	CPUUSAGE	データベース CPU 使用率		いいえ
2	BUFPREADS	物理読み取り		はい
3	BUFPWRITES	物理書き込み		はい
4	BUFQUAL	データベース バッファプールの品質	%	いいえ
5	BUFSIZE	データベース バッファプール サイズ		静的
6	BUFWAITS	バッファビジー待機		はい
7	BUFWTIME	バッファビジー待機時間		はい
8	DICTSIZE	ディクショナリ キャッシュ サイズ		静的
9	DDQUAL	データ ディクショナリ キャッシュの品質	%	いいえ
10	LOGBLOCKS	REDO ログ ブロック書き込み		はい
11	LOGENTRIES	REDO ログ バッファ エントリ		はい
12	LOGSIZE	REDO ログ バッファ サイズ		静的
13	LOGFAULT	REDO ログ バッファの割り当てエラー率	%	いいえ
14	LOGALLOC	REDO ログ バッファ割り当ての再試行		はい
15	ROLLBACKS	ロールバック		はい
16	SCANLONG	長いテーブルスキャン		はい
17	SORTDISK	ディスクの並べ替え		はい
18	SORTMEM	メモリの並べ替え		はい
19	SORTROWS	行の並べ替え		はい

DOCSTAT_PERF

DOCSTAT_PERF パフォーマンス モニタは、最後の 1 時間に生成され処理されたドキュメント ボリュームに関する統計を収集します。このモニタは、監視対象の各 SAP NetWeaver システムに対して 1 回のみ

設定できます。

タイプ

DOCSTAT_PERF パフォーマンス モニタはスナップショット タイプです。1 回のモニタ実行で収集されるのは 1 つの値セットのみです。

頻度

DOCSTAT_PERF パフォーマンス モニタの実行頻度は 1 時間に 1 回とすることをお勧めします。

データソース

DOCSTAT_PERF パフォーマンス モニタは SAP トランザクション ST07 (品質構造) をデータソースとして使用します。

メトリック

次の表に、DOCSTAT_PERF パフォーマンス モニタが返すパフォーマンス テーブルの値を示します。

順序	メトリック名	説明
1	SID	SAP システム ID
2	DESCRIPTION	アプリケーション モニタ オブジェクトの説明
3	CNTHEADER	ドキュメント ヘッダ
4	CNTITEM	ドキュメント項目
5	CNTDIV	ドキュメント分割
6	CNTTOTAL	レコードの合計数
7	CNTLINE	項目数
8	CNTCHGDOC	変更されたドキュメント数
9	CNTTEXT	テキスト

EP_PERF

EP_PERF パフォーマンス モニタは、依存するすべての J2EE コンポーネントなどを含む SAP Enterprise Portal (EP) のステータスおよびパフォーマンスを監視します。

注: EP_PERF は Enterprise Portal が使用可能な場合に使用できます。

タイプ

EP_PERF パフォーマンス モニタは期間タイプです。1 回のモニタ実行で収集されるのは 1 つの値セットのみです。

頻度

EP_PERF パフォーマンス モニタの実行頻度は 15 分に 1 回程度とすることをお勧めします。

データソース

EP_PERF モニタは CCMS をデータソースとして使用します。

メトリック

次の表に、EP_PERF パフォーマンス モニタが返すパフォーマンス テーブルの値を示します。

順序	メトリック名	説明
1	SID_EP	Enterprise Portal をホスティングしている SAP システムの ID
2	HOSTNAME_EP	Enterprise Portal をホスティングしているシステムの名前
3	START_TIME_EP	EP モニタの実行開始時刻
4	NO_REQ_EP	Enterprise Portal への要求数
5	AVG_RESP_TIME_EP	Enterprise Portal への要求の平均応答時間
6	AVG_CPU_TIME_EP*	Enterprise Portal への要求に回答するのにかかる平均 CPU 時間
7	REQ_PER_SEC_EP	Enterprise Portal への 1 秒あたりの要求数
8	AVG_OUTBND_DATA_EP	Enterprise Portal への要求 1 件あたりの平均送信データ量
9	ACC_RESP_TIME_EP	Enterprise Portal への要求の累計応答時間
10	ACC_CPU_TIME_EP*	Enterprise Portal への要求に回答するのにかかる累積 CPU 時間
11	OUTBND_DATA_REQ_EP	送信データを提供する要求
12	ACC_OUTBND_DATA_EP	累計送信データ量 (バイト単位)
13	NO_COMPCALLS_REQ_EP	Enterprise Portal へのすべての要求によるコンポーネント呼び出し数
14	AVG_CMPCALLPERREQ_EP	EP 要求 1 件あたりの平均コンポーネント呼び出し数
15	VALID_MONDATA_REQ_EP	正しいモニタ データを提供する EP 要求

順序	メトリック名	説明
16	REQ_NOT_CORR_CLSD_EP	正常に終了されなかった EP 要求 (コンポーネントを含む)
17	REQCLSD_TOOMNYCMP_EP	コンポーネント数が多すぎるために終了された EP 要求の数
18	REQS_RUNLEVEL_0_EP	レベル0で実行中の EP 要求
19	REQS_RUNLEVEL_1_EP	レベル1で実行中の EP 要求
20	REQS_RUNLEVEL_2_EP	レベル2で実行中の EP 要求
21	USRS_SINCE_1_REQ_EP	最初の要求以降に EP 要求を行っているユーザの数
22	USRS_SINCE_LSTRST_EP	最後のユーザリセット以降に EP 要求を行っているユーザの数
23	LST_REQ_RST_TSTMP_EP	最後の EP 要求リセットの時刻
24	LST_CMPREQ_TSTMP_EP	最後のコンポーネント リセットの時刻
25	LST_USRREQ_TSTMP_EP	最後の EP ユーザリセットの時刻

*SAP NetWeaver ポータルバージョン 7.0 のみ

注: データが見つけれず、SAP CCMS で null 文字列が見つかった場合、パフォーマンスメトリックは「0」としてログに記録されます。これは正常な動作です。

ICMSTAT_PERF

ICMSTAT_PERF パフォーマンス モニタは SAP Internet Communication Manager (ICM) のステータスおよびパフォーマンスを監視します。

タイプ

ICMSTAT_PERF パフォーマンス モニタはスナップショット タイプです。1 回のモニタ実行で収集されるのは 1 つの値セットのみです。

頻度

ICMSTAT_PERF パフォーマンス モニタの実行頻度は 15 分に 1 回程度とすることをお勧めします。

データソース

ICMSTAT_PERF パフォーマンス モニタは SAP トランザクション SMICM (ICM モニタ) をデータソースとして使用します。

メトリック

次の表に、ICMSTAT_PERF パフォーマンス モニタが返すパフォーマンス テーブルの値を示します。

順序	メトリック名	説明
1	ICM_Status	Internet Communication Manager のステータス
2	Max_Threads	ICM で開けるスレッドの最大数
3	Peak_Threads	ICM で一定期間に開くスレッドのピーク数
4	Cur_Threads	ICM で現在開いているスレッドの数
5	Max_Connections	ICM で開ける接続の最大数
6	Peak_Connections	ICM で一定期間にオープンする接続のピーク数
7	Cur_Connections	ICM での現在の接続数
8	Max_QueueEntries	ICM で許可されているキューに入れられた要求の最大数 (icm/req_queue_len で定義)
9	Peak_QueueEntries	ICM で一定期間にキュー入れられた要求のピーク数
10	Cur_QueueEntries	ICM で現在キューに入れられた要求の数
11	Running_Threads	要求を待機している (アイドル) ワークスレッドの数
12	Dead_Threads	問題のある状態 (停止、ハング) のワークスレッドの数
13	Processed_Threads	現在要求を処理しているワークスレッドの数

JOBREP_PERF

JOBREF_PERF パフォーマンス モニタは、最後のモニタ実行の終了日時と実際のモニタ実行の開始日時の間の期間、状態ごとのジョブをカウントします。

タイプ

JOBREF_PERF パフォーマンス モニタは期間タイプです。1 回のモニタ実行で収集されるのは 1 つの値セットのみです。

頻度

JOBREF_PERF パフォーマンス モニタの実行頻度は 1 時間に 1 回から 1 日に 1 回の間とすることをお勧めします。

データソース

JOBREF_PERF パフォーマンス モニタは SAP トランザクション SM37 (バックグラウンド ジョブ概要) をデータソースとして使用します。

メトリック

次の表に、JOBREF_PERF パフォーマンス モニタが返すパフォーマンス テーブルの値を示します。

順序	メトリック名	説明
1	RUNNING	最後のモニタ実行以降のステータスが実行中になっているジョブの数
2	READY	最後のモニタ実行以降のステータスが準備完了になっているジョブの数
3	SCHEDULED	最後のモニタ実行以降のステータスがスケジュール済みになっているジョブの数
4	RELEASED	最後のモニタ実行以降のステータスがリリース済みになっているジョブの数
5	ABORTED	最後のモニタ実行以降のステータスが中止になっているジョブの数
6	FINISHED	最後のモニタ実行以降のステータスが完了になっているジョブの数
7	PUT_ACTIVE	最後のモニタ実行以降のステータスが put_active になっているジョブの数
8	UNKNOWN_STATE	最後のモニタ実行以降のステータスが不明になっているジョブの数

SAPBUFFER_PERF

SAPBUFFER_PERF パフォーマンス モニタは、特定のインスタンスで SAP ユーザが使用する SAP メモリバッファの値を返します (NetWeaver リポジトリ、プログラム、データベーステーブルのヒット率、バッファ品質、空き容量など)。

タイプ

SAPBUFFER_PERF パフォーマンス モニタは期間タイプです。

頻度

SAPBUFFER_PERF パフォーマンス モニタの実行頻度は 15 分に 1 回とすることをお勧めします。

データソース

SAPBUFFER_PERF モニタは SAP バッファトランザクション ST02 から情報を読み取ります。

メトリック

次の表に、SAPBUFFER_PERF パフォーマンス モニタが返すパフォーマンス テーブルの値を示します。

順序	メトリック名	説明
1	BUFFER_NAME	バッファ名
2	HITRATIO	バッファオブジェクト読み取り論理要求。 バッファヒット率はパーセンテージとして表示されます
3	ALLOCATED_SIZE	バッファに割り当てられている容量 ¹
4	FREE_SPACE	バッファの使用可能な空き容量 (KB)
5	FREE_SPACE_PERCENT	バッファの使用可能な空き容量の全体におけるパーセンテージ
6	MAXDIR_ENTR	バッファの使用可能なディレクトリの数 ²
7	FREEDIR_ENTR	バッファの使用可能な空きディレクトリの数 ^b
8	FDIR_ENTR_PERCENT	バッファの使用可能な空きディレクトリのパーセンテージ
9	BUFFER_SWAPS	システム起動以降の内向き/外向きスワップアクティビティ ³
10	BUFFER_SWAPS_DELTA	今回と前回のモニタ実行で測定されたバッファスワップ数の差
11	DB_ACCESSES	システム起動以降のデータベースアクセスの数 ⁴
12	DB_ACCESSES_DELTA	今回と前回のモニタ実行で測定されたデータベースアクセス数の差

1. バッファ容量の一部はバッファ管理に使用されるため、バッファサイズと「使用可能なバッファサイズ」は異なります。
2. バッファディレクトリはバッファ内に格納されているオブジェクトの場所を指します。
3. 空き容量または空きディレクトリが不足している場合、バッファのバッファスワップオブジェクトに新しい

オブジェクトが読み込まれます。

4. バッファからオブジェクトを読み込むことができない場合、データベースアクセスが発生します。

タイプ

SAPMEMORY_PERF モニタはスナップショット タイプです。1 回のモニタ実行で収集されるのは 1 つの値セットのみです。

頻度

SAPMEMORY_PERF パフォーマンス モニタの実行頻度は 15 分に 1 回とすることをお勧めします。

データソース

SAPMEMORY_PERF モニタは SAP バッファトランザクション ST02 から情報を読み取ります。

メトリック

次の表に、SAPMEMORY_PERF パフォーマンス モニタが返すパフォーマンス テーブルの値を示します。

順序	メトリック名	説明
1	MEMORY_AREA	メモリバッファのタイプ
2	CURRENT_USE_PERCENT	現在使用中の容量の全体におけるパーセンテージ
3	CURRENT_USE	現在使用中の容量 (KB)
4	MAX_USE	システム起動以降の最大値 (最大使用率)
5	IN_MEMORY	共有メモリ使用量
6	ON_DISK	ディスク使用量

SPOOL_PERF

SPOOL_PERF パフォーマンス モニタは、さまざまな状態のスプール要求数をカウントします。

タイプ

SPOOL_PERF 監視テンプレートは期間タイプで、アラートタイプやパラメータを使用しません。1 回のモニタ実行で収集されるのは 1 つの値セットのみです。SPOOL_PERF パフォーマンス モニタは SID 関連メトリックを収集します。監視対象の各 SID (SAP セントラル インスタンスまたは 1 つのアプリケーション サーバ) に対して 1 回のみ実行します。

頻度

SPOOL_PERF パフォーマンス モニタの実行頻度は 10 ~ 30 分に 1 回とすることをお勧めします。

データソース

SPOOL_PERF パフォーマンス モニタは SAP トランザクション SP01 (出カコントロール) をデータソースとして使用します。

メトリック

次の表に、SPOOL_PERF パフォーマンス モニタが返すパフォーマンス テーブルの値を示します。

順序	メトリック名	説明
1	ALL_SJ	スプールジョブの合計数
2	SJ_ARCHIVE	状態がアーカイブになっているスプールジョブの数
3	PRINT_REQ	印刷要求の合計数
4	OPEN_PR	未処理の印刷要求の数
5	SUCCESS_PR	正常に処理が完了した印刷要求の数
6	ERROR_PR	エラーになった印刷要求の数
7	FAILED_PR	失敗した印刷要求の数

SYSUP_PERF

SYSUP_PERF パフォーマンス モニタでは、SAP NetWeaver システムが使用可能かどうかを判断できません。

タイプ

SYSUP_PERF パフォーマンス モニタはスナップショット タイプです。1 回のモニタ実行で収集されるのは 1 つの値セットのみです。

頻度

SYSUP_PERF パフォーマンス モニタは 1 分に 1 回実行されます。実行頻度を変更することはできません。

データソース

SYSUP_PERF パフォーマンス モニタは内部 SAP RFC 呼び出しをデータソースとして使用します。

メトリック

次の表に、SYSUP_PERF パフォーマンス モニタが返すパフォーマンス テーブルの値を示します。

メトリック名	説明
--------	----

SYSTEM_ STATUS	<p>次の値に基づくシステムのステータス (アップ/ダウン):</p> <ul style="list-style-type: none"> • SAP システム使用可能 • SAP システムへのログオン失敗 • SAP システムの通信に問題 • SAP システム不明 <p>パフォーマンスエージェントが動作しておらず、データを収集できなかったことを示します。</p>
-------------------	--

UPDATE_PERF

UPDATE_PERF パフォーマンス モニタでは、更新エラーが発生しているかどうかを判断できます。

SAP NetWeaver システムが正常に動作している場合、更新エラーは発生しません。ただし、削除済みのデータベーステーブルレコードに対して更新が行われた場合は、更新エラーが発生します。通常の更新プロセスでは、更新タスクで INIT ステータスを 5 分以上待機する必要はありません。INIT ステータスのワークプロセスが大量に存在する場合、テーブル容量がいっぱいになっている可能性があります。

タイプ

UPDATE_PERF モニタはスナップショット タイプです。1 回のモニタ実行で収集されるのは 1 つの値セットのみです。

頻度

UPDATE_PERF パフォーマンス モニタの実行頻度は 1 分に 1 回とすることをお勧めします。

データソース

UPDATE_PERF パフォーマンス モニタは SAP トランザクション SM13 (更新レコード) をデータソースとして使用します。

メトリック

次の表に、UPDATE_PERF パフォーマンス モニタが返すパフォーマンス テーブルの値を示します。

順序	メトリック名	説明
1	すべて	すべての VB 更新タスクの数
2	INITIAL	初期 VB 更新タスクの数
3	ERRONEOUS	エラーになった VB 更新タスクの数
4	VB1	V1 が実行された更新タスクの数
5	VB2	V2 が実行された更新タスクの数

STATRECS_PERF

SAPABAP_StatRecMon 監視テンプレートは統計レコードを読み取り、トランザクションごとの平均応答時間を返します。

SAPABAP_StatRecMon 監視テンプレートはアラートタイプ RESPONSE_TIME とパラメータ TRANSACTION を使用して、選択されているデータを制限します。監視対象のトランザクションはパラメータ TRANSACTION で指定します。このパラメータを指定しない場合、指定した期間のローカル統計ファイルの各トランザクションの平均応答時間がレポートされます。詳細については、「[SAPABAP_StatRecMon](#)」監視テンプレートを参照してください。

USER_PERF

USER_PERF パフォーマンス モニタは、特定の SAP アプリケーション サーバの SAP クライアントごとのユーザおよびユーザセッション数について重要な情報を提供します。

タイプ

USER_PERF モニタはスナップショット タイプです。

頻度

USER_PERF パフォーマンス モニタの実行頻度は 5 分に 1 回とすることをお勧めします。

データソース

USER_PERF パフォーマンス モニタは SAP トランザクション SM04 (ユーザ概要) をデータソースとして使用します。

メトリック

次の表に、USER_PERF パフォーマンス モニタが返すパフォーマンス テーブルの値を示します。

順序	メトリック名	説明
1	USER_CLIENT	ユーザと関連付けられている SAP クライアント番号
2	USER_CNT	クライアントあたりのログイン ユーザ数
3	SESSION_CNT	クライアントあたりのユーザセッションの合計数

WLSUM_PERF

WLSUM_PERF パフォーマンス モニタは最後の 1 時間のパフォーマンスワークロード統計を収集します。すべてのタスクタイプ (ダイアログ、バックグラウンド、RFC、ALE、更新など) のワークロード統計を表示できます。WLSUM_PERF パフォーマンス モニタは必須です。監視するアプリケーション サーバごとに設定する必要があります。

注: WLSUM モニタのデータ収集は内部 SAP ジョブ COLLECTOR_FOR_PERFORMANCEMONITOR に基づいています。このジョブは、SAPABAP_PerfMon 監視テンプレートの WLSUM_PERF で指定したのと同じ頻度である必要があります。WLSUM_PERF はその後、COLLECTOR_FOR_PERFORMANCEMONITOR の最後の実行で収集されたデータを取得します。

タイプ

WLSUM_PERF パフォーマンス モニタは期間タイプです。1 回のモニタ実行で収集されるのは 1 つの値セットのみです。

頻度

WLSUM_PERF パフォーマンス モニタが時間を測定し記録する方法に合わせて、WLSUM_PERF パフォーマンス モニタの実行頻度を 1 時間に 1 回とする必要があります。

データソース

WLSUM_PERF パフォーマンス モニタは SAP トランザクション ST03 (ワークロード分析) をデータソースとして使用します。

メトリック

次の表に、WLSUM_PERF パフォーマンス モニタが返すパフォーマンス テーブルの値を示します。

順序	メトリック名	説明
1	ホスト名	SAP システムのホスト名
2	SID	SAP システム ID
3	INSTANCE	SAP インスタンス番号 (SAP バージョンが 4.6x より前の場合)
4	TASKTYPE	SAP NetWeaver タスクのタイプ (RFC、ダイアログ)
5	CNT	ダイアログステップの数
6	DBACTIVCNT	データベース アクティブ ダイアログ ステップのカウンタ
7	RESPTI	ダイアログのディスパッチャへの要求送信から応答受信までの経過時間
8	CPUTI	ワークプロセスで使用される CPU 時間
9	QUEUETI	未処理のダイアログステップがディスパッチャキューで空きワークプロセスを待機する時間
10	LOADGENTI	データベースからの ABAP ソースコードや画面情報などのオブジェクトの読み込みと生成にかかる時間

順序	メトリック名	説明
11	COMMITTI	コミット完了にかかる時間
12	DDICTI	データ ディクショナリにかかる時間
13	QUETI	バッチ入力キューにかかる時間
14	CPICTI	RFC および CPI-C にかかる時間
15	ROLLINCNT	ロールイン数 (ロールイン ユーザ コンテキスト)
16	ROLLINTI	ロールインの処理時間
17	ROLLOUTCNT	ロールアウト数 (ロールアウト ユーザ コンテキスト)
18	ROLLOUTTI	ロールアウトの処理時間
19	READDIRCNT	直接読み取りアクセスの数
20	READDIRTI	直接読み取りアクセスの時間
21	READSEQCNT	順次読み取り試行の数
22	READSEQTI	順次読み取りアクセスの時間
23	CHNGCNT	変更されたデータベースアクセス数
24	CHNGTI	変更されたデータベースアクセス時間
25	BYTES	バイト数
26	GUITIME	ディスパッチャが GUI 要求を実行するのにかかる合計時間
27	GUICNT	GUI ステップの数
28	GUINETTIME	アプリケーション サーバが SAP GUI からの要求に回答するのにかかる時間

WP_PERF

OMi MP for SAP パフォーマンスエージェントは WP_PERF モニタを使用して、SAP ワークプロセスのパフォーマンスに関する問題を検知します。たとえば、WP_PERF で次の状況を検知し、レポートできます。

- ワークプロセスがセマフォを待機する必要がある
- ワークプロセスが private モード

- ダイアログワークプロセスが使用/リリース後にアイドルに戻らない

タイプ

WP_PERF モニタはスナップショット タイプです。1 回のモニタ実行で収集されるのは 1 つの値セットのみです。

頻度

WP_PERF パフォーマンス モニタの実行頻度は 15 分に 1 回とすることをお勧めします。

データソース

WP_PERF パフォーマンス モニタは SAP トランザクション SM50 (ワークプロセス概要) をデータソースとして使用します。

メトリック

次の表に、このパフォーマンス モニタが返すパフォーマンス テーブルの値を示します。

順序	メトリック名	説明
1	ALL_WP	すべてのワークプロセスの数
2	SEMAPHORE_WP	セマフォを待機しているワークプロセスの数
3	DEBUG_WP	デバッグモードのワークプロセスの数
4	LONG_RUNNING	長時間実行されているダイアログワークプロセスの数
5	PRIVAT_WP	private モードのダイアログワークプロセスの数
6	NOSTART_WP	再起動できないダイアログワークプロセスの数
7	DIA_IDLE	アイドルダイアログワークプロセスの数
8	DIA_ALL	ダイアログワークプロセスの数
9	DIA_RUNNING	実行中のダイアログワークプロセスの数
10	BTC_IDLE	アイドルバッチワークプロセスの数
11	BT_ALL	バッチワークプロセスの数

順序	メトリック名	説明
12	BTC_RUNNING	実行中のバッチ ワークプロセスの数
13	SPO_IDLE	アイドルスプールワークプロセスの数
14	SPO_ALL	スプールワークプロセスの数
15	SPO_RUNNING	実行中のスプールワークプロセスの数
16	ENQ_IDLE	アイドルエンキューワークプロセスの数
17	ENQ_ALL	エンキューワークプロセスの数
18	ENQ_RUNNING	実行中のエンキューワークプロセスの数
19	UPD_IDLE	アイドル更新ワークプロセスの数
20	UPD_ALL	更新ワークプロセスの数
21	UPD_RUNNING	実行中の更新ワークプロセスの数
22	UPD2_IDLE	アイドル更新 2 ワークプロセスの数
23	UPD2_ALL	更新 2 ワークプロセスの数
24	UPD2_RUNNING	実行中の更新 2 ワークプロセスの数

OMi MP for SAP R/3 パフォーマンス エージェントの削除

OMi MP for SAP R/3 パフォーマンス エージェントを管理対象ノードから削除するには、次の手順を順番に実行する必要があります。

1. OMi MP for SAP パフォーマンス エージェントを管理対象ノードから削除するプロセスを開始する前に、パフォーマンス エージェントを停止します。OMi MP for SAP R/3 パフォーマンス エージェントを停止するには、次のいずれかの方法に従います。
 - a. SAP ABAP アプリケーション サーバを使用して OMi MP for SAP R/3 パフォーマンス エージェントを停止する場合、次の手順に従います。

- i. [割り当ておよび調整] ペインに移動します。

BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [割り当ておよび調整] をクリックします。

OMi では、[管理] > [監視] > [割り当ておよび調整] をクリックします。

- ii. [ビューの参照] タブから **SAP_Deployment** ビューを選択します。パフォーマンス エージェントを停止する SAP ABAP アプリケーション サーバまたは SAP J2EE アプリケーション サーバを選択します。
- iii. 右クリックして [ツールを起動] を選択します。
- iv. [パフォーマンス エージェントの停止] ツールを選択して [ツールの実行] をクリックします。

ABAP の場合：

SAP ABAP アプリケーション サーバ - パフォーマンス エージェントの停止

J2EE の場合：

SAP J2EE アプリケーション サーバ - パフォーマンス エージェントの停止

選択した SAP アプリケーション サーバで OMi MP for SAP パフォーマンス エージェントが停止します。

- b. コマンドラインを使用して OMi MP for SAP R/3 パフォーマンス エージェントを停止する場合、root ユーザとしてコマンドラインで次のコマンドを使用します。

```
r3mon-perl -S SAPMP_Tool.pl Stop
```

選択した SAP CI で OMi MP for SAP パフォーマンス エージェントが停止します。

2. SAP ABAP アプリケーション サーバ-パフォーマンス パッケージの削除 ツールを起動するには、次の手順を実行します。
 - a. [割り当ておよび調整] ウィンドウに移動します。

BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [割り当ておよび調整] をクリックします。

OMi では、[管理] > [監視] > [割り当ておよび調整] をクリックします。

- b. [ビューの参照] タブから **SAP_Deployment** ビューを選択します。パフォーマンス エージェントを削除する SAP ABAP アプリケーション サーバまたは SAP J2EE アプリケーション サーバを選択します。
- c. 右クリックして [ツールを起動] を選択します。
- d. [パフォーマンス パッケージの削除] ツールを選択して [ツールの実行] をクリックします。

ABAP の場合：

SAP ABAP アプリケーション サーバ - パフォーマンス パッケージの削除

J2EE の場合:

SAP J2EE アプリケーション サーバ - パフォーマンス パッケージの削除

選択した SAP アプリケーション サーバから OMi MP for SAP パフォーマンス エージェントが削除されます。

SAPABAP_ProcMon

SAPABAP_ProcMon 監視テンプレートでは、さまざまな SAP ABAP プロセスを監視できます。

この項では、次のトピックについて説明します。

- [「ファイルの場所」](#)
- [「環境変数」](#)
- [「監視条件」](#)
- [「設定例」](#)

ファイルの場所

次の表に、SAPABAP_ProcMon 監視テンプレートに含まれるファイルを示します。

ファイル	説明
r3monpro(.exe)	プロセス モニタの実行可能ファイル。
r3monpro.cfg	プロセス モニタの設定ファイル。
r3monpro.his	モニタ実行後にデータを格納するための履歴ファイル。

環境変数

次の表に、SAPABAP_ProcMon 監視テンプレートが使用する環境変数を示します。

環境変数	説明
SAPOPC_DRIVE	HPOM エージェントが動作する Windows ドライブ (例: E:\usr\...)
SAPOPC_HISTORYPATH	r3monpro 履歴ファイルのパス

SAPOPC_R3MONPRO_CONFIGFILE	r3monpro 設定ファイルの名前
SAPOPC_SAPDIR	SAP NetWeaver が動作する Windows ドライブ (例: E:\usr\sap)
SAPOPC_TRACEPATH	r3monpro トレースファイルのパス

監視条件

SAPABAP_ProcMon 監視テンプレートの監視条件は、テンプレート設定で指定します。各行に特定プロセスの監視条件を定義します。SAPABAP_ProcMon 監視テンプレートを使用して、実行中のプロセス数をどのように測定し、プロセス数が定義した制限を超えた場合に生成されるアラートにどの重大度レベルを割り当てるかを定義するルールを設定できます。

特定プロセスの監視条件を以下のいずれかのモードに設定できます。

- 一致

管理対象ノードで実行中のプロセス数が指定した数と一致する必要があります。

- 最小

管理対象ノードで実行中のプロセス数が指定した数以上である必要があります。

- 最大

管理対象ノードで実行中のプロセス数が指定した数以下である必要があります。

- デルタ

SAPABAP_ProcMon 監視テンプレートでは、管理対象ノードで実行中のプロセス数が変化した場合、または同じプロセスのインスタンス数で許可されている変更が定義済みの制限を超えた場合に、アラートがトリガされます。このモードでは、管理対象ノードのプロセスの絶対数を定義することなく、変更を認識できます。

たとえば、デルタを 2 とした場合、管理対象ノードで実行された前回のモニタと現在のモニタでプロセス数の差が 2 以上ある場合にアラートがトリガされます。SAPABAP_ProcMon 監視テンプレートがアラートをトリガした場合、n は最新のモニタ実行で検出されたプロセス数にリセットされ、実行中と検出された新しいプロセス数に基づいて新しいデルタが計算されます。

設定例

次の例の最初の行では、すべての設定済みホストで saposcol プロセスを監視するよう指定しています。このようなプロセスは一度に 1 つずつ実行する必要があります。1 つずつ実行しない場合、問題が発生します。OMi プロセス saposcol が影響を受けます。関連する OMi MP for SAP メッセージグループは R3_State です。

この例の最後の行では、すべてのホストで実行する dw.sapSID プロセスのインスタンス数を 8 までと指定しています。インスタンス数が 8 を超える場合、モニタは OMi MP for SAP オブジェクト dw.sap および OMi MP for SAP メッセージ グループ R3_State に関する注意域メッセージを生成します。

文字列 SID はこのコンテキストで特別な意味を持っています。SID は管理対象ノードで SAP システム名に置き換えられます。これにより、さまざまな SAP システムのグローバル定義が可能です。

```
AlertInstMonPro =ALL =00 =saposcol =1 =Exact=1 =CRITICAL =saposcol =R3_State
```

```
AlertInstMonPro =C01 =00 =explorer =1 =Max =1 =CRITICAL =explorer =R3_State
```

```
AlertInstMonPro =T11 =00 =dw.sapSID =1 =Min =8 =WARNING =dw.sap =R3_State
```

また、プロセスが実行中でないことを確認することも可能です。そのためには、一致モードを使用し、数値として 0 を入力します。

注: UNIX オペレーティングシステムを実行しているサーバでは、SAPABAP_ProcMon 監視テンプレートはインスタンスレベルでプロセスを識別できます。Windows オペレーティングシステムを実行しているサーバでは、ノードのワークプロセスの合計数を 1 行に定義する必要があります。たとえば、SAP インスタンスが 2 つあり、それぞれに 4 つのワークプロセスがある場合、プロセスの合計数は 8 です。

UNIX オペレーティングシステムを実行している SAP サーバでは、個々の SAP SID と関連付けられた特定の SAP ゲートウェイ読み取りプロセス gwrд を監視するように SAPABAP_ProcMon 監視テンプレートを設定できます。これはマルチ SID 環境で特に有用です。同じ SID で実行されている SAP インスタンスが複数ある場合は、それぞれ個々のインスタンスに割り当てられた特定の SAP ゲートウェイ読み取りプロセス gwrд を監視するように SAPABAP_ProcMon 監視テンプレートを設定できます。複数の SAP インスタンスまたは複数の SAP SID が同じ SAP サーバで実行されている環境で個々の gwrд プロセスを監視するように SAPABAP_ProcMon 監視テンプレートを設定する方法の詳細は、次の例を参照してください。

- 「SID ごとの SAP ゲートウェイ読み取りプロセスの監視」
- 「SAP インスタンスごとの SAP ゲートウェイ読み取りプロセスの監視」

「SID ごとの SAP ゲートウェイ読み取りプロセスの監視」では、複数の SAP ID がある SAP サーバで特定の SID と関連付けられた個々の gwrд プロセスを監視するように SAPABAP_ProcMon 監視テンプレートを設定する方法を示します。

SID ごとの SAP ゲートウェイ読み取りプロセスの監視

```
AlertInstMonPro =Q12 =ALL =gwrд -dp pf=/usr/sap/
```

```
SID* =1 =Exact =1 =CRITICAL \
```

```
=gwrд =R3_State
```

```
AlertInstMonPro =Q22 =ALL =gwrд -dp pf=/usr/sap/
```

```
SID* =1 =Exact =1 =CRITICAL \
```

```
=gwrд =R3_State
```

```
AlertInstMonPro =Q32 =ALL =gwrд -dp pf=/sapmnt/
```

```
SID* =1 =Exact =1 =CRITICAL \
```

```
=gwrд =R3_State
```

```
AlertInstMonPro =Q52 =ALL =gwrд -dp pf=/usr/sap/
```

```
SID* =1 =Exact =1 =CRITICAL \
```

```
=gwrд =R3_State
```

「SAP インスタンスごとの SAP ゲートウェイ読み取りプロセスの監視」では、SAP SID ごとに複数の SAP インスタンスがある SAP サーバで特定の SAP インスタンスと関連付けられた個々のゲートウェイプロセスを監視するように SAPABAP_ProcMon 監視テンプレートを設定する方法を示します。

SAP インスタンスごとの SAP ゲートウェイ読み取りプロセスの監視

```
AlertInstMonPro =Q12 =12 =gwrд -dp pf=/usr/sap/
```

```
SID* =1 =Exact =1 =CRITICAL \ =gwrд =R3_State
```

```
AlertInstMonPro =Q22 =21 =gwrд -dp pf=/usr/sap/Q22/SYS/profile/
```

```
Q22_D21_sap2ap1 \ =1 =Exact =1 =CRITICAL =gwrд =R3_State
```

```
AlertInstMonPro =Q22 =22 =gwrд -dp pf=/usr/sap/Q22/SYS/profile/
```

```
Q22_D22_sap2ap1 \ =1 =Exact =1 =CRITICAL =gwrд =R3_State
```

```
AlertInstMonPro =Q32 =32 =gwrд -dp pf=/sapmnt/
```

```
SID* =1 =Exact =1 =CRITICAL \ =gwrд =R3_State
```

```
AlertInstMonPro =Q52 =52 =gwrд -dp pf=/usr/sap/
```

```
SID* =1 =Exact =1 =CRITICAL \ =gwrд =R3_State
```

SAPABAP_ProcMon 監視テンプレート設定の pf パラメータで定義する SAP インスタンスプロファイルのパスでは、大文字と小文字が区別されます。問題を回避するため、SAPABAP_ProcMon 監視テンプレート設定で定義する SAP インスタンスプロファイルのパスが ps コマンドの出力で表示されるパスと一致するようにしてください。次に例を示します。

```
[root@accra]# ps -eaf | grep gwrд
```

```
Q22adm 15691 15688 0 Jun 6 ?52:54 gwrд -dp \ pf=/usr/sap/Q22/SYS/profile/Q22_D21_
sap2ap1
```

```
root 20756 20599 0 10:22:58 pts/tb 0:00 grep gwrд
```

SAPABAP_RFCDestMon

SAPABAP_RFCDestMon 監視テンプレートでは、SAP RFC 宛先の接続タイプや名前に基づいて、失敗した SAP RFC 宛先を監視できます。SAPABAP_RFCDestMon 監視テンプレートは RFC 宛先を参照します。RFC 宛先を表示、作成、管理するには、SAP NetWeaver トランザクション SM59 を使用します。

モニタタイプ

SAPABAP_RFCDestMon 監視テンプレートはスナップショットタイプです。1 回のモニタ実行で収集されるのは 1 つの値セットのみです。

アラート タイプ

SAPABAP RFCDestMon 監視テンプレートには次のアラート タイプがあり、これはスナップショット レポートタイプを使用します。

CHECK

失敗した SAP-RFC 接続のアラート条件を定義します。

ファイルの場所

次の表に、SAPABAP RFCDestMon 監視テンプレートが使用するファイルを示します。

ファイル	説明
r3moncol(.exe)	SAP-RFC モニタのコレクタ実行可能ファイル。
r3monrfc.cfg	SAP-RFC モニタの設定ファイル。
r3monrfc.log	トレース データ格納のためのトレースファイル。

SAPABAP RFCDestMon 監視テンプレートは、特定の履歴ファイルに履歴情報を書き込みません。

環境変数

SAPABAP RFCDestMon 監視テンプレートが使用する環境変数については、「[環境変数](#)」を参照してください。

コマンドラインパラメータ

SAPABAP RFCDestMon 監視テンプレートが使用するコマンドラインパラメータについては、「[コマンドラインパラメータ](#)」を参照してください。

リモート監視

別の SAP システムをリモートで監視するための SAPABAP RFCDestMon 監視テンプレートの設定の詳細は、「[SAP ABAP 監視テンプレートによるリモート監視](#)」を参照してください。

RFC 宛先のアラート タイプの設定

SAPABAP RFCDestMon 監視テンプレートである RFC 宛先モニタのすべてのアラートタイプに対し、パラメータ CONNECTION_TYPE および NAME を設定する必要があります。SAPABAP RFCDestMon 監視テンプレートの [除外] および [含める] パラメータには、次の一般ルールがあります。

パラメータの値

この項では、SAPABAP RFCDestMon 監視テンプレートがアラート タイプ エントリに対して [含める] および [除外] パラメータをどのように解釈するかを説明します。SAPABAP RFCDestMon 監視テンプレートでは、異なるパラメータの値の比較に「and」を使用し、同じパラメータの値の比較を次のように行います。

- **含める:** 「or」を使用してパラメータを比較します。
- **除外:** 「and」を使用してパラメータを比較します。

OMi MP for SAP は、[除外] の値の前に [含める] 値を評価します。

CHECK

CHECK は、OMi MP for SAP の RFC 宛先 モニタである SAPABAP RFCDestMon 監視テンプレートのスナップショット アラート タイプです。スナップショット アラート タイプは、モニタ実行と同時に SAP システムを把握します。

CHECK アラート タイプでは、失敗した SAP-RFC 接続のアラート条件を定義します。CHECK アラートタイプを使用して、ターゲット システムの RFC 接続テストが失敗した場合にアラートを生成するように SAPABAP RFCDestMon 監視テンプレートを設定します。次の表に、CHECK アラート タイプの設定に使用できるパラメータと、各パラメータにデフォルトで割り当てられる値を示します。

パラメータ CHECK は必須です。次の表に、アラート コレクタ モニタ設定ファイルのクエリ条件の意味を示します。

パラメータ名	説明	クエリ条件	デフォルト値
CONNECTION_TYPE	監視する SAP RFC 接続のタイプ (例: 1、3、M、T)。タイプ 1= アプリケーションサーバ、3= SAP NetWeaver システム、M= CMC、T=TCP/IP、G= 外部サーバへの HTTP 接続、H= SAP NetWeaver システムへの HTTP 接続です。	= Sign I, E	I
		= Opt:EQ	EQ
		= Low	3
		= High	
NAME	SAP-RFC 接続に割り当てた名前 (トランザクション /NSM59 に表示)。	= Sign:I, E	I
		= Opt:EQ, CP	EQ
		= Low:<SID>	**
		= High:	

Check-RFC_DESTINATION のデフォルト設定

「Check-RFC_DESTINATION のデフォルト設定」では、RFC_DESTINATION テストがタイプ 3 の SAP-RFC 宛先のいずれかで失敗した場合にアラートを生成するイベントが発生します。

```
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =RFC_DESTINATION =1 \
=WARNING =RFC_Destinations =R3_RFC \
=CHECK =CONNECTION_TYPE =I =EQ =3 =
```

Check-RFC_DESTINATION 設定

次の Check-RFC_DESTINATION の設定例では、RFC_DESTINATION テストが1つの SAP-RFC 宛先 (OV_C01_099) で失敗した場合にアラートを生成するイベントが発生します。

```
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =RFC_DESTINATION =1 \
=WARNING =RFC_Destinations =R3_RFC \
=CHECK =NAME =I =CP =OV_C01_099 =
```

SAPABAP_SecMon

SAPABAP_SecMon 監視テンプレートでは、SAP 全体に影響を及ぼす、主要な SAP ユーザの権限や認可などの SAP ABAP セキュリティパラメータを監視できます。

SAPABAP_SecMon 監視テンプレートが起動する前に、OMi MP for SAP で必要な他の SAP ユーザロールや権限に加え、SAP ユーザロール/HPOV/SAPSPI_SECURITY_MON に定義されている権限を SAPABAP_SecMon 監視テンプレートを実行する OMi ユーザに割り当てる必要もあります。ユーザロール/HPOV/SAPSPI_SECURITY_MON には、SAP レポートを実行するために必要な権限 (S_TCODE、S_USER_AUT など) が含まれており、SAPABAP_SecMon 監視テンプレートは SAP RFC インターフェイスを使用してこれを呼び出します。

この項では、次のトピックについて説明します。

- [「ファイルの場所」](#)
- [「アラート タイプ」](#)
- [「SAPABAP_SecMon 監視テンプレートを使用したリモート監視」](#)

ファイルの場所

次の表に、SAPABAP_SecMon 監視テンプレートが使用するファイルを示します。

ファイル	説明
r3monsec(.exe)	SAP システム セキュリティ モニタの実行可能ファイル。
r3monsec.cfg	SAP システム セキュリティ モニタの設定ファイル。
r3monsecpw.msg	SAP 環境の標準 Oracle ユーザの暗号化パスワードが含まれています。
r3monsec.log	SAP システム セキュリティ モニタが収集したトレースデータの格納に使用するファイル。

アラート タイプ

SAPABAP_SecMon 監視テンプレートは次のアラート タイプを使用します。

- 「SAP_PARAMETERS」

SAP レポート RSPFPAR に定義されているようなセキュリティ関連パラメータを監視します。

- 「DEFAULT_USERS」

安全ではないデフォルト パスワードが使用されないよう、SAP および Oracle ユーザに定義されているパスワードの設定を監視します。

- 「PRIVILEGED_USERS」

SAP ユーザに付与されている特別な権限や、通常は資格のないユーザによって要求されている特別な権限を監視します。

OMi MP for SAP は、その値が表示されるパラメータが同じか異なるかによって、アラート タイプ エントリの [含める] および [除外] パラメータ値を解釈します。異なるパラメータでは「and」を使用して、同じパラメータでは次の方法で値が比較されます。

- **含める:** 「or」を使用してパラメータを比較します。
- **除外:** 「and」を使用してパラメータを比較します。

OMi MP for SAP は、[除外] の値の前に [含める] 値を評価します。

OMi MP for SAP は SAPABAP_SecMon 監視テンプレートのアラート タイプ SAP_PARAMETERS および DEFAULT_USERS の [含める] および [除外] パラメータを無視します。ただし、アラート タイプ PRIVILEGED_USERS には [含める] および [除外] パラメータを使用する必要があります。

SAP_PARAMETERS

SAP_PARAMETERS アラート タイプは、セキュリティ関連の SAP パラメータの設定 (および変更) を監視するように SAPABAP_SecMon 監視テンプレートを設定するために使用します。SAP_PARAMETERS アラート タイプでは、SAPABAP_SecMon 監視テンプレートに定義した値と、監視対象の SAP インスタンスのセキュリティ関連パラメータを含む SAP レポート RSPFPAR の内容が比較されます。

アラート タイプ SAP_PARAMETERS のデフォルト設定には、SAP レポート RSPFPAR に定義されているごく一部しか反映されません。SAP 環境に合わせて、SAPABAP_SecMon Monitoring 監視テンプレートの SAP_PARAMETERS セクションの内容を変更できます (値の追加、変更、削除)。

注: アラート タイプ SAP_PARAMETERS では、[含める] (=I) および [除外] (=E) パラメータは無視されます。

SAP_PARAMETERS の設定例

「SAP_PARAMETERS の設定例」に、SAP パラメータを監視するための SAPABAP_SecMon の設定方法を示します。これは、夜間にロックされた SAP ユーザを自動的にロック解除するかどうかを定義します。設定例では、SAPABAP_SecMon 監視テンプレートがロックされた SAP ユーザの自動ロック解除が SAP で無効化されている (=EQ=0) かどうかをチェックします。この例では、SAP でパラメータが有効になっ

ている場合に SAPABAP_SecMon 監視テンプレートによって重大度レベルが「危険域」のメッセージが生成され、生成されたメッセージが OMi メッセージ グループ R3_Security に割り当てられます。

```
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =SECURITY =1\  
=CRITICAL =SAP_PARAMETERS =R3_Security\  
=SAP_PARAMETERS =login/failed_user_auto_unlock =I =EQ =0 =
```

「[SAP_PARAMETERS のデフォルト設定](#)」に、SAP_PARAMETERS アラート タイプのデフォルト設定を示します。SAP システムの設定がこれとは異なる場合、SAPABAP_SecMon 監視テンプレートによってアラートが生成されます。たとえば、デフォルト設定では、SAP ユーザパスワードは6文字以上で、少なくとも4つの文字と2つの整数を含む必要があります。5文字しかない、または整数を含まないパスワードのように、SAPABAP_SecMon 監視テンプレート設定で定義されているルールに適合しないパスワードを使用できる SAP インスタンスを設定すると、SAPABAP_SecMon 監視テンプレートからメッセージ ブラウザにメッセージが送信されます。

SAPABAP_SecMon 監視テンプレートが SAP パスワード そのものを読み取ったりチェックしたりするわけではありません。SAPABAP_SecMon 監視テンプレートは、ポリシー設定で定義されている SAP パスワードの長さやフォームに関するルールと、SAP で定義されているパスワード作成に関するルールを比較します。SAPABAP_SecMon 監視テンプレートのパスワード作成、フォーム、長さに関するルールが SAP で定義されているパスワードのルールと異なる場合、OMi MP for SAP によりメッセージ ブラウザにメッセージが送信されます。

SAP_PARAMETERS のデフォルト設定

パラメータ	デフォルト値
login/failed_user_auto_unlock	0 (0=無効、1=有効)
login/fails_to_session_end	3
login/fails_to_user_lock	5
login/min_password_diff	3
login/min_password_lng	6
login/min_password_letters	4
login/min_password_digits	2
login/min_password_specials	0
login/no_automatic_user_sapstar	1
login/password_max_new_valid	10
login/password_max_reset_valid	2
login/password_expiration_time	30
login/disable_password_logon	0 (0=無効、1=有効)
login/disable_multi_gui_login	0 (0=無効、1=有効)

パラメータ	デフォルト値
login/disable_cplic	0 (0=無効、1=有効)
login/system_client	100
login/disable_multi_rfc_login	0 (0=無効、1=有効)
rdisp/gui_auto_logout	1800

DEFAULT_USERS

DEFAULT_USERS アラート タイプは、標準の SAP または Oracle データベース ユーザのパスワードをチェックし、既知のデフォルトパスワードが使用されていないかどうかを判別するように SAPABAP_SecMon を設定するために使用します。標準の SAP ユーザには、SAP*、DDIC、SAPCPIC、EARLYWATCH が含まれています。DEFAULT_USERS アラート タイプでは、SAP レポート RSUSR003 が使用されます。

SAPABAP_SecMon 監視テンプレート設定により、アラート タイプ DEFAULT_USERS のデフォルト設定が提供されます。アラート タイプ DEFAULT_USERS では、[含める] (=I) および [除外] (=E) パラメータは無視されます。

標準設定

```
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =SECURITY =1\  
=CRITICAL =DEFAULT_USERS =R3_Security\  
=DEFAULT_USERS
```

DEFAULT_USERS アラート タイプのデフォルト設定により、SAP および Oracle ユーザのチェックが可能になります。つまり、デフォルトパスワードが使用されていることが見つかった場合、モニタによりアラートが生成されます。

PRIVILEGED_USERS

PRIVILEGED_USERS アラート タイプは、OMi MP for SAP を使用して監視しているシステムの SAP ユーザに付与されている権限をチェックするように SAPABAP_SecMon 監視テンプレートを設定するために使用します。PRIVILEGED_USERS アラート タイプでは、SAPABAP_SecMon 監視テンプレートに定義した値と、SAP ユーザに付与された重要な権限に関する情報をリスト表示する SAP レポート RSUSR005 の内容が比較されます。SAPABAP_SecMon 監視テンプレートにより、重要な権限を持ち、SAPABAP_SecMon 監視テンプレート設定には定義されていない SAP ユーザについてアラートが生成されます。

注: SAP レポート RSUSR005 は SAP クライアントに依存します。SAPABAP_SecMon 監視テンプレートで監視されるのは、監視テンプレート設定に定義されている SAP クライアントのユーザのみです。

SAPABAP_SecMon 監視テンプレートでは、アラート タイプ PRIVILEGED_USERS のデフォルト設定は提供されません。SAP で監視するユーザ権限を決定し、それらを定義する文字列をモニタテンプレート設

定に手動で挿入する必要があります。監視する権限を定義する文字列 (たとえば、「PRIVILEGED_USERS の設定例」では「All rights for background jobs」)を見つけるには、レポート RSUSR005 を使用します。監視するユーザ権限を 1 行ずつ指定する必要があります。

監視するユーザ権限を決めた後、[含める] (=I) または [除外] (=E) パラメータを設定して、定義済みの権限の使用 (または不適切な使用) をチェックする SAP ユーザを指定します。「PRIVILEGED_USERS の設定例」に、外部オペレーティングシステムコマンドの実行権限を持つユーザを判別するためのチェックから SAP ユーザ KWAME を除外する方法を示します。

PRIVILEGED_USERS の設定例

```
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =SECURITY =1\
=CRITICAL =PRIVILEGED_USERS =R3_Security\
=PRIVILEGED_USERS =All rights for background jobs =I =EQ =ALL =
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =SECURITY =1\
=CRITICAL =PRIVILEGED_USERS =R3_Security\
=PRIVILEGED_USERS =Execute external operating system commands\
=E =EQ =KWAME =
```

SAPABAP_SecMon 監視テンプレートに貼り付ける文字列は、SAP の既存の文字列と一致する必要があります。SAPABAP_SecMon 監視テンプレート設定に貼り付けた文字列が(綴りに間違いがあったり、既知の SAP ユーザ権限文字列の一部のみであったりするため)SAP に存在しない場合は不一致が発生し、SAPABAP_SecMon 監視テンプレートはメッセージ ブラウザにメッセージを送信しません。たとえば、「Execute external operating」は、SAPABAP_SecMon 監視テンプレートに定義されている完全なユーザ権限文字列「Execute external operating system commands」の一部のみであるため、不一致となります。

SAPABAP_SecMon 監視テンプレートを使用したリモート監視

SAPABAP_SecMon 監視テンプレートのリモート監視機能を使用して、OMi MP for SAP でサポートされていないオペレーティングシステムで動作している SAP サーバや、Operations Agent がインストールされていない SAP ノードのセキュリティを監視するには、SAPABAP_SecMon 監視テンプレート設定で RemoteMonitoring キーワードを有効にする必要があります (ハッシュ記号「#」を削除します)。

また、監視を実行するローカルホストの名前と、監視対象のセキュリティ設定を含むリモート SAP サーバの名前も指定する必要があります。リモート監視の対象とする SAP サーバ権限を 1 行ずつ指定する必要があります。

SAPABAP_SecMon 監視テンプレートのデフォルト設定

```
#-----
# TraceLevel hostname Disable=0 only error messages=1
# info messages=2 debug messages=3
#
TraceLevel =ALL =0
#-----
```

```

# TraceFile hostname filename TraceMode TracePeriod
# (a=append/w=create(default)) (in mins)
TraceFile =ALL =r3monsec.log =w =60
#-----
# History hostname path
# Path
#
HistoryPathUnix =ALL =default
HistoryPathAIX =ALL =default
HistoryPathWinNT =ALL =default
#-----
# Remote Local Remote
# Monitoring Host Host
RemoteMonitoring =sap1 =sdsap
#-----
# AlertMonFun SAP SAP SAP SAP Alertmonitor Enable =1/
\
# Hostname System Number Client Disable=0
\
#
# OpC OpC OpC \
# Severity Object MsgGroup \
#
# Alerttype RFC Parameter
# =Parameter =Sign =Opt =Low =High
# [=Param =Sign =Opt =Low =High] ...
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =SECURITY =1\
=CRITICAL =SAP_PARAMETERS =R3_Security\
=SAP_PARAMETERS =login/failed_user_auto_unlock =I =EQ =0 =
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =SECURITY =1\
=CRITICAL =DEFAULT_USERS =R3_Security\
=DEFAULT_USERS = = = = =

```

```
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =SECURITY =1\
=CRITICAL =PRIVILEGED_USERS =R3_Security\
=PRIVILEGED_USERS =All rights for background jobs =I =EQ =ALL =
```

SAPABAP_SplMon

SAPABAP_SplMon 監視テンプレートは、印刷要求の次のエントリを監視します。

- スプーラ エントリ: アラートを生成するスプール要求の数
- エラーになったスプール要求: アラートを生成する、エラーになったスプール要求の数
- 誤ったスプーラ エントリ: 指定したプリンタが誤ったスプール要求を受け取った

SAPABAP_SplMon 監視テンプレートは、SAP NetWeaver トランザクション SP01 の出力タスクを参照し、SAP NetWeaver トランザクション SE38 のソースをレポートします。

モニタ タイプ

SAPABAP_SplMon 監視テンプレートはスナップショット タイプです。1 回のモニタ実行で収集されるのは 1 つの値セットのみです。

アラート タイプ

SAPABAP_SplMon 監視テンプレートには次のアラート タイプがあります。

- 「[SPOOL_ENTRIES_RANGE](#)」
超過した場合にアラートを生成するスプール要求の数を定義します。
- 「[SPOOL_ERROR_RANGE](#)」
超過した場合にアラートを生成する、エラーになったスプール要求の数を定義します。
- 「[PRINT_ERROR_EXISTS](#)」
スプールエラーが存在する場合にアラートを生成するプリンタの名前を指定します。

ファイルの場所

次の表に、SAPABAP_SplMon モニタが使用するファイルを示します。

ファイル	説明
r3moncol(.exe)	スプーラ モニタのコレクタ実行可能ファイル。
r3monspl.cfg	スプーラ モニタの設定ファイル。
r3monspl.log	トレース データ格納のためのトレースファイル。

SAPABAP_SplMon 監視テンプレートは、特定の履歴ファイルに履歴情報を書き込みません。

環境変数

SAPABAP_SplMon 監視テンプレートが使用する環境変数については、「[環境変数](#)」を参照してください。

コマンドライン パラメータ

SAPABAP_SplMon 監視テンプレートが使用するコマンドライン パラメータについては、「[コマンドライン パラメータ](#)」を参照してください。

リモート監視

別の SAP システムをリモートで監視するための SAPABAP_SplMon 監視テンプレートの設定の詳細は、「[SAP ABAP 監視テンプレートによるリモート監視](#)」を参照してください。

アラート タイプの設定

スプーラ モニタである SAPABAP_SplMon 監視テンプレートをアラート タイプごとに設定し、さまざまな監視条件の例外を定義できます。詳細については、各アラート タイプのパラメータと設定を示すアラート タイプの表を参照してください。

SPOOL_ENTRIES_RANGE

SPOOL_ENTRIES_RANGE アラート タイプは、超過した場合にアラートを生成するスプール要求の数を定義します。SPOOL_ENTRIES_RANGE アラート タイプを使用して、スプールエントリ数が指定した範囲を超えた場合にアラートを生成するように SAPABAP_SplMon 監視テンプレートを設定します。次の表に、SPOOL_ENTRIES_RANGE アラート タイプの設定に使用できるパラメータと、各パラメータにデフォルトで割り当てられる値を示します。

RANGE パラメータの設定は必須です。

パラメータ名	説明	クエリ条件	デフォルト値
RANGE	超過した場合にアラートが生成されるスプールエントリの数。 名前は RANGE ですが、このパラメータをオプション選択範囲として指定する必要はありません。	= Sign:I, E	I
		= Opt:EQ, GT, GE, LE, LT, BT	GT
		= Low: *	50
		= High:	

*このパラメータは数値として指定します。数値以外で指定した場合、モニタはダンプして終了します。

「SPOOL_ENTRIES_RANGE のデフォルト設定」では、スプーラエントリが 50 を超えた場合にアラートを生成するイベントが発生します。

SPOOL_ENTRIES_RANGE のデフォルト設定

```
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =SPOOLER =1\
```

```
=CRITICAL =Spool =R3_Spooler \
```

=SPOOL_ENTRIES_RANGE =RANGE =I =GT =50 =

SPOOL_ERROR_RANGE

SPOOL_ERROR_RANGE アラート タイプは、超過した場合にアラートを生成する、エラーになったスプール要求の数を定義します。SPOOL_ERROR_RANGE アラート タイプを使用して、エラーになったスプールエントリ数が指定した範囲を超えた場合にアラートを生成するように SAPABAP_SplMon 監視テンプレートを設定します。次の表に、SPOOL_ERROR_RANGE アラート タイプの設定に使用できるパラメータと、各パラメータにデフォルトで割り当てられる値を示します。

注: RANGE パラメータの設定は必須です。

パラメータ名	説明	クエリ条件	デフォルト値
RANGE	超過した場合にアラートが生成される、エラーになったスプール要求の数。 名前は RANGE ですが、このパラメータをオプション選択範囲として指定する必要はありません。	= Sign:l, E	l
		= Opt:EQ, GT, GE,LE, LT, BT	GT
		= Low: *	50
		= High:	

*このパラメータは数値として指定します。数値以外で指定した場合、モニタはダンプして終了します。

「SPOOL_ERROR_RANGE のデフォルト設定」では、エラーになったスプーラ要求が 50 を超えた場合にアラートを生成するイベントが発生します。

SPOOL_ERROR_RANGE のデフォルト設定

AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =SPOOLER =1\

=CRITICAL =Spool =R3_Spooler \

=SPOOL_ERROR_RANGE =RANGE =I =GT =50 =

PRINT_ERROR_EXISTS

PRINT_ERROR_EXISTS アラート タイプは、スプールエラーを監視するプリンタを定義します。PRINT_ERROR_EXISTS アラート タイプを使用して、指定したプリンタにスプールエラーが存在する場合にアラートを生成するように SAPABAP_SplMon 監視テンプレートを設定します。次の表に、PRINT_ERROR_EXISTS アラート タイプの設定に使用できるパラメータと、各パラメータにデフォルトで割り当てられる値を示します。

SAPABAP_SplMon 監視テンプレートは、指定したプリンタにスプールエラーが存在する場合にアラートを生成します。PRINTER パラメータの設定は必須です。

パラメータ名	説明	クエリ条件	デフォルト値
--------	----	-------	--------

PRINTER	エラー状態のスプールエントリの有無をチェックするプリンタ。	= Sign:I, E	I
		= Opt:	CP
		= Low:	*
		= High:	

「PRINT_ERROR_EXISTS のデフォルト設定」では、プリンタにエラー状態のスプールエントリが存在する場合に SAPABAP_SplMon 監視テンプレートがアラートを生成します。

PRINT_ERROR_EXISTS のデフォルト設定

```
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =SPOOLER =1\  
=WARNING =Spool =R3_Spooler \  
=PRINT_ERROR_EXISTS =PRINTER =I =CP =* =
```

SAPABAP_StatRecMon

SAPABAP_StatRecMon 監視テンプレートは統計レコードを読み取り、トランザクションごとの平均応答時間を返します。

SAPABAP_StatRecMon 監視テンプレートはアラートタイプ RESPONSE_TIME とパラメータ TRANSACTION を使用して、選択されているデータを制限します。監視対象のトランザクションはパラメータ TRANSACTION で指定します。このパラメータを指定しない場合、指定した期間のローカル統計ファイルの各トランザクションの平均応答時間がレポートされます。

タイプ

SAPABAP_StatRecMon 監視テンプレートは期間ベースです。1 回の実行で収集されるのは 1 つの値セットのみです。値セットを収集するには、モニタを定期的にスケジュールする必要があります。要件はモニタによって異なるため、各モニタの間隔を個別に指定する必要があります。このモニタは最後の開始時間と現在の開始時間の期間を使用し、指定した期間内に完了するトランザクションのみ考慮します。

SAPABAP_StatRecMon 監視テンプレートはアプリケーション サーバ固有メトリックを収集します。パフォーマンスを監視するアプリケーション サーバごとに実行する必要があります。

頻度

SAPABAP_StatRecMon 監視テンプレートを 1 分に 1 回実行するよう設定することをお勧めします。

データソース

SAPABAP_StatRecMon 監視テンプレートはデータソースとして次の SAP トランザクションを使用します。

- SAP 7.0 以上: STAD

メトリック

次の表に、SAPABAP_StatRecMon 監視テンプレートが返すパフォーマンステーブルの値を示します。

順序	メトリック名	説明
1	SAP_TCODE	測定されるトランザクションに関連付けられているトランザクションコード。 このメトリックは HP Performance Manager でのみ表示されます。
2	SAP_RESPONSE_TIME	SAP の応答時間。
3	SAP_NET_TIME	正味時間。
4	SAP_REC_COUNT	測定されるトランザクションの発生回数。

SAPABAP_StatusMon

SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートでは、SAP ABAP アプリケーション サーバの可用性ステータスを監視できます。

SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートは期間タイプです。2 分ごとに実行され、現在の値と履歴ファイルに格納されている前の値を比較して、レポートする必要がある差異が見つかった場合はメッセージを生成します。

注: SAP からの応答がないことが、システムがダウンしていることを意味する問題とは限りません。たとえば、使用可能なダイアログワークプロセスがすべて割り当てられている場合、SAP は応答しません。SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートが SAP からの応答をどのように解釈するかについての詳細は、「[SAP ステータスの確定](#)」を参照してください。

ファイルの場所

次の表に、SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートが使用するファイルを示します。

ファイル	説明
r3status(.exe)	SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートの実行可能ファイル。
r3status.log	SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートはモニタを実行するたびに、ログ/トレースファイルを作成します。トレースファイルは標準の OMi MP for SAP Agent ログディレクトリに格納されます。
r3itosap.cfg	SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートは r3itosap.cfg の初期ユーザ名およびパスワードを使用して、監視する SAP インスタンスを決定します。
r3status.cfg	SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートはテンプレート設定の情報を使用して、履歴パス、トレースレベル、監視するリモート SAP サーバ上の SAP インスタンスを決定します。

ファイル	説明
r3status.his	SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートを実行するたびにデータを格納するための履歴ファイル。SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートはこのファイルの情報を使用して、ステータスに変化が生じたかどうかを判断します。詳細については、「 履歴ファイル 」を参照してください。

環境変数

次の表に、SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートが使用する環境変数を示します。

環境変数	説明
SAPOPC_RFC_TIMEOUT	RFC 接続のタイムアウト値を設定します。デフォルトは 20 秒です。
SAPOPC_HISTORYPATH	r3status.his 履歴ファイルのパス。
SAPOPC_R3STATUS_CONFIGFILE	SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートが使用する設定ファイルの名前。
SAPOPC_R3ITOSAP_CONFIGFILE	OMi MP for SAP が使用する情報が格納されている一般設定ファイルの名前。
SAPOPC_TRACEPATH	SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートのトレースファイルのパス。

履歴ファイル

SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートを初めて実行すると、結果が履歴ファイル r3status.his に書き込まれます。SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートの次回の実行時には、r3status.his ファイルの情報を使用して、モニタの最終実行から (OMi にメッセージを送信する必要があるような) ステータスの変化が生じたかどうか判断されます。

SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートは各実行の終了時に r3status.his ファイルのエントリを更新し、現在のタイムスタンプと監視する SAP インスタンスの現在のステータスを書き込みます。

次の「r3status.his ファイルからの抜粋」に、r3status.his ファイルの書式と内容を示します。

r3status.his ファイルからの抜粋

```
021028-11:18:29
#-----
021028-11:18:29 #Keyword SAP SAP SAP State
021028-11:18:29 # System Number Instance
021028-11:18:29 #
```

021028-11:18:29 ConfiguredInstance =DEV =00 =DVEBMGS00 =UP

021028-11:18:29 ConfiguredInstance =PKR =99 =DVEBMGS99 =DOWN

SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートの設定

SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートを設定するには、次のキーワードを使用して、環境の要件を満たすようにデフォルト設定から変更します。キーワードに使用可能な値も適宜示します。SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートのデフォルト設定は、完全な監視テンプレート設定を示しています。これはローカルとリモートの両方の SAP システムのステータスを監視します。

次の標準キーワードは、SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートのコンテキストで期待どおりに動作しません。

- TraceLevel
- TraceFile
- HistoryPath [Unix | AIX | WinNT]

次のキーワードを OMi MP for SAP SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートのコンテキストで使用するときには特別な注意が必要です。

- **EnableDPQueueCheck**

SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートでは、SAP にログオンしてシステムのステータスを判断するために、ダイアログワークプロセスが必要です。ステータスを監視している SAP システムにパフォーマンスの問題が発生し、モニタ実行を開始する前に SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートで ABAP ディスパッチャのサイズおよびステータスをチェックするには、EnableDPQueueCheck keyword (=1) を有効にします。使用可能なダイアログワークプロセスがないか不足している場合、SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートはダイアログプロセスに定義されているしきい値の違反のため起動しなかったことを示すメッセージをメッセージ ブラウザに送信します。コマンドにより、ダイアログワークプロセスのしきい値の違反が発生した SID についてのみモニタ実行が無効になります。

SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートで EnableDPQueueCheck キーワードを使用する場合、SAPABAP_DispatchMon 監視テンプレート設定でキーワード DPQueueCheck および DisableMonitoringWithSeverity も設定します。SAPABAP_DispatchMon 監視テンプレートの監視の詳細は、[「SAPABAP_DispatchMon」](#) 監視テンプレートを参照してください。

SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートのデフォルトの実行間隔は 2 分です。多数の SAP インスタンスが複数のホストで実行されている SAP 環境では、ネットワークの輻輳が発生したり SAP からの応答が遅かったりする場合、SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートが次の実行を開始する前に、設定されているすべての SAP インスタンスの ABAP ディスパッチャのステータスを EnableDPQueue がチェックできないことがあります。万一発生した場合は、SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートの古いインスタンスは中断され、まだチェックしていないディスパッチャのステータスはレポートされません。こ

の問題の再発を防止するため、SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートの実行間隔を大きくします。

- **RemoteMonitoring**

SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートは、OMi MP for SAP がリモート監視している SAP システムの ABAP デイスパッチャのステータスをチェックできません。

SAP ステータスの確定

SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートが SAP システムの可用性をチェックすると、実行中、停止、接続タイムアウトのいずれかがステータスとしてレポートされます。「実行中」、「停止」の意味は明らかですが、接続タイムアウト ステータスには少し説明が必要です。タイムアウト ステータスは、SAP システムがイングリットした場合に発生します。原因としては RFC タイムアウトが考えられ、それ自体に調査が必要です。これは、OMi MP for SAP が監視している SAP システムの正確な状態を確定することの難しさを示すよい例です。

SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートは、SAP インスタンスが 60 秒以内に応答しない場合、その SAP インスタンスを「使用不可」と見なします。ただし、SAP からの応答がないことが、システムがダウンしていることを意味する問題とは限りません。たとえば、使用可能なダイアログワークプロセスがすべて割り当てられていたり、使用可能な SAP ゲートウェイ接続がすべてビジーであったりします。OMi MP for SAP の SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートは、次のルールに従って、監視している SAP システムのステータスをレポートします。

- **使用可能:**

SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートは、SAP インスタンスにログインでき、SAP 機能モジュール RFC_SYSTEM_INFO を開始し、応答を 60 秒以内に受け取った場合に、SAP システムを使用可能とレポートします。

- **使用不可:**

SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートは、たとえばそのインスタンスが停止しているため、SAP インスタンスが 60 秒以内に応答しなかったり、機能モジュール RFC_SYSTEM_INFO を開始できなかったりする場合に、SAP システムを使用不可とレポートします。

SAP のリモート監視

OMi MP for SAP のリモート監視機能を使用して、たとえば OMi MP for SAP でサポートされていないオペレーティングシステムで動作している SAP サーバを監視するには、SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートで RemoteMonitoring キーワードを有効にする必要があります (ハッシュ記号「#」を削除します)。次に、同じ行に、リモート SAP サーバの監視に使用するローカルホストの名前を定義します。最後に、監視するリモート SAP サーバの名前を定義する必要があります。SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートのデフォルト設定で、リモート監視する追加の SAP サーバを 1 行ずつ定義する必要があります。

注: 複数のリモート SAP サーバを 1 つのローカルホストに、または 1 つのリモートホストを個々の異なるローカルホストに関連付けることができます。「SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートのデフォルト

ト設定」では、1つのローカルホスト「sap1」を使用して2つのリモート ホスト「sdsap」および「sapwolf」を監視する混合方式を示しています。3つ目のローカルホスト「sap2」はリモート ホスト「triosap」をリモート監視します。

ローカルおよびリモート サーバの名前の定義に使用するキーワードやパラメータなど、SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートの設定内容の詳細は、「[SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートの設定](#)」の「リモート監視」に関する項を参照してください。

SAPABAP_StatusMon 監視テンプレートのデフォルト設定

```
#-----
# TraceLevel hostname Disable=0 only error messages=1
# info messages=2 debug messages=3
#
TraceLevel =ALL =0
#-----
# TraceFile hostname filename TraceMode TracePeriod
# (a=append/w=create(default)) (in mins)
TraceFile =ALL =r3status.log =w =60
#-----
# History hostname path
# Path
#
HistoryPathUnix =ALL =default
HistoryPathAIX =ALL =default
HistoryPathWinN =ALL =default
#-----
# Check the ABAP dispatcher before a connection to SAP is
# opened.If the dialog queue is too full or not enough
# free work processes are available, monitoring is disabled.
#
# This feature should only be enabled in special cases.For
# regular dispatcher monitoring, use the r3mondisp.
#
# EnableDPQueueCheck hostname SAP SAP Enable=1/
```

```

System Number Disable=0
EnableDPQueueCheck =ALL =ALL =ALL =0
#-----
# Remote Local Remote
# Monitoring Host Host
RemoteMonitoring =sap1 =sdsap
RemoteMonitoring =sap1 =sapwolf
RemoteMonitoring =sap2 =triosap
#-----

```

SAPABAP_SysChgOptMon

SAPABAP_SysChgOptMon 監視テンプレートでは、グローバル編集ステータスフラグ、名前空間、およびソフトウェアコンポーネントに基づいて SAP ABAP システム変更オプションを監視できます。SAPABAP_SysChgOptMon 監視テンプレートは、SAP NetWeaver トランザクション SE06 をリファレンスとして使用して、SAP システム変更オプションをダブルチェックします。

モニタ タイプ

SAPABAP_SysChgOptMon 監視テンプレートはスナップショット タイプで、アラート タイプやパラメータを使用しません。1 回のモニタ実行で収集されるのは 1 つの値セットのみです。

アラート タイプ

SAPABAP_SysChgOptMon 監視テンプレートのアラート タイプは次の 1 つのみです。

CHANGE_OPT

SAP システム変更オプションを監視およびダブルチェックし、オプションが設定する場合にアラートを生成します。

ファイルの場所

次の表に、SAPABAP_SysChgOptMon 監視テンプレートが使用するファイルを示します。

ファイル	説明
r3moncol(.exe)	システム変更オプション モニタのコレクタ実行可能ファイル。
r3monchg.cfg	システム変更オプション モニタの設定ファイル。
r3monchg.log	トレース データ格納のためのトレースファイル。

SAPABAP_SysChgOptMon 監視テンプレートは、特定の履歴ファイルに履歴情報を書き込みません。

環境変数

SAPABAP_SysChgOptMon 監視テンプレートが使用する環境変数については、「[環境変数](#)」を参照してください。

コマンドライン パラメータ

SAPABAP_SysChgOptMon 監視テンプレートが使用するコマンドライン パラメータについては、「[コマンドライン パラメータ](#)」を参照してください。

リモート監視

別の SAP システムをリモートで監視するための SAPABAP_SysChgOptMon 監視テンプレートの設定の詳細は、「[SAP ABAP 監視テンプレートによるリモート監視](#)」を参照してください。

SAPABAP_SysChgOptMon 監視テンプレートのアラート タイプの設定

次の項では、[除外] および [含める] パラメータの値の使用に関する一般ルールを説明します。これらのルールは、SAPABAP_SysChgOptMon 監視テンプレートのアラート タイプで特に重要です。

パラメータの値

この項では、OMi MP for SAP がアラート タイプ エントリに対して [含める] および [除外] パラメータをどのように解釈するかを説明します。異なるパラメータでは「and」を使用して、同じパラメータでは次の方法で値が比較されます。

- **含める:** 「or」を使用してパラメータを比較します。
- **除外:** 「and」を使用してパラメータを比較します。

OMi MP for SAP では、次の表に示すように、[除外] の値より前に [含める] の値が評価されます。

選択オプション	アラート タイプ: CHANGE_OPT (SAP 4.6x) 選択オプションの設定例	比較
1	=SYSTEM_CHANGE_OPTION =1 =WARNING =SystemChange =R3_Security = NSP_EDTFLAG =I = CP= /0* =	OR
2	=SYSTEM_CHANGE_OPTION =1 =WARNING =SystemChange = =R3_Security = NSP_EDTFLAG =I =EQ =/SAPQUERY/ =	OR
3	=SYSTEM_CHANGE_OPTION =1 =WARNING =SystemChange =R3_Security = NSP_EDTFLAG =E =EQ =LOCAL =	AND

CHANGE_OPT

CHANGE_OPT アラート タイプでは、SAP システム変更オプションを監視してダブルチェックし、フラグパラメータの設定で編集が許可されている場合にアラートを生成します。すべてのパラメータの設定が必須です。1 行に複数のパラメータ エントリを指定することはできません。複数の設定がある場合、1 行ずつエントリを指定します。監視テンプレートのクエリ条件の意味の詳細は、「[パラメータと区切り文字](#)」を参照し

てください。次の表に、CHANGE_OPT アラート タイプの設定に使用できるパラメータと、各パラメータにデフォルトで割り当てられる値を示します。

パラメータ名	説明	クエリ条件	デフォルト値
EDTFLAG	オブジェクトが編集可能であるかどうかを示すフラグ。	= Sign:I	I
		= Opt:EQ	EQ
		= Low:ON, OFF, PATCH (PATCH=パッチシステムに設定)	PATCH
		= High:	
NSP_EDTFLAG	どの指定された名前空間を ON に設定するかを示すフラグ。	= Sign:I	I
		= Opt:EQ, CP	CP
		= Low (SAP 4.6. X の名前空間の変更オプションのリストについては表 30 を参照)	*
		= High:	
SWC_EDTFLAG	どの指定されたソフトウェアコンポーネントを ON に設定するかを示すフラグ。	= Sign:I	I
		= Opt:EQ, CP	CP
		= Low:<指定されたソフトウェアコンポーネント> (SAP 4.6. X の名前空間の変更オプションのリストについては表 30 を参照)	*
		= High:	

「CHANGE_OPT のデフォルト設定」では、グローバルシステム変更が OFF になっている場合、指定された名前空間がローカルオブジェクト (/LOCAL/) である場合、または指定されたソフトウェアコンポーネントがローカル開発 (自動移送なし) である場合にアラートを生成するイベントが発生します。

「CHANGE_OPT のデフォルト設定」

```
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =SYSTEM_CHANGE_OPTION =1\
=WARNING =SystemChange =R3_Security \
=CHANGE_OPT =NSP_EDTFLAG =I =EQ =/0LOCAL/ =
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =SYSTEM_CHANGE_OPTION =1\
=WARNING =SystemChange =R3_Security \
=CHANGE_OPT =SWC_EDTFLAG =I =EQ = LOCAL =
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =SYSTEM_CHANGE_OPTION =1\
=WARNING =SystemChange =R3_Security \
```

=CHANGE_OPT =EDTFLAG =I =EQ =OFF =

CHANGE_OPT のカスタマイズ設定

AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =SYSTEM_CHANGE_OPTION =1\

=WARNING =SystemChange =R3_Security \

=CHANGE_OPT =NSP_EDTFLAG =I =EQ =/SAPQUERY/ =

AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =SYSTEM_CHANGE_OPTION =1\

=WARNING =SystemChange =R3_Security \

=CHANGE_OPT =SWC_EDTFLAG =I =EQ = SAP_HR =

AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =SYSTEM_CHANGE_OPTION =1 \

=WARNING =SystemChange =R3_Security \

=CHANGE_OPT =EDTFLAG =I =EQ =OFF =

「CHANGE_OPT のカスタマイズ設定」では、グローバル変更オプションがOFFになっている場合、システム空間の変更オプション **ABAP クエリ/SAP** がONになっている場合、またはソフトウェアコンポーネントの変更オプションがONになっている場合にアラートを生成するイベントが発生します。

ソフトウェアコンポーネントの変更オプション

技術 ID	説明
HOME	カスタマ開発
LOCAL	ローカル開発 (自動移送なし)
SAP_ABA	クロスアプリケーション コンポーネント
SAP_APPL	物流および会計
SAP_BASIS	SAP 基本コンポーネント
SAP_HR	人事

SAP 6.x の名前システムの変更オプション

技術 ID	説明
/OCUST/	カスタマの名前範囲
/OSAP/	一般的な SAP の名前範囲
/1BCABA/	ABAP & GUI ツール
/1BCDWB/	開発ワークベンチ
/1BCDWBEN/	エンキュー機能グループ

技術 ID	説明
/1COPA/	CO-PA の生成済みオブジェクト
/1ISRWP/	IS-R 商品および仕分制御
/1ISU/	CIC (カスタマ インタラクション センタ) の生成名前空間
/1PAPA/	人材管理
/1PAPAXX/	人材管理 - 一般
/1PSIS/	プロジェクト情報システム - 論理データベース PSJ
/1PYXXFO/	PY-XX フォーム ツール: 生成済みオブジェクト
/1SAP1/	一般的な SAP 生成名前空間
/1SDBF12L/	価格レポートの生成
/BI0/	ビジネス情報ウェアハウス: SAP の名前空間
/BIC/	ビジネス情報ウェアハウス: カスタマの名前空間
/SAPQUERY/	ABAP クエリ/SAP
/SAPRRR/	実行可能な状態の SAP
/SAPSMOSS/	インターフェイス: SAP オンライン サービスシステムへの SAP メッセージ
/SAPTRAIN/	SAP トレーニング

SAPABAP_TraceMon

SAPABAP_TraceMon 監視テンプレートでは、すべての SAP トレース ファイルおよびログ ファイルの「ERROR」を監視できます。SAPABAP_TraceMon 監視テンプレートが監視するのは、前回の実行以降のみです。トレース ファイル内のエラーに対してはアラートが 1 つのみ生成されます。ファイル モニタは次のディレクトリをスキャンします (<SID> は SAP システム ID、<インスタンス番号> は監視対象の SAP システムの SAP インスタンス番号)。

- **UNIX/Linux の場合:** /usr/sap/<SID>/<インスタンス番号>/work/
- **Windows の場合:** <ドライブ:>\usr\sap\<SID>\<インスタンス番号>\work

このモニタが生成するメッセージには、vi エディタを呼び出すオペレータ開始アクションが含まれています。vi はすべてのトレース ファイルおよびログ ファイルのリストを表示し、リストからファイルを選択するようユーザに促して、内容を表示します。

ファイルの場所

次の表に、SAPABAP_TraceMon 監視テンプレートに含まれるファイルを示します。

ファイル	説明
r3mondev(.exe)	ファイル モニタの実行可能ファイル。
r3mondev.cfg	監視対象ファイルの設定ファイル。
r3mondev.his	モニタ実行後にデータを格納するための履歴ファイル。

環境変数

次の表に、SAPABAP_TraceMon 監視テンプレートが使用する環境変数を示します。

環境変数	説明
SAPOPC_DRIVE	HPOM エージェントが動作する Windows ドライブ (例: E:\usr\...)
SAPOPC_HISTORYPATH	r3mondev 履歴ファイルのパス
SAPOPC_R3MONDEV_CONFIGFILE	r3mondev 設定ファイルの名前
SAPOPC_SAPDIR	SAP NetWeaver が動作する Windows ドライブ (例: E:\usr\sap)
SAPOPC_TRACEPATH	r3mondev トレース ファイルのパス

監視条件

SAPABAP_TraceMon 監視テンプレートのこのセクションでは、OMi MP for SAP のデバイス監視の詳細を指定できます。

キーワードと使用可能な値、編集可能なパラメータの説明など、SAPABAP_TraceMon 監視テンプレートのエントリの詳細は、次の抜粋を参照してください。

```
#-----
-
# TraceLevel hostname only error messages=1 info messages=2 debug
messages=3
# Disable=0
TraceLevel =ALL =0
#-----
-
# TraceFile hostname filename TraceMode TracePeriod
# (a=append/w=create(default)) (in mins)
TraceFile =ALL =r3moncts.log =w =60
```

```

#-----
# History hostname path
# Path
#
HistoryPathUnix =ALL =default
HistoryPathAIX =ALL =default
HistoryPathWinNT =ALL =default
#-----
# AlertDevMon SAP SAP Enable =1 Filemask Severity Opc OpC
# Sys Number Disable=0 Object MsgGro
up
#AlertDevMon =ALL =ALL =1 =dev_* =WARNING =r3mondev =R3_Trace
#AlertDevMon =ALL =ALL =1 =std* =CRITICAL =r3mondev =R3_Trace
#Dispatcher trace file
AlertDevMon =ALL =ALL =1 =dev_disp =WARNING =r3mondev =R3_Trace
#Workprocess trace file for workprocess with number 0
AlertDevMon =ALL =ALL =1 =dev_w0 =WARNING =r3mondev =R3_Trace
#message server trace file
AlertDevMon =ALL =ALL =1 =dev_ms =WARNING =r3mondev =R3_Trace
#screen processor trace file
AlertDevMon =ALL =ALL =1 =dev_dy0 =WARNING =r3mondev =R3_Trace
#tp process trace file
AlertDevMon =ALL =ALL =1 =dev_tp =WARNING =r3mondev =R3_Trace
-----
---
SAPABAP_TraceMon 監視テンプレートの監視条件セクションは、デフォルトで次のように設定がされて
います。
# AlertDevMon SAP SAP Enable =1 Filemask Severity OpcObject OpCMsgGroup
# System Number Disable=0
#AlertDevMon =ALL =ALL =1 =dev_* =WARNING =r3mondev =R3_Trace
#AlertDevMon =ALL =ALL =1 =std* =MAJOR =r3mondev =R3_Trace

```

SAPABAP_TraceMon 監視テンプレートの設定

SAPABAP_TraceMon 監視テンプレート設定は、次のように編集できます。

- **メッセージの無効化**

OMi MP for SAP を使用して監視している SAP システムの dev_* ファイルに関連するメッセージを受信しないようにするには、SAPABAP_TraceMon 監視テンプレートの 1 行目を次のように変更します。

```
AlertDevMon =ALL =ALL =0 =dev_* =WARNING =r3mondev =R3_Trace
```

- **メッセージの重大度レベルの変更**

std* ファイルに関連するすべてのメッセージの重大度を危険域から注意域に下げるには、SAPABAP_TraceMon 監視テンプレートの 2 行目を次のように変更します。

```
AlertDevMon =ALL =ALL =1 =std* =WARNING =r3mondev =R3_Trace
```

- **一般ルールに対する例外の定義**

SAP システム LP2 で、dev_* ファイルに関連するメッセージの重大度を注意域から危険域に上げるには、デフォルト設定を変更せず、次の行を追加します。

```
AlertDevMon =LP2 =ALL =1 =dev_* =CRITICAL =r3mondev =R3_Trace
```

注: ワイルドカードは文字列の最後でのみ使用できます。対象は作業ディレクトリにある SAP トレースファイルのみです (ファイル名の先頭に dev か std が付いている必要があります)。

SAPABAP_TransMon

SAPABAP_TransMon 監視テンプレートでは、正常にインポート/エクスポートされた SAP ABAP 移送、失敗したインポート/エクスポート、確認済み/未確認の修復の可用性、設定済みシステムへの接続/TP テストを監視できます。

SAPABAP_TransMon 監視テンプレートはアプリケーション サーバに依存せず、移送システムの次の部分をチェックできます。

- 監視対象システムの成功または失敗したインポート/エクスポート
- 監視対象システムの確認済み/未確認の修復の存在
- 接続テスト (PING) を使用した設定済みシステムへの接続
- 設定済みシステムの TP テスト

SAPABAP_TransMon 監視テンプレートは SAP NetWeaver トランザクション STMS および SE01 の移送ルートを参照します。

モニタ タイプ

SAPABAP_TransMon 監視テンプレートはスナップショット タイプです。1 回のモニタ実行で収集されるのは 1 つの値セットのみです。

アラート タイプ

移送アラート モニタには次のアラート タイプがあり、スナップショット レポート タイプと期間レポート タイプが混在しています。

- **TRANS**

成功または失敗した移送 インポート/エクスポートのアラート条件を定義します。

- **REPAIR**

確認済み/未確認の修復のアラート条件を定義します。

- **RFCCONNECT**

システム間の RFC 接続のアラート条件を定義します。

- **TPTEST**

データベースとの TP インターフェイスに関するアラート条件を定義します。接続テスト (PING)、接続しているデータベースへの TP 呼び出し、TP インターフェイスのチェック (バージョン、移送 ディレクトリ、TPPARAM パス、ファイルチェック、TPLOG チェック) を含みます。

ファイルの場所

次の表に、SAPABAP_TransMon 監視テンプレートが使用するファイルを示します。

ファイル	説明
r3moncol(.exe)	移送 モニタのコレクタ実行可能ファイル。
r3montra.cfg	移送 モニタの設定ファイル。
r3montra.log	トレース データ格納のためのトレースファイル。

SAPABAP_TransMon 監視テンプレートは、特定の履歴ファイルに履歴情報を書き込みません。

環境変数

SAPABAP_TransMon 監視テンプレートが使用する環境変数については、「[環境変数](#)」を参照してください。

コマンドライン パラメータ

SAPABAP_TransMon 監視テンプレートが使用するコマンドライン パラメータについては、「[コマンドライン パラメータ](#)」を参照してください。

リモート監視

別の SAP システムをリモートで監視するための SAPABAP_TransMon 監視テンプレートの設定の詳細は、「[SAP ABAP 監視テンプレートによるリモート監視](#)」を参照してください。

移送 モニタのアラート タイプの設定

SAPABAP_TransMon 監視テンプレートのすべてのアラート タイプに対し、パラメータ ALERT_THRESHOLD を設定する必要があります。他のすべてのパラメータはオプションです。SAPABAP_TransMon 監視テンプレートの [除外] および [含める] パラメータには、次の一般ルールがあります。

パラメータの値

この項では、OMi MP for SAP がアラート タイプ エントリに対して [含める] および [除外] パラメータをどのように解釈するかを説明します。異なるパラメータでは「and」を使用して、同じパラメータでは次の方法で値が比較されます。

- **含める:** 「or」を使用してパラメータを比較します。
- **除外:** 「and」を使用してパラメータを比較します。

OMi MP for SAP は、[除外] の値の前に [含める] 値を評価します。

TRANS

TRANS は SAPABAP_TransMon 監視テンプレートの期間ベースのアラート タイプです。SAPABAP_TransMon 監視テンプレートは、移送 インポート/エクスポートの成功または失敗回数が定義済みのしきい値を超えた場合にアラートを生成します。TRANS アラート タイプでは、パラメータ USERNAME は必須です。

次の表に、TRANS アラート タイプの設定に使用できるパラメータと、各パラメータにデフォルトで割り当てられる値を示します。

パラメータ名	説明	クエリ条件	デフォルト値
ALERT_THRESHOLD	許容する移送状態のリターンコード (例: 4 (注意域))。これを超えるとアラートが発生します。	= Sign:I, E	I
		= Opt:GT, GE, LT, LE	GT
		= Low: ¹	4
		= High:	
E_SUCCESS	エクスポートが成功したすべての移送を含めるためのフィルタ オプション。	= Sign:I, E	I
		= Opt:EQ	EQ
		= Low: ²	X
		= High:	

パラメータ名	説明	クエリ条件	デフォルト値
E_FAILURE	エクスポートが失敗したすべての移送を含めるためのフィルタオプション。	= Sign:I, E	I
		= Opt:EQ	EQ
		= Low: 2	X
		= High:	
I_SUCCESS	インポートが成功したすべての移送を含めるためのフィルタオプション。	= Sign:I, E	I
		= Opt:EQ	EQ
		= Low:b	X
		= High:	
I_FAILURE	インポートが失敗したすべての移送を含めるためのフィルタオプション。	= Sign:I, E	I
		= Opt:EQ	EQ
		= Low 2	X
		= High:	
USERNAME	SAP NetWeaver ユーザ ³ のログイン名。このパラメータは必須です。	= Sign I, E	I
		= Opt:EQ,CP	EQ
		= Low:<ユーザ名>	ddic ⁴
		= High:	

1. 数値として指定します。数値以外で指定した場合、モニタはダンプして終了します。
2. デフォルト以外のすべてのエントリはスペースとして扱われます。
3. 要求/タスクはユーザに依存するため、これを使用してデータを制限できます。
4. データベース管理タスクに使用する SAP ユーザ名。

「TRANS のデフォルト設定」では、インポート/エクスポート移送のしきい値が4より大きい場合にアラートを生成するイベントが発生します。

注: パラメータ ALERT_THRESHOLD のしきい値に定義されている「4」は、インポートの合計回数を指すわけではありません。インポートに関連付けられた SAP リターンコードを指します。この例では、

リターンコード 4 (注意域) とそれより上 (GT=4) の移送 インポートについてアラートが生成されます。インポートのリターンコードの詳細は、SAP 製品 マニュアルを参照してください。

TRANS のデフォルト設定

```
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =TRANSPORT =1\
=WARNING =Trans =R3_Transport\
=TRANS =I_FAILURE =I =EQ =X =\
=USERNAME =I =EQ =ITOUSER =\
=ALERT_THRESHOLD =I =GT =4 =
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =TRANSPORT =1\
=WARNING =Trans =R3_Transport\
=TRANS =I_SUCCESS =I =EQ =X =\
=USERNAME =I =EQ =ITOUSER =\
=ALERT_THRESHOLD =I =GE =4 =
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =TRANSPORT =1\
=WARNING =Trans =R3_Transport\
=TRANS =E_FAILURE =I =EQ =X =\
=USERNAME =I =EQ =ITOUSER =\
=ALERT_THRESHOLD =I =GT =4 =
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =TRANSPORT =1\
=WARNING =Trans =R3_Transport\
=TRANS =E_SUCCESS =I =EQ =X =\
=USERNAME =I =EQ =ITOUSER =\
=ALERT_THRESHOLD = I = GT = 4 =
```

REPAIR

REPAIR は SAPABAP_TransMon 監視テンプレートの期間ベースのアラートタイプです。SAPABAP_TransMon 監視テンプレートは、確認済み/未確認の修復の回数が指定したしきい値を子会えた場合にアラートを生成します。

次の表に、REPAIR アラートタイプの設定に使用できるパラメータと、各パラメータにデフォルトで割り当てられる値を示します。パラメータ ALERT_THRESHOLD は必須です。

パラメータ名	説明	クエリ条件	デフォルト値
R_CONFIRM	確認済みのすべての修復を含めるためのフィルタオプション。	= Sign:I, E	I
		= Opt:EQ	EQ
		= Low: ¹	X
		= High:	
R_UNCONFIR	未確認のすべての修復を含めるためのフィルタオプション。	= Sign:I, E	I
		= Opt:	EQ
		= Low: ¹	X
		= High:	
USERNAME	SAP NetWeaver ユーザ ² のログイン名。このパラメータは必須です。	= Sign I, E	I
		= Opt:EQ,CP	EQ
		= Low:<ユーザ名 >	ddic ³
		= High:	
ALERT_THRESHOLD	許容する修復回数。これを超えるとアラートが発生します。	= Sign I, E	I
		= Opt:GT, GE, LT, LE	GT
		= Low: ⁴	4
		= High:	

1. デフォルト以外のすべてのエントリはスペースとして扱われます。
2. 要求/タスクはユーザに依存するため、これを使用してデータを制限できます。
3. データベース管理タスクに使用する SAP ユーザ名。
4. このパラメータは数値として指定します。数値以外で指定した場合、モニタはダンプして終了します。

「REPAIR のデフォルト設定」では、指定したターゲット システムの R_CONFIRM または R_UNCONFIR エラーがアラートしきい値 4 (=GT=4) を超えた場合にアラートを生成するイベントが発生します。

REPAIR のデフォルト設定

AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =TRANSPORT =1 \

```
=WARNING =Repair =R3_Transport \
=REPAIR =R_CONFIRM =I =EQ =X = \
=ALERT_THRESHOLD =I =GT =4 =
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =TRANSPORT =1 \
=WARNING =Repair =R3_Transport \
=REPAIR =R_UNCONFIR =I =EQ =X = \
=ALERT_THRESHOLD =I =GT =4 =
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =TRANSPORT =1 \
=WARNING =Repair =R3_Transport \
=REPAIR =USERNAME =I =CP =* =\
=ALERT_THRESHOLD =I =GT =4 = =
```

RFCONNECT

RFCONNECT は SAPABAP_TransMon 監視テンプレートのスナップショットアラートタイプです。スナップショットアラートタイプは、モニタ実行と同時にシステムを把握します。SAPABAP_TransMon 監視テンプレートは、ターゲットシステムの RFC 接続エラーの回数が指定したアラートしきい値を超えた場合にアラートを生成します。

次の表に、RFCONNECT アラートタイプの設定に使用できるパラメータと、各パラメータにデフォルトで割り当てられる値を示します。パラメータ ALERT_THRESHOLD は必須です。他のすべてのパラメータはオプションです。

パラメータ名	説明	クエリ条件	デフォルト値
ALERT_THRESHOLD	許容する再接続エラー回数。これを超えるとアラートが発生します。	= Sign: I, E	I
		= Opt: GT, GE, LT, LE	GT
		= Low: #	4
		= High:	
CHECKSYSTEM	監視しているシステムのシステム ID。	= Sign: I, E	I
		= Opt: EQ, CP	EQ
		= Low: <SID>	'*'
		= High:	

#このパラメータは数値として指定します。数値以外で指定した場合、モニタはダンプして終了します。

「RFCCONNECT のデフォルト 設定」では、指定したターゲット システムへの4 つの RFC 接続エラーがアラートしきい値を超えた場合にアラートを生成するイベントが発生します。

RFCCONNECT のデフォルト 設定

```
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =TRANSPORT =1\
=WARNING =RfcConnect =R3_Transport\
=RFCCONNECT =CHECKSYSTEM =I =CP =* =\
=ALERT_THRESHOLD =I =GT =4 =
```

TPTEST

TPTEST は SAPABAP_TransMon 監視テンプレートのスナップショット アラート タイプです。スナップショット アラート タイプは、モニタ実行と同時にシステムを把握します。SAPABAP_TransMon 監視テンプレートは、ターゲット システムへの TPTEST 接続エラーの回数が定義済みのしきい値を超えた場合にアラートを生成します。

次の表に、TPTEST アラート タイプの設定に使用できるパラメータと、各パラメータにデフォルトで割り当てられる値を示します。パラメータ ALERT_THRESHOLD は必須です。他のすべてのパラメータはオプションです。

パラメータ名	説明	クエリ条件	デフォルト 値
ALERT_THRESHOLD	許容する TPTEST エラー回数。これを超えるとアラートが発生します。	= Sign I, E	I
		= Opt:GT, GE, LT, LE	GT
		= Low: *	4
		= High:	
CHECKSYSTEM	テストまたは監視しているシステムの ID。	= Sign:I, E	I
		= Opt:EQ, CP	EQ
		= Low:<SID>	"
		= High:	

*このパラメータは数値として指定します。数値以外で指定した場合、モニタはダンプして終了します。

「TPTEST のデフォルト 設定」では、指定したターゲット システムへの4 つの TPTEST エラーがアラートしきい値を超えた場合にアラートを生成するイベントが発生します。

TPTEST のデフォルト 設定

```
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =TRANSPORT =1\
=WARNING =TpTest =R3_Transport\
=TPTEST =CHECKSYSTEM =I =EQ =<SID> =\
=ALERT_THRESHOLD =I =GT =4 =
```

SAPABAP_UpdProcMon

SAPABAP_UpdProcMon 監視テンプレートでは、非アクティブ状態やエラーなどの SAP ABAP 更新プロセスのさまざまな状態を監視できます。

SAPABAP_UpdProcMon 監視テンプレートは、アクティブな更新と、SAP ユーザまたはシステムによって停止された更新の両方のステータスを監視します。SAPABAP_UpdProcMon 監視テンプレートは、SAP NetWeaver トランザクション SM13 の更新エラーおよび更新ステータスを参照します。

モニタ タイプ

SAPABAP_UpdProcMon 監視テンプレートはスナップショット タイプです。1 回のモニタ実行で収集されるのは 1 つの値セットのみです。

アラート タイプ

更新モニタには次のアラート タイプがあります。

- UPDATE_ACTIVE

更新プロセスのステータス情報を取得し、プロセスが非アクティブである場合にアラートを送信します。

- UPDATE_ERRORS_EXIST

エラーになった更新プロセスに関する情報を取得します。

ファイルの場所

次の表に、SAPABAP_UpdProcMon 監視テンプレートが使用するファイルを示します。

ファイル	説明
r3moncol(.exe)	更新モニタのコレクタ実行可能ファイル。
r3monupd.cfg	更新モニタの設定ファイル。
r3monupd.log	トレースデータ格納のためのトレースファイル。

SAPABAP_UpdProcMon 監視テンプレートは、特定の履歴ファイルに履歴情報を書き込みません。

環境変数

SAPABAP_UpdProcMon 監視テンプレートが使用する環境変数については、「[環境変数](#)」を参照してください。

コマンドライン パラメータ

SAPABAP_UpdProcMon 監視テンプレートが使用するコマンドライン パラメータについては、「[コマンドラインパラメータ](#)」を参照してください。

リモート監視

別の SAP システムをリモートで監視するための SAPABAP_UpdProcMon 監視テンプレートの設定の詳細は、「[SAP ABAP 監視テンプレートによるリモート監視](#)」を参照してください。

更新モニタのアラート タイプの設定

SAPABAP_UpdProcMon 監視テンプレートのアラート タイプの設定には、パラメータを使用しません。設定の編集 やカスタマイズは不要です。

UPDATE_ACTIVE

UPDATE_ACTIVE は、SAPABAP_UpdProcMon 監視テンプレートのアラート タイプです。SAPABAP_UpdProcMon 監視テンプレートは、更新タスクが非アクティブである場合にアラートを生成します。次の例は、UPDATE_ACTIVE アラート タイプのデフォルト 設定を示します。

「UPDATE_ACTIVE のデフォルト 設定」では、更新が停止された場合にアラートを生成するイベントが発生します。

UPDATE_ACTIVE のデフォルト 設定

```
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =UPDATE =1\  
=CRITICAL =UpdActive =R3_Update =UPDATE_ACTIVE
```

UPDATE_ERRORS_EXIST

UPDATE_ERRORS_EXIST は、SAPABAP_UpdProcMon 監視テンプレートのアラート タイプです。SAPABAP_UpdProcMon 監視テンプレートは、更新エラーがある場合にアラートを生成します。次の例は、UPDATE_ERRORS_EXIST アラート タイプのデフォルト 設定を示します。

「UPDATE_ERRORS_EXIST のデフォルト 設定」では、更新エラーが発生した場合にアラートを生成するイベントが発生します。

UPDATE_ERRORS_EXIST のデフォルト 設定

```
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =UPDATE =1\  
=CRITICAL =UpdError =R3_Update =UPDATE_ERRORS_EXIST
```

SAPABAP_UsrMon

SAPABAP_UsrMon 監視テンプレートでは、SAP ABAP にログインしているユーザを監視できます。SAPABAP_UsrMon 監視テンプレートにより、ログインしているユーザの数が識別され、レポートされます。アプリケーション サーバごとにチェックが実行されます。ユーザ数が非常に多い場合、パフォーマンスの問題が発生する可能性があります。アラートを使用して、ユーザにログアウトを促したり強制したりすることができます。SAPABAP_UsrMon 監視テンプレートは、SAP NetWeaver トランザクション SM04 を参照します。

モニタ タイプ

SAPABAP_UsrMon 監視テンプレートはスナップショット タイプです。1 回のモニタ実行で収集されるのは 1 つの値セットのみです。

アラート タイプ

SAP ユーザモニタのアラート タイプは次の 1 つのみです。

USER_LOGGEDIN_MAX

ログインしているユーザの最大数を定義します。

ファイルの場所

次の表に、SAPABAP_UsrMon 監視テンプレートが使用するファイルを示します。

ファイル	説明
r3moncol(.exe)	ユーザモニタのコレクタ実行可能ファイル。
r3monusr.cfg	ユーザモニタの設定ファイル。
r3monusr.log	トレースデータ格納のためのトレースファイル。

SAPABAP_UsrMon 監視テンプレートは、特定の履歴ファイルに履歴情報を書き込みません。

環境変数

SAPABAP_UsrMon 監視テンプレートが使用する環境変数については、「[環境変数](#)」を参照してください。

コマンドライン パラメータ

SAPABAP_UsrMon 監視テンプレートが使用するコマンドライン パラメータについては、「[コマンドライン パラメータ](#)」を参照してください。

リモート監視

別の SAP システムをリモートで監視するための SAPABAP_UsrMon 監視テンプレートの設定の詳細は、「[SAP ABAP 監視テンプレートによるリモート監視](#)」を参照してください。

USER_LOGGEDIN_MAX

USER_LOGGEDIN_MAX は、SAPABAP_UsrMon 監視テンプレートのアラート タイプです。SAPABAP_UsrMon 監視テンプレートは、SAP ユーザの最大数が定義済みのしきい値を超えた場合にアラートを生成します。次の表に、USER_LOGGEDIN_MAX アラート タイプの設定に使用できるパラメータと、各パラメータにデフォルトで割り当てられる値を示します。パラメータ MAX の設定は必須です。

APSERVER パラメータでは、アプリケーション サーバに依存するモニタである r3monwpa、r3monusr、r3monoms が特定のアプリケーション サーバを監視するように設定できます。次のように、APSERVER を設定する必要があります (<ホスト名> はトランザクション SM51 に表示されているアプリケーション サーバリストにある監視対象アプリケーション サーバ名です)。

```
=APSERVER =I =CP =<ホスト名>_<SID>_<インスタンス番号> =
```

また、次のように、APSERVER で指定するアプリケーション サーバの SAP NetWeaver セントラル インスタンスのホスト名も明示的に定義することをお勧めします。

アプリケーション サーバの指定

```
AlertMonFun =<Central_Inst_Hostname> =ALL =ALL =ALL =USER =1 \
```

```
=WARNING =Login =R3_WP \
```

```
=USER_LOGGEDIN_MAX =MAX =I =GT =30 = \
```

=APSERVER =I =CP =hpdev01_MP3_00 =

これ以降では、このアラート モニタの具体的な設定要件について説明します。

パラメータ名	説明	クエリ条件	デフォルト値
APSERVER	監視するアプリケーション サーバを指定します。	= Sign:I, E	
		= Opt:CP	
		= Low :<アプリケーションサーバID>	
		= High:	
MAX	ログインしているユーザの最大数。これを超えるとアラートが発生します。 ^a	= Sign:I, E	
		= Opt:GT, GE	I
		= Low:	GT
		= High:	5

a. このパラメータは数値として指定する必要があります。数値以外で指定した場合、モニタはダンプして終了します。

「USER_LOGGEDIN_MAX のデフォルト設定」では、ログインしているユーザが30を超えた場合にアラートを生成するイベントが発生します。

USER_LOGGEDIN_MAX のデフォルト設定

```
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =USER =1\  
=WARNING =Login =R3_User\  
=USER_LOGGEDIN_MAX =MAX =I =GT =30 =
```

SAPABAP_WPMon

SAPABAP_WPMon 監視テンプレートでは、実行中のワークプロセスや待機中のワークプロセスを監視し、Debug/Private/No Restart などのワークプロセスの各種ステータスを確認できます。

SAPABAP_WPMon 監視テンプレートは SAP NetWeaver トランザクション SM50 を参照し、各アプリケーションサーバで実行されているワークプロセスについて次の条件をレポートします。

- 現在の操作モードのプロファイルに設定されている各ワークプロセスタイプについて、実行中のワークプロセス数をレポートします。
- 現在の操作モードのプロファイルに設定されている各ワークプロセスタイプについて、待機中のワークプロセス数をレポートします。

- 現在の操作モードのプロファイルに設定されている(同じワークプロセスタイプの)アクティブワークプロセス数と設定済みワークプロセス数を比較します。
- 次のように、ワークプロセスのステータスをチェックします。
 - **D (Debug)**

稼働中のシステムで実行中のプロセスはありません。
 - **P (Private)**

使用可能な最大のシステムリソースを使用してプロセスが実行されています。
 - **R (No Restart)**

失敗したプロセスは再開されず、依存ジョブも失敗します。

SAPABAP_WPMon 監視テンプレートが監視できるのは、セントラルインスタンスのエンキューワークプロセスからのアラートのみです。スタンドアロンのエンキューサーバのエンキューワークプロセスからのアラートは監視できません。スタンドアロンのエンキューワークプロセスを監視するには、SAPABAP_CCMSIntegrationMon 監視テンプレートを使用して、エンキューサーバによって生成された SAP CCMS アラートをチェックします。

モニタタイプ

SAPABAP_WPMon 監視テンプレートはスナップショットタイプです。1回のモニタ実行で収集されるのは1つの値セットのみです。

アラートタイプ

ワークプロセスモニタには次のアラートタイプがあります。

• **WP_AVAILABLE**

WP_AVAILABLE アラートタイプは、予想される実行中のワークプロセス数に関するアラート条件を定義します。

• **WP_IDLE**

WP_IDLE アラートタイプは、待機中のアイドルワークプロセス数に関するアラート条件を定義します。

• **WP_CHECK_CONFIGURED**

WP_CHECK_CONFIGURED アラートタイプは、実行中のワークプロセスの実際の数と、現在の操作モードのプロファイルに設定されているワークプロセス数を比較するためのアラート条件を定義します。比較されるのは同じタイプのワークプロセスのみです。

• **WP_STATUS**

WP_STATUS アラートタイプは、D (Debug)、P (Private)、R (No Restart) などの問題のある状態であることがわかったワークプロセスのアラート条件を定義します。

ファイルの場所

次の表に、SAPABAP_WPMon 監視テンプレートに含まれるファイルを示します。

ファイル	説明
r3moncol(.exe)	ワークプロセス モニタのコレクタ実行可能ファイル。
r3monwpa.cfg	ワークプロセス モニタの設定ファイル。
r3monwpa.log	トレース データ格納のためのトレースファイル。

SAPABAP_WPMon 監視テンプレートは、特定の履歴ファイルに履歴情報を書き込みません。

環境変数

SAPABAP_WPMon 監視テンプレートが使用する環境変数については、「[環境変数](#)」を参照してください。

コマンドライン パラメータ

SAPABAP_WPMon 監視テンプレートが使用するコマンドライン パラメータについては、「[コマンドライン パラメータ](#)」を参照してください。

リモート監視

別の SAP システムをリモートで監視するための SAPABAP_WPMon 監視テンプレートの設定の詳細は、「[SAP ABAP 監視テンプレートによるリモート監視](#)」を参照してください。

ワークプロセス モニタのアラート タイプの設定

この項では、SAPABAP_WPMon 監視テンプレートのアラート タイプの設定について説明します。[除外] および [含める] パラメータの値の使用に関する次の一般ルールに注意してください。これらのアラート タイプではルールが特に重要です。

パラメータの値

この項では、OMi MP for SAP がアラート タイプ エントリに対して [含める] および [除外] パラメータをどのように解釈するかを説明します。異なるパラメータでは「and」を使用して、同じパラメータでは次の方法で値が比較されます。

- **含める:** 「or」を使用してパラメータを比較します。
- **除外:** 「and」を使用してパラメータを比較します。

OMi MP for SAP では、次の表に示すように、[除外] の値より前に [含める] の値が評価されます。

選択オプション	アラート タイプ: WP_AVAILABLE 選択オプションの設定例	比較
1	=DIA =I =BT =50 =100 =OPMODE =I =CP =DAY	OR

2	=DIA =I =GT =5 =OPMODE =I =CP =NIGHT	OR
3	=DIA = E =LT =60	AND

WP_AVAILABLE

WP_AVAILABLE は、SAPABAP_WPMon 監視テンプレートのアラートタイプです。SAPABAP_WPMon 監視テンプレートは、選択した各ワークプロセスタイプの実行中のワークプロセス数が指定した最大 (または最小) しきい値を超えた (または下回った) 場合にアラートを生成します。次の表に、WP_AVAILABLE アラートタイプの設定に使用できるパラメータと、各パラメータにデフォルトで割り当てられる値を示します。WP_AVAILABLE アラートタイプにリストされているパラメータの設定は必須です。すべてのしきい値パラメータは数値として指定する必要があります。数値以外で指定した場合、モニタはダンプして終了します。

APSERVER パラメータでは、アプリケーション サーバに依存するモニタである r3monwpa、r3monusr、r3monoms が特定のアプリケーション サーバを監視するように設定できます。次のように、APSERVER を設定する必要があります (<ホスト名> はトランザクション SM51 に表示されているアプリケーション サーバリストにある監視対象アプリケーション サーバ名です)。

=APSERVER =I =CP =<ホスト名>_<SID>_<インスタンス番号> =

また、「アプリケーション サーバの指定」に示すように、APSERVER で指定するアプリケーション サーバの SAP NetWeaver セントラル インスタンスのホスト名も明示的に定義することをお勧めします。

アプリケーション サーバの指定

AlertMonFun =<セントラル インスタンスのホスト名> =ALL =ALL =ALL =WP =1 \

=WARNING =Availability =R3_WP \

=WP_AVAILABLE =DIA =I =GT =50 = \

=APSERVER =I =CP =hpdev01_MP3_00 =

これ以降では、このアラート モニタの具体的な設定要件について説明します。

パラメータ名	説明	クエリ条件	デフォルト値
APSERVER	監視するアプリケーション サーバを指定します。	= Sign:I, E	
		= Opt:CP	
		= Low :<アプリケーション サーバ ID>	
		= High:	

パラメータ名	説明	クエリ条件	デフォルト値
BTC	バッチ ワークプロセスのしきい値	= Sign:I, E	
		= Opt:GT, GE, LT, LE	
		= Low:<数値>	
		= High:	
DIA	ダイアログ ワークプロセスのしきい値	= Sign:I, E	
		= Opt:GT, GE, LT, LE	
		= Low:<数値>	
		= High:	
ENQ	エンキュー ワークプロセスのしきい値	= Sign:I, E	
		= Opt:GT, GE, LT, LE	
		= Low:<数値>	
		= High:	
OPMODE	このパラメータの操作モードを定義します。*	= Sign I, E	I
		= Opt:CP, EQ= Low:<操作モード>	EQ
		= Low:<操作モード>	current
		= High:	
SPO	スプールワークプロセスのしきい値	= Sign:I, E	
		= Opt:GT, GE, LT, LE	
		= Low:<数値>	
		= High:	

パラメータ名	説明	クエリ条件	デフォルト値
UPD	更新ワークプロセスのしきい値	= Sign:I, E	
		= Opt:GT, GE, LT, LE	
		= Low:<数値>	
		= High:	
UP2	更新 2 ワークプロセスのしきい値	= Sign:I, E	
		= Opt:GT, GE, LT, LE	
		= Low:<数値>	
		= High:	

* 存在しないモードを指定した場合、危険域アラートが発生します。

「WP_AVAILABLE のデフォルト設定」では、使用可能なダイアログワークプロセス数が50より少ない場合にアラートを生成するイベントが発生します。

WP_AVAILABLE のデフォルト設定

```
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =WP =1\  
=WARNING =Availability =R3_WP\  
=WP_AVAILABLE =DIA =I =LT =50 =
```

注: SAPABAP_WPMon 監視テンプレートで監視するワークプロセスタイプがSAP インスタンスプロファイルで正しく設定されていることを確認してください。

SAPABAP_WPMon 監視テンプレートが監視できるのは、SAP インスタンスプロファイルに設定されているワークプロセスタイプのみです。DIA ワークプロセスタイプがSAP インスタンスプロファイルで設定されていない場合（つまり、「rdisp/wp_no_dia = 0」）、DIA ワークプロセスは開始されません。DIA ワークプロセスが0個ということは、WP_AVAILABLE アラートタイプのデフォルト設定（「WP_AVAILABLE のデフォルト設定」）で指定されている最小値（50）より明らかに少ないため、通常の状況ではアラートが生成されません。

ただし、DIA ワークプロセスタイプがSAP インスタンスプロファイルで設定されていない場合、r3monwpa は任意の時点で実行中のDIA ワークプロセス数を監視できないため、アラートは生成されません。SAP インスタンスプロファイルとSAPABAP_WPMon 監視テンプレートの設定ファイルの間で、アラートタイプ WP_CHECK_CONFIGURED に相違がないかどうか確認してください。

WP_IDLE

WP_IDLE は、SAPABAP_WPMon 監視テンプレートのアラートタイプです。SAPABAP_WPMon 監視テンプレートは、選択した各ワークプロセスタイプの待機中のワークプロセス数が指定した最大（または最

小)しきい値を超えた(または下回った)場合にアラートを生成します。

次の表に、WP_IDLE アラート タイプの設定に使用できるパラメータと、各パラメータにデフォルトで割り当てられる値を示します。WP_IDLE アラート タイプのパラメータの設定は必須です。すべてのしきい値パラメータは数値として指定する必要があります。数値以外で指定した場合、モニタはダンプして終了します。

APSERVER パラメータでは、アプリケーション サーバに依存するモニタである r3monwpa、r3monusr、r3monoms が特定のアプリケーション サーバを監視するように設定できます。次のように、APSERVER を設定する必要があります (<ホスト名> はトランザクション SM51 に表示されているアプリケーション サーバリストにある監視対象アプリケーション サーバ名です)。

=APSERVER =I =CP =<ホスト名>_<SID>_<インスタンス番号> =

また、「アプリケーション サーバの指定」に示すように、APSERVER で指定するアプリケーション サーバの SAP NetWeaver セントラル インスタンスのホスト名も明示的に定義することをお勧めします。

アプリケーション サーバの指定

AlertMonFun =<セントラル インスタンスのホスト名> =ALL =ALL =ALL =WP =1 \

=WARNING =Idle =R3_WP \

=WP_IDLE =BTC =I =GT =20 = \

=APSERVER =I =CP =hpdev01_MP3_00 =

次の表に、WP_IDLE の設定パラメータを示します。

パラメータ名	説明	クエリ条件	デフォルト値
APSERVER	監視するアプリケーション サーバを指定します。	= Sign:I, E	
		= Opt:CP	
		= Low :<アプリケーションサーバ ID>	
		= High:	
BTC	バッチ ワークプロセスのしきい値	= Sign:I, E	
		= Opt:GT, GE, LT, LE	
		= Low:<数値>	
		= High:	

パラメータ名	説明	クエリ条件	デフォルト値
DIA	ダイアログ ワークプロセスのしきい値	= Sign:I, E	
		= Opt:GT, GE, LT, LE	
		= Low:<数値>	
		= High:	
ENQ	エンキュー ワークプロセスのしきい値	= Sign:I, E	
		= Opt:GT, GE, LT, LE	
		= Low:	
		= High:	
OPMODE	このパラメータの操作モードを定義します。 ¹	= Sign I, E	I
		= Opt:CP, EQ	EQ
		= Low:<操作モード>	current
		= High:	
SPO	スプール ワークプロセスのしきい値	= Sign:I, E	
		= Opt:GT, GE, LT, LE	
		= Low:<数値>	
		= High:	
UPD	更新ワークプロセスのしきい値	= Sign:I, E	
		= Opt:GT, GE, LT, LE	
		= Low:<数値>	
		= High:	
UP2	更新 2 ワークプロセスのしきい値	= Sign:I, E	
		= Opt:GT, GE, LT, LE	
		= Low:<数値>	
		= High:	

1. 存在しないモードを指定した場合、危険域アラートが発生します。

「WP_IDLE のデフォルト設定」では、アイドル状態のダイアログワークプロセス数が10より少ない場合にアラートを生成するイベントが発生します。

WP_IDLE のデフォルト設定

```
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =WP =1\  
=WARNING =Idle =R3_WP\  
=WP_IDLE =DIA =I =LT =10 =
```

注: SAPABAP_WPMon 監視テンプレートで監視するワークプロセスタイプがSAP インスタンスプロファイルで正しく設定されていることを確認してください。

SAPABAP_WPMon 監視テンプレートが監視できるのは、SAP インスタンスプロファイルに設定されているワークプロセスタイプのみです。DIA ワークプロセスタイプがSAP インスタンスプロファイルで設定されていない場合（つまり、「rdisp/wp_no_dia = 0」）、DIA ワークプロセスは開始されません。DIA ワークプロセスが0個ということは、WP_IDLE アラートタイプのデフォルト設定（「WP_IDLE のデフォルト設定」）で指定されている最小値（10）より明らかに少ないため、通常の状態ではアラートが生成されます。

ただし、DIA ワークプロセスタイプがSAP インスタンスプロファイルで設定されていない場合、SAPABAP_WPMon 監視テンプレートは任意の時点で実行中のDIA ワークプロセス数を監視できないため、アラートは生成されません。SAP インスタンスプロファイルとSAPABAP_WPMon 監視テンプレートの設定ファイルの間で、アラートタイプWP_CHECK_CONFIGUREDに相違がないかどうか確認してください。

WP_CHECK_CONFIGURED

WP_CHECK_CONFIGURED は、SAPABAP_WPMon 監視テンプレートのアラートタイプです。WP_CHECK_CONFIGURED アラートタイプは、実行中のワークプロセスの実際の数と、現在の操作モードのプロファイルに設定されているワークプロセス数を比較します。比較されるのは同じタイプ（例：DIA、BTC）のワークプロセスのみです。

APSERVER パラメータでは、SAPABAP_WPMon、SAPABAP_UsrMonなどの監視テンプレートが特定のアプリケーションサーバを監視するように設定できます。次のように、APSERVERを設定する必要があります（<ホスト名>はトランザクションSM51に表示されているアプリケーションサーバリストにある監視対象アプリケーションサーバ名です）。

```
=APSERVER =I =CP =<ホスト名>_<SID>_<インスタンス番号> =
```

また、「アプリケーションサーバの指定」に示すように、APSERVERで指定するアプリケーションサーバのSAP NetWeaver セントラルインスタンスのホスト名も明示的に定義することをお勧めします。

アプリケーションサーバの指定

```
AlertMonFun =<セントラル インスタンスのホスト名> =ALL =ALL =ALL =WP =1 \  
=WARNING =Check =R3_WP \  
=WP_CHECK_CONFIGURED \  
=APSERVER =I =CP =hpdev01_MP3_00 =
```

次の表に、WP_CHECK_CONFIGURED アラート タイプの設定に使用できるパラメータと、各パラメータにデフォルトで割り当てられる値を示します。

パラメータ名	説明	クエリ条件	デフォルト値
APSERVER	監視するアプリケーションサーバを指定します。	= Sign:I, E	
		= Opt:CP	
		= Low:<アプリケーション サーバ ID>	
		= High:	

「WP_CHECK_CONFIGURED のデフォルト設定」では、SAPABAP_WPMon 監視テンプレートは実行中のワークプロセス数が特定のワークプロセスタイプに設定されているワークプロセス数と一致しない場合にアラートを生成します。

WP_CHECK_CONFIGURED のデフォルト設定

```
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =WP =1 \
=WARNING =Check =R3_WP \
=WP_CHECK_CONFIGURED \
=APSERVER =I =CP =ALL =
```

WP_STATUS

WP_STATUS は、SAPABAP_WPMon 監視テンプレートのアラートタイプです。WP_STATUS は、D (Debug)、P (Private)、R (No Restart) などの問題のある状態であることがわかったワークプロセスのアラート条件を定義します。SAPABAP_WPMon 監視テンプレートは、OMi MP for SAP で監視している SAP システムで実行中のワークプロセスが次のパラメータに定義されている条件と一致した場合にアラートを生成します。次のパラメータの設定はオプションです。

APSERVER パラメータでは、SAPABAP_WPMon、SAPABAP_UsrMon などのアプリケーションサーバ依存モニタが特定のアプリケーションサーバを監視するように設定できます。次のように、APSERVER を設定する必要があります (<ホスト名> はトランザクション SM51 に表示されているアプリケーションサーバリストにある監視対象アプリケーションサーバ名です)。

```
=APSERVER =I =CP =<ホスト名>_<SID>_<インスタンス番号> =
```

また、「アプリケーションサーバの指定」に示すように、APSERVER で指定するアプリケーションサーバの SAP NetWeaver セントラル インスタンスのホスト名も明示的に定義することをお勧めします。

アプリケーションサーバの指定

```
AlertMonFun =<セントラル インスタンスのホスト名> =ALL =ALL =ALL =WP =1 \
=WARNING =WP_Status =R3_WP \
=WP_STATUS =STATUS =I =GT =30 = \
=APSERVER =I =CP =hpdev01_MP3_00 =
```


次の表に、WP_STATUS アラート タイプの設定に使用できるパラメータと、各パラメータにデフォルトで割り当てられる値を示します。

パラメータ名	説明	クエリ条件	デフォルト値
APSERVER	監視するアプリケーション サーバを指定します。	= Sign:I, E	
		= Opt:CP	
		= Low:<アプリケーションサーバID>	
		= High:	
STATUS ¹	監視対象のステータス	= Sign:I, E	
		= Opt:	
		= Low: ²	
		= High:	

1. その他の取り得る値: MAX_ENTRIES
2. 取り得る値: D=Debug、P=Private、R=Restart (アラートなし)

「WP_STATUS のデフォルト設定」では、実行中のワークプロセスのステータスが危険域である場合にアラートを生成するイベントが発生します。「WP_STATUS のデフォルト設定」では、OMi MP for SAP がメッセージを生成する前に存在する必要がある定義済みステータスのワークプロセス数を =MAX_ENTRIES を使用して定義する方法も示しています。

WP_STATUS のデフォルト設定

```
AlertMonFun =ALL =ALL =ALL =ALL =WP =1\  
=CRITICAL =WP_Status =R3_WP\  
=WP_STATUS =STATUS =I =CP =* =
```

TempSeqFileMon

TemSe ファイルの監視

実行時のコストを軽減するため、OMi MP for SAP は SAP に設定したレポートを使用して SAP の一時シーケンシャルファイル (TemSe) の整合性を監視します。ただし、管理対象ノードへの SAPABAP_TempSeqFileMon 監視テンプレートの割り当ては必要です。

モニタタイプ

TemSe モニタはスナップショット タイプです。1 回のモニタ実行で収集されるのは 1 つの値セットのみです。

レポートの詳細

TemSe レポートは、SAP NetWeaver トランザクション SP12 を参照します。TEMSE データベースの不整合は重大な問題です。ログイン SP12 を使用して、ディスク障害などの不整合の原因を修正してください。

TemSe モニタの実行

TemSe モニタを監視するためには、/HPOV/ZHPSPIT1 というレポートを参照するジョブを SAP NetWeaver で設定する必要があります。

注: レポートを使用できるのは SAP バージョン 4.6 以降のみです。

レポートを設定するには、次の手順を実行します。

1. **SAP NetWeaver** にログインします。
2. トランザクション SM36 を使用してジョブを設定します。
3. ジョブで次の詳細を指定します。
 - a. レポートを開始する日付
 - b. レポートを実行する頻度

SAP ABAP 監視テンプレートのカスタマイズ

この項では、ABAP 監視テンプレートを監視要件に合わせてカスタマイズする方法について説明します。

注: SAP ABAP 監視テンプレートを設定またはカスタマイズした後、対応する SAP ABAP アスペクトおよび SAP ABAP 監視テンプレートのバージョンを上げる必要があります。SAP ABAP アスペクトと対応する SAP ABAP 監視テンプレートの詳細は、「[SAP ABAP 監視テンプレート、監視テンプレートの設定ファイル、履歴ファイル](#)」を参照してください。

SAP ABAP 監視テンプレート、監視テンプレートの設定ファイル、履歴ファイル

OMi MP for SAP の ABAP 監視テンプレートは SAP モニタを使用して、SAP ABAP アプリケーション サーバのさまざまな機能を監視します。一部の SAP モニタでは、それぞれの実行後に特定の情報にアクセスするために履歴ファイルにデータが格納されます。この項では、SAP ABAP 監視テンプレート、対応する SAP ABAP アスペクト、さまざまな SAP モニタ、SAP ABAP 監視テンプレートが使用する履歴ファイルについて説明します。

SAP ABAP アスペクト	SAP ABAP 監視テンプレート	監視テンプレート設定ファイル (cfg)	履歴ファイル
SAP ABAP バッチ ジョブ状況	SAPABAP_BatJobMon	r3monjob	

SAP ABAP アспект	SAP ABAP 監視テンプレート	監視テンプレート設定ファイル (cfg)	履歴ファイル
SAP CCMS 統合	SAPABAP_CCMSIntegrationMon	r3monal	r3monal.his
SAP ABAP 移送/修正システムステータス	SAPABAP_CTSMon	r3moncts	
SAP ABAP プロセスおよびディスパッチャステータス	SAPABAP_DispMon	r3mondisp	
SAP ABAP ダンプステータス	SAPABAP_DmpMon	r3mondmp	
SAP ABAP Idoc ステータス	SAPABAP_IdocStatusMon	r3monale	
SAP ABAP ロックステータス	SAPABAP_LckChkMon	r3monlck	
SAP ABAP パフォーマンス モニタ	SAPABAP_PerfMon	r3perfagent	
SAP ABAP プロセスおよびディスパッチャステータス	SAPABAP_ProcMon	r3monpro	r3monpro.his
SAP ABAP RFC 宛先ステータス	SAPABAP_RFCDestMon	r3monrfc	
SAP ABAP セキュリティステータス	SAPABAP_SecMon	r3monsec	
SAP ABAP スプール状況	SAPABAP_SplMon	r3monspl	
SAP ABAP パフォーマンス モニタ	SAPABAP_StatRecMon	r3perfstat	
SAP システム状況	SAPABAP_StatusMon	r3status	r3status.his
SAP ABAP システム変更オプションステータス	SAPABAP_SysChgOptMon	r3monchg	
SAP 一時シーケンシャルファイル監視	SAPABAP_TempSeqFileMon	r3monaco	
SAP システム状況	SAPABAP_TraceMon	r3mondev	r3mondev.his
SAP ABAP 移送ステータス	SAPABAP_TransMon	r3montra	
SAP ABAP 更新タスク状況	SAPABAP_UpdProcMon	r3monupd	

SAP ABAP アスペクト	SAP ABAP 監視テンプレート	監視テンプレート設定ファイル (cfg)	履歴ファイル
SAP ABAP ユーザ状況	SAPABAP_UsrMon	r3monusr	
SAP ABAP ワークプロセス状況	SAPABAP_WPMon	r3monwpa	

履歴パス

ABAP 監視テンプレート設定ファイルの HistoryPath[Unix | AIX | WinNT] キーワードでは、次のパラメータを使用できます。

HistoryPath<Unix|Aix|WinNT> <ホスト名> =<パス>

- **ホスト名:**

=ALL: SPI for SAP が含まれるすべてのホストを監視します。これはデフォルト設定です。

=<SAP_host>: 履歴ファイルを監視するためのパスを指定する SAP サーバの名前。ホストを 1 行ずつ指定します。

- **パス:**

UNIX の場合: =default

AIX の場合: =default

Windows の場合: =default

=default という値は、OMi MP for SAP 監視テンプレートが書き込む履歴ファイルのデフォルトのパスと関連付けられています。

SAPABAP_IdocStatusMon、SAPABAP_DmpMon のような ABAP 監視テンプレートは、モニタ固有の履歴ファイルに履歴情報を書き込みません。代わりに、OMi MP for SAP アラート コレクタ モニタが見つけた SAP アラートに関する情報は SAP データベースに直接書き込まれ、ABAP 監視テンプレート コレクタが認識できるようになります。ABAP 監視テンプレートは各モニタの実行開始時に関連するテーブルを読み取り、その情報を使用して OMi 監視サーバに通知されたイベントの有無や追加メッセージを生成するかどうかを判断します。

履歴ファイルを使用する SAP ABAP 監視テンプレートでは、履歴パスを指定する必要があります。このディレクトリパスを使用して、監視テンプレートの履歴ファイルを参照できます。SAP ABAP 監視テンプレートには、UNIX、AIX、Windows の各サーバの次のデフォルトパスが含まれています。

HistoryPathUnix =ALL =default

HistoryPathAIX =ALL =default

HistoryPathWinNT =ALL =default

注: ABAP 監視テンプレートがデフォルト (=default) 以外の Windows 管理対象ノードの特定の履歴パス (例: %OvAgentDir%\Tmp) を使用するように設定することはできません。詳細については、

SAPOPC_HISTORYPATH 環境変数とアラート モニタ設定ファイルのキーワードを参照してください。

SAP ABAP 監視テンプレートごとに履歴ファイルが作成されます。SAP ABAP 監視テンプレート モニタが実行を完了するたびに、履歴ファイルに新しいセクションが追加されます。この機能により、SAP ABAP 監視テンプレート モニタは前回の実行から変更がないかどうかをチェックできます。

注: モニタ履歴 (*.his) ファイルは編集しないでください。モニタ履歴ファイルを編集すると、レコードの精度と整合性が損なわれる可能性があります。モニタは履歴ファイルを使用して、全回の実行以降にイベントが発生したかどうか、メッセージを送信するかどうかを判断します。

次に、SAP ABAP 監視テンプレートの設定の一部を示します。

```
#-----  
# History hostname path  
# Path  
#  
HistoryPathUnix =ALL =default  
HistoryPathAIX =ALL =default  
HistoryPathWinNT =ALL =default  
#-----
```

キーワードとパラメータ

キーワード	キーワード パラメータ/設定フィールド	説明
TraceLevel	Tracelevel =<ホスト名> =<トレースレベル>	<p>ホスト名: =ALL: SPI for SAP が含まれるすべての SAP ホストを監視します。これはデフォルト設定です。</p> <p>=<SAP ホスト>: トレースレベルを指定する SAP サーバの名前。ホストを 1 行ずつ指定します。</p> <p>トレースレベル:</p> <p>=0: ログ記録を無効にします。これはすべての設定ファイルのデフォルト設定です。</p> <p>=1: エラーメッセージのみをログに記録します。</p> <p>=2: すべてのメッセージをログに記録します。</p> <p>=3: デバッグメッセージを含むすべてをログに記録します。</p>

キーワード	キーワード パラメータ/設定フィールド	説明
TraceFile	Tracefile =<ホスト名> =<ファイル名> =<トレース モード> =<トレース期間>	<p>ホスト名: =ALL: SPI for SAP が含まれるすべての SAP サーバを監視します。これはデフォルト設定です。</p> <p>=<SAP ホスト>:トレースが有効化され、トレースレベルを指定する特定のホストの名前。ホストを1行ずつ指定します。</p> <p>ファイル名: =r3mon<アラート モニタ名>.log (例: r3mondev.log、r3mondmp.log)。これはデフォルト設定です。または、トレースログを書き込むファイルの名前を指定できます。デフォルトでは、モニタのトレースファイルは次のディレクトリにあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • UNIX の場合: /var/opt/OV/log • AIX の場合: HTTPS:/var/opt/OV/log • Microsoft Windows の場合: HTTPS:%OvDataDir%\log <p>トレース モード: =w: デフォルト 値 =a: 追加</p> <p>トレース期間: モニタは、既存のファイルの期間がABAP 監視テンプレートに指定されている期間を過ぎていないかどうかを検証します。期間を過ぎている場合、新しいファイルが作成されます。その他の場合、新しいトレースログ エントリが既存ファイルに追加されます。</p>

キーワード	キーワード パラメータ/設定フィールド	説明
RFCTimeOut	RFCTimeOut =%%RFCTimeOutInterval%%	RFCTimeOut は、RFC XMI/XAL 関数呼び出しがキャンセルされるまでの最大時間を秒単位で定義します (例: =120)。RFC 呼び出しの完了に (つまり、初期要求への応答を受け取るまでに) 予想以上の時間がかかる場合、システムが停止し、重大なパフォーマンスの問題が発生している可能性があります。

キーワード	キーワード パラメータ/設定フィールド	説明
EnableDPQueueCheck	EnableDPQueueCheck =<ホスト名>=<SAP SID>=<SAP 番号>\=<有効化/無効化>	<p>ホスト名: 開始前に OMi MP for SAP でチェックする ABAP ディスパッチャのインスタンスが実行されている SAP サーバの名前。</p> <p>=ALL: OMi MP for SAP が監視しているすべてのホスト。これはデフォルト設定です。</p> <p>=<SAP ホスト>: ディスパッチャキューのチェックを有効化する SAP サーバの名前。ホストを 1 行ずつ指定します。</p> <p>SAP SID: 開始前に OMi MP for SAP モニタでチェックする ABAP ディスパッチャのインスタンスの SAP システム ID。</p> <p>=ALL: OMi MP for SAP が監視するすべてのシステム ID。これはデフォルト設定です。</p> <p>=<SAP_SID>: チェックする ABAP ディスパッチャのインスタンスの SAP システム ID (例:「SP1」)。</p> <p>SAP 番号: 開始前に OMi MP for SAP モニタでチェックする ABAP ディスパッチャの SAP インスタンスの番号。</p> <p>=ALL: OMi MP for SAP が監視するすべてのインスタンス。これはデフォルト設定です。</p> <p>=<SAP_InstNr>: OMi MP for SAP モニタでチェックする ABAP ディスパッチャの SAP インスタンスの番号 (例:「45」)。</p> <p>有効化/無効化: 有効化 (=1) または無効化 (=0): 定義済みの SAP インスタンスの ABAP ディスパッチャを監視するこの特定のモニタ (例: 1)。デフォルトは無効化 (=0) です。OMi MP for</p>

キーワード	キーワード パラメータ/設定フィールド	説明
		SAP モニタを個々に有効化する必要があります。
リモート 監視	RemoteMonitoring =<ローカルホスト> =<リモートホスト>	<p>ローカルホスト: すでに OMi MP for SAP によって監視されており、エージェントを使用して Remotehost に定義されている SAP サーバをリモート監視しているホストの名前。</p> <p>リモートホスト: 「ローカルホスト」に定義されている SAP サーバで、OMi MP for SAP を使用して監視するリモート SAP サーバの名前。</p>
AlertMonFun	AlertMonFun =<SAP ホスト名> =<SAP システム> =<SAP 番号> \ =<SAP クライアント> =<アラート モニタ> =<有効/無効> \ =<OpC 重大度> =<OpC オブジェクト> =<OpC メッセージ グループ> \ =<アラート タイプ> =<RFC パラメータ>	AlertMonFun でサポートされているパラメータ/フィールドの詳細は、「 ABAP 監視テンプレートの設定フィールド 」を参照してください。

監視テンプレートのクエリ条件

監視テンプレートのデータは多数のアラート タイプに分けられます。たとえば、JOBREPORT モニタには、JOB_MAX_RUN-TIME、JOB_MIN_RUN_TIME、START_PASSED、JOB_ABORTED の4つのアラート タイプがあります。特定のアラート モニタの定義済みアラート タイプごとに、次の操作を行う必要があります。

- チェックする SAP NetWeaver システムの指定
- アラートを生成する状況を定義する選択条件の入力。これについては後で説明します。

パラメータ データ タイプ

ABAP 監視テンプレートの各アラート タイプに関する監視条件セクションのパラメータは、アラートを生成する条件を定義します。一般に、パラメータ データには2つのタイプがあります。

- **名前**

パラメータ名は、監視条件を定義する SAP NetWeaver システムの属性を示します。たとえば、MAX_RUNTIME やJOBNAME は、JOBREPORT モニタと関連付けられているアラート タイプ JOB_MAX_RUN_TIME のパラメータ名です。

• **区切り文字**

パラメータ区切り文字は、各パラメータの「選択」オプションを指定するために使用します。パラメータ区切り文字は、アラートを生成する状況を定義します。指定した条件と一致するイベントごとに、メッセージが送信されます。パラメータ区切り文字には、SIGN、OPT(ION)、LOW、HIGH の4タイプがあり、この順序で指定する必要があります。

クエリ条件の指定

次の点は、一般的に、パラメータ区切り文字を使用してクエリ条件を指定する場合に当てはまりません。

- クエリ条件の設定には、使用可能かつ妥当なあらゆる条件を使用できますが、次の制限があります。
- 定義済みの条件によって除外されているメッセージは、OMi メッセージ ブラウザに表示されません。

次の表に、ABAP 監視テンプレートの設定に使用するパラメータ区切り文字を示します。

注: クエリ条件のパラメータ区切り文字の順序は、次の表に記載されている順序 (SIGN、OPTION、LOW、HIGH) と同じである必要があります。

パラメータと区切り文字

パラメータ区切り文字	説明
SIGN	<p>I: 含める</p> <p>E: 除外</p>
OPT	<p>この項で説明しているアラート タイプの設定では、標準の SAP 演算子である NE (等しくない)、NB (範囲外)、NP (パターンを含まない) は使用できません。次の演算子のみ使用してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • EQ: 等しい • BT: 範囲 • CP: パターンを含む • LE: 以下 • GE: 以上 • GT: より大きい • LT: より小さい

パラメータ区切り文字	説明
LOW	<ul style="list-style-type: none"> 演算子 CP を使用している場合、文字列などの比較値。 演算子 BT と組み合わせて使用している場合、範囲の下限值。
HIGH	範囲の上限値を指定するための比較数値。このパラメータ区切り文字は、演算子 BT と組み合わせてのみ使用します。

ABAP 監視テンプレートの設定フィールド

次の表に、SAP ABAP 監視テンプレートのさまざまなユーザ設定可能フィールドと説明を示します。

フィールド	説明
#AlertMonFun	特定のジョブを監視するためのキーワードの名前。
=<SAP Hostname>	監視する SAP サーバのホスト名。
=<SAP システム>	監視する SAP システムの ID。
=<SAP 番号>	監視する SAP インスタンスの番号。
=<SAP クライアント>	監視する SAP クライアントのクライアント ID。
=<アラート モニタ>	監視に使用するアラート タイプ。
=<有効化/無効化>	監視の有効化または無効化。
=<OpC 重大度>	SAP アラートをマッピングするメッセージの重大度レベル。
=<OpC オブジェクト>	生成されたメッセージと関連付けられている MP オブジェクト。
=<OpC メッセージ グループ>	OMi メッセージが属するメッセージ グループの名前。
=<アラート タイプ>	アラート タイプの名前。
=<RFC パラメータ>	特定のアラート タイプのパラメータの名前。

環境変数

この項では、すべての監視テンプレートの環境変数について説明します。監視テンプレートの名前以外の設定は、すべての SAP ABAP 監視テンプレートに共通です。

環境変数	説明
------	----

SAPOPC_ <R3MONNAME>* _CONFIGFILE	設定ファイル名
SAPOPC_R3ITOSAP_CONFIGFILE	一般的な SAP NetWeaver ログイン設定ファイル
SAPOPC_TRACEPATH	トレースパス設定ファイル

*<R3MONNAME> は、場所を変更する監視テンプレート設定ファイルを持つモニタの名前です。例：
SAPOPC_R3MONDMP_CONFIGFILE

コマンドラインパラメータ

この項では、すべての SAP ABAP 監視テンプレートのコマンドラインパラメータについて説明します。同様に、環境変数では、監視テンプレートの名前以外の設定はすべての SAP ABAP 監視テンプレートに共通です。

パラメータ	説明
-cfgfile	モニタの設定ファイル名。例：-cfgfile <R3MONNAME>*.cfg
-trace	モニタは初期トレースファイル writetrace.log に書き込みます、これには、設定ファイルr3itosapとモニタ固有の設定ファイル <R3MONNAME>*.cfg についての情報が含まれています。

*<R3MONNAME> は、場所を読み取る設定ファイルを持つモニタの名前です。例：r3mondmp

次の例では、監視テンプレートは初期トレースファイル writetrace.log に書き込みます、これは、一般設定ファイルr3itosapとモニタ固有の設定ファイルr3monjob.cfg についての情報が含まれています。

```
r3moncol -cfgfile r3monjob.cfg -trace
```

SAP パラメータ

パラメータは、SAP 管理テンプレート、アスペクト、ポリシーテンプレートに不可欠なコンポーネントとなる変数です。各パラメータは1つの変数に対応します。パラメータにはデフォルト値が設定され、SAP アプリケーションサーバの各種コンポーネントの監視に使用されます。また、監視要件に合うように変数の値を変更することもできます。

パラメータのタイプ

OMi MP for SAP では、ABAP および J2EE アプリケーションサーバを監視するために次のパラメータセットが用意されています。

- [SAP J2EE アプリケーションサーバパラメータ](#)
- [SAP ABAP アプリケーションサーバパラメータ](#)

• SAP ABAP 監視テンプレート パラメータ

SAP J2EE アプリケーション サーバパラメータ

OMi MP for SAP には、J2EE アプリケーション サーバを監視するために次のパラメータがあります。

パラメータ	パラメータタイプ	説明	デフォルト値
VeryHigh スケジューラの頻度	エキスパート	極めて短い間隔で実行されるスケジューラの頻度 (分単位)。	5
High スケジューラの頻度	エキスパート	短い間隔で実行されるスケジューラの頻度 (分単位)。	15
Medium スケジューラの頻度	エキスパート	中程度の間隔で実行されるスケジューラの頻度 (時間単位)。	1
Low スケジューラの頻度	エキスパート	長い間隔で実行されるスケジューラの頻度 (時間)。	24
アプリケーション インスタンス	必須	データを取得するアプリケーション インスタンス。	CI 名
<J2EE アспект名> 頻度	従属	割り当てられた J2EE コンポーネントを監視する頻度。	VERYHIGH
<J2EE アспект名> 重要度	従属	監視されるイベントまたはコンポーネントの重要度。	MAJOR
<J2EE アспект名> しきい値	従属	監視されるイベントまたはコンポーネントのしきい値。	10000000.000000

SAP ABAP アプリケーション サーバパラメータ

OMi MP for SAP には、ABAP アプリケーション サーバを監視するために次のパラメータがあります。

パラメータ	パラメータタイプ	説明	デフォルト/サンプル値
VeryHigh スケジューラの頻度	エキスパート	極めて短い間隔で実行されるスケジューラの頻度 (分単位)。	5
High スケジューラの頻度	エキスパート	短い間隔で実行されるスケジューラの頻度 (分単位)。	15
Medium スケジューラの頻度	エキスパート	中程度の間隔で実行されるスケジューラの頻度 (時間単位)。	1

Low スケジューラの頻度	エキスパート	長い間隔で実行されるスケジューラの頻度 (時間)。	24
<監視されるアスペクト名>の ConfigurationFileName	読み取り専用	ABAP アプリケーション サーバ監視の設定ファイル。	例 :r3monjob.cfg
ABAP <監視されるアスペクト名>の FREQ	従属	割り当てられたアスペクトを監視する頻度。	VERYHIGH
ABAP <監視されるアスペクト名>の TraceLevel	従属	割り当てられた ABAP アスペクトを監視するためのトレースレベル。	0
ABAP <監視されるアスペクト名>の TraceFileName	従属	割り当てられた ABAP アスペクトを監視するためのトレースファイル名。	例 :r3monjob.log
ABAP <監視されるアスペクト名>の TraceMode	従属	割り当てられた ABAP アスペクトを監視するためのトレースファイルモード。	w
ABAP <監視されるアスペクト名>の TracePeriod	従属	割り当てられた ABAP アスペクトを監視するためのトレース期間 (分)。	60
ABAP <監視されるアスペクト名>の RFCTimeOutInterval	従属	割り当てられた ABAP アスペクトを監視するための RFCTimeout (秒)。	120
ABAP <監視されるアスペクト名>の IsDPQCheckEnabled	従属	割り当てられた ABAP アスペクトを監視するための DPQCheck。	0

SAP ABAP 監視テンプレート パラメータ

OMi MP for SAP では、ABAP アプリケーション サーバを監視するための ABAP 監視テンプレートを設定するパラメータセットが用意されています。これらのパラメータはユーザが設定可能であり、監視要件に従ってデフォルト値を変更できます。OMi MP for SAP では、ABAP アプリケーション サーバの特定の機能や領域を監視するために必要なカスタムパラメータを作成できるようにすることで、ABAP 監視機能を拡張します。次の表は、ABAP アプリケーション サーバ監視をサポートするために用意されているユーザが設定可能なパラメータの一覧です。

パラメータ名	変数名	説明
<監視テンプレート名>の ConfigurationFileName*	ConfigurationFileName	SAP ABAP 監視テンプレートが使用する設定ファイル名。

<監視テンプレート名> のFREQ	FREQ	SAP ABAP 監視テンプレートが使用する頻度。
<監視テンプレート名> のTraceLevel	TraceLevel	SAP ABAP 監視テンプレート監視のトレースレベル。
<監視テンプレート名> のTraceFileName	TraceFileName	SAP ABAP 監視テンプレート監視のトレースファイル名。
<監視テンプレート名> のTraceMode	TraceMode	SAP ABAP 監視テンプレート監視のトレースファイルモード。
<監視テンプレート名> のTracePeriod	TracePeriod	SAP ABAP 監視テンプレート監視のトレース期間 (分)。
<監視テンプレート名> のRFCTimeOutInterval	RFCTimeOutInterval	SAP ABAP 監視テンプレートのRFCTimeout (秒)。
<監視テンプレート名> のIsDPQCheckEnabled	IsDPQCheckEnabled	SAP ABAP 監視テンプレート監視のDPQCheck。

*記載されたパラメータのデフォルトの命名規則では、パラメータ名の後にABAP 監視テンプレート名が入ります。

ABAP 監視テンプレート パラメータの設定

この項では、ABAP 監視テンプレート パラメータの編集方法について説明します。

ABAP 監視テンプレート パラメータは、監視要件に合わせて編集できます。ABAP 監視テンプレート パラメータを編集するには、以下の手順を実行します。


1. ポリシーテンプレート グループを開きます。
2. パラメータを調整するには、以下の操作を行います。

BSM では、**[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [ポリシーテンプレート] > [SAP ABAP 管理テンプレート]** をクリックします。

OMi では、**[管理] > [監視] > [ポリシーテンプレート]** をクリックします。

3. **[ポリシーテンプレート グループ]** タブ (BSM) または **[ポリシーテンプレート]** ペインで、**[タイプ別にグループ化されたテンプレート]** (OMi) をクリックします。
4. **[SAP ABAP 監視]** を選択します。
5. **[ポリシーテンプレート]** ペインで、パラメータを編集する SAP ABAP 監視テンプレートを選択します。

選択した監視テンプレートのパラメータが**[詳細]** ペインに表示されます。


6. 編集するパラメータをダブルクリックします。
監視テンプレートのエディタメニューが開きます。
7. **[ポリシー データ]** タブを選択します。[ポリシーの生データ] ペインが開きます。
8. [ポリシー パラメータ] ペインで、編集するパラメータを選択して  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。名前、変数名、UI 順、変数タイプ、デフォルト値、フラグを編集できます。
9. 編集するアイテムをクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

SAP ABAP 監視テンプレートのカスタム パラメータの作成


OMi MP for SAP を使用すると、監視テンプレート設定文字列内で頻繁に変更する要素または値をパラメータ化できます。例として、SAPABAP_DispMon 監視テンプレートをパラメータ化する手順を以下に示します。

1. SAP ABAP 監視テンプレートを開きます。

BSM では、**[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [ポリシー テンプレート] > [SAP ABAP 管理テンプレート]** をクリックします。

OMi では、**[管理] > [監視] > [ポリシー テンプレート] > [SAP ABAP 監視テンプレート]** をクリックします。
2. カスタム パラメータを作成する **SAPABAP_DispMon 監視テンプレート** を選択します。
3.  をクリックして **[ポリシー テンプレートの編集 (RAW モード)]** を選択します。[ポリシー関連情報] ウィンドウが開きます。
4. **[ポリシー データ]** タブを選択します。SAP ABAP 監視テンプレートの設定が表示されます。
5. **DisableMonitoringWithSeverity** キーワード設定文字列に移動します。

DisableMonitoringWithSeverity =ALL =ALL =ALL =WARNING
6. WARNING 設定文字列値をパラメータ化するには、以下に示すように WARNING 値の先頭と末尾に %% を付けます。


DisableMonitoringWithSeverity =ALL =ALL =ALL =%%WARNING%%
7. **[ポリシー パラメータ]** タブで、 **[パラメータを同期]** をクリックします。[パラメータを同期] ダイアログボックスが開きます。
8. **[変更]** をクリックして、SAPABAP_DispMon 監視テンプレートのパラメータリストに WARNING を追加します。
9. ここで、WARNING パラメータの名前、変数名、UI 順、変数タイプ、デフォルト値、フラグを定義ま

たは編集できます。

以下に、カスタム パラメータの変数名の定義例を示します。

- a. WARNING パラメータの [パラメータの編集] ウィンドウで **[変数名]** テキスト フィールドを選択します。
- b. WARNING パラメータの変数名を定義します。

注:デプロイメント中パラメータは変数名で表示されるため、変数名にはわかりやすい名前を付けることをお勧めします。たとえば、WARNING カスタム パラメータの変数名として DisableMonitoringWithSeverity_ALL_Severity を指定すると、デプロイメントがしやすくなります。

- c. **[OK]** をクリックして、 **[パラメータを同期]** をクリックします。[パラメータを同期] ダイアログ ボックスが開きます。
- d. **[変更]** をクリックしてパラメータへの変更を更新します。

注:SAPABAP_Dispatcher 監視テンプレートのデプロイメント中に **[すべてのパラメータ]** タブから WARNING カスタム パラメータを編集することもできます。



OMi MP for SAP パラメータの調整

SAP CI にデプロイ済みの SAP 管理テンプレートとアスペクトのパラメータは編集が可能です。

1. 次の手順で [割り当ておよび調整] ペインを開きます。

BSM では、**[管理]** > **[オペレーション管理]** > **[モニタリング]** > **[割り当ておよび調整]** をクリックします。

OMi では、**[管理]** > **[監視]** > **[割り当ておよび調整]** をクリックします。

2. **[ビューの参照]** タブで、パラメータを調整するアプリケーション サーバ CI を含む RTSM ビューを選択します。または、**[検索]** タブを使用して CI を検索できます。
3. SAP CI のリストで、**CI** をクリックします。[含まれる CI に対する直接割り当て] ペインに、選択した CI に対する既存の割り当ての詳細が表示されます。
4. パラメータを調整する割り当てをクリックします。[割り当ての詳細] ペインに、現在のパラメータ値が表示されます。
5. [割り当て詳細] ペインで、パラメータを変更します。
 - a. オプション: デフォルトでは、リストには必須パラメータのみ表示されます。すべてのパラメータを参照するには、 をクリックします。
 - b. リストのパラメータを選択して、 をクリックします。

標準パラメータの場合、[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。

[値] をクリックして値を指定し、[OK] をクリックします。

インスタンスパラメータの場合、[インスタンスパラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。

必要に応じてインスタンス値を変更したら、各インスタンス値の従属パラメータ値も変更します。インスタンス値と従属パラメータ値を変更したら、[OK] をクリックします。

6. [割り当ての詳細] ペインで、[変更を保存] をクリックします。操作コンソールによって、新しいパラメータ値が関連する HP Operations Agent にデプロイされます。

ランタイム サービス モデル (RTSM) のビュー

RTSM ビューでは、RTSM モデル全体のサブセットを作成し、表示することができます。

RTSM ビューにアクセスする方法

1. RTSM ビューを開きます。

BSM では、[管理] > [RTSM 管理] > [モデリング] > [モデリングスタジオ] をクリックします。

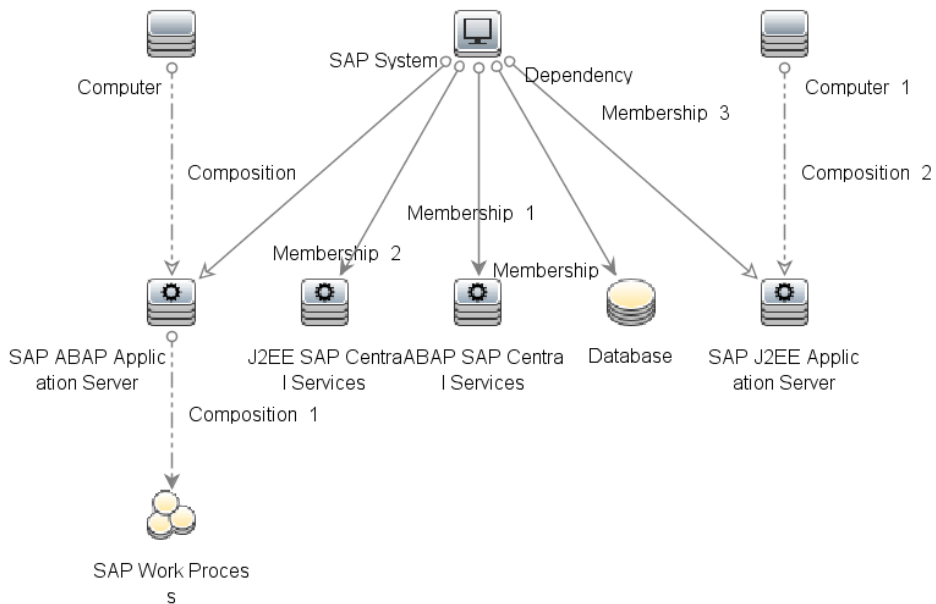
OMi では、[管理] > [RTSM 管理] > [モデリング] > [モデリングスタジオ] をクリックします。

2. ビューでリソースタイプをクリックします。

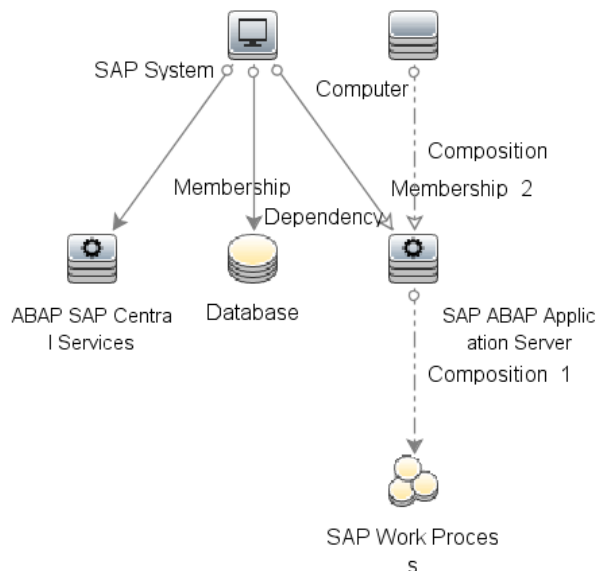
3. [オペレーション管理] > [SAP] をクリックします。

OMi MP for SAP には、次の RTSM ビューがあります。

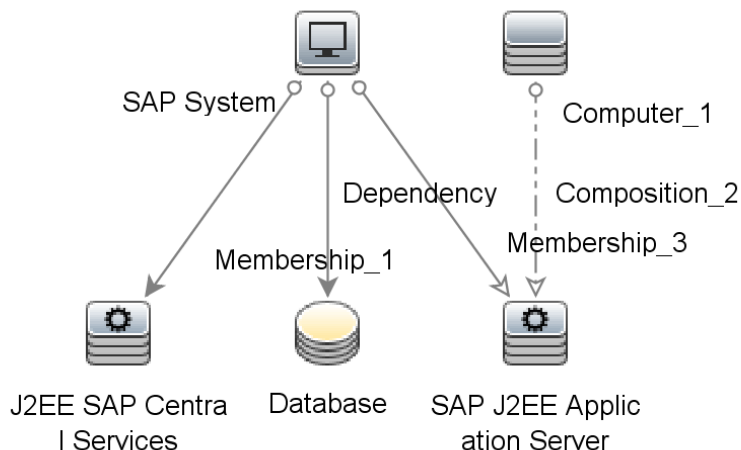
- **SAP_Deployment:** この RTSM ビューは、SAP System、SAP J2EE Application Server、J2EE SAP Central Services、Database、SAP ABAP Application Server、SAP Work Process、ABAP SAP Central Services の各 CI タイプを参照します。SAP_Deployment ビューでは、監視する SAP Application Server CI のイベントおよび状況パースペクティブを表示できます。SAP_Deployment ビューを使用して、監視対象の SAP アプリケーション サーバに固有のイベントを表示できます。また、SAP_Deployment ビューで、SAP アプリケーション サーバ環境の OMi MP for SAP デプロイメントの割り当てと調整を行うこともできます。次の図は上記の CI タイプの関係を示します。



- SAP_ABAP_Deployment:** このRTSM ビューは、SAP System、SAP ABAP Application Server、ABAP SAP Central Services、SAP Work Process、Database の各 CI タイプを参照します。SAP_ABAP_Deployment ビューでは、監視する SAP ABAP Application Server CI のイベントおよび状況パースペクティブを表示できます。SAP_ABAP_Deployment ビューを使用して、監視対象の SAP ABAP アプリケーション サーバに固有のイベントを表示できます。また、SAP_ABAP_Deployment ビューで、SAP アプリケーション サーバ環境の OMi MP for SAP デプロイメントの割り当てと調整を行うこともできます。次の図は上記の CI タイプの関係を示します。

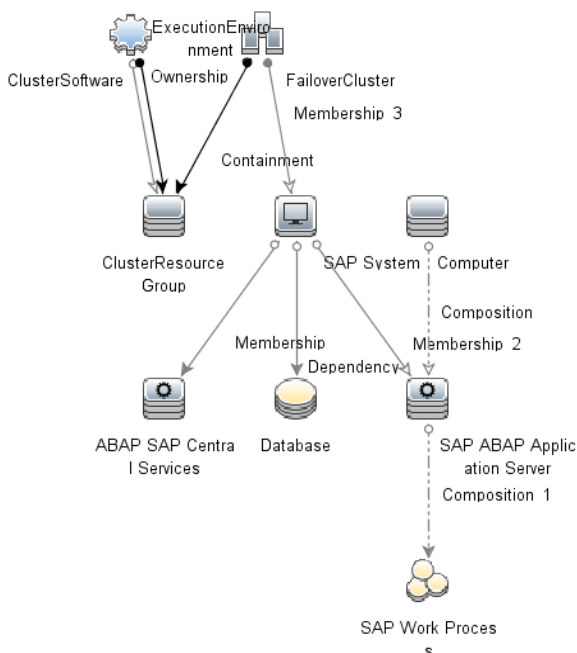


- SAP_J2EE_Deployment:** このRTSMビューは、SAP System、Database、SAP J2EE Application Server、J2EE SAP Central Services の各 CT タイプを参照します。SAP_J2EE_Deployment ビューでは、監視する SAP J2EE Application Server CI のイベントおよび状況パースペクティブを表示できます。SAP_J2EE_Deployment ビューを使用して、監視対象の SAP J2EE アプリケーション サーバに固有のイベントを表示できます。また、SAP_J2EE_Deployment ビューで、SAP J2EE アプリケーションサーバ環境のOMi MP for SAP デプロイメントの割り当てと調整を行うこともできます。次の図は上記のCIタイプの関係を示します。



- SAP_Cluster_Deployment:** このRTSMビューは、SAP クラスタ構成内の SAP システム、データベース、SAP ABAP アプリケーション サーバ、ABAP SAP センtral サービス、ClusterSoftware、ClusterResourceGroup、Failover Clusterなどを参照します。SAP_Cluster_Deployment ビューを使

用して、クラスタ内の SAP ABAP アプリケーション サーバに固有のイベントを表示できます。次の図は上記の CI タイプの関係を示します。



イベント タイプ インジケータ (ETI)

ETI とは、発生 のタイプに基づいてイベントを分類したものです。OMi MP for SAP では、SAP 関連イベントの監視に次の ETI を使用できます。

イベント タイプ インジケータにアクセスする方法

1. [CI タイプ] ペインで、次のとおり選択します。
BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [インジケータ] をクリックします。

OMi では、[管理] [サービス状況] > [CI ステータスの計算] > [状況インジケータとイベントタイプインジケータ] をクリックします。

2. [CI タイプ] ペインで、[Configuration Item] > [InfrastructureElement] > [Application Resource] > [関連する CI タイプを選択] をクリックします。

CI タイプ	ETI	説明	値/重要度
sap_r3_server	TemSe File Inconsistency	一時シーケンシャルファイルの矛盾を提示します。	高/注意域

CI タイプ	ETI	説明	値/重要度
sap_r3_server	IDoc Status	SAP IDoc のステータスを提供します。	高/注意域、 正常域/正常域
sap_r3_server	LoggedIn Users Max	任意の時点で SAP システムにログインしているユーザの数を示します。	高/注意域
sap_r3_server	SAP User Login Status	SAP システムにログインしているユーザのステータスを提供します。	高/注意域
sap_r3_server	ABAP Dump Rate	SAP システムで発生するランタイム エラーの頻度を示します。	高/注意域
sap_r3_server	RFC Error Rate	アプリケーション サーバ間またはさまざまな RFC 宛先間の通信中に発生する RFC エラーの頻度を示します。	高/注意域
sap_r3_server	Logon Failure	ログオン失敗ステータスを提供します。	はい/重要警戒域
sap_r3_server	System Change Option Status	SAP システム変更オプションステータスを示します	高/注意域、 正常域/正常域
sap_r3_server	SAP Process Status	SAP プロセスのステータスを提供します	正常域/正常域、 低/注意域
sap_r3_server	ABAP Dispatcher Status	SAP ABAP ディスパッチャのステータスを提示します。	高/注意域、 正常域/正常域
sap_r3_server	SAP Transport Error Rate	アプリケーション サーバの移送エラーを示します。これには、インポートまたはエクスポートによるエラーが含まれます。	正常域/正常域、 高/重要警戒域
sap_j2ee_app_server	SAP J2EE Kernel	SAP J2EE アプリケーション サーバのすべてのカーネル関連メトリクスの汎用インジケータ	正常域/正常域、 注意域/注意域、 重要警戒域/重要警戒域

CI タイプ	ETI	説明	値/重要度
sap_j2ee_app_server	SAP J2EE Services	SAP J2EE アプリケーション サーバのすべてのサービス関連メトリクスの汎用インジケータ。	正常域/正常域、 注意域/注意域、 重要警戒域/重要警戒域
sap_j2ee_app_server	Unsuccessful Logon Attempts Rate	サーバの起動時以降のすべてのユーザによる失敗したログオン試行の合計数を示します。	正常域/正常域、 高/重要警戒域
sap_system	SAP System Log Status	SAP システム ログ メッセージのステータスを提供します。	高/注意域 正常域/正常域
sap_system	CTS Performance	SAP 移送/修正システムのパフォーマンスを示します。	高/注意域
sap_system	SAP FileSystem Utilization	SAP ファイルシステムの使用状況に関する情報を提供します。	高/注意域
sap_system	SAP System Security Status	SAP システム セキュリティ パラメータのステータスを提供します。	高/注意域 正常域/正常域、 低/注意域
sap_system	Work Load Performance	SAP システムのワークロード パフォーマンスを示します。	正常域/正常域

状況インジケータ (HI)

HI は、SAP CI で発生したイベントを分析し、SAP CI の状況を報告します。OMi MP for SAP では、SAP 関連イベントの監視に次の HI を使用できます。

状況インジケータ (HI) にアクセスする方法

- [CI タイプ] ペインで、次のとおり選択します。
BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [インジケータ] をクリックします。

OMi では、[管理] [サービス状況] > [CI ステータスの計算] > [状況インジケータとイベント タイプ インジケータ] をクリックします。
- [CI タイプ] ペインで、[Configuration Item] > [InfrastructureElement] > [Application Resource] > (それぞれの CT タイプを選択) をクリックします。

CI タイプ	HI	説明	値/重要度
database	Database CPU Usage	SAP システムのデータベース CPU 使用率を示します	正常域/正常域、高/注意域
sap_work_process	Batch WorkProcess Availability	SAP バックグラウンド ワークプロセスの可用性を示します。	利用可能/正常域、利用不可/重要警戒域
sap_work_process	Gateway WorkProcess Performance	SAP ゲートウェイ ワークプロセスのパフォーマンスを示します	正常域/正常域、低/重要警戒域
sap_work_process	Spool WorkProcess Performance	スプール ワークプロセスのパフォーマンスを示します	正常域/正常域、低/重要警戒域
sap_work_process	Batch WorkProcess Performance	SAP バックグラウンド ワークプロセスのパフォーマンスを示します	正常域/正常域、低/重要警戒域
sap_work_process	Spool WorkProcess Availability	SAP スプール ワークプロセスの可用性を示します	利用可能/正常域、利用不可/重要警戒域
sap_system	SAP System Memory Utilization	SAP システムで使用されているメモリを示します	正常域/正常域、高/重要警戒域
sap_system	SAP System Status	SAP システムが稼働中かダウンしているかを示します	アップ/正常域、ダウン/危険域
sap_j2ee_app_server	SAP J2EE Application Server Status	SAP J2EE アプリケーション サーバが稼働中かダウンしているかを示します	アップ/正常域、ダウン/危険域
sap_work_process	Dialog WorkProcess Availability	SAP システム上のダイアログワークプロセスの可用性を示します	利用可能/正常域、利用不可/重要警戒域
sap_work_process	Update WorkProcess Performance	更新ワークプロセスのパフォーマンスを示します	正常域/正常域、低/重要警戒域

CI タイプ	HI	説明	値/重要度
sap_work_process	Gateway WorkProcess Availability	ゲートウェイ ワークプロセスの可用性を示します	利用可能/正常域、 利用不可/重要警戒域
sap_work_process	Enqueue WorkProcess Performance	SAP エンキュー ワークプロセスのパフォーマンスを示します	正常域/正常域、 低/重要警戒域
sap_j2ee_app_server	J2EE Transaction Success Rate	コミットされたトランザクション数と合計トランザクション数の比を示します	正常域/正常域、 低/重要警戒域
database	Database Performance	SAP システムのデータベース パフォーマンスを示します	正常域/正常域、 低/注意域
sap_system	SAP System CPU Utilization	SAP システムの CPU の平均使用率を示します	正常域/正常域、 高/重要警戒域
sap_work_process	Dialog WorkProcess Performance	SAP ダイアログ ワークプロセスの可用性を示します	正常域/正常域、 低/重要警戒域
sap_system	SAP Transaction Rate	SAP トランザクションの平均応答時間と正味時間を示します	正常域/正常域、 低/重要警戒域
sap_j2ee_app_server	Application Thread Pool Utilization	アプリケーション スレッド プールの割り当て済みタスク スロット数と合計タスク スロット数の比を示します	正常域/正常域、 高/重要警戒域
sap_work_process	Enqueue WorkProcess Availability	SAP エンキュー ワークプロセスの可用性を示します	利用可能/正常域、 利用不可/重要警戒域
sap_work_process	Update WorkProcess Availability	更新 ワークプロセスの可用性を示します	利用可能/正常域、 利用不可/重要警戒域

CI タイプ	HI	説明	値/重要度
sap_j2ee_app_server	JARM Requests Average Response Time	J2EE アプリケーション サーバ上のすべての JARM 要求の平均応答時間を示します	正常域/正常域、高/重要警戒域
sap_r3_server	SAP ABAP Application Server Status	ABAP アプリケーション サーバが稼働中かダウンしているかを示します	アップ/正常域、ダウン/危険域
sap_j2ee_app_server	Cache Hit Rate	J2EE アプリケーション サーバのキャッシュヒット率を示します	正常域/正常域、高/重要警戒域
sap_j2ee_app_server	J2EE Memory Usage Rate	使用済みメモリと使用可能メモリの比を示します	正常域/正常域、高/重要警戒域
sap_system	SAP Buffer Hit Ratio	データベースの関与を必要とせずにバッファから満たすことができたデータベース要求の割合を示します	正常域/正常域、低/重要警戒域
sap_j2ee_app_server	JARM Requests Average CPU Time	すべての JARM 要求の平均 CPU 時間を示します	正常域/正常域、高/重要警戒域
sap_j2ee_app_server	System Thread Pool Utilization	システムスレッドプールの割り当て済みタスクスロット数と合計タスクスロット数の比を示します	正常域/正常域、高/重要警戒域

構成アイテム (CI) と構成アイテムタイプ (CIT)

次の表は、OMi MP for SAP を使用して OMi の RTSM にマッピングされている CI タイプの一覧です。

パッケージ	CI タイプ
OMi_MgmtPack_SAP	SAP System
	SAP ABAP Application Server
	ABAP SAP Central Services
	Database
	J2EE SAP Central Services
	SAP J2EE Application Server
	SAP Work Process

注: OMi MP for SAP クラスタ デプロイメント ビューには、ClusterSoftware、ClusterResourceGroup、Failover Cluster の各 CIT が含まれます。

トポロジ ベースのイベント 相関処理 (TBEC) ルール

OMi MP for SAP には、SAP アプリケーション サーバ関連 イベントを相関するために次のトポロジ ベースの イベント相関処理ルール (TBEC ルール) が含まれます。

相関ルールのしくみの詳細は、『Operations Manager i コンセプト・ガイド』を参照してください。

トポロジ ベースのイベント相関 (TBEC) ルールにアクセスする方法

1. [TBEC ルール] を開くには、次を選択します。
BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [イベント相関] > [トポロジ ベースのイベント相関] をクリックします。

OMi では、[管理] > [イベント処理] > [相関] > [トポロジ ベースのイベント相関] をクリックします。

2. [相関] ペインで、それぞれの相関ルールを選択します。

SAP::コンピュータ: ノード ステータス>>SAP ABAP アプリケーション サーバステータス

説明: ノード ステータスを SAP ABAP アプリケーション サーバの可用性に相関させます

現象		
CIT: SAP ABAP Application Server	ETI:SAPABAPApplicationServerStatus	値: ダウン
原因		
CIT: Computer	ETI:Node Status	値: ダウン 値: 応答停止 値: 停止

SAP::コンピュータ: Ping 可用性>>SAP ABAP アプリケーション サーバステータス

説明: ノードの非可用性を SAP の非可用性に相関させます

現象		
CIT: SAP ABAP Application Server	ETI:SAPABAPApplicationServerStatus	値: ダウン
原因		
CIT: Computer	ETI:Ping Availability	値: ダウン 値: 利用不可

SAP::コンピュータ: メモリ使用レベル>>SAP バッチおよびダイアログ ワークプロセス パフォーマンス

説明: コンピュータ メモリ使用レベルを SAP バッチ ワークプロセス パフォーマンスとダイアログ ワークプロセス パフォーマンスに 関連させます		
現象 1		
CIT: SAP Work Process	ETI:BatchWorkprocessperformance	値: 低
現象 2		
CIT: SAP Work Process	ETI:Dialogworkprocessperformance	値: 低
原因		
CIT: Computer	ETI:Memory Usage Level	値: 正常域より非常に高

SAP::SAP システム: SAP システム メモリ使用率>>コンピュータ メモリ使用レベル

説明: SAP システムのメモリ使用率をコンピュータ メモリ使用レベルに 関連させます		
現象		
CIT: Computer	ETI:Memory Usage Level	値: 正常域より非常に高
原因		
CIT: SAP System	ETI:SAPSystemMemoryUtilization	値: 正常域より非常に高 値: 高

SAP::SAP システム: SAP システム CPU 使用率>>コンピュータ CPU 負荷

説明: SAP システム CPU 使用率をコンピュータ CPU 負荷に 関連させます		
原因		
CIT: SAP System	ETI:SAPSystemCPUUtilization	値: 高
現象		
CIT: Computer	ETI:CPU Load	値: ビジー 値: 制約 値: 過負荷 値: ボトルネック

SAP::コンピュータ: CPU 負荷>>SAP バッチおよびダイアログ ワークプロセス パフォーマンス

説明: コンピュータ CPU 負荷を SAP バッチ ワークプロセス パフォーマンスとダイアログ ワークプロセス パフォーマンスに 相 関 さ せ ます		
現象 1		
CIT: SAP Work Process	ETI:BatchWorkprocessperformance	値: 低
現象 2		
CIT: SAP Work Process	ETI:Dialogworkprocessperformance	値: 低
原因		
CIT: Computer	ETI:CPU Load	値: ビジー 値: 制約 値: 過負荷 値: ボトルネック

SAP::SAP ABAP アプリケーション サーバ: ABAP ダンプ率>>SAP バッチ ワークプロセス可用性および パフォーマンス

説明: SAP ABAP ダンプ率を SAP バッチ ワークプロセス パフォーマンスおよび可用性に 相 関 さ せ ます		
現象 1		
CIT: SAP Work Process	ETI:BatchWorkProcessPerformance	値: 低
現象 2		
CIT: SAP Work Process	ETI:Batchworkprocessavailability	値: 使用不可
原因		
CIT: SAP ABAP Application Server	ETI:ABAPDumpRate	値: 高

SAP::コンピュータ: ノード ステータス>>SAP J2EE アプリケーション サーバステータス

説明: コンピュータのノード ステータスを SAP J2EE アプリケーション サーバの可用性に 相 関 さ せ ます		
現象		
CIT: SAP J2EE Application Server	ETI:SAPJ2EEApplicationServerStatus	値: ダウン
原因		
CIT: Computer	ETI:Node Status	値: ダウン 値: 応答停止 値: 停止

SAP::コンピュータ: Ping 可用性>>SAP J2EE アプリケーション サーバステータス

説明: コンピュータの可用性を SAP J2EE アプリケーション サーバステータスに相関させます		
現象		
CIT: SAP J2EE Application Server	ETI:SAPJ2EEApplicationServerStatus	値: ダウン
原因		
CIT: Computer	ETI:Ping Availability	値: 利用不可

SAP::SAP J2EE アプリケーション サーバ: メモリ使用率およびトランザクション成功率>>コンピュータ CPU 負荷

説明: SAP J2EE アプリケーション サーバメモリ使用率とトランザクション成功率をコンピュータ CPU 負荷に相関させます		
原因 1		
CIT: SAP J2EE Application Server	ETI:J2EEMemoryUsageRate	値: 高
原因 2		
CIT: SAP J2EE Application Server	ETI:J2EETransactionSuccessRate	値: 低
現象		
CIT: Computer	ETI:CPULOAD	値: 過負荷

SAP::コンピュータ:CPU 負荷>>SAP JARM 要求平均応答時間

説明: コンピュータ CPU 負荷を SAP JARM 要求平均応答時間に相関させます		
現象		
CIT: SAP J2EE Application Server	ETI:JARMRequestsAverageResponseTime	値: 高
原因		
CIT: Computer	ETI:CPULOAD	値: 過負荷

SAP::コンピュータ: メモリ使用レベル>>SAP J2EE アプリケーション サーバステータスおよびトランザクション成功率および平均要求応答時間

説明: コンピュータ メモリ使用レベルを、SAP J2EE アプリケーション サーバステータス、SAP J2EE トランザクション成功率、SAP JARM 平均要求応答時間に相関させます
--

現象 1		
CIT: SAP J2EE Application Server	ETI:J2EETransactionSuccessRate	値: 低
現象 2		
CIT: SAP J2EE Application Server	ETI:SAPJ2EEApplicationServerStatus	値: ダウン
現象 3		
CIT: SAP J2EE Application Server	ETI:JARMRequestsAverageResponseTime	値: 高
原因		
CIT: Computer	ETI:Memory Usage Level	値: 正常域より非常に高

SAP::SAP J2EE アプリケーション サーバ:J2EE メモリ使用率>>SAP J2EE アプリケーション サーバ平均要求応答時間および平均要求 CPU 時間

説明: SAP J2EE メモリ使用率を SAP JARM 平均要求応答時間および SAP JARM 平均要求 CPU 時間に相関させます

現象 1		
CIT: SAP J2EE Application Server	ETI:JARMRequestsAverageResponseTime	値: 高
現象 2		
CIT: SAP J2EE Application Server	ETI:JARMRequestsAverageCPUTime	値: 高
原因		
CIT: SAP J2EE Application Server	ETI:J2EEMemoryUsageRate	値: 高

ツール

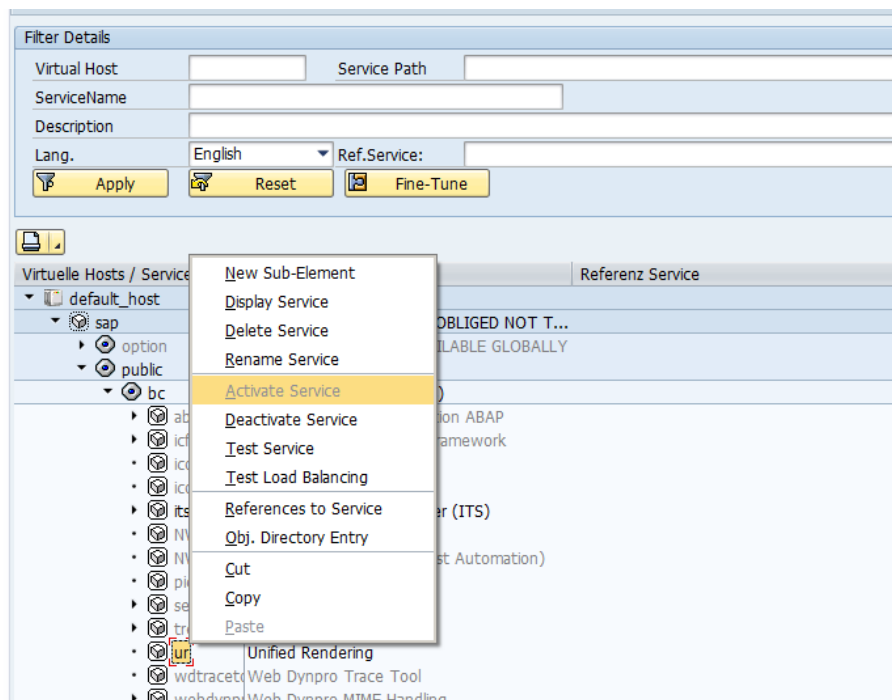
OMi MP for SAP では、SAP CI の管理や監視に使用できるツールがパッケージ化されています。

注: OMi MP for SAP ツールは、リモートで監視されている SAP アプリケーション サーバ CI には使用できません。

前提条件

さまざまなトランザクションに対して SAP GUI を起動する OMi MP for SAP ABAP ツールは、WEBGUI ポートを使用します。OMi MP for SAP ABAP ツールをお使いの環境内の SAP システムで使用するには、SAP の WEB-GUI を有効にする必要があります。SAP の WEB-GUI を設定するには、以下の手順を実行します。

1. トランザクション SICF に移動し、次のサービスを有効にします。
 - a. /default_host/sap/bc/gui/sap/its/webgui
 - b. /default_host/sap/public/bc/ur
 - c. /default_host/sap/public/bc/its/mimes



2. 次のトランザクションを使用してすべてのサービスを公開します。

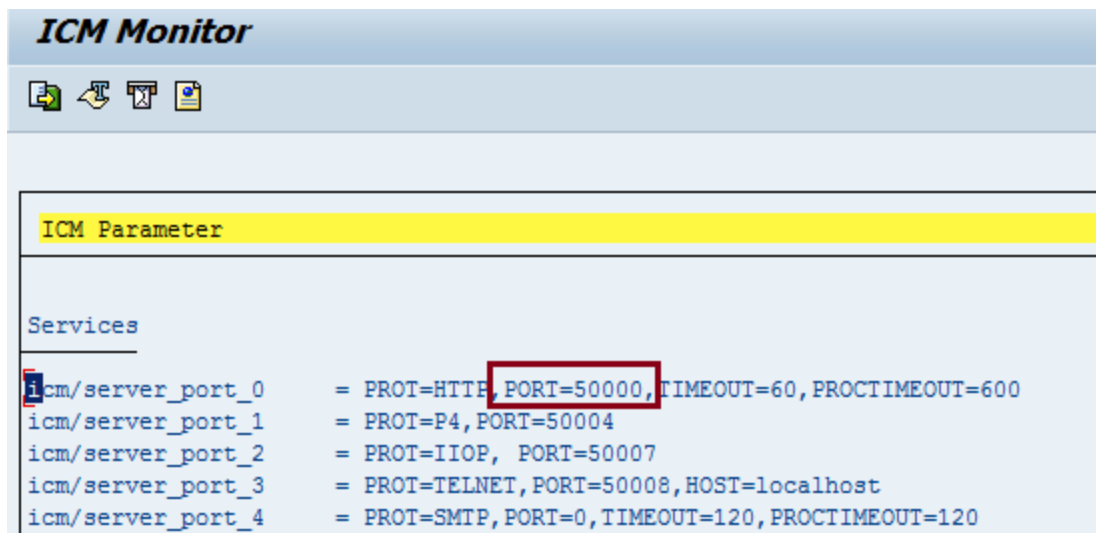
SICF_PUBLISH_ALL_INTERNAL

3. トランザクション SMICM に移動します
4. メニューから、[Parameters Display] メニューを開きます。

[GOTO] > [Parameters] > [Display]

5. icm/server_port_0 field ポート番号を書き留めます。これは、WEBGUI ベースのトランザクションの

起動中に、OMi MP for SAP ツールが使用する WEBGUI ポート番号です。



SAP トランザクションの詳細と、WEBGUI ポートの有効化についての詳細は、SAP ドキュメントを参照してください。

以下の表に、OMi MP for SAP に備わっているツールを示します。

CI タイプ	ツール名	説明
SAP ABAP Application Server	SAP ABAP アプリケーション サーバ-パフォーマンス エージェントの停止	このツールはパフォーマンス エージェントを停止します。
	SAP ABAP アプリケーション サーバ-ワークロード モニタ	このツールは SAPGUI で SAP トランザクション ST03 を表示します。
	SAP ABAP アプリケーション サーバ-バックグラウンド ジョブ概要	このツールは SAPGUI で SAP トランザクション SM37 を表示します。
	SAP ABAP アプリケーション サーバ-HTML 用 SAPGUI	このツールは HTML に対応した SAPGUI を起動します。

CI タイプ	ツール名	説明
	SAP ABAP アプリケーション サーバ-WorkProcess 概要	このツールは SAPGUI で SAP トランザクション SM50 を表示します。
	SAP ABAP アプリケーション サーバ-インスタンス情報	このツールは SAP アプリケーション サーバの実行中のインスタンスに関する情報を提供します。
	SAP ABAP アプリケーション サーバ-パフォーマンス パッケージのインストール	このツールはパフォーマンス パッケージをインストールします。
	SAP ABAP アプリケーション サーバ-パフォーマンス パッケージの削除	このツールはパフォーマンス パッケージを削除します。
	SAP ABAP アプリケーション サーバ-バックグラウンド ジョブ定義	このツールは SAPGUI で SAP トランザクション SM36 を表示します。
	SAP ABAP アプリケーション サーバ-パフォーマンス エージェントの開始	このツールはパフォーマンス エージェントを開始します。
	SAP ABAP アプリケーション サーバ-システム ログ概要	このツールは SAPGUI で SAP トランザクション SM21 を表示します。
	SAP ABAP アプリケーション サーバ-ログインユーザ概要	このツールは SAPGUI で SAP トランザクション AL08 を表示します。
	SAP ABAP アプリケーション サーバ-設定済みインスタンスステータス (Unix ノードのみ)	このツールは Unix ノードについてのみ設定済み SAP インスタンスのステータスを表示します。

CI タイプ	ツール名	説明
	SAP ABAP アプリケーション サーバ-ゲートウェイ接続	このツールは SAPGUI で SAP トランザクション SMGW を表示します。
	SAP ABAP アプリケーション サーバ-データベース パフォーマンス	このツールは SAPGUI で SAP トランザクション DB02 を表示します。
	SAP ABAP アプリケーション サーバ-バックグラウンド ジョブ ステータス	このツールは SAPGUI で SAP トランザクション SMX を表示します。
	SAP ABAP アプリケーション サーバ-SAP サーバ概要	このツールは SAPGUI で SAP トランザクション SM51 を表示します。
	SAP ABAP アプリケーション サーバ-CCMS 制御パネル	このツールは SAPGUI で SAP トランザクション RZ03 を表示します
	SAP ABAP アプリケーション サーバ-パフォーマンス エージェント ステータス (Unix ノードのみ)	このツールはパフォーマンス エージェントのステータスを提供します。
	SAP ABAP アプリケーション サーバ-SAP データベース 可用性 (Unix ノードのみ)	このツールは Unix ノードについてのみ SAP データベースの可用性をチェックします
	SAP ABAP アプリケーション サーバ-プロファイルメンテナンス	このツールは SAPGUI で SAP トランザクション RZ10 を表示します。

CI タイプ	ツール名	説明
SAP J2EE Application Server	SAP J2EE アプリケーション サーバ-パフォーマンス パッケージの削除	このツールはパフォーマンス パッケージを削除します。
	SAP J2EE Application Server - 接続ステータス	このツールは SAP J2EE アプリケーション サーバの接続ステータスをチェックして表示します。
	SAP J2EE アプリケーション サーバ-パフォーマンス エージェント ステータス (Unix ノードのみ)	このツールは UNIX ノードのみでパフォーマンス エージェントのステータスを提供します。
	SAP J2EE アプリケーション サーバ-パフォーマンス エージェントの停止	このツールはパフォーマンス エージェントを停止します。
	SAP J2EE Application Server - 設定の作成	このツールはノード レベルでの SAP J2EE アプリケーション サーバ監視用の設定を作成します。
	SAP J2EE アプリケーション サーバ-パフォーマンス パッケージのインストール	このツールはパフォーマンス パッケージをインストールします。
	SAP J2EE アプリケーション サーバ-パフォーマンス エージェントの開始	このツールはパフォーマンス エージェントを開始します。

第4章: SAP 管理テンプレートの作成

1. [管理テンプレートおよびアспект] を開きます。

BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアспект] をクリックします。

OMi では、[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアспект] をクリックします。

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ]




3. [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] フォルダを選択します。新しい構成フォルダを作成する必要がある場合は、* をクリックします。[構成フォルダの作成] ダイアログボックスが開きます。
4. 新しい構成フォルダの名前と説明を入力します。たとえば、新しい構成フォルダの名前を「<Test>」と入力します。
5. [OK] をクリックします。新しい構成フォルダが作成されます。

[構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [Test]

6. [管理テンプレートおよびアспект] ペインで、新しい構成フォルダを選択し、* [管理テンプレートの作成] をクリックします。[管理テンプレートの作成] ウィザードが開きます。
7. [一般] タブで、新しい SAP 管理テンプレートの [名前] を入力します。[次へ] をクリックします。
8. SAP 管理テンプレートでは、ABAP と J2EE アプリケーション サーバおよびそれに関連するすべての従属 CI を管理できます。管理要件に応じて、トポロジビューとして、リストから [SAP ABAP アプリケーション サーバ] または [SAP J2EE アプリケーション サーバ] を選択します。
9. トポロジ マップのアイテムをクリックし、この管理テンプレートで管理できる CI の CI タイプを選択します。これは、管理テンプレートの割り当てが可能な CI のタイプです。たとえば、SAP ランドスケープ内の SAP J2EE アプリケーション サーバを監視するために SAP J2EE アプリケーション サーバを選択できます。

[次へ] をクリックします。

10. [アспект] タブで、管理テンプレートにアспектを追加します。既存のアспектを追加するには、以下の手順を実行します。
 - a. [次の CI タイプに一致する利用可能なアспект] ペインから追加するアспектを選択します。複数のアспектを選択するには、[Ctrl] キーまたは [Shift] キーを使用します。

- b.  をクリックし、アスペクトを [選択したアスペクト] ペインに移動します。管理テンプレートにアスペクトが追加されます。
11. アスペクトを追加する場合は、それぞれに**ターゲット CI**を1つ以上指定する必要があります。
- リストのアスペクトをクリックします。続いて、トポロジ マップで、この管理テンプレートを割り当てるときにアスペクトで監視する CIT をクリックします。複数の CIT を選択するには、**[CTRL]** または **[SHIFT]** を使用します。ここで選択する各 CIT は、アスペクト内で割り当てた CIT の1つ (または、こうした CIT の子) と対応させる必要があります。たとえば、トポロジ マップから SAP CI を選択できます。
12. **[パラメータ]** タブで、この管理テンプレートに追加したアスペクトにあるすべてのパラメータの一覧を参照できます。
- パラメータを結合するには、以下の操作を行います。
- a. **[CTRL]** を押して、結合するパラメータをクリックします。
- b.  をクリックします。[パラメータの編集/結合] ダイアログ ボックスが開きます。
- c. 結合パラメータの**[名前]**を入力します。
- d. オプション:**[説明]** および **[デフォルト値]** を指定します。また、結合パラメータが**[読み取り専用]**、**[エキスパート設定]**、**[非表示]** のいずれかも指定します。
- 特定のデフォルト値を指定できるほか、**[CI 属性から]** をクリックして CI 属性を参照することもできます。CI 属性を指定する場合、Operations Management はこの CI 属性の実際の値を使用して、基になるポリシーテンプレートのデプロイ時に自動的にパラメータ値を設定します。また、条件付きパラメータ値を変更することもできます。(条件は読み取り専用で、管理テンプレートレベルでは変更できません。)
- [読み取り専用] にすることで、構成アイテムに管理テンプレートを割り当てるときにパラメータ値が変更されないようにできます。[非表示] にしても変更を防げますが、管理テンプレートの割り当て時やパラメータの調整中はパラメータも見えなくなります。ユーザは割り当て時に、エキスパート設定を表示するかどうかを選択できます。
- e. **[OK]** をクリックします。
- また、複数のパラメータを結合せずに編集し、アスペクトまたはポリシーテンプレートのデフォルト値を上書きすることもできます。パラメータを1つクリックし、 をクリックします。[パラメータの編集/結合] ダイアログ ボックスが開きます。
13. [管理テンプレートの作成] ウィザードで **[完了]** をクリックし、管理テンプレートを保存してからウィザードを閉じます。新しい管理テンプレートが、[管理テンプレートおよびアスペクト] ペインに表示されます。

SAP 管理テンプレートの編集

SAP 管理テンプレートを編集して、以下のコンポーネントを変更できます。

- パラメータ
- アスペクト

パラメータの編集

事例: 基本 SAP ABAP 管理テンプレートを使用して、SAP システムで実行しているバッチ ジョブのステータスとパフォーマンスを監視しています。SAP ABAP バッチ ジョブを監視しており、SAP ABAP バッチ ジョブ状況をより詳しく監視するために対応するパラメータを変更したいと考えています。

SAP ABAP バッチ ジョブ状況をより詳しく監視するには、SAP ABAP バッチ ジョブ モニタ パラメータ (ABAP バッチ ジョブのFREQ、ABAP バッチ ジョブのTraceLevel、ABAP バッチ ジョブのTraceFileName、ABAP バッチ ジョブのTraceMode、ABAP バッチ ジョブのTracePeriod、ABAP バッチ ジョブ RFCTimeOutInterval) を変更する必要があります。


1. [管理テンプレートおよびアスペクト] を開きます。

BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト] をクリックします。

OMi では、[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト] をクリックします。

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [SAP ABAP アプリケーション サーバ管理テンプレート]

3. リストから [基本 SAP ABAP 管理テンプレート] を選択し、 をクリックします。[管理テンプレートの編集] ダイアログ ボックスが開きます。
4. [パラメータ] タブをクリックします。パラメータのリストが表示されます。
5. [ABAP バッチ ジョブ] パラメータをダブルクリックします。

このインスタンスでは、ABAP バッチ ジョブのFREQ、ABAP バッチ ジョブのTraceLevel、ABAP バッチ ジョブのTraceFileName、ABAP バッチ ジョブのTraceMode、ABAP バッチ ジョブのTracePeriod、ABAP バッチ ジョブのRFCTimeOutInterval です。

[パラメータの編集] ダイアログ ボックスが表示されます。

6. ドロップダウン テキストを使用して、デフォルト値を変更できます。たとえば、監視要件によっては、ABAP バッチ ジョブのFREQ パラメータ値をHIGH からVERYHIGHに変更できます。
7. [OK] をクリックします。[管理テンプレートの編集] ダイアログ ボックスが開きます。
8. [OK] をクリックします。SAP 管理テンプレートのバージョンが1つ増加します。

注:SAP 管理テンプレートのバージョン番号は、SAP 管理テンプレートがカスタマイズされるたびに増加します。

アスペクトの編集

事例: 詳細 SAP J2EE 管理テンプレートを使用して、J2EE 環境を監視しています。詳細 SAP J2EE 管理テンプレートの一部であるアスペクトのうちいくつかは使用しません。



1. [管理テンプレートおよびアスペクト]を開きます。

BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]をクリックします。

OMi では、[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト]をクリックします。

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [ERP 管理] > [SAP NetWeaver アプリケーション サーバ] > [SAP J2EE アプリケーション サーバ管理テンプレート]

3. リストから [詳細 SAP J2EE 管理テンプレート]を選択し、 をクリックします。[管理テンプレートの編集] ダイアログ ボックスが開きます。
4. [アスペクト] タブをクリックします。アスペクトのリストが表示されます。
5. リストから削除するアスペクトを選択します。たとえば、SAP J2EE 接続 マニピュレータ パフォーマンスを削除します。
6.  をクリックして、選択したアスペクトを削除します。
7. [OK] をクリックします。詳細 SAP J2EE 管理テンプレートのバージョンが1つ増加します。

第5章: デプロイメント シナリオ

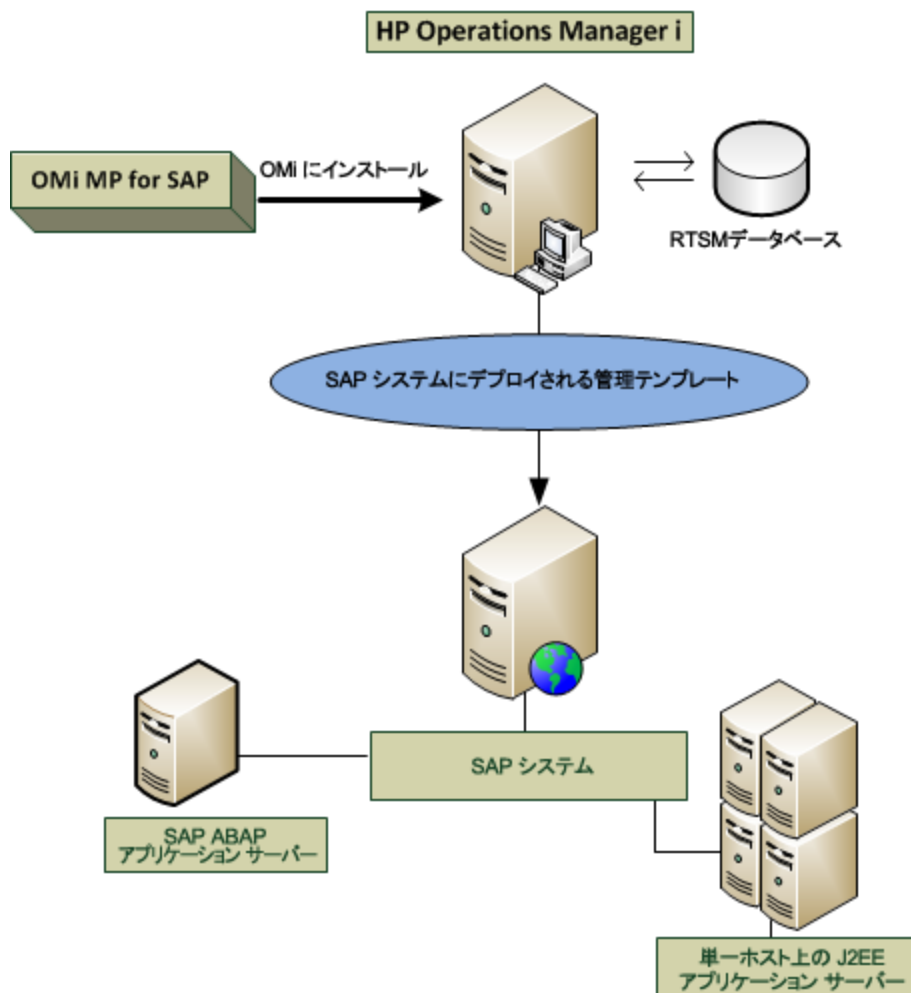
OMi MP for SAP を使用すると、スタンドアロンの ABAP アプリケーション サーバを備えた SAP システム、同じシステム上にセントラルサーバを備えた J2EE アプリケーション サーバインスタンス、リモート ノード上の SAP ABAP アプリケーション サーバなどのさまざまな SAP アプリケーション サーバの構成を監視できます。この項では、各種 SAP サーバ構成への OMi MP for SAP のデプロイについて説明します。

単一のホスト上の SAP J2EE アプリケーション サーバの監視

OMi MP for SAP を使用すると、単一の SAP ホスト システムで実行される複数の SAP J2EE アプリケーション サーバを監視できます。単一のホストで実行される SAP J2EE アプリケーション サーバ上に OMi MP for SAP をデプロイするには、以下の手順を実行します。

1. 監視するノードを OMi コンソールに追加する必要があります。
2. J2EE アプリケーション サーバ CI を検出するための SAP J2EE 検出アスペクトを SAP 管理対象ノードにデプロイします。
3. 監視要件に従って、SAP J2EE 管理テンプレートを特定してデプロイします。SAP 管理テンプレート の特定およびデプロイの詳細は、「[タスク 5: SAP 管理テンプレートの特定とデプロイ](#)」(BSM) および 「[タスク 5: SAP 管理テンプレートの特定とデプロイ](#)」(OMi) を参照してください。

次の図は、単一のホスト上の SAP J2EE アプリケーション サーバを監視するために OMi MP for SAP をデプロイする典型的なデプロイメント シナリオを示しています。



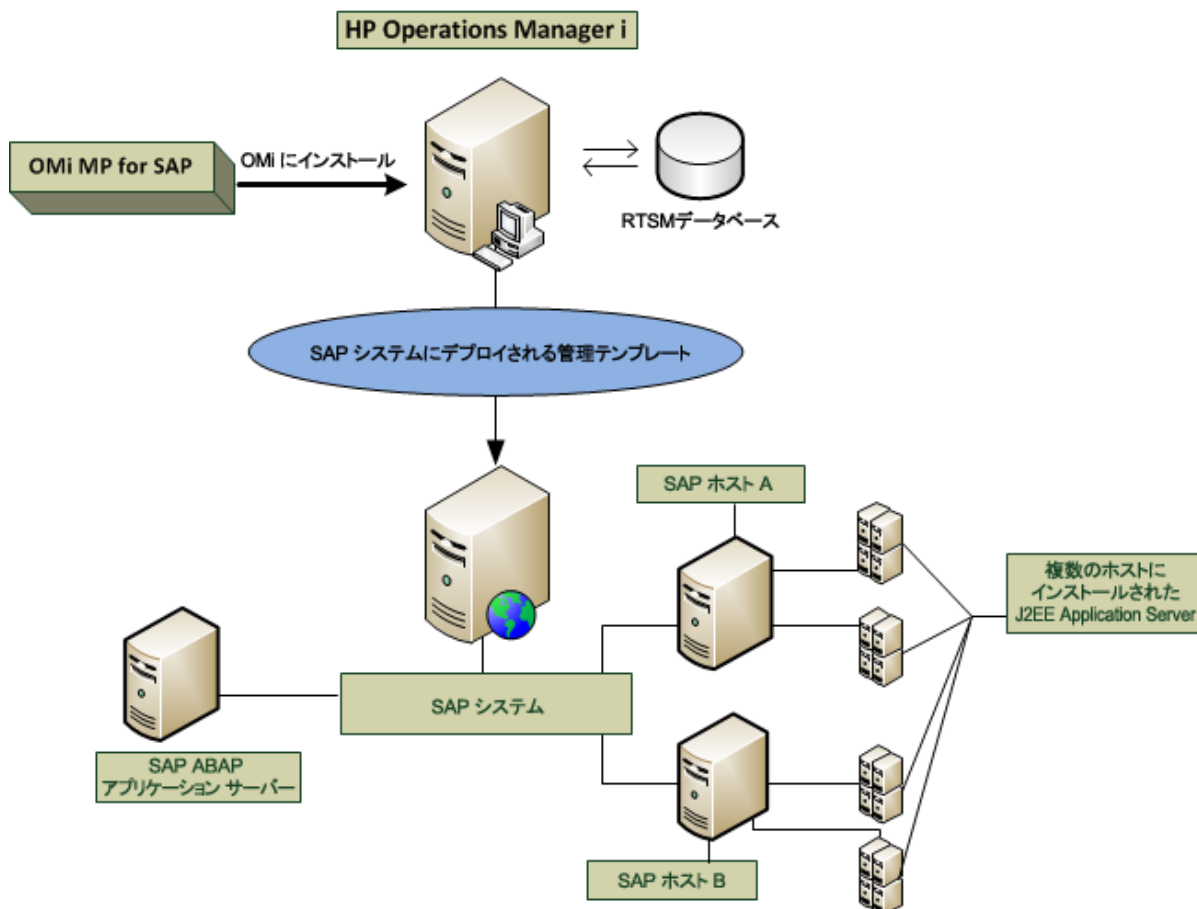
複数のホスト上の SAP J2EE アプリケーション サーバの監視

OMi MP for SAP を使用すると、複数の SAP ホスト システムで実行される J2EE アプリケーション サーバを監視できます。複数のホストで実行される SAP J2EE アプリケーション サーバ上に OMi MP for SAP をデプロイするには、以下の手順を実行します。

注: OMi MP for SAP では、SAP J2EE セントラル サーバインスタンスが実行される SAP ノードにのみエージェントをインストールします。

1. 監視するノードを OMi コンソールに追加する必要があります。
2. J2EE アプリケーション サーバ CI を検出するための SAP J2EE 検出アスペクトを SAP ノードにデプロイします。
3. 監視要件に従って、SAP J2EE 管理テンプレートを特定してデプロイします。SAP 管理テンプレートの特定およびデプロイの詳細は、「[タスク 5: SAP 管理テンプレートの特定とデプロイ](#)」(BSM) および「[タスク 5: SAP 管理テンプレートの特定とデプロイ](#)」(OMi) を参照してください。

次の図は、複数のホストで実行される SAP J2EE アプリケーション サーバを監視するために OMi MP for SAP をデプロイする典型的なデプロイメント シナリオを示しています。

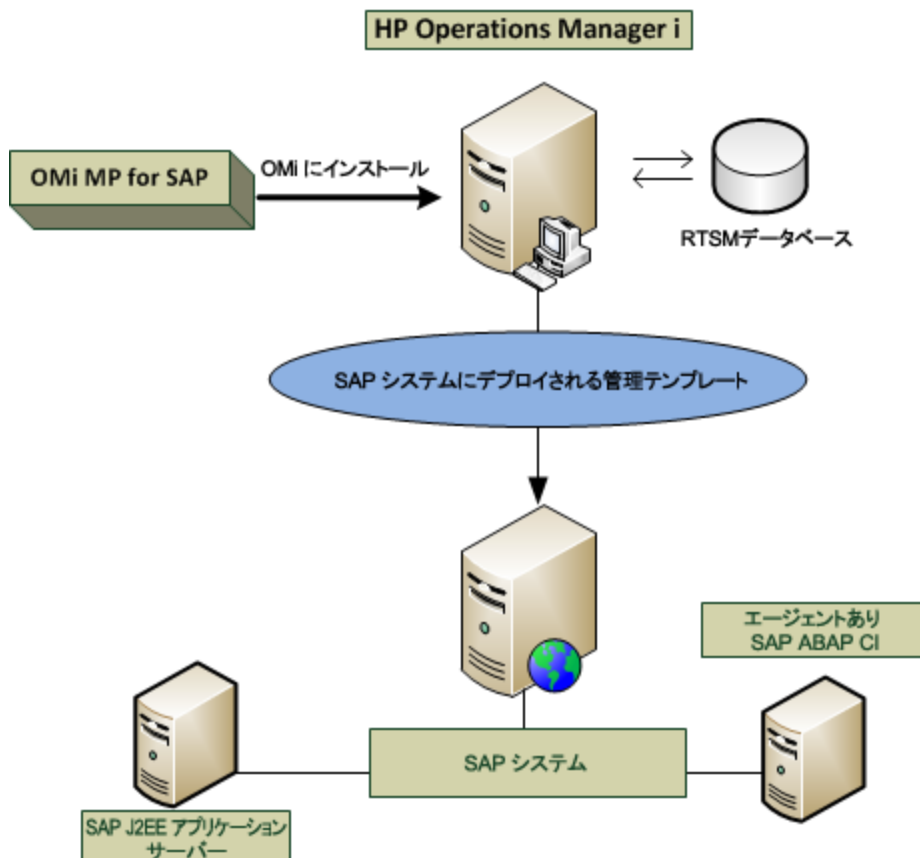


スタンドアロンの SAP ABAP アプリケーション サーバの監視

OMi MP では、SAP ランドスケープ内のスタンドアロンの SAP ABAP アプリケーション サーバを監視できます。SAP ABAP アプリケーション サーバに OMi MP for SAP をデプロイするには、以下の手順を実行します。

1. 監視するノードを OMi コンソールに追加する必要があります。
2. ABAP アプリケーション サーバ CI を検出するための SAP ABAP 検出アスペクトを SAP 環境にデプロイします。
3. SAP ABAP 構成アスペクトをデプロイします。
4. 監視要件に従って、SAP ABAP 管理テンプレートを特定してデプロイします。SAP 管理テンプレートの特定制およびデプロイの詳細は、「[タスク 5: SAP 管理テンプレートの特定制とデプロイ](#)」(BSM) および「[タスク 5: SAP 管理テンプレートの特定制とデプロイ](#)」(OMi)「[タスク 5: SAP 管理テンプレートの特定制とデプロイ](#)」(17ページ)を参照してください。
5. SAP ABAP 監視テンプレートを設定します。

次の図は、SAP CI で実行される SAP ABAP アプリケーション サーバを監視するために OMi MP for SAP をデプロイする典型的なデプロイメント シナリオを示しています。



リモート SAP ABAP アプリケーション サーバの監視

OMi MP for SAP を使用すると、Operations Agent がインストールされていないリモート ノードで実行される ABAP アプリケーション サーバを監視できます。この機能を使用する場合、SAP ABAP リモート構成アスペクトをデプロイする必要があります。SAP ABAP リモート構成アスペクトを使用すると、リモート ノードで実行される ABAP アプリケーション サーバを監視し、このサーバから必要な情報を収集するためのホストとして使用するプロキシ ノードを (エージェントを使用して) 構成できます。

注: リモート ノードで実行されるすべての SAP ABAP アプリケーション サーバを監視するために OMi で管理される SAP CI を設定できます。

リモート ノードで実行される ABAP アプリケーション サーバを監視するために OMi MP for SAP をデプロイするには、以下の手順を実行します。

1. エージェントをインストールしたノードを OMi コンソールに追加します。
2. SAP 環境内に ABAP アプリケーション サーバ CI を設定するために SAP リモート構成アスペクトをデプロイします。

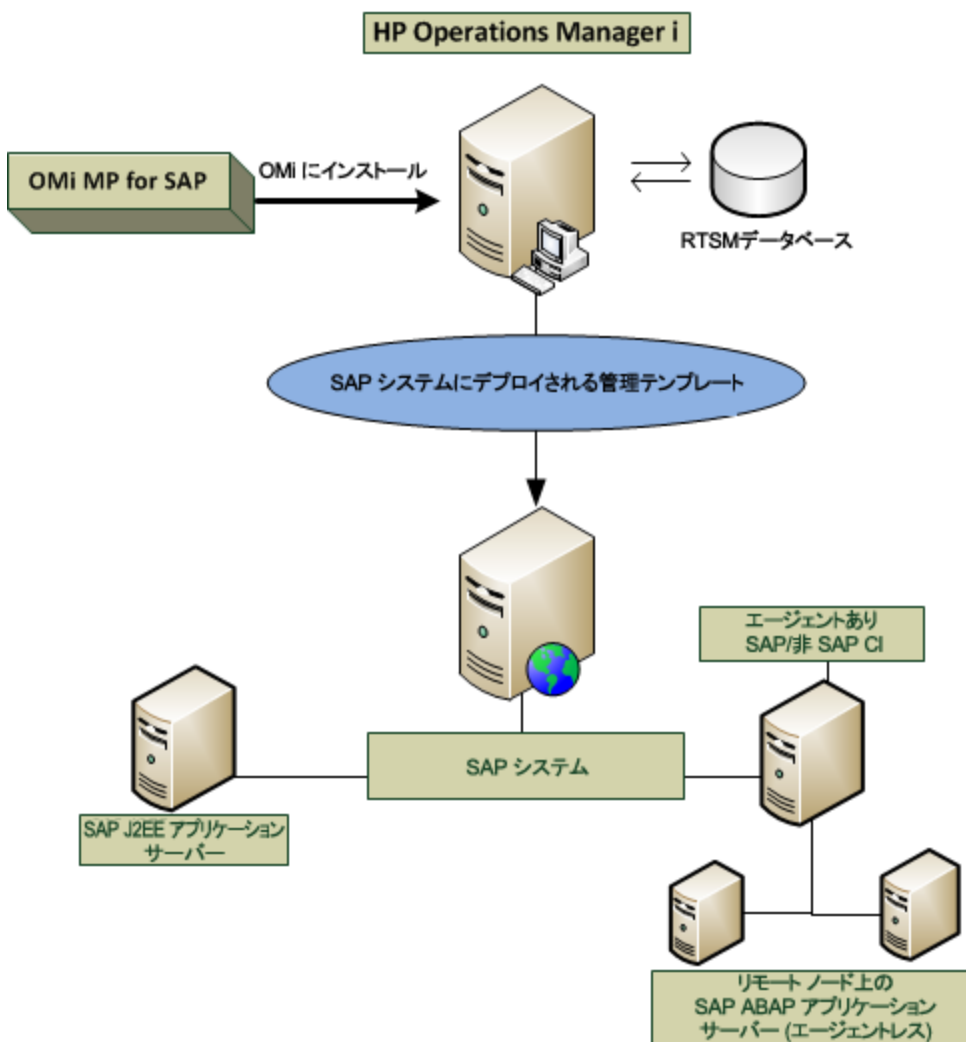
リモート ノード上の ABAP アプリケーション サーバが RTSM ビューに表示されます。

- RemoteHost キーワードを追加してリモート監視をサポートするためのABAP 監視テンプレートを設定します。

ABAP リモート管理をサポートするためのABAP 監視テンプレートの設定の詳細は、「[SAP ABAP 監視テンプレートによるリモート監視](#)」(220ページ)を参照してください。

- 監視要件に従って、SAP ABAP 管理テンプレートを特定してデプロイします。SAP 管理テンプレートの特定およびデプロイの詳細は、「[タスク5: SAP 管理テンプレートの特定とデプロイ](#)」(BSM) および「[タスク5: SAP 管理テンプレートの特定とデプロイ](#)」(OMi)を参照してください。

次の図は、リモート ノードで実行される SAP ABAP アプリケーション サーバを監視するために OMi MP for SAP をデプロイする典型的なデプロイメント シナリオを示しています。



高可用性クラスタ内での OMi MP for SAP の設定

OMi MP for SAP を使用すると、高可用性クラスタ内に設定された SAP アプリケーション サーバを監視できます。この項で説明する内容は、MC/ServiceGuard クラスタなどの高可用性環境内で実行される SAP サーバ上の OMi MP for SAP の設定プロセスを理解するのに役立ちます。この項での説明では、

MC/ServiceGuard を使用してクラスタ構成を説明しますが、監視における基本概念は高可用性環境内でも同様です。

前提条件

この項では、高可用性環境内で OMi MP for SAP を設定する方法について説明しています。高可用性ソフトウェアや HP Operations Manager i の設定方法について説明するものではありません。高可用性環境内で OMi MP for SAP の設定プロセスを開始する前に、以下の項の説明をお読みになり、その内容を考慮してください。

- [「設定の要件」](#)
- [「レポート」](#)
- [「ビュー」](#)

設定の要件

SAP 高可用性クラスタで OMi MP for SAP の設定を開始する前に、次のタスクを実行する必要があります。

- あらかじめ高可用性ソフトウェアを SAP ランドスケープ内に正しくインストールし構成して、クラスタが正しく動作するようにします。たとえば、事前に MC/ServiceGuard クラスタ内の SAP サーバを OMi 管理対象ノードとして設定し、適切な Operations Agent ソフトウェアと機能をインストールして動作させておく必要があります。セントラル インスタンスとデータベース サーバ用に 1 つのパッケージを設定するのか、それぞれの部分に別々のパッケージを設定するのかを決定しておく必要があります。
- クラスタ内のすべてのノードに SAP ABAP 検出アスペクトをデプロイします。
- OMi MP for SAP の SAP ABAP 構成アスペクトを設定しデプロイする必要があります。SAP ABAP 構成アスペクトを使用すると、HA 環境から検出された SAP ABAP アプリケーション サーバ CI を設定できます。

注: SAP ABAP Application Server Message Node for HA の HostName エントリは、SAP 高可用性クラスタ内のノードが生成するメッセージを関連付けるホスト名を定義します。

レポート

MC/ServiceGuard クラスタ内のすべてのノードに対して OMi MP for SAP レポートを生成するようにする場合は、以下の状態にする必要があります。

- クラスタ内のすべてのノードで OMi MP for SAP の R3 パフォーマンス エージェント サービスが起動していること
- HP Service Health Reporter (SHR) がインストールされ、適切に構成されていること

ビュー

OMi MP for SAP には、RTSM モデル全体のサブセットの作成および表示が可能な SAP_Cluster_Deployment ビューが備えられています。OMi MP for SAP ビューの詳細は、[「ランタイム サービス モデル \(RTSM\) のビュー」](#)を参照してください。

注:OMi MP for SAP がSAP_Cluster_Deployment ビューを生成するために、すべてのクラスタ ノードにSAP ABAP 検出アスペクトとSAP ABAP 構成アスペクトをデプロイする必要があります。

高可用性環境内での OMi MP for SAP の設定

この項では、高可用性環境内での OMi MP for SAP の設定方法について説明します。

SAP 高可用性クラスタ環境内で OMi MP for SAP を設定するには、以下の手順を実行します。

1. SAP ABAP 構成アスペクトとログイン資格情報

高可用性環境内で SAP クラスタノードを特定するために、**SAP ABAP 検出アスペクト**をデプロイする必要があります。次に、高可用性クラスタ内で検出されたすべての SAP CI にSAP ABAP 構成アスペクトをデプロイする必要があります。

SAP ABAP 構成アスペクトに提供された SAP ログイン資格情報に、SAP クラスタ内のノードへの十分なアクセス権限があることを確認してください。

2. OMi MP for SAP ABAP 監視テンプレートの設定

監視要件に従って SAP ABAP アプリケーション サーバを監視するために、OMi MP for SAP に備えられている SAP ABAP 監視テンプレートを設定し、それぞれのアスペクトをデプロイする必要があります。SAP ABAP 監視テンプレートの設定の詳細は、「[SAP ABAP 監視テンプレート](#)」を参照してください。

注:SAP ABAP 管理テンプレートの設定またはカスタマイズ後には SAP ABAP 管理テンプレートのバージョンを増やし、管理テンプレートの設定 への変更が管理テンプレート レベルで確実に同期されるようにする必要があります。SAP ABAP アスペクトと対応する SAP ABAP 監視テンプレートの詳細は、「[SAP ABAP 監視テンプレート、モニタ、履歴ファイル](#)」を参照してください。

3. OMi MP for SAP 管理テンプレートのデプロイ

監視要件に従ってクラスタ内の SAP SID に OMi MP for SAP の管理テンプレートをデプロイする必要があります。管理テンプレートとアスペクトのデプロイの詳細は、「[作業の開始](#)」(BSM) および「[作業の開始](#)」(OMi) を参照してください。

4. OMi MP for SAP 監視テンプレート履歴ファイルの可用性

フェイルオーバー パッケージの切り替え前および後に MC/ServiceGuard クラスタ内の各ノードがそれぞれの履歴ファイル(r3<monitor_name>.his)にアクセスできることを確認する必要があります。SAP ABAP 監視テンプレートが使用する履歴パスと履歴ファイルの設定の詳細は、「[SAP ABAP 監視テンプレート、監視テンプレートの設定ファイル、履歴ファイル](#)」を参照してください。

高度な設定

この項では、SAP の高可用性環境での OMi MP for SAP の設定に関する追加情報について説明します。

クラスタ ノードでのホスト マッピング

複数の IP アドレスが高可用性クラスタ内の単一の物理ノードに割り当てられていることを Agent が検出すると、エージェントが送信するメッセージには、クラスタノードの OMi 管理サーバに登録されている IP アドレスに関連付けられたホスト名が表示されます。このホスト名は、メッセージの送信時にクラスタパッケージが実行されていたノード名です。

この動作は、クラスタ環境内の OMi HTTPS エージェントの機能によるものですが、この動作により、OMi MP for SAP のホスト マッピング機能がオーバーライドされ、メッセージ ブラウザ内に表示されたメッセージに、間違っただ名前が関連付けられているように思われる事態が発生します。ホスト マッピング機能が期待どおりに動作し、高可用性クラスタから送信される OMi MP for SAP メッセージに確実に正しいホスト名が表示されるようにするには、以下の手順を実行して管理対象ノード上で OMi HTTPS エージェント機能を無効にする必要があります。

1. OMi HTTPS エージェントが実行されている高可用性クラスタ内の各物理ノードに、管理者特権を持つユーザとしてログオンし、コマンド シェルを開きます。
2. UNIX 用の OMi によって管理される HTTPS エージェントの場合：

```
ovconfchg -ns eaagt -set OPC_SET_PROXY_FLAG_FOR_IP_ADDRESSES
```

```
'<IP_Address,IP_Address,...>'
```

高可用性クラスタ内の各物理ノード上で ovconfchg コマンドを使用して、メッセージ ブラウザにクラスタノードの 1 つから送信されたメッセージが表示されたときに、OMi 管理サーバに登録されているクラスタノード名に置き換えるパッケージ (仮想ノード) の IP アドレスを指定します。クラスタ内に複数のパッケージが実行されている場合 (たとえば、OMi 用と Oracle 用)、リスト内の複数の IP アドレスをカンマで区切って指定します。

注: OPC_SET_PROXY_FLAG_FOR_IP_ADDRESSES で定義する IP アドレスのリストにはスペースを含めないようにしてください。IP アドレスのリストには OPC_IP_ADDRESS で指定した IP アドレスを含めないでください。

3. 次のコマンドを使用して、新しい設定でエージェントを再起動します。

```
opcagt -kill; opcagt -start
```

高可用性クラスタ内の SAP ABAP 監視テンプレート履歴ファイル

SAPABAP_CCMSIntegrationMon、SAPABAP_TraceMon、SAPABAP_ProcMon、SAPABAP_StatRecMon SAP ABAP 監視テンプレートには、拡張子 .his を持つ独自の履歴ファイル (例: r3monal.his) が含まれています。これらの OMi MP for SAP SAP ABAP 監視テンプレートは、開始するたびに、その履歴ファイル r3<monitor_name>.his の内容を信頼して監視対象となる直前のイベント、つまり、現在のモニタ実行の開始地点を決定します。これは、重複するメッセージの発生を回避することを目的としています。

SAPABAP_CCMSIntegrationMon 監視テンプレートがその履歴ファイルに新しい情報を書き出すのは、監視する SAP システムが使用可能な状態で、OMi MP for SAP モニタが接続可能である場合に限られます。監視する SAP システムが使用不能な状態の場合、SAPABAP_CCMSIntegrationMon 監視テンプレートは、最新のモニタ実行の時間を反映するためにタイムスタンプのみを更新します。一方、監視テンプレート SAPABAP_TraceMon、SAPABAP_ProcMon、SAPABAP_StatRecMon SAP ABAP は、監

視する SAP システムが使用可能であるかどうかに関係なく、各 モニタ実行後にそれぞれの履歴ファイルに情報を書き出します。

SAPABAP_CCMSIntegrationMon 監視テンプレートの履歴ファイル r3monal.his

```
#-----
# Keyword SAP SAP SAP Last Scan
# System Number Instance Time
LastScannedSystem =SP6 =33 =DVEBMGS33 =1073908785
-----
```

OMi MP for SAP SAP ABAP 監視テンプレートの履歴ファイルは通常、モニタが実行されている管理対象ノード上に格納されます。その管理対象ノード上での格納先は、各モニタの設定ファイル r3<monitor_name>.cfg で指定されたディレクトリです。デフォルトで、AIX を除くすべての UNIX 管理対象ノードの場合、このディレクトリは /var/opt/OV/conf/sapspi です。AIX の場合 /var/lpp/OV/conf/sapspi です。Microsoft Windows 管理対象ノードの場合、%OVAGENTDIR%/conf/sapspi です。ただし、クラスタパッケージが別のノードに切り替わると、OMi MP for SAPABAP 監視テンプレートは、失敗したクラスタノード上に格納されている最新の履歴ファイルにアクセスできなくなります。その結果、OMi に既に送信されていたメッセージが重複して生成される場合があります。SAPABAP_CCMSIntegrationMon の場合、CCMSAcknowledgeMessage を有効にすることで重複メッセージの作成を避けることができます。詳細については、「[SAPABAP_CCMSIntegrationMon](#)」を参照してください。

注: OMi MP for SAP コレクタ モニタは、SAP テーブルにモニタ自身の履歴情報を保持します。このため、このモニタには .his 履歴ファイルが保存されません。SAPABAP_TraceMon モニタは SAP トレースおよびログファイルを読み込み、各ファイルの行番号を r3mondev.his に保持します。したがって、原則的に SAPABAP_TraceMon は、パッケージが他のノードに切り替わると、重複メッセージを送信する可能性が高くなります。r3mondev.his がローカルディスクと新しいノード上の SAPABAP_TraceMon に格納されると、前のノードで既にスキャンされた地点からスキャンが開始されます。

ただし、SAP インスタンスが開始された後は dev_* ファイルが新規に作成されます。dev_* ファイルの多くは、新しいファイルの作成前に dev_*.old にコピーされます。したがって、r3mondev は dev_*.old ファイルを監視しません。

SAPABAP_TraceMon は、ファイルが新規として作成されている場合 (r3mondev.his の Inode を使用して) これを検出し、新規ファイルの先頭からスキャンを開始します。したがって、SAPABAP_TraceMon のデフォルト設定を使用できるため、共有ディスクに r3mondev.his を置く必要がありません。SAP ABAP 監視テンプレートのマッピングにおける SAP モニタの詳細は、「[OMi MP for SAP ABAP 監視テンプレート設定ファイル](#)」を参照してください。

SAP ABAP 監視テンプレートについての特別な考慮事項

この項では、高可用性環境で OMi MP for SAP アラート モニタを設定するための情報を記載していません。高可用性環境で OMi MP for SAP SAP ABAP 監視テンプレートを設定するには、以下の手順を実行します。

1. SAP の CCMS アラートに対する **SAPABAP_CCMSIntegrationMon** 監視テンプレートの自動確認機能を有効 (=1) にして、OMi メッセージブラウザに重複メッセージが表示されないようにします。

- 「OMi」などの CCMS モニタ セットと、「SAPMP Monitoring」などの CCMS モニタを、CCMS から OMi メッセージ ブラウザに転送するメッセージに対して定義します。モニタ セット機能は、XAL インターフェイスでのみ使用可能です。

特殊な事例シナリオ

効率性あるいは費用の理由から、高可用性クラスタ内のセカンダリ(またはバックアップ)ノードはアプリケーション サーバとして既に使用されている場合があります。現在の環境がこのような状況で、常に負荷が高いために、セントラル インスタンスのパフォーマンスをフェイルオーバー パッケージの切り替え後も同じレベルで維持する必要がある場合、フェイルオーバー後にセカンダリ ノード上のアプリケーション サーバをシャットダウンして、マシンのパフォーマンスがセントラル インスタンスに対してのみ使用可能にすることができます。そのうえで、他の使用可能なすべてのアプリケーション サーバ間でユーザの負荷を共有できます。

現在の環境でパフォーマンスの問題がなければ、フェイルオーバー パッケージの切り替え後も、セカンダリ ノード上で実行されているアプリケーション サーバインスタンスをそのまま動作させるように設定できます。ただし、SAP アプリケーション サーバのインスタンスが SAP セントラル インスタンスと同じマシン上で実行されている場合、OMi MP for SAPSAP ABAP 監視テンプレートのモニタがこの状態を認識し、セントラル インスタンスとアプリケーション サーバの両方でメッセージを生成しないようにする必要があります。セントラル インスタンスでのみ動作するように設計されている OMi MP for SAPSAP ABAP 監視テンプレートのモニタは、アプリケーション サーバインスタンスの監視を除外するように設定する必要があります。OMi MP for SAP コレクタ モニタと、たとえば SAPABAP_ProcMon には特別な配慮が必要です。

各 OMi MP for SAPSAP ABAP 監視テンプレートのモニタには設定ファイルが含まれており、これを使用して、監視対象となる SAP ランドスケープ内の SAP NetWeaver インスタンスと、収集する情報の内容を定義します。たとえば、SAPABAP_ProcMon 監視テンプレートの設定を使用して、セントラル インスタンスプロセス、またはアプリケーション サーバインスタンスに結び付いたプロセスのどちらかの情報を収集するようにすることができます。

注:既にセカンダリノード上で実行されているアプリケーション サーバに関連付けられた SAP インスタンス番号を、フェイルオーバー パッケージの切り替え後にセカンダリ ノード上で開始される SAP セントラル インスタンスに関連付けられた SAP インスタンス番号と同一にすることはできません。

OMi MP for SAP ABAP 監視テンプレート設定ファイル

SAP ABAP 監視テンプレート	監視テンプレート設定ファイル (cfg)	セントラル インスタンス	アプリケーション サーバ
SAPABAP_TempSeqFileMon	r3monaco	✓	
SAPABAP_IdocStatusMon	r3monale	✓	
SAPABAP_CCMSIntegrationMon	r3monal ^a	✓	
SAPABAP_SysChgOptMon	r3monchg	✓	
SAPABAP_CTSMon	r3moncts	✓	

SAPABAP_TraceMon	r3mondev	✓	✓
SAPABAP_DispatchMon	r3mondisp	✓	✓
SAPABAP_DmpMon	r3mondmp	✓	
SAPABAP_BatJobMon	r3monjob	✓	
SAPABAP_StatRecMon	r3perfstat	✓	✓
SAPABAP_PerfMon	r3perfagent	✓	✓
SAPABAP_LckChkMon	r3monlck	✓	
SAPABAP_ProcMon	r3monpro	✓	✓
SAPABAP_RFCDestMon	r3monrfc	✓	
SAPABAP_SplMon	r3monspl	✓	
SAPABAP_SecMon	r3monsec	✓	
SAPABAP_StatusMon	r3status	✓	✓
SAPABAP_TransMon	r3montra	✓	
SAPABAP_UpdProcMon	r3monupd	✓	
SAPABAP_UsrMon	r3monusr	✓	
SAPABAP_WPMon	r3monwpa	✓	

a. CCMS 4.x のみ

高可用性クラスタの OMi MP for SAP コレクタ

OMi MP for SAP コレクタは、SAP ABAP Idoc ステータス監視テンプレートや SAP ABAP ダンプステータス監視テンプレートなどの、すべての OMi MP for SAP ABAP 監視テンプレートからのアラートを収集します。アラート モニタによって、アラート コレクタは定義済みのスケジュールに従って確実に実行され、呼び出された関数から返されるすべてのメッセージを報告します。

注: OMi MP for SAP コレクタ モニタは、SAP セントラル インスタンスでのみ実行されるもので、アプリケーション サーバ上で実行されるようには設計されていません。

高可用性クラスタ内のセカンダリノード上でアプリケーション サーバが実行されている場合、フェイルオーバー切り替え後にセカンダリノード上でセントラル インスタンスが起動したときに開始されるモニタが、アプリケーション サーバとセントラル インスタンスのどちらの SAP インスタンスを監視するのかについて混乱が生じないように注意を払う必要があります。

セントラル インスタンスとアプリケーション サーバが同時に同じクラスタノード上で実行されているときに問題が発生しないようにするには、たとえば、システムのフェイルオーバー後に、セカンダリノード上でセントラル インスタンスが実行されたときにコレクタ モニタが起動する各 モニタに対し、アプリケーション サーバに関連付けられたアラートを無視し、セントラル インスタンスに属するアラートのみをモニタするように設定する必要があります。つまり、OMi MP for SAPの各セントラル インスタンスのモニタの設定ファイルを修正して、モニタを特定のSAP セントラル インスタンス番号 (00 など)に確実に結び付けるようにします。デフォルトでは、OMi MP for SAP ABAP 監視テンプレートのモニタは、ノード上に存在するすべてのSAP インスタンスを監視するように設定されていますが、この特殊な事例シナリオでは、不要なアプリケーション サーバインスタンスも含まれています。

「SAPABAP_IdocStatusMon のSAP インスタンス番号への結び付け」は、セカンダリノード上のSAPABAP_IdocStatusMon 監視テンプレートの設定例です。この例では、既に実行されているアプリケーション サーバのインスタンス (01) ではなく、セカンダリノード nodename2.com 上のセントラル インスタンス (00 など) のみを監視するように監視テンプレートを設定しています。このファイルに指定するノード名は、物理クラスタノードの名前です。

SAPABAP_IdocStatusMon 監視テンプレートのSAP インスタンス番号への結び付け

```
#AlertMonFun SAP SAP SAP SAP Alert Enable=1 (...)
# Host System Number Client Monitor Disable=0 (...)
#-----
--
AlertMonFun =ClusterNodeA =CI =00 =099 =ALE =1 (...)
AlertMonFun =ClusterNodeB =CI =00 =099 =ALE =1 (...)
```

高可用性クラスタでのSAPABAP_ProcMon 監視テンプレート

SAPABAP_ProcMon 監視テンプレートはスキャンを実行し、ダイアログ、エンキュー、更新、バッチ、ディスパッチ、メッセージ、ゲートウェイ、スプールワークプロセスなどの、特定のSAP インスタンスに関連付けられたすべてのプロセスをチェックします。SAPABAP_ProcMon 監視テンプレートは、データベースプロセスを監視する際にも使用できます。

パッケージによって起動されたSAPABAP_ProcMon 監視テンプレートは、セントラル インスタンスに属しているプロセスとともに、アプリケーション サーバに関連付けられたプロセスも監視する必要があることを前提としていません。高可用性クラスタ内のセカンダリノード上でアプリケーション サーバが実行されている場合、パッケージの切り替え後にはこの点について注意する必要があります。このための1つの方法は、SAPABAP_ProcMon 監視テンプレートが監視する必要がある正確なプロセス数を設定内 (カラム: プロセス番号=#) に指定することです。監視するプロセス数は、フェイルオーバー パッケージの切り替えの前後で、各ノードで同じ数である必要があります。

さらに、SAPABAP_ProcMon 監視テンプレートが、たとえばパッケージの切り替え後に、複数のSAP インスタンスが実行されているノード上の特定のSAP インスタンスに属するプロセスのみを監視するようにする場合、監視対象のSAP インスタンスをSAPABAP_ProcMon 監視テンプレートが確実に認識するようにする必要があります。これを行うには、次の例に示すように、各SAP インスタンス番号 (カラム: SAP 番号で定義される) が適切なプロセス名にリンクされるように、クラスタ内の引き継がれるノード上のSAPABAP_ProcMon 監視テンプレートの設定を変更します。

SAPABAP_ProcMon 監視テンプレートのSAP インスタンス番号への結び付け

```
#AlertInstMonPro SAP SAP Process Enable Mode Process (...)
```

```
# System Number name =1 number (...)
```

```
#-----
```

```
AlertInstMonPro =T11 =00 =saposcol =1 =Exact =1 (...)
```

```
AlertInstMonPro =T11 =01 =saposcol =1 =Exact =1 (...)
```

OMi MP for SAP 高可用性環境での R3 パフォーマンス エージェント

注: OMi MP for SAP パフォーマンス エージェントは、クラスタ環境内で常に物理ホスト名を使用するので、手動モードで (r3perfconfig -manual) OMi MP for SAP パフォーマンス エージェントを設定して、クラスタ化された SAP システムの詳細を指定する必要があります。

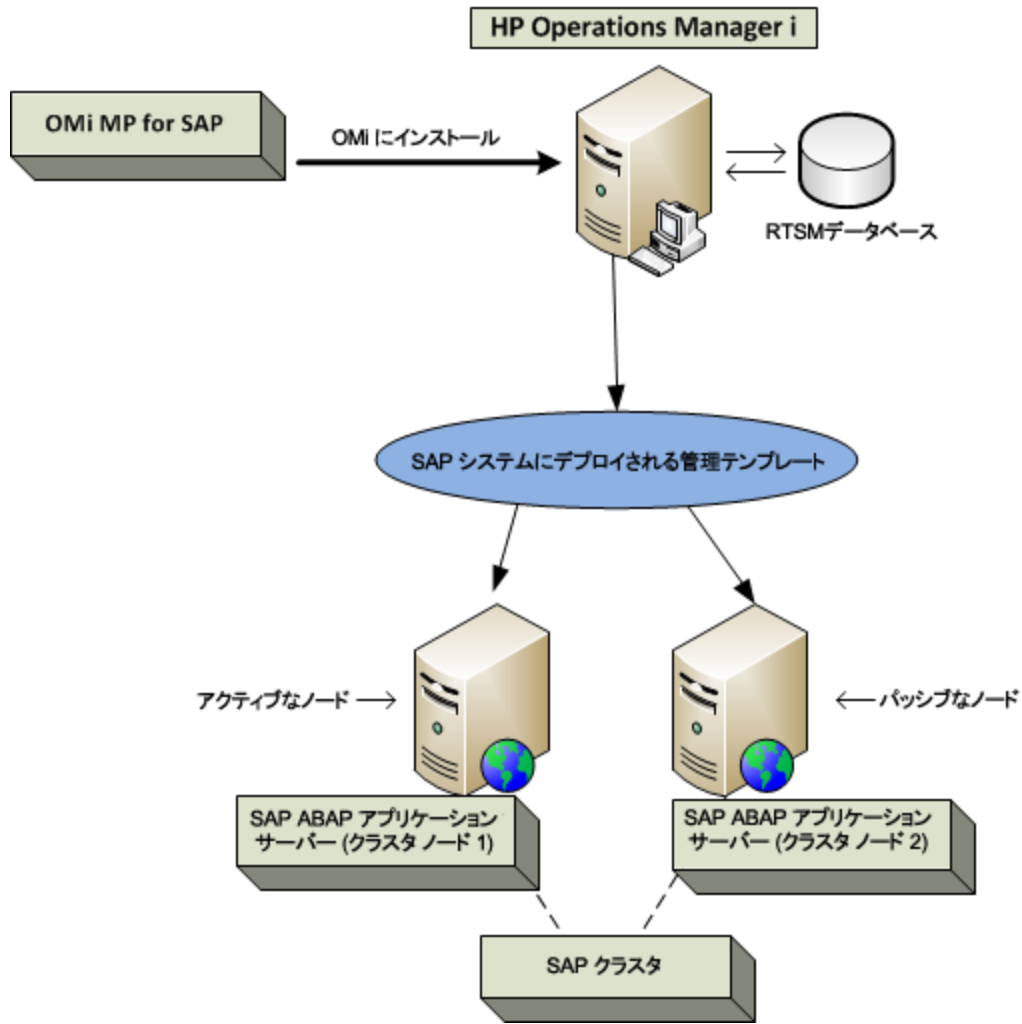
フェイルオーバーが発生し、それに続きパッケージの切り替えが行われると、パフォーマンス エージェントはホスト ノード上で SAP メトリックの値の収集を停止し、セカンダリノード上でパッケージが起動されるとすぐに、監視を開始し、セカンダリノード上の適切な SAP メトリックを報告します。CPU やディスク パフォーマンスなどの物理コンポーネントのメトリックは、パッケージの実行に関係なく両方のノード上で継続して収集されます。パフォーマンスレポートとグラフを生成および発行する際は、このことに留意する必要があります。

高可用性環境での OMi MP for SAP の削除

OMi MP for SAP ソフトウェアと機能は、製品をインストールし構成した MC/ServiceGuard クラスタ内の各物理ノードから削除する必要があります。このためには、次の手順を実行します。

1. クラスタ内の管理対象ノード上に OMi MP for SAP R/3 パフォーマンス エージェントをインストールした場合は、ステップ 2 に進む前に MC/ServiceGuard クラスタ内の SAP 管理対象ノードからこのエージェントとそのコンポーネントを削除する必要があります。詳細については、[「OMi MP for SAP R/3 パフォーマンス エージェントの削除」](#)を参照してください。
2. OMi MP for SAP R/3 パフォーマンス エージェントを削除した後、MC/ServiceGuard クラスタ内の SAP 管理対象ノードから OMi MP for SAP コンポーネントを削除する必要があります。

次の図は、OMi MP for SAP を高可用性環境にデプロイする場合の典型的なデプロイシナリオを示しています。



第6章:トラブルシューティング

この項では、トラブルシューティングについて説明します。

注:UNIX ノードでは、この項に記載されているコマンドを実行する際に、%OvDataDir% を /var/opt/OV に置き換える必要があります。

MA サーバで同じ表示ラベルの複数の SAP CI が検出される

問題: 表示ラベルに名前属性がありません。

解決策: SAP ABAP Application Server および SAP J2EE Application Server CI のデフォルトの表示ラベルの一部として name を追加する必要があります。詳細については、『OMi MP for SAP インストールガイド』を参照してください。

SAP MP 移送をインポート キューに追加する際に「要求がコンポーネント バージョンに一致しません」エラーが発生する

問題: SAP MP 移送をインポート キューに追加する際に、「要求がコンポーネント バージョンに一致しません」エラーが表示されます。

解決策: 移送要求をインポートする際に、[無効なコンポーネント バージョンを無視する] オプションを選択できます。[無効なコンポーネント バージョンを無視する] オプションを使用できるのは、OMi MP for SAP 移送の内容がコンポーネント バージョンおよび SAP サポート パックに依存しないからです。

SAP ABAP パフォーマンス モニタが DBINFO_PERF パフォーマンス モニタのパフォーマンス データをログに記録しない

問題: SAP は、r3perfmon.log 内のエラーに加えて、次の実行時エラーを報告します。

実行時エラー DBIF_DSQL2_OBJ_UNKNOWN

例外 CX_SY_NATIVE_SQL_ERROR

日付と時刻 [...]

SAP システム上の r3perfmon.log には、次のエラーが記録されます。

140520-11:10:23 情報 :ASE インターフェイスからパフォーマンス データを取得しようとしています

140520-11:10:23 情報 :rfc 関数モジュール /HPOV/OV_DISPATCH を呼び出しています

140520-11:10:23 情報 :タイムアウト変数は次の値に設定されています: 30.000000

140520-11:10:28 ERROR:RFC CALL ERROR.KEY :

140520-11:10:28 ERROR:RFC CALL ERROR.STATUS :

140520-11:10:28 ERROR:RFC CALL ERROR.MESSAGE:- テーブルがデータベースに存在しません。

140520-11:10:28 ERROR:RFC CALL ERROR.INTSTAT:

140520-11:10:28 情報 :RfcLastError を呼び出します

140520-11:10:28 情報 :rfc エラー変数を設定します

140520-11:10:28 ERROR:OvCHandleIO::vHandle > パフォーマンス モニタを呼び出 せません :-
DBINFO_PERF

140520-11:10:28 ERROR:OvCPerfScheduler::RemoveSAPLoginPtr - SAP との接続がありません

140520-11:10:28 情報 :スケジュールされた監視 :- Wed May 20 11:10:28 2014

S99 00 DBINFO_PERF

解決策: DBINFO_PERF パフォーマンス モニタは、Oracle データベースのデータ構造に対してのみ動作しま す。他のデータベース製品 のデータ構造 に対しては動作しません。不要なエラーを避 けるため、OMi MP for SAP アスペクトに 関連するポリシー テンプレート r3perfagent.cfg で DBINFO_PERF を無効にしてくだ さい。DBINFO_PERF パフォーマンス モニタの詳細は、「[DBINFO_PERF](#)」を参照してください。

OMi MP for SAP アスペクトの実行中に「librfc32.dll が見つかりません」エラーが発生する

問題: OMi MP for SAP のデプロイ中に、OMi MP for SAP で、SAP RFC SDK ファイルが見つからないと いうエラーが表示されます。

解決策: SAP RFC SDK ファイルが見つからないというエラーを解決するには、次の手順を実行します。

1. SAP ソフトウェア ダウンロード センタから **SAP RFC SDK 6.40** をダウンロードします。

注:お使いの環境の SAP バージョンが何であっても、SAP RFC SDK 6.40 をダウンロードする必 要があります。監視する SAP システムのオペレーティングシステムに基づいて、適切な RFC ライ ブラリをリストから選択します。

2. ダウンロードした RFC ライブラリを展開し、ライブラリを SAP 管理対象ノードのインストルメンテーシ ョンフォルダにコピーします。インストルメンテーション フォルダは次の場所にあります。

Windows ノード:

%OvAgentDir%\bin\instrumentation

UNIX ノード:

/var/opt/OV/bin/instrumentation

OMi MP for SAP 移送と移送ファイルの展開の詳細は、『OMi MP for SAP インストールガイド』を参 照してください。

SAP システムに現在 インストールされている OMi MP for SAP 移送の確認

問題: OMi MP for SAP ABAP 監視が期待したとおりに動作しません。SAP システムに現在 インストール されている移送を確認しようとしています。

解決策: SAP システムに現在 インストールされている OMi MP for SAP 移送を確認するには、次の手順 を実行します。

1. SAPGUI を使用して SAP システムにログインします。
2. STMS (/nstms)トランザクションを開きます。

3. **[Menu Overview]** > **[Imports (F5)]** を選択します。確認する SAP システムの SID のキューを選択します。
4. **[履歴]** > **[履歴のインポート]** をクリックします。[選択した領域にログ情報がありません] 通知 ウィンドウが表示されます。ウィンドウを閉じます。先週のインポート履歴が表示されます。リストは空の場合もあります。
5. **[日付]** 列を選択し、**[編集]** > **[フィルタ (Ctrl+F10)]** をクリックします。ウィンドウで、対象にする OMi MP for SAP 移送のインストール日付の範囲の開始日を選択します。指定した時間範囲内の要求のリストが表示されます。
6. 結果のリストに OMi MP for SAP 以外の移送が多数含まれる場合は、移送の所有者でフィルタすることでリストを絞り込むことができます。
7. **[所有者]** 列のタイトルを選択し、**[編集]** > **[フィルタ (Ctrl+F10)]** をクリックします。ウィンドウで、所有者として HPMP を指定し、**ENTER** を押します。移送のリストが所有者 HPMP に制限されます。

OMi MP for SAP JAVA 検出が期待したとおりに動作しない

問題: OMi MP for SAP JAVA 検出が期待したとおりに動作しません。

解決策: OMi MP for SAP JAVA 検出のトラブルシューティングを行うには、SAP 管理対象ノードに対して次のチェックを実行します。

1. 環境変数のチェック:

SAPMP_REMOTE_CLUSTID 環境変数を、SAP NetWeaver 7.0 のリモート アプリケーション サーバクラスタ ID に設定します。

2. SAP J2EE 検出 ovpolicy -l -polname SAPJ2EE_Discovery が存在し、有効になっているかどうかを確認します。

SAP J2EE 検出 ovpolicy -l -polname SAPJ2EE_Discovery が存在しない場合は、SAP J2EE 検出アスペクトをデプロイします。デプロイが成功したかどうかを、OMi サーバのデプロイメント タブで確認します。SAP J2EE 検出アスペクトのデプロイの詳細は、[「タスク 2: SAP 検出アスペクトのデプロイ」](#)(BSM) および [「タスク 2: SAP 検出アスペクトのデプロイ」](#)(OMi) を参照してください。

3. SAP J2EE 検出ポリシーが有効状態かどうかを確認します。

SAP J2EE 検出ポリシーが有効状態でない場合は、ovpolicy -e -polname SAPJ2EE_Discovery を使用して SAP J2EE 検出ポリシーを有効にします。

4. OMi MP for SAP インストルメンテーションが SAP ノード上の次の場所にあるかどうかを確認します。

```
%ovDataDir%\bin\instrumentation\
```

OMi MP for SAP インストルメンテーションが必要な場所に存在しない場合は、SAP J2EE 検出アスペクトをデプロイします。

5. エラーを調べるには、次の場所にある sapmp_j2ee_discovery.log ファイルを確認します。

```
%OvDataDir%\App_Monitoring\SAPJ2EE\log\sapmp_j2ee_discovery.log
```

6. 検出ポリシー ID がある場合、次のファイルが存在するかどうかを確認します。

ファイルの場所は %OvDataDir%\tmp\agtrep です。

- <Policy ID>.cis.xml
- <Policy ID>.out
- <Policy ID>.services.xml
- <Policy ID>_ci.xml
- <Policy ID>.ci_refs.xml

検出ポリシー ID がない場合、SAP 管理対象ノード上で次のコマンドを実行することにより、ポリシー ID を取得できます。

```
ovpolicy -list -level 4 -polname "SAPJ2EE_Discovery"
```

フェールオーバーの場合、上記のファイルがすべてのクラスタノードで更新されているかどうかを確認します。

ポリシーファイルを更新するには、対応するクラスタノードで次のコマンドを実行します。

```
Ovagtrep -run "SAPJ2EE_Discovery"
```

OMi MP for SAP ABAP リモート検出が期待したとおりに動作しない

問題: OMi MP for SAP ABAP リモート検出が期待したとおりに動作しません。

解決策: OMi MP for SAP ABAP リモート検出のトラブルシューティングを行うには、SAP 管理対象ノードに対して次のチェックを実行します。

1. SAP ABAP 検出 `ovpolicy -l -polname SAPABAP_RemoteDiscovery` が使用可能かどうかを確認します。

ポリシーを使用可能にするには、SAP ABAP リモート構成アスペクトをデプロイします。デプロイの後、OMi サーバのデプロイメント タブでデプロイメント ジョブが成功したかどうかを確認できます。

2. リモート検出ポリシーが有効状態かどうかを確認します。

ポリシーを有効にするには、`ovpolicy -e -polname SAPABAP_RemoteDiscovery` を使用します。

3. OMi MP for SAP インストルメンテーションが SAP ノード上の次の場所にあるかどうかを確認します。

```
%OvDataDir%\bin\instrumentation\
```

OMi MP for SAP インストルメンテーションを使用可能にするには、SAP ABAP リモート構成アスペクトをデプロイします。

4. エラーを確認して調べるには、次の場所にある `sapmp_abap_remotediscovery.log` ファイルを参照します。

```
%OvDataDir%\App_Monitoring\SAPABAP\log\sapmp_abap_remotediscovery.log
```

5. 検出ポリシー ID がある場合、次のファイルが存在するかどうかを確認します。

ファイルの場所は `%OvDataDir%\tmp\agtrep` です。

- `<Policy ID>.cis.xml`
- `<Policy ID>.out`
- `<Policy ID>.services.xml`
- `<Policy ID>_ci.xml`
- `<Policy ID>.ci_refs.xml`

検出ポリシー ID がない場合、SAP 管理対象ノード上で次のコマンドを実行することにより、ポリシー ID を取得できます。

```
ovpolicy -list -level 4 -polname "SAPABAP_RemoteDiscovery"
```

フェールオーバーの場合、上記のファイルがすべてのクラスタノードで更新されているかどうかを確認します。

ポリシー ファイルを更新するには、対応するクラスタノードで次のコマンドを実行します。

```
Ovagtrep -run "SAPABAP_RemoteDiscovery"
```

SAP ABAP 検出が期待したとおりに動作しない

問題: SAP ABAP 検出アスペクトをデプロイした後、SAP ABAP 検出が動作しません。

解決策: OMi MP for SAP ABAP 検出のトラブルシューティングを行うには、SAP 管理対象ノードに対して次のチェックを実行します。

1. すべての SAP 管理対象ノードの完全修飾コンピュータ名を指定してあることを確認します。
2. SAP ABAP 検出 `ovpolicy -l -polname SAPABAP_Discovery` が使用可能かどうかを確認します。

ABAP 検出を使用可能にするには、SAP ABAP 検出アスペクトをデプロイします。デプロイメントジョブが成功したかどうかは、OMi サーバのデプロイメント タブで確認できます。

3. SAP ABAP 検出ポリシーが有効状態かどうかを確認します。

SAP ABAP 検出ポリシーを有効にするには、`ovpolicy -e -polname SAPABAP_Discovery` を使用します。

4. OMi MP for SAP インストルメンテーションが SAP ノード上の次の場所にあるかどうかを確認します。

```
%ovDataDir%\bin\instrumentation\
```

インストルメンテーションを使用可能にするには、SAP ABAP 検出アスペクトをデプロイします。

5. エラーを調べるには、次の場所にある r3sdisc.log ファイルを確認します。

```
%ovDataDir%\App_Monitoring\SAPABAP\log\r3sdisc.log
```

6. 検出ポリシー ID がある場合、次のファイルが存在するかどうかを確認します。

ファイルの場所は %ovDataDir%\tmp\agtrep です。

- <Policy ID>.cis.xml
- <Policy ID>.out
- <Policy ID>.services.xml
- <Policy ID>_ci.xml
- <Policy ID>.ci_refs.xml

検出ポリシー ID がない場合、SAP 管理対象ノード上で次のコマンドを実行することにより、ポリシー ID を取得できます。

```
ovpolicy -list -level 4 -polname "SAPABAP_Discovery"
```

フェールオーバーの場合、上記のファイルがすべてのクラスタノードで更新されているかどうかを確認します。

ポリシー ファイルを更新するには、対応するクラスタノードで次のコマンドを実行します。

```
Ovagtrep -run "SAPABAP_Discovery"
```

OMi MP for SAP 検出がノードに対して動作しているが、RTSM で CI が検出されない

問題: OMi MP for SAP 検出がノードに対して動作していますが、RTSM で CI が検出されません。

解決策: OMi MP for SAP 検出がノードに対して正常に動作している場合、MA サーバ上の特定の場所にある次のログを確認することで問題のトラブルシューティングを実行できます。

OMi サーバ上 (サービス検出をデバッグする場合)

1. 次の手順で、トレースレベルを DEBUG に設定できます。
 - a. %TOPAZ_HOME%\conf\core\Tools\log4j\wde\opr-svcdiscserver.properties で次の操作を行います。
 - b. 値 loglevel= を選択し、値を DEBUG に更新します。
 - c. 値 loglevelcitrace= を選択し、値を DEBUG に更新します。

2. エラーを確認して調べるには、次の場所にある検出ログを参照します。

- %TOPAZ_HOME%\log\wde\opr-svcdiscserver-citrace.log
- %TOPAZ_HOME%\log\wde\opr-svcdiscserver.log
- %OvDataDir%\shared\server\log\OvSvcDisc.log

OMi MP for SAP J2EE データコレクションが失敗しているか、アラートが MA イベント ブラウザに到達していない

問題: OMi MP for SAP J2EE データコレクションが失敗しているか、アラートが MA イベント ブラウザに到達していません。

解決策: 問題のトラブルシューティングを行うには、SAP 管理対象ノードに対して次のチェックを実行します。

1. SAP J2EE 検出ポリシーが使用可能で、有効状態かどうかを確認します。
2. OMi MP for SAP インストルメンテーションが次の場所で使用可能かどうかを確認します。

```
%OvDataDir%\bin\instrumentation\
```

インストルメンテーションは使用可能だが、**sapmp** で始まるインストルメンテーションファイルが存在しない場合は、SAP J2EE 検出アスペクトを再デプロイします。

3. 次の場所で SiteConfig が使用可能かどうかを確認します。

```
%OvDataDir%\conf\sapspi\global\SiteConfig
```

SiteConfig が使用可能でない場合、インストルメンテーションフォルダから次のコマンドを実行して、OMi MP for SAP 検出を実行します。

```
r3mon_perl -S sapmp_j2ee_discovery.pl
```

4. 次の場所にある SAP J2EE 検出ログでエラーをチェックします。

```
%OvDataDir%\App_Monitoring\SAPJ2EE\log\sapmp_j2ee_cfg.log
```

ログでエラーを調べて解決します。インストルメンテーションフォルダから次のコマンドを実行して、SAP J2EE 構成を再実行できます。

```
r3mon_perl -S sapmp_j2ee_cfg.pl
```

5. OMi MP for SAP は J2EE データコレクション用に MetricDefinitions.xml ファイルを使用します。MetricDefinitions.xml は次の場所にあります。

```
%OvDataDir%/conf/sapspi/global/
```

MetricDefinitions.xml が使用可能でない場合は、インストルメンテーションフォルダから次のコマンドを実行します。

```
r3mon_per1 -S r3mon_configCheck -f
```

6. SAPJ2EE_* で始まる OMi MP for SAP J2EE ポリシーが使用可能で、有効状態かどうかを確認します。

確認するには、次のコマンドを実行します。

```
ovpolicy -l
```

7. SAP J2EE データコレクションを手動でデバッグモードで実行して、ログを確認してエラーを調べることができます。SAP J2EE データコレクションを手動でデバッグモードで実行するには、次のコマンドを実行します。

```
SAPMP_CollMgr -app=SAPJ2EE -freq=<VERYHIGH|HIGH|MEDIUM|LOW> -d
```

次のログを確認して、エラーを調べます。

- %OvDataDir%\App_Monitoring\SAPJ2EE\log\SAPMP_CollMgr.pl.log
- %OvDataDir%\App_Monitoring\SAPJ2EE\log\SAPMP_ConfHandler.pl.log

OMi MP for SAP J2EE データログが失敗する

問題: J2EE データログが OMi MP for SAP に対して失敗します。

解決策: SAP 管理対象ノードに対して次のチェックを実行します。

1. SAPJ2EE_* で始まる SAP J2EE ポリシーが使用可能で、有効状態かどうかを確認します。

確認するには、次のコマンドを実行します。

```
ovpolicy -l
```

2. データソースの使用可能性を確認します。

データソースの使用可能性を確認するには、次のコマンドを実行します。

```
ovcodautl -showds SAPSPINW_RPT_METRICS
```

データソースが使用可能でない場合、次のコマンドを実行してデータソースをアクティブにします。

Windows の場合:

```
"%OvDataDir%\bin\R3PerfAgent\bin\r3PerfConfig.exe" -j2ee
```

UNIX の場合:

```
"/var/opt/OV/bin/R3PerfAgent/bin/r3PerfConfig" -j2ee
```

3. SAP J2EE データログが有効かどうかを確認します。

次の場所にある構成ファイルで、値 DATA_LOGGING_ENABLED=TRUE を確認します。

```
%ovDataDir%\conf\sapspi\global\SPIConfig
```

4. SAP J2EE データコレクションを手動でデバッグモードで実行して、ログを確認してエラーを調べることができます。SAP J2EE データコレクションを手動でデバッグモードで実行するには、次のコマンドを実行します。

```
SAPMP_CollMgr -app=SAPJ2EE -freq=<VERYHIGH|HIGH|MEDIUM|LOW> -d
```

次のログを確認して、エラーを調べます。

- %ovDataDir%\App_Monitoring\SAPJ2EE\log\SAPMP_CollMgr.pl.log
- %ovDataDir%\App_Monitoring\SAPJ2EE\log\SAPMP_ConfHandler.pl.log

OMi MP for SAP ABAP データコレクションが失敗しているか、アラートが MA イベント ブラウザに到達していない

問題: OMi MP for SAP データコレクションが失敗しているか、アラートが MA イベント ブラウザに到達していません。

解決策: SAP 管理対象ノードに対して次のチェックを実行します。

1. SAP ABAP 検出ポリシーが使用可能で、有効状態かどうかを確認します。
2. 次の場所で OMi MP for SAP インstrumentation が使用可能かどうかを確認します。

```
%ovDataDir%\bin\instrumentation/
```

OMi MP for SAP インstrumentation は使用可能だが、sapmp で始まるファイルが存在しない場合は、SAP ABAP 検出アスペクトをもう一度デプロイします。

3. 次の場所で r3itodsap が使用可能かどうかを確認します。

```
%ovDataDir%\conf\sapspi\global\r3itosap
```

r3itosap が使用可能でない場合、インstrumentation フォルダから次のコマンドを実行して、SAP ABAP 構成を再実行します。

```
r3mon_perl -S sapmpcfg.pl
```

4. SAP ABAP 構成ログファイルでエラーを確認できます。SAP ABAP 構成ログファイルが使用可能かどうかを確認するには、次の場所を調べます。

```
%ovDataDir%\App_Monitoring\SAPABAP\log\sapmp_abap_cfg.log
```

ログファイルを使用して、エラーを確認して解決できます。SAP ABAP 構成を再実行するには、インstrumentation フォルダから次のコマンドを実行します。

```
r3mon_perl -S sapmpcfg.pl
```


5. r3itosap ファイル内のクライアントとユーザ名 (パスワードは暗号化されています) が、SAP ABAP 構成アスペクトのデプロイ時に指定したものと同一かどうかを確認します。
6. sapconfigfile タイプ用の SAP ABAP ポリシーが使用可能で、有効状態かどうかを確認します。
7. SAP ABAP データコレクションを手動でデバッグモードで実行して、ログを確認してエラーを調べることができます。SAP ABAP データコレクションを手動でデバッグモードで実行するには、次のコマンドを実行します。

```
SAPMP_CollMgr -app=SAPABAP -freq=<VERYHIGH|HIGH|MEDIUM|LOW> -d
```

次のログを確認して、エラーを調べます。

- %OvDataDir%/App_Monitoring/SAPABAP/log/SAPMP_CollMgr.pl.log
- %OvDataDir%/App_Monitoring/SAPABAP/log/SAPMP_ConfHandler.pl.log

OMi MP for SAP ABAP データ ログが失敗する

問題: OMi MP for SAP ABAP データ ログが失敗します。

解決策: SAP 管理対象ノードに対して次のチェックを実行します。

1. OMi MP for SAP パフォーマンス エージェントがパフォーマンス エージェント ツールを使用して MA サーバから起動されていることを確認します。

OMi MP for SAP パフォーマンス エージェントのステータスを確認するには、次のコマンドを実行します。

UNIX ノードの場合:

```
/var/opt/OV/bin/instrumentation/r3mon_perl -S SAPMP_Tool.pl Status
```

パフォーマンス エージェントを開始するには、次のコマンドを実行します。

```
/var/opt/OV/bin/instrumentation/r3mon_perl -S SAPMP_Tool.pl Start
```

Windows ノードの場合:

```
%OvAgentDir%\bin\instrumentation\r3mon_perl -S SAPMP_Tool.pl Start
```

2. データソースの使用可能性を確認します。

設定済みインスタンスのデータソースのステータスを表示するには、次のコマンドを実行します。

```
ovcodautl -showds
```

設定済みインスタンスのデータソースをアクティブにするには、次のコマンドを実行します。

UNIX の場合:

```
"/var/opt/OV/bin/R3PerfAgent/bin/r3PerfConfig.exe" -abap
```

Windows の場合:

```
"%OvDataDir%\bin\R3PerfAgent\bin\r3PerfConfig" -abap
```

3. リモート アプリケーション サーバのデータソースは、次のコマンドを使用して手動で作成する必要があります。

UNIX の場合:

```
"/var/opt/OV/bin/R3PerfAgent/bin/r3PerfConfig.exe" -manual
```

Windows の場合:

```
"%OvDataDir%\bin\R3PerfAgent\bin\r3PerfConfig" -manual
```

データソースを作成するには、SAP SID、ホスト名、インスタンスを指定する必要があります。

4. 管理対象ノードの次の場所で r3PerfConfig ファイルが使用できない場合、エージェントのインストールコマンドはエラーを返します。

```
%OvDataDir%\bin\R3PerfAgent\bin\r3PerfConfig
```

OMi MP for SAP パフォーマンス エージェントを再インストールするには、次のコマンドを実行します。

```
%OvAgentDir%\bin\instrumentation\r3mon_per1 -S SAPMP_Tool.pl Install
```

5. データソースのエラーを調べるには、次の場所にある sapmp_abap_dscmd.log ファイルを確認します。

```
%OvDataDir%\App_Monitoring\SAPABAP\log\sapmp_abap_dscmd.log
```

HA 環境の ABAP アプリケーション サーバでの OMi MP for SAP ABAP データコレクションが失敗しているか、アラートが MA イベント ブラウザに到達していない

問題: HA 環境の ABAP アプリケーション サーバでの OMi MP for SAP ABAP データコレクションが失敗しているか、アラートが MA イベント ブラウザに到達していません。

解決策: 問題のトラブルシューティングを行うには、管理対象ノードに対して次のチェックを実行します。

1. SAP ABAP 検出ポリシーおよび SAP ABAP 構成ポリシーが使用可能で、有効状態かどうかを確認します。
2. 次の場所で OMi MP for SAP インストルメンテーションが使用可能かどうかを確認します。

```
%ovDataDir%\bin\instrumentation\
```

OMi MP for SAP インストルメンテーションは使用可能だが、sapmp で始まるファイルが存在しない場合は、SAP ABAP 検出アスペクトをもう一度デプロイします。

3. 次の場所で r3itosap が使用可能かどうかを確認します。

```
%OvDataDir%/conf/sapspi/global/r3itosap
```

r3itosap が使用可能でない場合、インストールメンテーション フォルダから次のコマンドを実行して、SAP ABAP 構成を再実行します。

```
r3mon_perl -S sapmpcfg.pl
```

4. SAP ABAP 構成 ログファイルでエラーを確認できます。SAP ABAP 構成 ログファイルが使用可能かどうかを確認するには、次の場所を調べます。

```
%OvDataDir%\App_Monitoring\SAPABAP\log\sapmp_abap_cfg.log
```

ログファイルを使用して、エラーを確認して解決できます。SAP ABAP 構成を再実行するには、インストールメンテーション フォルダから次のコマンドを実行します。

```
r3mon_perl -S sapmpcfg.pl
```

5. r3itosap ファイル内のクライアントとユーザ名 (パスワードは暗号化されています) が、SAP ABAP 構成アスペクトのデプロイ時に指定したものと同じかどうかを確認します。
6. r3itosap ファイルの HostMapping 値を確認します。HostMapping 値は、HA 環境に参加しているクラスタノードに関する、セントラル インスタンス、SID、仮想サーバノード名、MA イベント ブラウザでメッセージを関連付けるホスト名の詳細を指定します。

HostMapping 行の構文の例を次に示します。

```
HostMapping =<SID> = <セントラル インスタンス> =<物理ノード名 1>, <物理ノード名 2>, <仮想ノード名> = <メッセージ ノード名>
```

メッセージ ノード名はオプションです。指定しない場合、仮想サーバ名がメッセージ ノード名として使用されます。

HostMapping 構成の例を次に示します。

```
HostMapping =NA9 =09
=ipv6winclus1.hpswv6lab.com,ipv6winclus2.hpswv6lab.com,saphanw.hpswv6lab.com
=IWFVM01239.hpswv6lab.com
```

HostMapping エントリに指定されている詳細が正しいことを確認してください。HostMapping 構成が正しくない場合、次の場所にある sapmp_cluster_details.txt で詳細を確認できます。

```
%OvDataDir%\App_Monitoring\SAPABAP\sapmp_cluster_details.txt
```

OMi MP for SAP クラスタ検出が期待したとおりに動作しない

問題: OMi MP for SAP クラスタ検出が期待したとおりに動作しません。

解決策: 問題のトラブルシューティングを行うには、次のチェックを実行します。

1. すべての SAP 管理対象ノードの完全修飾コンピュータ名を指定してあることを確認します。
2. SAP ABAP 検出 `ovpolicy -l -polname SAPABAP_Discovery` が使用可能かどうかを確認します。

ABAP 検出を使用可能にするには、SAP ABAP 検出アスペクトをデプロイします。デプロイメントジョブが成功したかどうかは、OMi サーバのデプロイメント タブで確認できます。

3. SAP ABAP 検出ポリシーが有効状態かどうかを確認します。

SAP ABAP 検出ポリシーを有効にするには、`ovpolicy -e -polname SAPABAP_Discovery` を使用します。

4. 次の場所で OMi MP for SAP インストルメンテーションが使用可能かどうかを確認します。

`%ovDataDir%\bin\instrumentation\`

OMi MP for SAP インストルメンテーションが使用可能でない場合は、SAP ABAP 検出アスペクトをもう一度デプロイします。

5. 詳細を知るには、次の場所にある検出ログファイルを確認します。

- `%OvDataDir%\App_Monitoring\SAPABAP\log\r3sdisc.log`
- `OvDataDir%\App_Monitoring\SAPABAP\log\sapmp_cluster_discovery.log`

6. 検出ポリシー ID がある場合、次のファイルが存在するかどうかを確認します。

ファイルの場所は `%OvDataDir%/tmp/agtrep` です。

- `<Policy ID>.cis.xml`
- `<Policy ID>.out`
- `<Policy ID>.services.xml`
- `<Policy ID>_ci.xml`
- `<Policy ID>.ci_refs.xml`

検出ポリシー ID がない場合、SAP 管理対象ノード上で次のコマンドを実行することにより、ポリシー ID を取得できます。

```
ovpolicy -list -level 4 -polname "SAPABAP_Discovery"
```

フェールオーバーの場合、上記のファイルがすべてのクラスタノードで更新されているかどうかを確認します。

ポリシー ファイルを更新するには、対応するクラスタノードで次のコマンドを実行します。

```
Ovagtrep -run "SAPABAP_Discovery"
```

7. 検出の後で、removeRelationOnPassive ファイルがアクティブ ノードの次の場所にのみ存在することを確認します。

```
%OvDataDir%\App_Monitoring\SAPABAP\
```

注:removeRelationOnPassive ファイルが使用可能でない場合、SAP クラスタ デプロイメント ビューはパッシブ ノードに対しては更新されません。

8. SAP_Cluster_Deployment ビューは、フェールオーバー直後の検出の最初の実行では更新されません。SAP_Cluster_Deployment ビューは、パッシブ ノードに対するスケジュールされた検出の最初の実行の後で更新されます。

スケジュールされた検出の実行より前にビューを更新するには、フェールオーバー後に次のコマンドを使用して、アクティブ ノード (フェールオーバー前はパッシブ) に対して手動で検出を実行します。

SAP ABAP 検出を実行するには、次のコマンドを実行します。

```
Ovagtrep -run "SAPABAP_Discovery"
```

CI を RTSM に発行するには、次のコマンドを実行します。

```
Ovagtrep -publish -all
```

SAP クラスタのフェールオーバー後に SAP クラスタ デプロイメント ビューが現在の SAP アクティブ ノードによって更新されない

問題: SAP クラスタのフェールオーバー後に、SAP クラスタ デプロイメント ビューが現在の SAP アクティブ ノードによって更新されません。

解決策: SAP クラスタ デプロイメント ビューは、SAP ABAP 検出の次のスケジュール時に更新されます。SAP ABAP 検出のスケジュールされた実行より前に SAP クラスタ デプロイメント ビューを更新するには、SAP ABAP 検出 アスペクトを現在のアクティブ ノードにデプロイします。

「ノードに接続できませんでした。エージェントが稼働中で、証明書が有効化されており、ファイアウォール設定が正しいことを確認してください」というエラーが、SAP 管理テンプレートをリモート SAP システムにデプロイする際に発生する

問題:リモート構成 SAP Application Server CI で、管理テンプレートのデプロイ時に、「ノードに接続できませんでした。エージェントが稼働中で、証明書が有効化されており、ご使用のファイアウォール設定が正しいことを確認してください」というエラーが、デプロイメント ジョブ ウィザードで発生します。

解決策: このエラーは、Operations Agent がインストールされていない SAP システムでのみ発生します。SAP アスペクトは正常にデプロイされているので、このエラーは無視してかまいません。このエラーは、Operations Agent がない SAP システムで、システムが SAP 管理テンプレート内にインフラストラクチャアスペクトをデプロイしようとするために表示されます。詳細については、「[タスク 4: SAP ABAP リモート構成アスペクトのデプロイ](#)」(BSM) および「[タスク 4: SAP ABAP リモート構成アスペクトのデプロイ](#)」(OMi) を参照してください。

付録: メトリックとデータソース

OMi MP for SAP は、メトリックからのデータ収集を可能にするために、データストアテーブルを作成します。OMi MP for SAP は、2つの別々のデータソースと関連メトリックを使用して、SAP 環境内の SAP ABAP アプリケーション サーバおよび SAP J2EE アプリケーション サーバから収集したデータのログを記録します。

SAP ABAP アプリケーション サーバ

OMi MP for SAP は、次のデータストアテーブルを作成して、SAP ABAP アプリケーション サーバからのメトリックによって収集されたデータのログを記録します。

注: R3_<SAP ホスト名>_<SAP_SID>_<SAP インスタンス番号>_DATA は、SAP ABAP アプリケーション サーバポリシー テンプレートによって使用されるデータソースです。R3_<SAP ホスト名>_<SAP_SID>_<SAP インスタンス番号>_DATA データソースは、各 SAP ABAP アプリケーション サーバに対して、収集したデータのログを記録するために作成されます。

アспект名	ポリシー テンプレート名	テーブル名	メトリック名	メトリックのデータタイプ
SAP ABAP パフォーマンス モニタ	SAPABAP_PerfMon	DBINFO_PERF	CPUUSAGE	R64
			BUFPREADS	I32
			BUFPWRITES	I32
			BUFQUAL	R64
			BUFSIZE	I32
			BUFWAITS	I32
			BUFWTIME	I32
			DICTSIZE	I32
			DDQUAL	R64
			LOGBLOCKS	I32
			LOGENTRIES	I32
			LOGSIZE	I32
			LOGFAULT	R64
			LOGALLOC	I32
			ROLLBACKS	I32

アспект名	ポリシー テンプレート名	テーブル名	メトリック名	メトリックのデータタイプ
			SCANLONG	I32
			SORTDISK	I32
			SORTMEM	I32
			SORTROWS	I32
			HOSTNAME_DBINFO	UTF8
			SID_DBINFO	UTF8
			INSTANCE_DBINFO	UTF8
			KEY_DBINFO	
SAP ABAP パフォーマンス モニタ	SAPABAP_PerfMon	DOCSTAT_PERF	APPMODE_DOC	UTF8
			CNTHEDER	I32
			CNTITEM	I32
			CNTDIV	I32
			CNTTOTAL	I32
			CNTLINE	I32
			CNTCHGDOC	I32
			CNTTEXT	I32
			HOSTNAME_DOCSTAT	UTF8
			SID_DOCSTAT	UTF8
			INSTANCE_DOCSTAT	UTF8
			KEY_DOCSTAT	
SAP ABAP パフォーマンス モニタ	SAPABAP_PerfMon	EP_PERF	SID_EP	UTF8
			HOSTNAME_EP	UTF8
			START_TIME_EP	UTF8
			NO_REQ_EP	I32
			AVG_RESP_TIME_EP	R64
				R64

アスペクト名	ポリシー テンプレート名	テーブル名	メトリック名	メトリックのデータタイプ
			AVG_CPU_TIME_EP	I32
			REQ_PER_SEC_EP	I32
			AVG_OUTBND_DATA_EP	R64
			ACC_RESP_TIME_EP	R64
			ACC_CPU_TIME_EP	I32
			OUTBND_DATA_REQ_EP	I32
			ACC_OUTBND_DATA_EP	I32
			NO_COMPCALLS_REQ_EP	I32
			AVG_CMPCALLPERREQ_EP	I32
			VALID_MONDATA_REQ_EP	I32
			REQ_NOT_CORR_CLSD_EP	UTF8
			REQCLSD_TOOMNYCMP_EP	UTF8
			REQS_RUNLEVEL_0_EP	UTF8
			REQS_RUNLEVEL_1_EP	
			REQS_RUNLEVEL_2_EP	
			USRS_SINCE_1_REQ_EP	
			USRS_SINCE_LSTRST_EP	
			LST_REQ_RST_TSTMP_EP	

アспект名	ポリシー テンプレート名	テーブル名	メトリック名	メトリックのデータタイプ
			SCHEDULED	I32
			RELEASED	I32
			ABORTED	I32
			FINISHED	I32
			PUT_ACTIVE	I32
			UNKNOWN_STATE	I32
			HOSTNAME_	UTF8
			JOBREP	UTF8
			SID_JOBREP	UTF8
			INSTANCE_	UTF8
			JOBREP	UTF8
			KEY_JOBREP	
SAP ABAP パフォーマンス モニタ	SAPABAP_ PerfMon	SAPBUFFER_ PERF	BUFFER_NAME	UTF8
			HITRATIO	R64
			ALLOCATED_SIZE	I32
			FREE_SPACE	I32
			FREE_SPACE_	R64
			PERCENT	I32
			MAXDIR_ENTR	I32
			FREEDIR_ENTR	R64
			FDIR_ENTR_	I32
			PERCENT	I32
			BUFFER_SWAPS	I32
			BUFFER_SWAPS_	I32
			DELTA	I32
			DB_ACCESSES	UTF8
			DB_ACCESSES_	UTF8
			DELTA	UTF8
			HOSTNAME_	UTF8
			SAPBUFFER	UTF8
			SID_SAPBUFFER	

アспект名	ポリシー テンプレート名	テーブル名	メトリック名	メトリックのデータタイプ
			INSTANCE_SAPBUFFER KEY_SAPBUFFER	
SAP ABAP パフォーマンス モニタ	SAPABAP_PerfMon	SAPMEMORY_PERF	MEMORY_AREA CURRENT_USE_PERCENT CURRENT_USE MAX_USE IN_MEMORY ON_DISK HOSTNAME_SAPMEMORY SID_SAPMEMORY INSTANCE_SAPMEMORY KEY_SAPMEMORY	UTF8 R64 I32 I32 I32 I32 UTF8 UTF8 UTF8 UTF8
SAP ABAP パフォーマンス モニタ	SAPABAP_PerfMon	SPOOL_PERF	ALL_SJ SJ_ARCHIVE PRINT_REQ OPEN_PR SUCCESS_PR ERROR_PR FAILED_PR HOSTNAME_SPOOL SID_SPOOL INSTANCE_SPOOL KEY_SPOOL	I32 I32 I32 I32 I32 I32 I32 UTF8 UTF8 UTF8 UTF8
SAP ABAP パフォーマンス モニタ	SAPABAP_PerfMon	SAP_STATRECS_PERF	SAP_TCODE SAP_RESPONSE_T	UTF8 I32

アспект名	ポリシー テンプレート名	テーブル名	メトリック名	メトリックのデータタイプ
			IME	I32
			SAP_NET_TIME	I32
			SAP_REC_COUNT	UTF8
			SAP_HOST_STATRECS	UTF8
			SAP_SID_STATRECS	UTF8
			SAP_INSTNO_STATRECS	UTF8
			SAP_KEY_STATRECS	UTF8
SAP ABAP パフォーマンス モニタ	SAPABAP_PerfMon	UPDATE_PERF	ALL_TASKS	UTF8
			INITIAL_TASKS	I32
			ERRONOUS_TASKS	I32
			VB1	I32
			V2	UTF8
			HOSTNAME_UPDATE	UTF8
			SID_UPDATE	UTF8
			INSTANCE_UPDATE	UTF8
			KEY_UPDATE	UTF8
SAP ABAP パフォーマンス モニタ	SAPABAP_PerfMon	USER_PERF	USER_CLIENT	UTF8
			USER_CNT	I32
			SESSION_CNT	I32
			HOSTNAME_USER	UTF8
			SID_USER	UTF8
			INSTANCE_USER	UTF8
			KEY_USER	UTF8
SAP ABAP パ	SAPABAP_	SAP_WLSUM_	SAP_HOSTNAME_	UTF8

アспект名	ポリシー テンプレート名	テーブル名	メトリック名	メトリックのデータタイプ
パフォーマンス モニタ	PerfMon	PERF	WLSUM	UTF8
			SAP_SID_WLSUM	UTF8
			SAP_INSTANCE_WLSUM	UTF8
			SAP_KEY_WLSUM	I32
			SAP_TASKTYPE	I32
			SAP_CNT	R64
			SAP_DBACTIVCNT	R64
			SAP_RESPTI	R64
			SAP_CPUTI	R64
			SAP_QUEUE TI	R64
			SAP_LOADGENTI	R64
			SAP_COMMITTI	R64
			SAP_DDICTI	R64
			SAP_QUETI	I32
			SAP_CPICTI	R64
			SAP_ROLLINCNT	I32
			SAP_ROLLINTI	R64
			SAP_ROLLOUTCNT	I32
			SAP_ROLLOUTTI	R64
			SAP_READDIRCNT	I32
			SAP_READDIRTI	R64
			SAP_READSEQCNT	I32
			SAP_READSEQTI	R64
			SAP_CHNGCNT	I32
			SAP_CHNGTI	R64
			SAP_BYTES	I32
			SAP_GUITIME	R64
			SAP_GUICNT	

アспект名	ポリシー テンプレート名	テーブル名	メトリック名	メトリックのデータタイプ
			SAP_GUINETTIME	
SAP ABAP パフォーマンス モニタ	SAPABAP_PerfMon	WP_PERF	ALL_WP	I32
			SEMAPHORE_WP	I32
			DEBUG_WP	I32
			LONG_RUNNING	I32
			PRIVAT_WP	I32
			NOSTART_WP	I32
			DIA_IDLE	I32
			DIA_ALL	I32
			DIA_RUNNING	I32
			BTC_IDLE	I32
			BT_ALL	I32
			BTC_RUNNING	I32
			SPO_IDLE	I32
			SPO_ALL	I32
			SPO_RUNNING	I32
			ENQ_IDLE	I32
			ENQ_ALL	I32
			ENQ_RUNNING	I32
			UPD_IDLE	I32
			UPD_ALL	I32
			UPD_RUNNING	I32
			UPD2_IDLE	I32
			UPD2_ALL	I32
			UPD2_RUNNING	I32
HOSTNAME_WP	UTF8			
SID_WP	UTF8			
INSTANCE_WP	UTF8			
KEY_WP	UTF8			

アспект名	ポリシー テンプレート名	テーブル名	メトリック名	メトリックのデータタイプ
		SYSUP_PERF	SYSTEM_STATUS	UTF8
			HOSTNAME_SYSUP	UTF8
			SID_SYSUP	UTF8
			INSTANCE_SYSUP	UTF8
			KEY_SYSUP	UTF8

注: SYSUP_PERF 可用性監視のデフォルトの頻度は 1 分であり、値は変更できません。

SAP J2EE アプリケーション サーバ

OMi MP for SAP は、次のデータストアテーブルを作成して、SAP J2EE アプリケーション サーバからのメトリックによって収集されたデータのログを記録します。

注: SAPSPINW_RPT_METRICS は、SAP J2EE アプリケーション サーバポリシー テンプレートによって、収集したデータのログ記録のために使用されるテーブルです。

テーブル名	メトリック名	メトリックのデータタイプ
SAPSPINW_RPT_METRICS	METRICID	I32
	VALUEID	I32
	VALUE	R64
	SORTID	UTF8
	SERVERNAME	UTF8
	OBJECTNAME	UTF8

ドキュメントのフィードバックを送信

本ドキュメントについてのご意見、ご感想については、電子メールでドキュメント制作チームまでご連絡ください。このシステムで電子メールクライアントが設定されていれば、このリンクをクリックすることで、以下の情報が件名に記入された電子メールウィンドウが開きます。

Feedback on オンライン ヘルプの PDF 版 (OMi Management Pack for SAP 1.00)

本文にご意見、ご感想を記入の上、[送信]をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの新規メッセージに貼り付け、docfeedback@hp.com宛にお送りください。

お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。